衝撃三昧！『ハッスル8』両国を徹底ジャッジメント!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

860 yen

紙のプロレス RADICAL

WANIMAGAZINE MOOK



"圧倒的現実" PRIDE vs "圧倒的幻想" 前田＝HERO'S

"ド・フィクション" ハッスル vs "準ドキュメンタリー" WRESTLE-1

Do the Judgement!!

どっちが面白いか決めたらええんや！

桜庭和志

田村潔司

近藤有己×髙阪剛

髙田延彦 PRIDE統括本部長

榊原信行 DSE代表

今月も37P、強烈大特集!!

前田イズムとは何か？

山本宜久／柴田勝頼

クリス・ドールマン

"リングス・リトアニア"ドナタス代表

上井文彦×ターザン山本！

須藤元気

3・19 K-1ソウル大会紀行

85

2005

紙のプロレス RADICAL 2005 NO. 85 Do the Judgement!!

発売元：（株）ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：（株）ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F 電話／03-5368-1795
ワニマガジン社 定価：本体819円＋税



島田 裕二氏 PRIDEルールディレクター
1966年 11月24日 広島県福山市出身。
高校時代は、「スクールウォーズ」に憧れ、ラクビー部に所属し、ポジションはフッカー。大学卒業後に本格的にレフリーの道に入り、日本人として唯一、K1とPRIDEの両方のルールディレクターを務める。
1997年 10月 高田延彦VSヒクソン・グレイシーの世紀の一戦を裁く
1999年 4月 PRIDEルールディレクター及びチーフレフリー就任
2005年 4月 PRIDE公認「ボディーデザイナー養成塾」にてトレーナー育成を主宰する。

PRIDEルールディレクターの島田裕二氏が昨年視力回復手術、レーシックを受けて、コンタクトの不要な生活を手に入れました。手術に対する事前の不安、手術後の生活などを、神戸クリニック理事長吉田圭介氏と共に語っていただきました。

PRIDEルールディレクター 島田 裕二氏 × 医療法人社団 稜歩会 神戸クリニック 理事長 吉田 圭介

―以前からレーシックをご存知でしたか？

島田　スポーツ業界にいるので、以前から話は聞いていましたね。アメリカで大リーガーが受けたなどと知って、興味はありました。

―そのとき手術を受けなかった理由は？

島田　受けたいなあと思いましたが、アメリカで受けるのは不安でした。そこそこ英語を話せるんですが、以前、海外でコンタクトを買いに行ったとき、やはりニュアンスが伝えきれませんでした。まして手術は英語では受けたくなくて…。



―レーシックを受けようと思ったきっかけは？

島田　周りのひとが受けて、「日本でもあるんだ」と知りました。そこでまず話だけでも聞いてみようかなと…。費用が高額なイメージもありましたし、失明も不安でした。角膜を削る手術と聞いて、眼を取り出してカンナかなにかで削るようなイメージでしたから。

―実際の手術の方法や費用は？

吉田　レーシックは限りなく機械化されていて、0．5ミリメートルの角膜をミクロン単位で削る技術があります。わたしもそれを知って、アメリカにも実際に見に行って、これなら失明なんてありえないと思い、納得。自分自身も手術を受けました。費用も、当クリニックでは「両眼で38万円」、万が一の再手術も一生涯無料で受けられる生涯保障プログラムを用意しています。

「あれ？もう終わり？」レーシックはコンタクトよりも安全な、短時間の手術でした。

―実際の手術は？

島田　全然痛くなく、あっという間でした。

吉田　歯を抜くよりも簡単です。歯なら麻酔注射が痛いですが、レーシックは麻酔も目薬ですから、痛みが全然ありません。

島田　赤い光が見えて、「この光を見ていてくださいねえ」と言われて、見ていたら、「終わりました」。「あれ？　もう終わったんだ」。怖いことはなにもありませんでした。

―手術後は？

島田　手術後、休憩する部屋の窓から外を見たら、裸眼で街並みが見えて、感激しました。

吉田　その日は薄い霧がかかったような感じはありますが、充分見えます。アメリカなら手術後休みもせずにすぐ帰るくらいです。

島田　翌朝、目覚めたとき、よく見えるので、「あれ？　昨日コンタクト外し忘れたっけ？」と思いましたよ。

―生活は変わりましたか？

島田　楽です。リングは暑いので、眼が乾いて、ぱちぱちしだすと「点眼しなきゃ」と気になりました。いまは眼を気にすることなく、試合に集中できます。出張が多いんですけど、以前はコンタクトのために、いろいろな道具が必要でした。使い捨てコンタクトも使用期間2週間のものを1ヶ月使ったり、眼が痛くなるまで入れっぱなしでした。いま思うと、危険なことをしていましたけど、もったいないと思っちゃって…。



吉田　一日使い捨てコンタクトを寝るときも入れっぱなしにするひともいますね。コンタクトのまちがった使い方で、年間数人が失明しています。レーシックによる失明は、世界中に一件もないのに。

―レーシックを受けようか悩んでいる方に一言

島田　ラクですよ、裸眼で見える生活。ともかく説明を聞いて、検査だけでも受けるといいですよ。検査で、網膜はく離直前を発見されたりする例も多いそうです。眼を徹底検査してもらって損はありませんし、レーシックを受けるか否かはそれから検討しても遅くないのでは。



吉田 圭介 医療法人社団稜歩会 理事長 神戸クリニック三宮 院長 レーシック専門医
1991年 金沢医科大学卒 医師免許取得 兵庫医科大学入局勤務
1992年 神戸三宮にて吉田眼科開設
1997年 医療法人社団 吉田眼科設立
2003年 神戸クリニック三宮開設 医療法人社団 稜歩会設立 小倉クリニック開設 なんばクリニック開設 神戸クリニック広尾開設
2004年 四条河原町クリニック開設 梅田クリニック開設 浜松クリニック開設 神戸クリニック小倉開設




4.23 PRIDE GRAND PRIX 2005

刺激的この上ない対立概念勃発!

新たなる前田vs髙田闘争開戦!!



3.26 HERO'S Road to Dynamite!!



いつ何時、飄々(ひょうひょう)と!
サク、ミドル級GPに出撃!!

「いまの俺、ヤバイ。誰でも極めれる! なぜなら、俺だから!!」

（なぜか山本KID風でニコニコ）

つちのこ捕獲人／山口日昇　つちのこ言語構成／ジャン斉藤　つちのこ撮影／森モーリー鷹博
tsuchinoko designed by hisa (Two Three)

和志

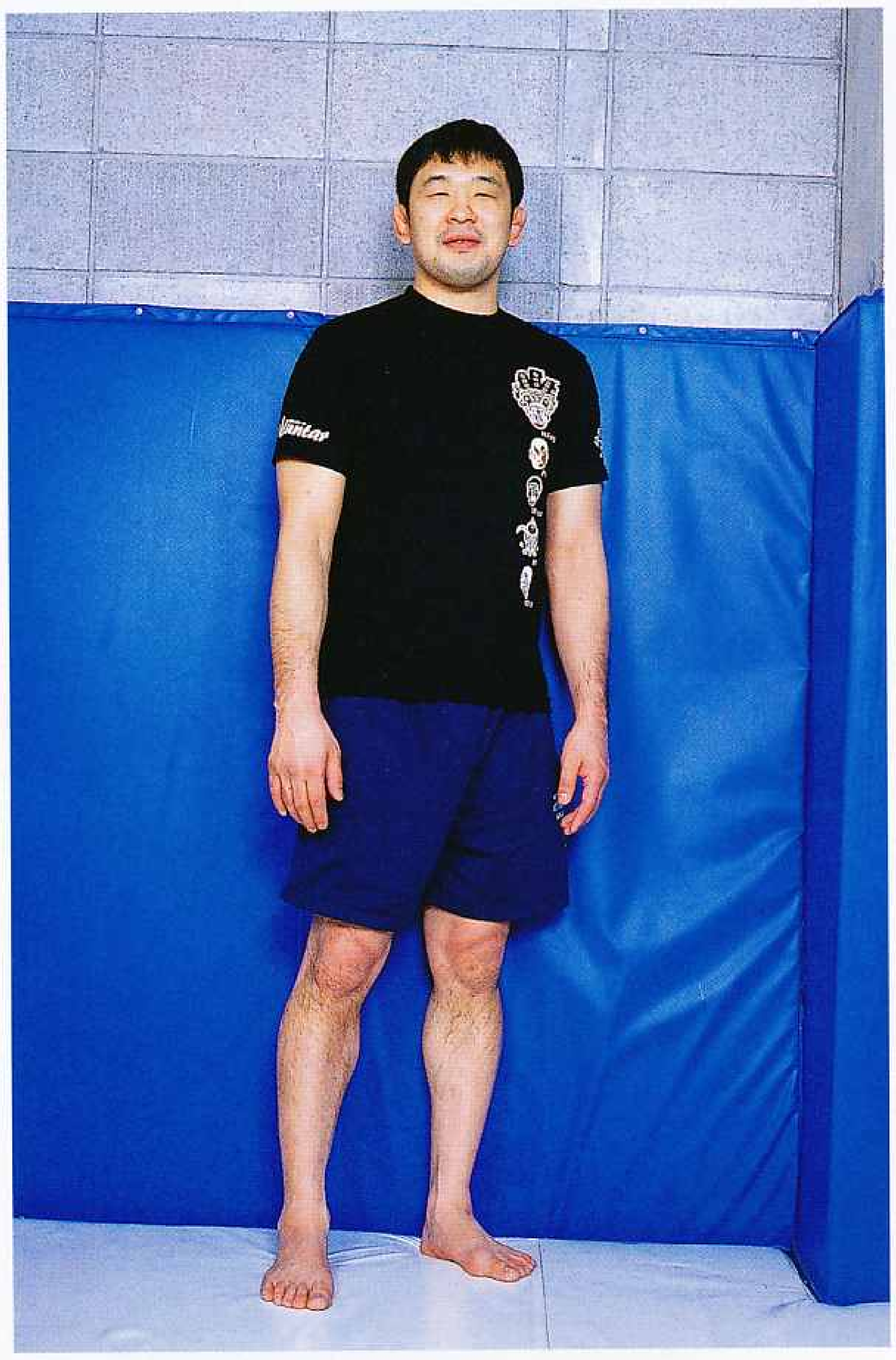
“神の子”を超える
“つちのこ”宣言!?
PRIDEミドル級2005
出場決定インタビュー



田村への宣戦布告マイクの真相が明らかに!!

桜庭

――桜庭さん、右目のあたりがちょっと腫れていますよ。
桜庭　腫れてます？（目の周りを気にしながら）。
――ちょっと気になる程度ですけどね。練習でガンガン殴り合ったりしてるんじゃないですか？
桜庭　ああ、はい。これはパンチで擦れた感じですね。
――いまは打撃メニューが中心なんですか？
桜庭　いや、PRIDEルールでやってるんですよ。時間決めないでどっちかが極めるまで延々と永遠に（ニコニコ）。
――また激しいことをサラッと言いますね。PRIDEルールで実戦的な練習をしてるということは、『PRIDEミドル級グランプリ（以下、GP）』に向けて気持ちをグッと入れているわけですよね。
桜庭　え……？　いや。
――「え……？　いや」じゃないですよ！　この期に及んでまだGP出場をトボけるつもりですか（笑）。
桜庭　できれば！
――できればトボけていたい（笑）。
桜庭　4、6、8月（ミドル級GP開催月）には出たいですけど……できればワンマッチで！
――相変わらずですね（笑）。桜庭さんが出るとしたら年齢的に今年が最後のGPになるかもしれないわけですよ。もっと真剣なお話をお願いします！
桜庭　あれ、今回で終わっちゃうんですか、GP？
――いや、GPが終わるわけじゃなくて、桜庭さんの年齢的な話です!!
桜庭　ああ、年齢的に……。
――桜庭さん、今年で36歳ですよね。再来年は38歳。正直、GPの過酷な闘いを克服するには厳しい年齢になりますよね。
桜庭　じゃあ38歳になる前に来年のヘビー級GPに出ようかなぁ（ボソッと）。
――たしかに言いましたね、いま！　榊原代表が喜ぶ姿が目に浮かぶなぁ（笑）。
桜庭　何も言ってません（ニコニコ）。38歳になったら1年に1回だけ出ますよ。
――1年1回、大晦日に試合をやるんだったら、『Dynamite!!』なんかどうです？（笑）。



桜庭　イヤです！（あっさりと）。
――理由は？
桜庭　う～ん。『PRIDE』とはまた違うような気がするので。
――ほら、やっぱり桜庭さんにはGPが似合ってないようでいて似合ってるんですよ！　飄々と過酷な道を行くというのが。
桜庭　……もう出る・出ないの問題じゃないですよね。ボク、出る・出ない？って聞かれてないと思いますよ。出るのは当たり前みたいな感じで。
――それだけ桜庭さんが必要不可欠な存在ということですよ。周囲はGPで桜庭さんがパーンと一本で勝つシーンを見たいと思ってますよ。
桜庭　勝ちますよ。誰が相手でも一本極めますよ!!
――す、素晴らしい!!　こんなにやる気がみなぎる桜庭さんを初めて見ました！
桜庭　いまの俺……ヤバイ（眉毛をピクリとさせ瞬きもせずに）。
――は？　ヤバい？
桜庭　俺、ヤバイ！　なぜかって？……それは……オレだから!!
――は？　いきなり何を言ってるんですか、桜庭さん（笑）。
桜庭　いや、山本KID流に言ってみたんですけど（ニコニコ）。
――桜庭さん。申し訳ないですけど、キャラがまったく違いますから。残念！

日本人とは闘えません！……田村さんとならできますけど

桜庭　（無視して）あれ、面白いですよね。「俺、ヤバイ。なぜかって？　俺だから。俺、神様の子だから」とか。ボク、大好きです！
――じゃあ桜庭さんも〝神様の子〟宣言しますか？（笑）。
桜庭　う～ん。ボクは、つちのこ。
――つ、つちのこ！　たしかに神様にも劣らない幻の生き物ではありますね（笑）。
桜庭　新技だってありますからね。
――新技のことは年末のインタビューでも触れてましたよね。
桜庭　それは名前がない技。最近編み出したのは「ムギュッ」って言うんです。
――「ムギュッ」!?
桜庭　伸ばした方がいいですか？「ムギュッ～」って。
――どっちでもいいです（笑）。それも強力な技なんですか？
桜庭　新技、ヤバイ。なぜかって？……俺の技だから（再びKID風）。
――だからキャラに合ってないです（笑）。真面目な話、以前言っていた名前のない技とその「ムギュッ」はかなりの破壊力なんですか？
桜庭　たぶん相手もみんなもビックリすると思いますよ。
――ほう！　新技「ムギュッ」でオール一本勝ちの優勝もありえる！　と。
桜庭　でも、開幕戦当日に決勝戦までやるわけじゃないからな。面倒くさいですよね、GPは。
――でも、逆に1DAYトーナメントだったら確実に出ないでしょう？
桜庭　はい。なぜなら……俺はつちのこだから!!（元気よく）。
――滅多やたらに姿を見せない幻の生き物





「こんな試合をしてもつまらないでしょうから、ＧＰでボクと闘いましょう！」消化不良に終わった2・20『PRIDE.29』田村vsマックモド戦終了後、突如リングに駆け上がった桜庭はマイクアピール。しかし、田村は足早にリングをあとにしていた。その後、田村の負傷が発覚。GP出場は危ぶまれている。"SADAME"は実現しない運命なのかーー？

だけあって、出ない（笑）。

桜庭　いや、出るかな。むしろ1ＤＡＹの方がいいかもしれない。何ヶ月も気持ちをキープするのは面倒くさいですから。

――ミルコが以前「1日3試合やるK-1はキ●ガイじみている」と言っていたことがありますけどね。1ＤＡＹもそうだけど、いま振り返ってみると、２０００年のＧＰで桜庭さんはとんでもないことやってましたよね。ホイスと90分も闘ったあとに、ヘビー級の（イゴール・）ボブチャンチンと10分間も闘った。そのころと比べてスタミナはどうなんですか？

桜庭　少しは落ちてますすよ。でもそれは試合の仕方だと思いますけど。頭を使って動いて、力を抜くところは抜けば問題ないです。もう極めますよ。誰でも！　なぜなら……。

――（遮って）もう、お腹いっぱいです（笑）。ところで、昨年大晦日の『男祭り』は、シウバ戦が決まっていたのに直前で欠場となりました。その原因になった肋骨の怪我は大丈夫なんですか？

桜庭　もう大丈夫ですよ。

――たしかヤマヨシ（山本宜久）とスパーリングしているときに、やっちゃったんですよね。

桜庭　テイクダウンして押さえ込みに行こうとしたら、横からボコーンってヒザが入って。もう痛くて動けなかったですから。いまはちょっと気になるくらい。押さえ込まれたらつらいですけど。

――まだ実際の対戦相手は決まってないですが、『ＰＲＩＤＥ・29』ではあの田村潔司にＧＰ1回戦での対戦要求をしましたよね。桜庭さんにしては珍しくアグレッシブな行動に出ましたね。

桜庭　でも、（田村は）出ないですよね？

――まだどうなるかわからないですね。田村選手は『ＰＲＩＤＥ・29』の試合で右手の小指を骨折してしまいましたから。

桜庭　じゃあ、ボクも右手を使わないから闘いましょう（ニコニコ）。

――右手使用禁止マッチ！　そこまでして田村潔司とは闘ってみたい？

桜庭　いや、思わないです。

――なんだ、それ（笑）。じゃあ、どういうつもりであのマイクアピールをしたんですか？

桜庭　あの試合はお客さんもそうだし、田村さんもつまんないだろうなぁと思って……。

――状況や空気を変えてやろうと思ったわけですか。たしかにバッグンに盛り上がりましけど、あのマイクアピールはいつの時点で決断したんですか？

桜庭　田村さんの試合が決まった時点で。

――か、確信犯じゃないですか、それ！　ボクには桜庭さんのアドリブ芸に見えたんだけどなぁ。

桜庭　違いますよ！　前からやろうと思ってました。

――じゃあ、もしあの試合が面白くなっていたらどうしました？

桜庭　そうなったらセリフを変えて言おうかなと。

――「田村さん、ボクともっともっと面白い試合をやりましょう！」とか。それはもっと盛り上がったな（笑）。いずれにしろアピールしようとは決めてたんですね。

桜庭　ちょっと（イベントの）進行と被っちゃいましたけどね。

――だって、まさか桜庭さんがあんなアピールするとは誰も思ってなかったでしょうからね。桜庭さんの性格を知っていればいるほど信じがたい光景ですよ（笑）。事前にスタッフに言っとけば、もっと絵になるシーンになったと思いますけどね。

桜庭　でも、先に周りに言っちゃうと、面白味がなくなるじゃないですか。

――スムーズにやったら仕込み感が強くなって、衝撃の度合いは薄まりますよね。偶然を装ってやるのが好き？

桜庭　そうです（ニコニコ）。

――やっぱりプロレスラーですよ！　今日は顔もちょっと腫れているからプロレスラーの条件を満たしています（笑）。

桜庭　は？　顔が腫れているとプロレスラー？

――いや、こっちの独り言です（笑）。で、あの田村潔司vsアリエフ・マックモド戦は、『ＰＲＩＤＥ・29』のラインアップの中では唯一毛色の違うカードでしたよね。試合内容が不完全燃焼だったことも毛色が違う感を増幅させたとは思うんですけど。桜庭さん的には、あのマッチメイク自体には、どういう印象があったんですか？

桜庭　ん？　特にないですよ。俺も（アリエフと）やりてえなぁ……とかぐらい。

――ガハハハ。明らかに田村さんとマックモドには実力差がありましたよね。

桜庭　それは受けて立つ選手の盛り上げ方だと思うんですよ。ボクが昔アンソニー・マシアスとやったときはふざけすぎましたけど。

――『ＰＲＩＤＥ・7』ですね。ダブルアーム・スープレックスを狙った試合で、試合自体も引っ張りましたよね。

桜庭　あれはやりすぎ、狙いすぎでした。

――でもマシアス戦はＵＦＣにも出てましたし、あの時代性の中でありでしたよ。

桜庭　まぁ、あれくらいの余裕を持って、1分で極められる相手を5分ぐらいまでやるのがプロだと思うんですよ。

――そういう観点からいうと、田村選手の試合は相手が不甲斐ないこともあったけど、消化不良でしたよね。それを本人が一番強く感じたからこそ、足早にリングをあとにしたんだろうし。

桜庭　だからボクが盛り上げてやろうと思ったんです（ニコニコ）。

――桜庭さんと田村さんの対戦は、方向性は違いながらも生き抜いてきた2人が対峙する、ファンや関係者から望まれているスーパーカードだと思うんですよ。そこには髙田延彦という人間が編み出したドラマも関わってきたり、縦横無尽に様々な生き様や思いが絡まってくる大河ドラマ的なカードですよね。田村さんも思い入れがあるとは言ってはいるものの、桜庭さんが了承しても、一昨年や昨年の大晦日では対戦を受けなかった。そのことについて、桜庭

桜庭和志

さんはズバリどう思ってるんですか？

桜庭　不思議でしょうがない。みんながこれだけ期待しているんだから、本当にもったいないですよね。ボク、食べ物はいつも好きなものから食べるんで。だから好きなものをとっておく人間の気持ちがよくわからない。

モーリー（ハッスル公式出入り禁止カメラマン）　ア、アヒャ！　ボクはその逆なんですよ。

――モーリーは好きな物を最後に食べるんだ？

モーリー　お寿司がその典型なんですけど、ウニやイクラとか最後に食べちゃうんですよね。

――モーリー、それは単なる貧乏性じゃないの（笑）。

桜庭　その気持ちがわからない。最初に食べて、最後にもう1回食べればいいじゃないですか。

モーリー　ア、アヒャ！　そうですね。

――桜庭さんは欲張りですね（笑）。

桜庭　たとえばですよ、食べているときに車が突っ込んできたら、そのときはもう食べられないわけですよ。人間なんて、いつ死ぬかわからないわけですから。

――ノンビリしているように見えて刹那的。桜庭さんは生き急いでいないように見えて、生き急いでるんですかね（笑）。

桜庭　いつ自分が突っ込むかわかんないし、突っ込まれるかわかんない。やれることはいまのうちにやっとくタイプです。

――たとえば今回のGPで田村戦が実現しない場合、今年の大晦日でやってもかまわないわけですか？

桜庭　それはそのときになってみないとわかんないです。

――すると、こないだの対戦要求はGP1回戦限定だったわけですか？

桜庭　う〜ん。なんでもそうだけど、期限があるじゃないですか。それに次の『PRIDE』が4月のGPだから、そのほうが盛り上がるだろうと思っただけで。

――たしかにあの時点で大晦日を指定してもピンボケしちゃいますね。桜庭さんにとって、もう一人の"SADAME"な相手であるシウバは、『PRIDE.29』で吉田選手をGP一回戦の相手として指名しましたが、桜庭さんからすると「あ〜、取られちゃった」という感じですか？

桜庭　だからボク、田村さんを指名したんですよ。

――その田村さんの出場が危うい状況だから、シウバと闘ってみたい気持ちはあったりします？

桜庭　（昨年大晦日で）タイミングがずれたから、なんかいいかな……。

――じゃあ、GPでやりたい選手は誰かいますか？

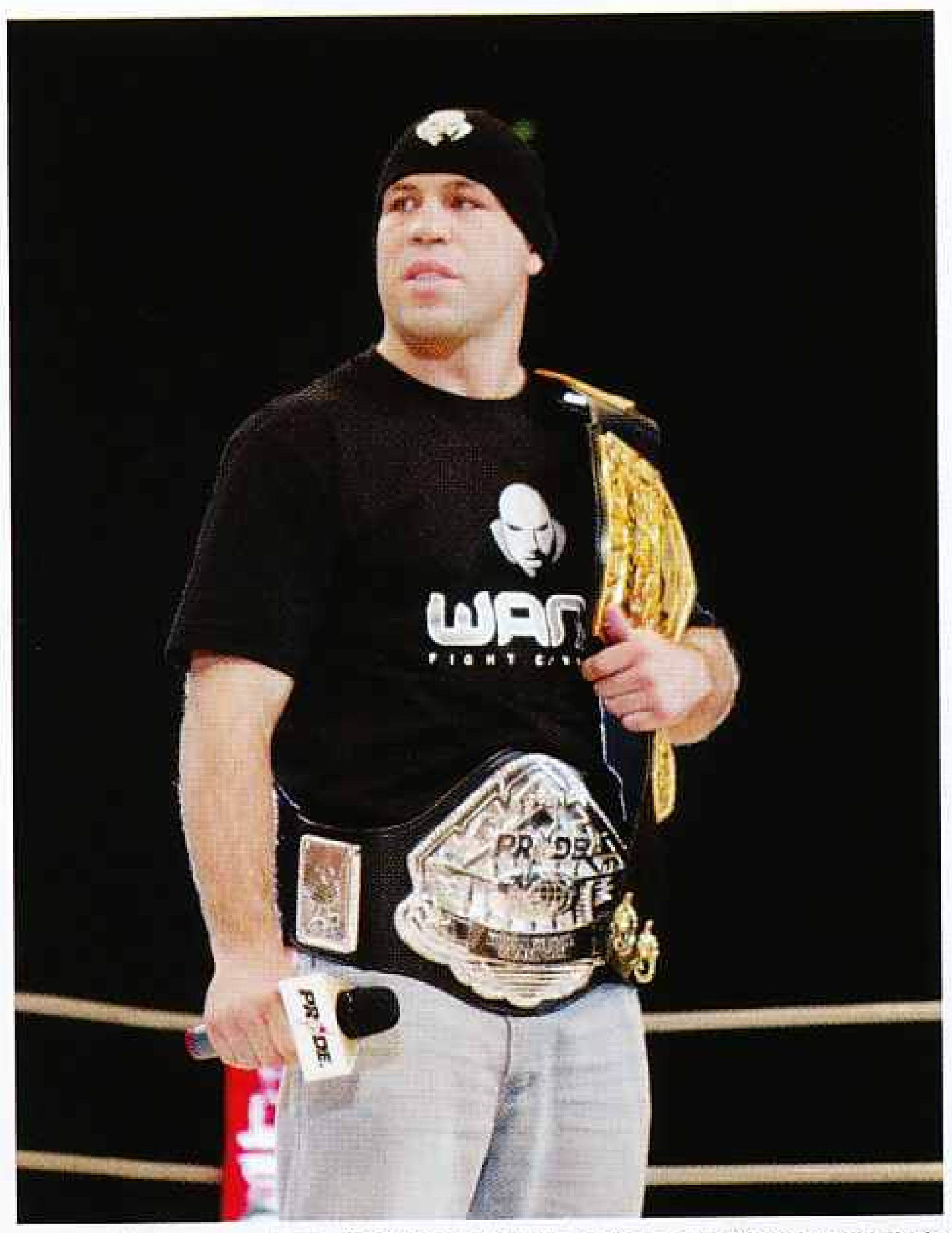
桜庭　闘いたい選手……？　闘いたくない選手はいますよ。アリスター（・オーフレイム）とか。

――アリスターはリーチが長いからイヤなんでしたっけ？

桜庭　それもあるし、あと顔がちっちゃいから。

――理由がよくわかりません。顔がちっちゃいと関節が極めにくいとか？

桜庭　そうです！（元気よく）。



2・20『PRIDE.29』で"柔道王"吉田秀彦をGP1回戦の相手に指名した、前回覇者のヴァンダレイ。2年前のGPで死闘を展開したこの"異種格闘技戦"は後日、正式決定!!　サクの相手はどうなる？

――そうですか（笑）。見事復活したボブチャンチンはどうですか？

桜庭　ボブチャンチンはどっちでもいい。

――ダン・ヘンダーソンやノゲイラ弟（アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ）は？

桜庭　ダン・ヘンダーソンとボクは噛み合わないと思いますよ。たしかに強いとは思いますけどね。ホジェリオは……微妙ですね。（一昨年大晦日の負けを）返してやりたい気持ちはありますけど、絶対に面白くない試合になると思うし。

――今回のGPの台風の目になりそうな、（マウリシオ・）ショーグンはどうです？　シウバと同門でニンジャの弟ですけど。

桜庭　……ショーグンはキワどいな。

――でも、むしろああいう猪突猛進タイプは、桜庭さんからするとやりやすくないですか？　心の中であんなの大したことないって思ってるでしょ？

桜庭　思ってないですよ！　そんなこと！

――大したことないとは思わないけど、「イケるかな」という気はあるでしょ？

手が合うのはシウバ、アリスター、ランペイジ、ショーグンかな

桜庭　ウチの高橋（渉）がシュート・ボクセに留学したじゃないですか？　高橋から聞いた話を総合すれば、イケそうかなあとは思いますけど……。

――やっぱり思ってるんだ（笑）。

桜庭　でも、そう言うとカードを組まれるからイヤなんですよ。これってホント（主催者との）駆け引きですよね。余計なこと言っちゃったらホントに組まれるから。

――でも、桜庭さんの場合、嫌がりつつも組まれたら組まれたでしょうがないという潔さが見え隠れしてますよね（笑）。

桜庭　だ、だからって、「ヒョードルとやってください」はないですよ！

――ゴタゴタしていた一昨年の『男祭り』のときだ（笑）。逆に闘いたい選手はいないですか？　ヴァンダレイ以外で。

桜庭　闘い選手かぁ……。

――質問を変えましょう（笑）。手が合いそうな選手は？　やれば面白くなりそうな選手。

桜庭　まずシウバでしょ。ショーグンでしょ。あとアリスターかなぁ。

――アリスターとはさっきやりたくないって思いきり言ってましたよ（笑）。

桜庭　やりたくないけど、手は合うと思うんですよ。あとは（クイントン・"ランペイジ"・）ジャクソンも合う。（ヒカルド・）アローナとは絶対に合わないなぁ。

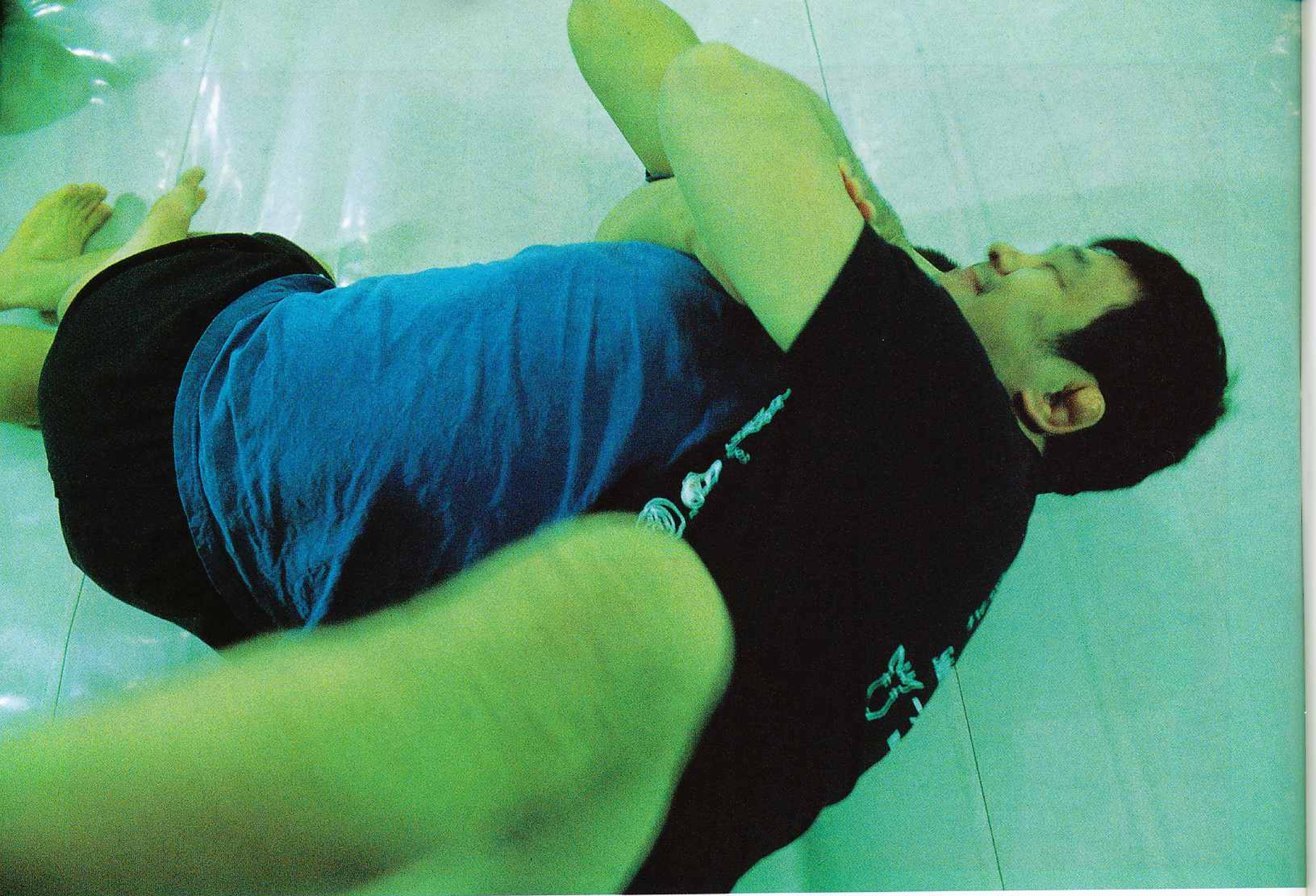
――噛み合いそうにない選手って、要は動きがカタイ選手？

桜庭　そうですね。たとえば○○○○○。

――カタイですね、彼は。ポテンシャルはズバ抜けてますけど。

桜庭　でもあの人、まったく商品価値がないですね。

――ガハハハ！　それ、表紙に打ちますよ。「桜庭断言！　○○○○○にはまった



GPに備え練習中のサクを激写!!　“幻の生き物”つちのこよろしく、スパー風景を滅多に公開しないサクだけにこれは貴重なシーンだ。

桜庭和志

く商品価値がない!!」って（笑）。

桜庭　う〜ん。彼は何をやりたいのかわからない。

——戦略をしっかり立ててキッチリ勝ちにきてるんじゃないんですか、判定で。

桜庭　だったらホイス（・グレイシー）と無制限ルールで延々とやればホントの勝ち負けがわかると思いますけど。いまのPRIDEルールであれば、商品価値はありません。

——厳しいなあ。やっぱり『PRIDE』みたいに過酷な勝負の場とはいえ、だからこそ、その裏には面白い試合もしてみたい気持ちがあるわけですよね

桜庭　そうですね。勝てばいいってもんじゃない。見てるほうも面白くないですよ。

——日本人が相手なら試合の緊張感だけで面白くなりそうですよね。桜庭さんは『PRIDE』で日本人とは闘ったことがないから新鮮さもありますし。

桜庭　日本人とはやらないです！（キッパリ）。

——でもGPはお互い勝ち上がればいずれ闘うわけですよ。

桜庭　そうなったら辞退しますよ！

——真顔で言わないでください（笑）。

桜庭　だって闘いたくないんですもん！

——それは困った（笑）。ファンが望んだらどうするんですか？

桜庭　それだけはできません、絶対に！

——それはどうしてですか？

桜庭　う〜ん。試合になると、相手に対して腹が立ってくる。そういう感情はレスリングやってるときは別になかったんですけど、こういう試合をすると出てくるんですよ。

——どうしても相手の顔を蹴ったり殴ったりするわけですからね。

桜庭　一緒に練習したことがあったり、会って喋ったりしたことがある日本人選手とは、いくら試合でもそういう感情は持ちたくないのでやりません。絶対にできません。

——同じ日本人として殴れない！　と。でも田村選手とは闘えるんですよね？

桜庭　……できますねえ。

——ガハハハ！　田村さんならそういう感情を出してもOKなんですか？

桜庭　でも変な意味はないですよ。田村さんとは（Uインターで）何回もやってますから。

——Uインターのときとはスタイルが違いますよ。

桜庭　う〜ん。感情は出るかもしれないですね。どうしても試合になれば腹が立ってきますから。

——むしろ公共の場で腹を立たせたいと言う風にも聞こえますね（笑）。田村さんと試合をしたら面白くなりそうですか？

桜庭　そればっかりはやってみなきゃわかんない。ひとつだけ言えるとすれば、見ている人はボクと田村さんが闘うこと自体を楽しめると思うんですよ。

——それは絶対に楽しめますね！　入場シーンから試合後まですべてひっくるめて。率直に言って、勝ち負けは別にして田村さんとはPRIDEルールの試合で手が合うと思います？

桜庭　……それは言えないですね。

——その秘密主義がよくわからない（笑）。

桜庭　なぜかといえば……それは俺だから!!（しつこくKID風）。

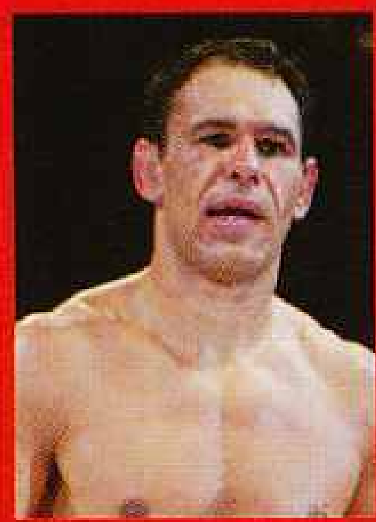
——ホントにお気に入りですね、そのフレーズ（笑）。

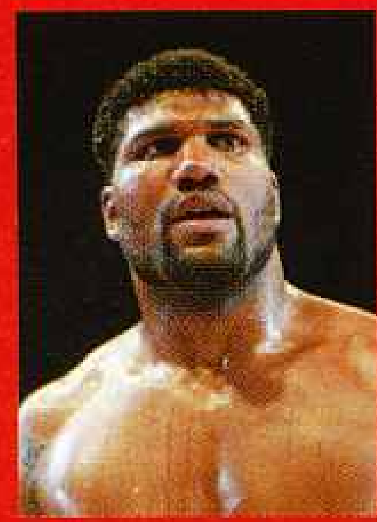
桜庭　もう面倒くさい質問は、これから全部これで回避します（ニコニコ）。

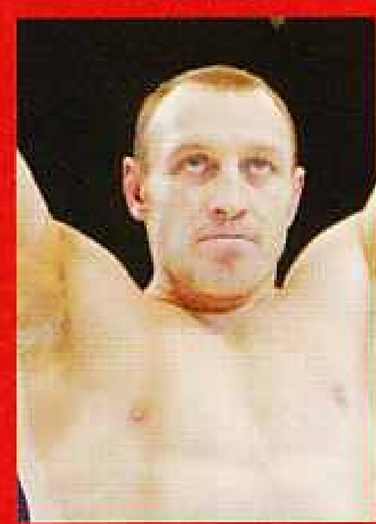
——厄介なコメントの仕方を覚えたなぁ

〝ウソっこなし〟のゲキヤバ外人が大集合!!

〝圧倒的現実〟が日本人を襲う！

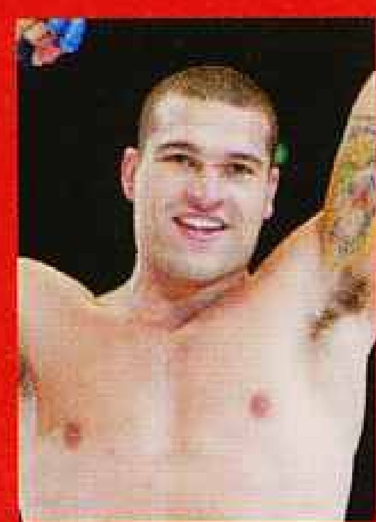

アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ


クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソン


イゴール・ボブチャンチン


ダン・ヘンダーソン


UFC代表


マウリシオ・ショーグン



出場ファイター

- ヴァンダレイ・シウバ
- 桜庭和志
- 吉田秀彦
- 近藤有己
- 中村和裕
- クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソン
- ダン・ヘンダーソン
- イゴール・ボブチャンチン
- マウリシオ・ショーグン
- アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ
- UFC代表
- 世界レスリング連盟推薦枠
- 4・3ラスト・ワントーナメント優勝者
- 残り3枠


吉田秀彦　ヴァンダレイ・シウバ

4・23『PRIDEミドル級GP』開幕戦

再び〝衣〟は赤く染まってしまうのか!?　ヴァンダレイ・シウバvs吉田秀彦戦、決定！

4月23日から開幕する『PRIDEミドル級GP』の全貌が徐々に明らかにされてきた。3月18日時点で発表されているメンバーは別欄の通り。4・3『PRIDE武士道』で実施されるGP出場者決定トーナメント（小路晃、D・リスター、P・フィリオ、A・スエロフ）までには15名の参加選手を発表される予定だが、その顔ぶれは誰を指しても〝本命〟と呼んでもさしつかえない。とくに実力派の外人ファイターが揃いも揃っており、注目のUFC代表枠からは、あのビクトー・ベウフォートの『PRIDE』カムバックが噂されている。日本人選手は勝ち上がることができるか？　第一弾カードとして、2年前のミドル級GP準決勝で死闘を演じたヴァンダレイvs吉田戦がアナウンス。「2人とも決勝に上がってもらいたい選手（榊原代表）」だが、どちらが一回戦で消える——。目を背けることができない〝圧倒的現実〟の闘いが4月23日、大阪から開幕するわけだ。なお、とにかくデカイだけの理由で昨年のヘビー級GPに出場した我らがジャイアント・シルバさんは、デカすぎてミドル級規定をクリアできないため出場できません。

桜庭和志

（笑）。では、質問を変えて、そのKID選手もいずれ出ると思うんですけど、『PRIDE』の対抗勢力として『HERO'S』というイベントがスタートします。

桜庭　ああ、新聞で読みました。

——『PRIDE』に対抗するオポジションができることについてはどう思いますか？

桜庭　別になんとも思わない。

——絶対に言うと思った（笑）。

桜庭　周りを気にしないで一生懸命やれば、黙っていても面白くなりますよ。

——それはたぶん桜庭さんが、PRIDEファイターという意識が人一倍あるからですよ。選手によっては、活躍の場が広がるから両方に出てみたいとか、あるいは業界関係者も業界活性化になるとかいろんな意見があるんですよ。

桜庭　一昨年の大晦日みたいにバッティングしなければいいと思いますよ。あれは見てる方だっていい迷惑ですからね。せめて一ヶ月のあいだに2～3大会あって、その中から好きなイベントを選べるかたちがいいですよ。

——『HERO'S』はK-1グループの総合イベントになるんですが、あの前田日明が象徴というか顔になるんです。図らずも『PRIDE』は髙田延彦、『HERO'S』は前田日明という対立図式になるわけですよ。

桜庭　だったら山崎（一夫）さんもお願いします!!

——ガハハハハ！　いまの答えは予想できませんでした（笑）。

桜庭　UWFといえば〝前・髙・山〟！　前田さん、髙田さんときたら山崎さんですよ。山崎さんにもイベントをやってもらいましょう（ニコニコ）。

——そういう問題でもない気がしますけどね（笑）。ちなみに桜庭さんにとって前田日明とはどういう存在なんですか？

桜庭　前田さんに特別な感情はないですよね。2～3回ぐらいしか会ったことがない。リングスの会場やリングスの道場に行ったときに。

——あんまり喋ったことはないんですか？

桜庭　そうですね。挨拶したら、前田さんがバ～っと早口で喋って、横でそれを高阪（剛）さんが通訳してくれて。

——ガハハハハ！　なんかその光景は目に浮かびますね。その『HERO'S』の延長線上で『W-1』というプロレスイベントもやるみたいなんですよ。いまのところ格闘プロレス路線になるようですけど。

桜庭　格闘プロレス？

——しばき合い、バチバチのプロレスとでもいうか。

桜庭　……ああ。

——桜庭さんが興味ないのはわかってますけど、むしろそういうスタイルなら、『PRIDE』でやればいいという考え方は変わらないわけですか？

桜庭　はい。

——ちなみに1千万円あげるから、いまUインタースタイルの試合やってくれって頼まれたらやります？

桜庭　やりません！（キッパリ）。

——やらない!?　じゃあ2千万!!（笑）。

桜庭　やる気はないですねぇ。当時ならまだしも、いまは『PRIDE』がありますから。それに緊張感が出ないと思いますよ。

——でも、目まぐるしい技の攻防や〝格闘頭〟を使ったりするスタイルの醍醐味自体は失われてないと思うんですよ。できる選手は限られてきますけど。

桜庭　というかですね、それは『PRIDE』のリングでもできますもん。

——できますか！　というか、桜庭さんはきちんと体現してますよね。でも、それはとてつもなく高いレベルの話ですよ（笑）。ついでに聞きますけど、1千万あげるから『ハッスル』に出てくれって言われたらどうします？

桜庭　いや～、それもムリですね。……恥ずかしい（小声で）。マイクで喋るのとかはムリ（さらに小声で）。

——ガハハハ。では、『HERO'S』、『Dynamite!!』、『ハッスル』、Uインタースタイル、『W-1』のいずれもNGということで、桜庭さんにはGPで頑張ってもらいましょう！

桜庭　ジンギスカンに出ます（ポツリと）

——ああ、ジンギスカン屋の『モンゴリアン・チョップ』に（笑）。髙田本部長から、あのお店は髙田総統とサク・マシンが経営してると聞いたんですけど。

桜庭　え～っと、ボクじゃないと思いますよ。

——ちなみにサク・マシンと桜庭さんは別人なんですか？

桜庭　だって、サク・マシンはひとりだけじゃない。3人いたじゃないですか？

——ホイス戦の入場のときはたしかに3人いましたね（笑）。その『モンゴリアン・チョップ』では髙田道場の新弟子が働くんですよね？

桜庭　タダじゃないですけどね。働いたら給料は出ますよ。

——そういうシステムはどう思いますか？　仕事に就きながら格闘技をやるというのは。

桜庭　いいんじゃないですか。社会勉強にもなるし。いままでのプロレス界ってその中のことしか知らない人が多いから、こっちがビックリすることが多いんですよ。こういうお店で他の人と接することで、社会に対応できればいいと思いますね。

身体のつくりが違うガイジンには頭を使って勝つしかない

——髙田本部長はこういうシステムの中で選手にハングリーさが生まれればいいと思ってるそうなんですよ。ブラジルの選手なんかに比べると、日本の選手はハングリーさが足りないんじゃないかと。

桜庭　ハングリーさよりも……頭がちょっと。

——と言いますと？

桜庭　自分で考えないで、誰かに教えてもらえると思っているから。あと外国人は身体が違いすぎますよ。



——ホントに身体のつくりは違いますよね。どんなことすりゃそうなるの？　というぐらい（笑）。日本人はこれから何を武器にしていけばいいんですかね？　たとえばシュートボクセみたいな顔面踏みつけたりとか、そういう練習方法を取り入れたりはしない？

桜庭　日本人にそれはできないですよ。

——日本には、相手に粗野な振る舞いをしたり、あしらったりするときのことを「足蹴にする」という言い方もある。足で顔を蹴る行為自体にダーティーなイメージがありますからね。

桜庭　だからそのかわりに、日本人にしかできないことをやるしかないですよ。

——日本人にしかできないことについては、以前も桜庭さんに同じ質問をしているんですけど、桜庭さんは"ずるさ"って答えてたんですよ。"ずるさ"＝頭をいかに回転させて闘うかってことですよね。

桜庭　それ、日本人にしかできないですよ。だから頭をどう使うかです。でも頭を使うだけじゃダメ。努力もしないと。

——当たり前の話ですけど、やっぱり練習は大事。

桜庭　リングでカッコつけているヒマがあるなら、練習しろってことですよね。結局は真剣に練習しているか・していないかの問題だと思いますよ。

——いまの『PRIDE』のリングではカッコつけているヒマもないですよね。あの小川直也でさえ、54秒で負けちゃう残酷な世界ですから。プロ意識を持った上で、なおかつ結果を出さないといけない。厳しい闘いになりそうですね、GPは。そういう道に踏み出す桜庭さんを応援しますよ。

桜庭　弱い相手、いないかなぁ……（小声で）。

——小声で言わないでください（笑）。いないですよ、GPに弱い相手は。

桜庭　探せばいくらでもいますよ。探さないだけですよ！

——いや、GPに出れる資格があって、弱い選手ってなかなかいないですよ。

桜庭　いますよ！

——いないです！

桜庭　いますって！　ほら、あれ、あれですよ！

——あれって誰？　というか、なぜこんなことで言い合いになってるんだ（笑）。

桜庭　え～っと……あ、あ、あ!!　アリエフ・マックモド！　アイツとやりたい！

——ガハハハ！　それは桜庭さんは良くてもファンが納得しないです。

桜庭　カツラ被って名前とコスチュームを変えれば問題ないですよ。

——じゃあ、マックモドでもいいですけど、ついでにシウバやショーグンもムギュッとお願いします（笑）。

桜庭　大丈夫です。なぜなら、俺はつちのこだから！　幻の生き物だから（笑）。

【05年3月9日／髙田道場にて発見】




髙田総統&サク・マシンのイラスト（中川画伯）が目印!!

ジンギスカン料理の店『モンゴリアン・チョップ』

髙田総統とサク・マシンがジンギスカン店『モンゴリアン・チョップ』をオープン!!　多忙な総統とナマケモノのサク・マシンにかわって、髙田延彦統括本部長がお店を管轄。厳選したラム肉を北海道・帯広の精肉店から直接仕入れており、さらにその精肉店に伝わる秘伝中の秘伝のタレを使用。これがジンギスカン料理の常識を根こそぎ覆す美味さ！　ホントに美味い!! ちなみに焼酎は超酒豪で知られる亜紀夫人がセレクトだ！

【東京・田町店】
東京港区芝5-17-11 TEL03-5444-2941
17:30～24:00(ラストオーダー／金曜日のみ25:00)
※日曜定休（祝日は営業）

【大阪・難波店】
大阪府大阪市浪速区難波中2-7-19TEL06-6643-8929
17:30～24:00（ラストオーダー／金曜日のみ25:00）
※年中無休



ショック!! 田村潔司 右小指中手骨頸部骨折 全治4カ月

ショック！　田村潔司はホントに骨折していた！　2·20『PRIDE.29』アリエフ·マックモド戦後、桜庭による対戦アピールにも足を止めることなく控室に消え、コメントルームにも姿を現さなかった田村だが、その後、試合中に右拳を骨折していたことが判明。4月から開幕するPRIDE·GP出場は極めて厳しい状況となってしまった。はたして田村はいま、なにを考えているのか？　そして桜庭戦の行方は……。"頑固者"の真意を探れ！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／丸山剛史
Tsuchinoko designed by hisa（Two Three）

――2ヶ月連続で田村さんのインタビューをさせていただきますが、前号は読者から「全然核心を喋っていない」とのお叱りを結構受けたんですよ（笑）。

田村　もっと引き出せと（笑）。

――ですから、今日こそしっかり語っていただきたいと思います！　まずは2・20『PRIDE．29』のアリエフ・マックモド戦の感想からお願いします。不本意な結果だとは思うんですけど。

田村　いや、不本意でもないよ。

――あ、そうなんですか⁉

田村　うん。予想以上に自分の思ってる闘いができたから。この歳になると、もう間合いの勝負になってくるんだけど、自分の間合いで試合ができたというか。まぁ、金的に入っちゃったっていうアクシデントがあったけど……、正直あそこまで痛がるものじゃないと思う。スタミナが切れてたんじゃないの？

――確かに「もうイヤだ」っていうのは見えましたよね。マックモドは途中でピョンピョン跳んで来たりしましたけど、やりにくさはありませんでしたか？

田村　ん～……ピョンピョン跳ばれるとやりにくいよね。

――そりゃそうですよね（笑）。

田村　あとはセオリー通りのパンチじゃなくて、力まかせだから、そういう部分もやりにくかったね。

――右フックか何か、一発いいパンチもらってましたよね。

田村　うん。ちょっとクラッときたのはあった。でも彼はちゃんとやれば、もともと力のある選手だと思うから凄く強くなると思うけどね。強くなるっていうか、強かったけど。

――でも、試合再開後マックモドは、明らかにやる気がないように見えましたけど、そ



SADAMEの桜庭戦二たび流れる 〃頑固者〃は今何を考える!?

田村潔司

れに対するいら立ちはありませんでしたか？

田村　「ふざけんな」っていう思いはなかったけど、確かに戦意は喪失してたよね。それは金的のせいなのか、試合を諦めたのかはわからなかったけど。それより、金的が入った後、こっちが「ごめんなさい」って感じで頭を下げたら、向こうと目が合って彼が流暢に「何で？」って言ってきたんだよね（笑）。

——流暢な日本語で（笑）。

田村　おまえ外人じゃねえのかよって。そこは「Ｗｈｙ？」でしょって。それが試合中ツボにハマっちゃって（笑）。

——マックモドは結構、日本語を喋れるらしいですからね。

田村　あとは試合中、俺がスタンドでキッチリとした間合いを取ってるときに、セコンドの誰かが「田村さん、レスリングシューズのヒモが出てます！」って言うんだよ。多分、大久保ちゃん（大久保一樹）だと思うけど、「いまここでそれを言うか」と思って。あの状況だったら「距離とって左ロー」とか言うとこなのに（笑）。

——「わかった」ってヒモを直すわけにはいかないですもんね（笑）。

田村　もの凄く集中力が欠けるアドバイスだよね。だからあの試合の収穫は、「なんで？」と「ヒモが出てます」の二つだね。

——どんな収穫ですか！（笑）。

田村　いや、そんなことに見舞われても冷静に試合ができたなって（笑）。

——じゃあ、あの試合を受けてしまった後悔はなかったと。

田村　まったくないねえ。前号の『紙プロ』でターザン（山本！）がいろいろ言ってたみたいだけど、「試合を見る側って勝手にいろいろ思うんだなあ」って。

——本人は「俺は田村の気持ちがわかり過ぎる」って言ってましたけどね（笑）。

田村　全然、そんなことないんだけどねえ。

——違いましたか（笑）。ほとんど試合放棄という感じのタオル投入で試合が終わってしまいましたが、その後は勝ち名乗りも受けずにサッとリングを降りましたけど、あのときの心境はどうだったんですか？

田村　もうちょっとやりたかったよね。でも、あそこでタオルを投げられたのは、もうしょうがない。ただ、あそこで勝ち名乗りを受けるのは違うと思ったから。だからそのまま帰った方がいいかなって。それはもう瞬時の判断で。ターザンには「田村は計算してる」って言われちゃうけど、動物的な勘だから。

——ゴングが鳴ったら、すぐリングを降りてましたもんね。

田村　だけどあとで冷静になって、ＤＳＥの関係者に「勝利者トロフィーください」ってメールしといたんだよ（笑）。

——勝ち名乗りは受けないけど、トロフィーはほしい（笑）。

田村　結構面白いメールが打てたから、読んであげるよ（といって、ケータイをいじりだす）。「先日、試合がありました。見事に不完全な勝利。リングをそそくさとつむき加減で帰り、見事に勝利者賞をもらい忘れました。冷静に後悔してます。勝利者賞が欲しいというわけではありませんが、気の利いたドリームの誰かが連絡してこないかなあと、七夕でもないのに祈っている今日この頃」（笑）。

——やっぱり後悔してるんじゃないですか（笑）。

田村　いや、試合に対する後悔じゃなくて、勝利者賞をもらい忘れた後悔だから（笑）。

——試合後、コメントルームにも姿を現さなかったのはなぜなんですか？

桜庭に対して言いたいことは山ほどある、でも今は本音を言うときじゃないから

田村　それは何となく。ケガしたっていうのもあったし。なんか、俺のケガについてはいろいろ言われてるみたいだね。

——ＤＳＥから「田村選手はケガで病院へ直行したため、ノーコメントです」って発表されたときは、大半の記者が〝三味線〟だろうと疑ってました（笑）。

田村　やっぱりそうなんだ（笑）。

——で、一体何があったんですか？

田村　わかんない！　試合が終ったらケガしてた。

——じゃあ、試合中に痛んだということもなかったんですか？

田村　インターバルのときは痛かったよ。でも試合が始まるとそうも言ってられないから……でも、三味線がバレてたとはね。

——やっぱり三味線なんですか？（笑）。

田村　仮病にしといてよ（笑）。

——いや、でもホントいつケガしたんですか？

田村　いや、ホントわかんない。試合中は痛さを感じなくて、インターバルになると痛みを感じる。で、また試合が始まるとわからなくなるから。

——病院に行って診断はどうだったんですか？

田村　それはＤＳＥから公式に発表してくれると思うんで。俺からのコメントは〝仮病〟で通しておいて。

——なぜ仮病で通す（笑）。それにしても、どこでそんな大ケガしたんですかねぇ。左ミドルしか出してないような印象があるんですけど。

田村　たぶん右フック打ったときだと思うけど、打ち所が悪いと簡単にいっちゃうんだよ。ボクサーなんかバンテージ巻いてグローブはめてんのに、オデコとか固いとこに当たっちゃうと、すぐ折れちゃうらしいから。ちゃんとバンテージは巻いてた方がいいよね。

——それでその試合後なんですけど、リングを去り行く田村さんの背中に向かって、桜庭選手から対戦アピールがありましたけど「田村さん、こういう試合やってもつまらないでしょう。次はボクと試合して下さい」というアピールを背中で聞きながら、どう思いましたか？

田村　う〜ん、俺もそれどころじゃなかったからね。拳が痛かったし。

——でも、もちろん聞こえましたよね？

田村　聞こえたけど、でも結構、舞台から消える寸前だったでしょ？　だからあんまり耳には入ってこなかったというか。

——名指しで、しかもああいった場で挑戦を表明されたわけですけど、それについてはどうですか？

田村　俺をあんまり苛めないでよ〜。いまはこういうケガをしてる状況だから、コメントは特にない。

——コノヤロウといった思いはない？

田村　ないない。また読者から怒られるかもしれないけども、もう引っ張っても同じだから。コメントしようがない。試合ができないんだから、言ってもしょうがないでしょ？

——髙田本部長は記者会見で「田村選手はケガをしていますが、ミドル級ＧＰ開幕まであと1ヶ月半あるんで、おそらく大丈夫だと信じてます」と言ってましたけど。

田村　俺の〝仮病〟は全治3〜4ヶ月だから無理！

——無理……。じゃあ、治ったら対戦はＯＫなんですか？

田村　それは治ったときに考えるよ。

——でも、この大事な時期に残念ですねえ。マックモド戦はファンの多くが、ＧＰに続く



イントロダクションというか、野球で言うオープン戦のように見ていた部分があると思うんですよ。そこで大事な大会を棒に振ったことに後悔はないですか？

田村　運命だからしょうがないよね。運命には逆らえないから。

――周りは「GPに出なくていい口実ができたんじゃないか」って思ってる向きも少なからずあるようですけど（笑）。

田村　もう仮病に思われてもいいし、口実ができて喜んでるって思われてもいいし、それは言いたい人には勝手に言わせておけばいいから。『紙プロ』の次の号でまたターザンにいろいろ言われても構わないしね。ただあの人が言ってることは、１００％、１８０。違う。それは言っとく。

――伝えておきます（笑）。ところで今回ケガせずに試合を終えることができたら、GPは前向きに考える方向だったんですか？

田村　すべては試合が終わったあとって考えてたけど、多少はあった。ドリーム側の判断との条件が合ってれば。

――田村ファンも、ようやく動き出してくれたので期待してたと思うんですけど、その期待を裏切ってしまったことについてはどう思ってますか？

田村　そういう声があれば責任は感じるけど……。

――ありますよ！　あるけれども、随分裏切られ慣れちゃってる部分もあると思いますけど（笑）。

田村　もう慣れた？（笑）。でもこれは素直に申し訳ないって言うしかないから。

――この間、髙田本部長は、「田村は何の目的で『ＰＲＩＤＥ』に出て来てるのかが見えない。強さを証明したいのか、プロモーションとして利用してるのか、お金なのか、純粋に『ＰＲＩＤＥ』の選手と闘いたくて出てるのか、そこをハッキリすべき」って言ってたんですよ。確かに僕もそう思いますし、ファンもそうだと思うんですけど、そのへんについてどうですか？

田村　ケガ人なんだから苛めないでよ！　意地悪な質問するなあ。「田村は何で出てるのかわかんない」ってその言葉だけ聞くと、俺はドリーム側からオファーをもらって交渉が成立するから出てるだけであって、それをオファーする側から言われても……。

――いや、田村さんのこれまでのUインター時代、リングス時代の歩みを振り返ると、常に自分はこうしたい、団体をこういう世界にしたいという理想があったじゃないですか。田村さんのやりたいことが田村さんの中に明確にあって、ファンもその田村さんのやりたいことを理解しようと努めて、それを応援していこうという力があったと思うんですよ。で、リングスを辞めてからも、そういう理想はあったと思うんですけど、ここ2～3年の田村さんからは、なかなかどんな理想があるのかわからない。そこにファンもどうついていっていいか戸惑ってる部分があると思うんですよ。

田村　思っていても壁にブチ当たるときもあるんだよ。

――壁っていうのは、どこかに行きたいからブチ当たるわけじゃないですか。じゃあ田村さんは今、どこへ行こうとして壁にぶち当たってるのかなと。

田村　正直、思ってることはあるよ。でも、現状では自分からは言えない。話は戻るけど、吉田選手やホイスとの対戦希望にしろ、どこかで冷めてる自分がいるんだよね。こっちが指名して、やりたいって言っても、できるときはできるけど、できないときはできないでしょ。ドリーム側から「誰とやりたいですか？」って聞かれて、「吉田選手かホイス選手とやりたいです」って言っても、それを前向きに検討してくれたのかどうかはわから

ないけど、具体的なモノはなかったから。だから答えは心の中にあるけど、いまの自分では明確には出せる状態じゃないんだよ。まあ、そんな感じかなあ。有言不実行になっちゃってたから、いまは不言不実行になっちゃってるのかもしれないね。

――例えばUインター時代に「髙田さん、僕と真剣勝負してください」って言ったときは、ここで髙田さんと闘わなきゃこの先の何かが掴めないっていうような思いがあっての発言じゃないですか。前田日明さんとか山本宜久選手との対戦も、勝負で白黒つけて次の世界をどうするかっていう明確な理想があったと思うんですよ。

田村　ああ、あったあった。

――でも、「吉田、ホイスとやりたい」というのは、その先にある"何か"が見えないというか。

田村　毎回そんなテーマを持って闘うのって、不可能だと思うよ。昔の俺を知ってくれてるからそうなるんだろうけど、毎回そう言われると困っちゃうな。やっぱりさ、この位置まで来ちゃったからしょうがないんだけど。例えば大久保ちゃんが『PRIDE』に出たら、絶対勝ちたいとか、いいとこ見せたいとかいろいろあると思うけど、もう俺はそれを通り越しちゃってるから。ある程度、どっかで壁はあると思うんだよ。試合内容にしてもそうだけど、毎回素晴らしい試合ができるかっていうと、そんな保証もないわけだから。ちょっと逃げの言葉になるかもしれないけど、イチローでも10打席中3～4回打てば素晴らしいってなるでしょ。でも10回の内たかが3回だからね。試合にしても10回やって3回いい試合すれば、それで俺は素晴らしいことだと思うんだよ。いままで振り返ってみて、毎回毎回期待されてたけど、またいつかそんなときが来るだろうから。いまは"溜め"の時期だと思ってるから。

――そういったこともあって、桜庭戦も「今」じゃないと。

田村　そこには直接つながんないけど、桜庭のことは俺が引退して振り返ったときにじっくり喋りますよ。話すことは山ほどあるけど、いまはあんまり言いたくないね。

――では、『PRIDE』っていうイベントは、試合にテーマ付けをして、ファンの興味を喚起させていますけど、視点を変えると、各選手の個人的なストーリーを押し付けているという見方もありますよね。その『PRIDE』に創られた流れには乗りたくないというか、イベンター側に自分の"SADAME"を決められるのは拒否したいという気持ちはありますか？

田村　う～ん、それは難しく考え過ぎだと思うよ。わかりやすく言えば、主催者側がオファーを出して、そのオファーを選手側が受けるか受けないかだけだから。いまはそう深く考えてない。じゃあ、金原の話をしよう。

――いきなりですねぇ（笑）。

田村　金原は何で『PRIDE』に出てんの？

――やっぱりあの場所で生き残り、上に行きたいという気持ちがあるんじゃないですか。

田村　それはみんな同じじゃないの？

――同じですよ。多くの選手は、『PRIDE』の見えないランキングがあるとしたら、そこに食い込んでいきたいという、競技としてごく当たり前な参戦の仕方だと思うんです。でも田村さんだけは、ランキングの順位を上げたいっていう風には見えないんですよ。

田村　いや、そんなこともないよ。強さを見せたいとか、お金が欲しいとか、ああいう舞台に立ちたいっていうのは基本的にはあるから。でもガンツは俺に対して、そこにプラスアルファを求めてるわけでしょ？

――いや、田村さん自身が『PRIDE』に出ながらも、『PRIDE』の勝負論とは別の価値を求めてるんじゃないかなと。

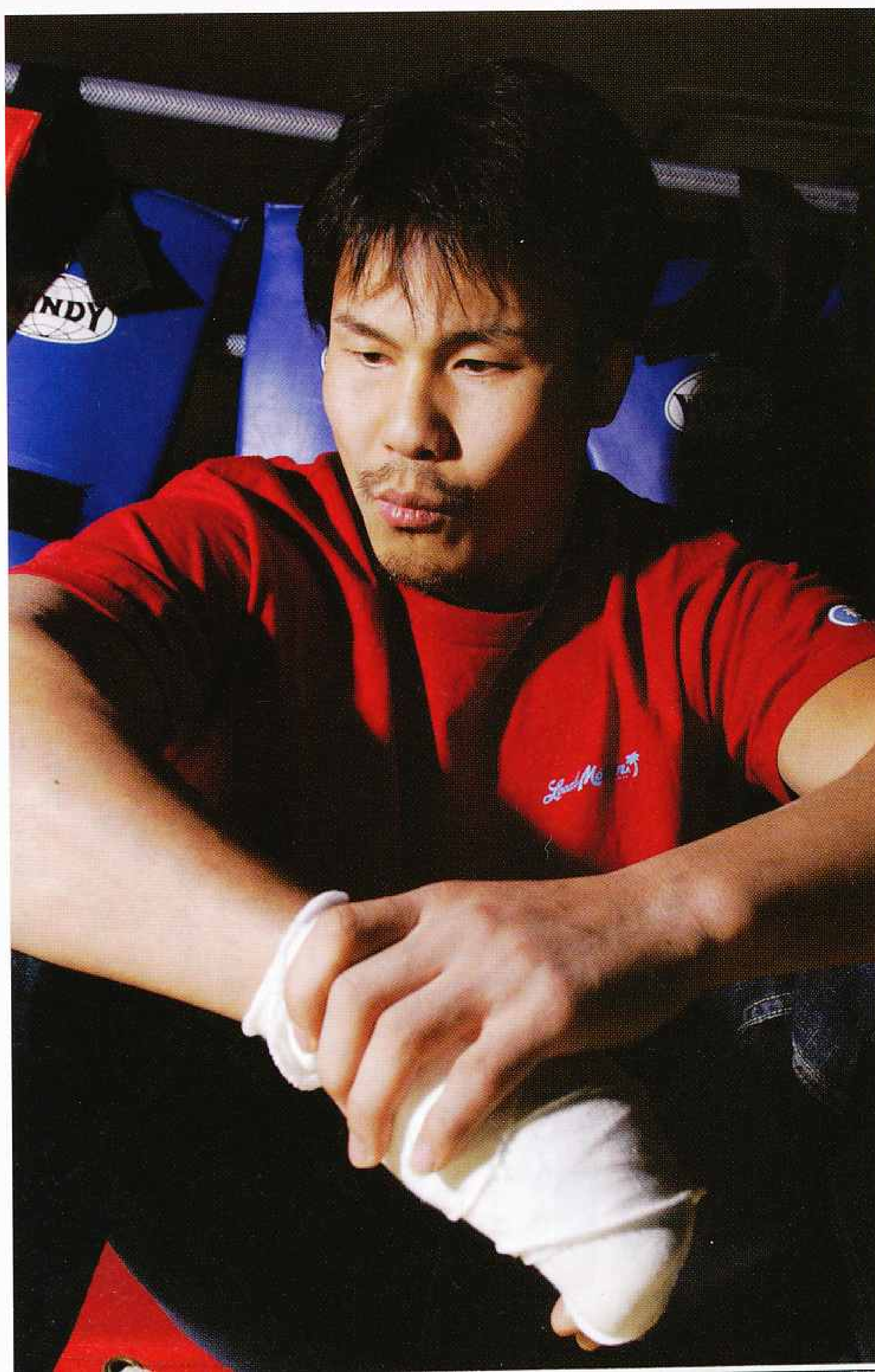
田村　難しいっつうの（笑）。『紙プロ』はそこがいいとこなんだけど、俺をいっつも悩ます質問するから、楽しい話題にしようよ。

――じゃあ、思い切りシンプルな質問をすると、田村さんは『PRIDE』で試合をするのは面白いですか？

田村　面白くなくはないね。基本的に強くなりたいっていう願望があるから『PRIDE』に出るんだろうし、まあ、そんなとこだね。さっきガンツが言ってた「何かを求めてるんですか？」っていう問いは、もう周りが決めてることだと思うから。俺に対して期待を持ってくれるということは凄くありがたいんだけど、何に期待したらいいかって質問を俺にしても、俺は何とも答えようがない。俺は練習をして、リングに立って、いい試合をして、欲を言えば試合に勝って、お客さんにいい意味でいろんなモノをひとつでも感じてもらえれば、プロとしての仕事は成立すると思ってるから。前回の試合もいろんなこと言われて、悪い意味で印象に残ったけど、あれはあれで悪い意味で結果は残してると思うんだけど、競技者としてはそういう気持ちになっちゃうんだろうね。そんな感じ。

田村

吉田選手やホイスへの対戦要望にしてもどこかで冷めてる自分がいるんだよね



――では、プロとして対戦相手に対するこだわりも今はそんなにありませんか？

田村　それはあるよ、もちろん。

――となると、吉田選手はリベンジということですけど、ホイスと闘いたい理由はなんですか？

田村　ホイスは何となく直感で。

潔司

——いい試合になりそうだという直感ですか？

田村　いや……なんか憎たらしいから（笑）。

——まったく僕の勝手な推測なんですけど、桜庭さんが田村さんに対して対戦表明したのは、田村さんがホイスに対戦表明してる理由と同じかもしれないですね（笑）。

田村　それはどうかわかんないけど、どう思ってても、ああいう風に言うことは勇気がいるよ。焚き付けられてるのか知らないけど、本人の気持ちっていうのは、本人しかわかんないからね。

——後輩にそういうことを言われるのは、どんな気持ちですか？

田村　いや、いまは特になんとも思わない。

——今、考えると非常に不思議なのは、田村さんがリングスにいた頃に「桜庭選手との対戦はどうですか？」って質問をすると、だいたい「僕は全然ＯＫです」っていう答えだったんですよね。

田村　アハハハハ。

——それがいざ実現できる段階になると、なかなか対戦を受けないっていうのは、どういう心境の変化があったのかなあと。

田村　人にはいろいろ事情があるんだよ！

——で、これが「桜庭戦は全然ＯＫ」って答えてる証拠のブツです（笑）。（『紙プロ』28号の田村インタビューページを見せる）

田村　アハハハ、どれどれ。（『紙プロ』を読んで）フ〜ン、面白いねえ。でも、そんなのさ、一人の女性をずっと好きでいられるかって言ったら、それは違うでしょ。そりゃ心境の変化はあるよ。「むかしはこう言ってたでしょ？」って言われたってさ、大仁田厚だったら「おまえ、ウソついたことないのか!?」って怒られちゃうよ！

——その心境の変化の理由を知りたいというか。

田村　もう桜庭の話はいいから。もう答えようがないんだもん。それこそ引退したあと杖ついて、そのときに本音を喋るから。いまは本音を話すときじゃない。俺のいまの気持ちは、大久保ちゃんに一日も早く彼女ができて欲しいということだよ（笑）。

——（無視して）でも、逆に田村さんがそこまで語ることを避ける人って、あまりいないですよね？　だから田村さんにとって桜庭さんは〝その他大勢〟ではなく、特別な選手であるいうことは確かですよね？

田村　いや、それも言わない。だから特別だろうと、そうじゃなかろうと、それは俺が杖ついたときに言うから。察してちょうだい。

——わかりました（笑）。では、最後は前回と同じく、上井＆前田プロレスについて大いに語っていただきましょう（笑）。

田村　アハハハ。旗揚げっていつだっけ？

——急遽、総合格闘技大会『ＨＥＲＯ'Ｓ』が３月26日に開催されまして、４月23日、『ＰＲＩＤＥ・ＧＰ』大阪大会と同日、『ＷＲＥＳＴＬＥ・１』というプロレスの大会が開催されます。

田村　そうなんだ。俺は『紙プロ』と一緒に行ったらいいんだよね？

——ゼヒ、そうしていただければ（笑）。現時点で興味はありますか？

田村　興味はあるけど、実体が見えない。何なの？

——早く言ってしまうと、Ｋ・１の総合イベント『ＲＯＭＡＮＥＸ』を前田さんと上井さんがやるように見えますよね。

田村　なんかそれって、いままでの関係を考えると凄いよねえ。

——前田さんがＫ—１と合体するという事実は信じられないですか？（笑）。

田村　そうだねえ。でもどこまで入り込んでるかわかんないから、何とも言えないけど、昔の関係を知ってる者からすると不思議だよね。

——Ｋ—１の強力を得てリングス・ネットワークが復活するらしいですけど、リングス復興ということに関しては、元リングスのエースとしてどう思われますか？

田村　関わりを持った時点で答えるよ。

——関わりを持つ可能性はあるんですか？

田村　いやあ、わかんないね。

——前田さんがＫ—１と組む以上に、前田さんと田村さんが組むことは、現時点で想像しにくいんですけど（笑）。

田村　そうだね。いまだったら難しいんじゃない？　山本（宜久）は髙田道場を辞めてるからシガラミはないけど、俺はフリーという立場とはいえ、『ＰＲＩＤＥ』とは関係してるから、現時点ではないよね。でも（前田さんに）直接「出ろ」って言われたら、「ハイ。わかりました」って言っちゃうかもしれないけど（笑）。

——でも、変な話『ＨＥＲＯ'Ｓ』とか『ＷＲＥＳＴＬＥ・１』って、田村さんにもの凄く合いそうな気がするんですよね。

田村　ああ、合うかもねえ。

——特に『ＷＲＥＳＴＬＥ・１』は格闘プロレスやるらしいですから、ホント、田村さんにピッタリなんですよ。髙田さんも『ＷＲＥＳＴＬＥ・１』が格闘プロレスやるんだったら、Ｕ・ＳＴＹＬＥには勝てないんじゃないの？」って言ってましたよ。つまり、そのスタイルで田村さん以上の試合は誰にもできないっていう、非常に評価の高い発言だと思うんですよね。

田村　へえ〜、そうなんだ！　誉められてるとうれしいなあ。

——田村さんは『ＰＲＩＤＥ』的な強さの順位をシビアに決めちゃう世界と、『ＨＥＲＯ'Ｓ』的な面白いカードを組んでいく世界はどちらが好きですか？

田村　実際のスタイルを見てみないとわかんないよね。見てから判断するよ。

——では、ケガが治るまでの間は『紙プロ』専属解説員として活躍してください（笑）。

田村　辛口コメンテーターで（笑）。

——では、最後にあえてもう一度お聞きしますけど、『ＰＲＩＤＥミドル級ＧＰ』にはホントに出ないんですか？

田村　〝仮病〟してるから出れない！

——一説によると桜庭さんは、「田村さんの右手が使えないんだったら、僕も右手使いません」って言ってたらしいんですよ。

田村　へぇ〜。じゃあ、お互いに右手骨折した状態でやるってのはどうよ。

——これカットだろうなあ（笑）。

【05年3月9日／U・FILE調布近くのカラオケボックスにて収録】

米国帰りの大久保ちゃん
2ヶ月連続出場決定！
U-FILE大会情報!!



ユーファイル15
3月27日（日）西調布アリーナ
OPEN／13:30　START／14:00
東京都調布市上石原2-40-6　B1F
［京王線西調布駅から徒歩3分］

［対戦カード］
Style-U（総合）ルール5分2R
大久保一樹 vs 吉田智彦

Style-U（総合）ルール5分2R
裕希斗 vs 島崎巧

他、Style-S（立技）、Style-G（寝技）、
Style-E（プロレス）ルール数試合

料金：2000円（当日2500円）
※ネットで前日5時までご予約いただけます
［PC］http://www.u-filecamp.com
［携帯］http://www.u-filecamp.com/i
お問合せ：044-932-0282

ユーファイル16
4月29日（金・祝日）
大久保一樹vs中村大介

U-FILE CAMP登戸ジム&
調布ジム入会金無料キャンペーン
4月中にご入会の方は入会金（2万円）が
無料となります。是非この機会に！

の『PRIDE』マットに揃い踏み!!



〝不動心〟『ミドル級GP』参戦決定!

狙うはもちろん優勝だ!!

パンクラスライトヘビー級王者

近藤有己

[パンクラスism]

パンクラス二大王者が春の『P



〝世界のTK〟
遂に『PRIDE』参戦！
相手はなんとヒョードルだ!!

聞き手／橋本宗洋
構成／松澤チョロ
撮影／平工幸雄
Tsuchinoko designed by hisa (Two Three)

パンクラススーパーヘビー級王者

髙阪剛

[チーム・アライアンス]

パンクラス・ライトヘビー級王者"不動心"近藤有己。そして、パンクラス・スーパーヘビー級王者"世界のTK"高阪剛。

この2人が4月に『PRIDE』マットで大一番に挑む。遂に『PRIDE』初参戦となるTKは、いきなりヒョードルと激突！一方の近藤は23日に開幕となる『PRIDEミドル級GP』への出場が決まっている。2人のパンクラス王者が決戦を前に、過去・現在・未来を大いに語ってくれました！

――今回はスーパーヘビー級とライトヘビー級、2大パンクラス王者の対談ということで、よろしくお願いします！

高阪&近藤 よろしくお願いします！

――お二人は年齢は5歳違うんですが、入門、デビューの時期は近いですよね？

高阪 自分は93年の9月2日に入門して、デビューが94年の8月20日ですね。

近藤 僕は94年の5月入門で。デビューは……96年の1月ですね。

――選手としては、ほぼ同世代なわけですね。

高阪 近藤くん、いま何歳だったっけ？

近藤 29で、今年30です。7月で。

高阪 30になるとヘコむよぉ（笑）。29と30って、こうも響きが違うもんかって。

近藤 あ〜、そういうもんですか。自分の中では、年が変わった時点で「今年30」っていうのがあるんですけど、意外と悪い気はしないんですよね。

高阪 オレはダメだったんだよねぇ。30歳っていったら一人前の大人ってイメージがあったんだけど「全然一人前じゃないじゃん」って。あのときはヘコんだね。

近藤 それは僕も思いますね。30っていうと「まだ若いから」って言い訳が通用しない感じがするんですけど……。

そういうもんですか。自分の中では意外と悪い気はしないんですよね



高阪 小学生のときに思ってた30代と全然違うんだよね（笑）。自分が子供で、親父が30代だった頃って凄く頼もしい感じがしたんだけど。

――高阪さん、その30歳のときっていうのは選手としてはどういう時期だったんですか？

高阪 ヘコむもなにもねぇ、ケガで試合ができなかったんですよ。試合で肩とか諸々傷めて、次の朝起きたら体が腕が上がらなくなってた。それもあってヘコんでたっていう。その頃はもうアメリカに行ってて、給料制じゃなかったから、試合できない＝野垂れ死にってイメージもあったから（笑）。

――30歳というと、競技者としての金属疲労みたいなものが出る時期なのかもしれないですね。そういう部分、今年まさに30歳になろうとしてる近藤さんはいかがでしょうか？

近藤 やっぱり、疲れやすくなってるなっていうのはありますね。

高阪 野球選手とかサッカー選手に聞くと、そういうケガは突然くるらしいんだよね。だから気をつけようがないんだよ。自分でいうと、29の年っていうのが、アメリカに行ってUFCに出たり、「勝負しなきゃいけない」って自分にプレッシャーをかけてた年だったから、後から考えると試合数が多すぎたんだよね。自分の身体が頑丈だって過信もあったし。だからケガしたおかげで、いろんなことを見つめ直すことができたっていうのはあった。

――近藤さんは、年齢を重ねれば重ねるほど成長していくんじゃないかって考えですよね。

近藤 そうですね。

――その意味で、高阪さんは先駆者というか。高阪さん、いまの35歳という年齢はいかがですか？

高阪 もしかしたら、いまが一番調子がいいかもしれない。モノの考え方にしても、内からと外からと両方、見れるようになったし。自分の身体と対話するってことができるようになったから、練習でも変に無理するんじゃなくて、やれるときに全力を出すようになったね。そういうことができるようになったんで、競技生活をいろいろ振り返ると、一番調子いいのはいまかなって。

近藤 練習だと、追い込まなきゃいけないみたいな意識が潜在的にあるんですけど、高阪さんにそう言われると、抜くべきときは抜いてもいいのかなって思いますね。

高阪 追い込むときはもちろん追い込むんだけど、やらなくていいことまで「やらなきゃ」ってプレッシャーに感じることはないっていうね。

――高阪さんが、近藤さんのことを知ったというか、存在を意識するようになったのっていつ頃だったんですか？

高阪 前から知ってはいたんだけど……たしかUFCで会ったんだよね？

近藤 そうですね、はい。

高阪 ニューオリンズの大会に近藤くんが出たとき（2000年）で。その辺からで

すね。

——近藤さんはいかがですか。

近藤　前から試合は見てはいたんですけど、ハッキリ意識したのは髙阪さんがアメリカに行かれたときですね。

——活動の拠点をシアトルに移したときですね。

近藤　あれは衝撃でしたね。凄いなって。

髙阪　あれはオレの中でも勇気が要ったんだけどね（笑）。

近藤　僕もその頃、ジェイソン・デルーシアのところに何ヶ月か行ったんですけど、やっぱり言葉も通じないし辛いなって思ってたんで、余計に「髙阪さん凄いな」って思いましたね。で、そこで定着できたら楽しいだろうし。生きていきやすいっていうんですかね。勇気あるなと思ったし、うらやましかったですね。

髙阪　そうねぇ。あのとき、行ったのはいきなりだったんだけど、自分の中では考えに考えての行動だったんだよね。半年以上前から考えて。

——どうしてアメリカに行こうと思ったんですか？

髙阪　日本にいると、自分がダメになると思ったんですよ。キャリアを重ねてくうちに、周りがなんでもやってくれるような状況ができつつあって。例えば、カバン持ってたら「持ちます」って言われたりね。練習で使ったモノを、気がついたら誰かが洗ってくれてたりとか。そんなのは自分でやればいいことなのに、周りが動いてくれちゃってる。で、それが続いてくと自分を見失って、人に甘える性格になっちゃうんじゃないかって思って。それだったらアメリカに行って、真っ白な環境で自分を鍛えないと強くなれないんじゃないかと。それが理由の一つとしてありますね。



近藤くんって今年30歳？ 30になるとヘコむよぉ（笑）

——当時のリングスは付き人制度っていうのは……？

髙阪　付き人はいなかったんだけど、練習生もいたし、スタッフも自分の後に入った人が多かったんでね。どうしても目に見えない上下関係が勝手にできちゃってて。

——パンクラスは付き人制度があったんですよね。

近藤　船木さん、鈴木さんの時代は、デビューして1年目の選手が付き人をやることになってたんですよ。僕は船木さんの付き人で、その前は伊藤さんがやってましたね。鈴木さんには渋谷選手がついて。

髙阪　毎年変わるんだ？

——デビュー前じゃなくて、デビューしてから付き人になるんですね。

近藤　そうですね。

髙阪　あ〜、そうだそうだ。いま思い出したけど、パンクラスが凄いうらやましかったのはそこなんだよね。若い選手がどんどん出てくる。

——リングスはずっと滑川選手が一番下でしたからね。その下がいない（笑）。

髙阪　その前でいえば、自分がず〜っと道場の掃除とかやってたから。モーリスに勝ったときでもまだやってた（笑）。サンドバッグ拭いたり、洗濯したりメシ作ったり。まあ、やるべき仕事をやるのは構わないんだけど、下が育ってこないと新陳代謝がなくなっちゃうから。下が伸びてくれれば上も刺激を受けるしね。そういう状況を作らないといけないなって、ずっと思ってたんだよね。それができてるパンクラスはうらやましいなって思ったのを覚えてる。

近藤　それは自分も覚えてますね。髙阪さんが、選手としては上の方にきてるのに、でも後輩がいないんだろうなっていうのが分かるんですよ、雑誌とか見てると（笑）。

髙阪　ああ（笑）。

近藤　「まだ、ちゃんこ番とかやってんのかな？」って思ってましたね。

髙阪　うん、やってた（笑）。当時はオレと坂田先輩が交代でちゃんこ作って。

——もう2人ともデビューしてるのに。

髙阪　だから、さすがに練習ができないんで、まかないさんに来てもらうように頼んで。だって試合もあるのに、1日1時間とかしか練習できないんだから。それはさすがにねぇ（笑）。

——それから、お互いで最も印象に残っている試合をあげていただければと思うんですが。いかがですか、髙阪さんは。

髙阪　印象に残ってるのは、最近になってしまうんだけど、やっぱりジョシュとの試合だよね。負けた試合で申し訳ないんだけど。近藤くんを見てて「こ〜れは凄いな」と。こういう見方をしていた人が会場に何人いたか分からないんだけど、力の入れ方とか抜き方、身体のさばき方が凄い上手なんだよね。

近藤　あっ、そうですか。ありがとうございます。

髙阪　ジョシュとはよく練習してるから、どういう力があって、どう体重をかけてく

るかとかよく分かるんだけど。ジョシュって腹の肉がぺたーんとしてるから、乗られると凄い嫌でしょ？

近藤　やりにくいんですよね。

高阪　でも、そこから近藤くんはスパッと立ってね。しかも立った瞬間に攻撃して。その辺の身体の使い方は凄いなと。身体というか、骨の使い方だよね。

――骨ですか。

高阪　「コツを掴む」って言葉があるじゃないですか。それは自分は"骨"のコツだと思ってて。そういうのができてるのは凄いよな～って思いながら、自分は反対側のセコンドにいたんだけどね（笑）。

――近藤さんはいかがですか、高阪さんの試合の中で印象に残ってるものというと。

近藤　やっぱりパンクラスで試合されたときですね。

――去年のロン・ウォーターマンとのタイトルマッチですね。

近藤　リングス出身の高阪さんがパンクラスで試合をするっていうこと自体が印象的でしたし。「こういう時代が来たんだな」っていう。

――リングスとパンクラスって、まったく交流はなかったんですけど、そういう時代でも「この人に興味あるな」とか「試合してみたいな」「練習したいな」とか思ったりしてたんですか？

高阪　人がたくさんいるのがいいなと思ってましたよね。体育会出身なんで、練習って大勢でやるのが好きなんだよね、オレ。大勢でかけ声をかけあったりとか、道場の中で意識しあったりとかね。そういう環境でやってると、自然に強くなっていったりするもんだし。強くなろうって意識も持てるしね。だからリングスが活動休止になった後、『コンテンダーズ』で鈴木さんとタッグ組むことになったときに、すぐ横浜道場に練習に行かせてもらって。

近藤　でも、僕はまだ一緒に練習させてもらってないんですよ。

高阪　そうなんだよね。なぜかいっつも入れ違いで。

近藤　そこが残念で。

高阪　うん、だから今度、一緒に練習やろうよ。

近藤　お願いします（微笑）。

――近藤さんは、高阪さんとウォーターマンの試合のどの辺に凄さを感じました？

近藤　ウォーターマンって、同じスーパーヘビー級でも、さらに一回りデカいじゃないですか。それなのに高阪さんはしのいじゃうっていうか、チャラにしちゃうんで。


2003年8月31日に両国大会で行われた近藤vsジョシュのパンクラス無差別級タイトルマッチ。近藤を下しチャンピオンとなったジョシュのセコンドにはTKの他に中西学の姿も。

そこになんかテクニックがあるんだろうなって。見てるだけでは分かんないんですけどね。

高阪　いや、たぶん近藤くんは知ってると思うよ（笑）。

近藤　僕は分かんないです（微笑）。

高阪　実際やってみると「ああ、なるほどね」ってことがいっぱいあると思う。ちょっと軸をずらしたりとかね、そういう部分だもんね。

――お二人とも無差別志向ということで、共通する部分はたくさんありそうですよね。

高阪　自分はね、柔道のときから重量級、これ以上体重制限がないってところでしか試合をやったことがないんですよ。ヘタしたら140キロ、150キロのヤツと試合してきたんで、逆に階級を落としたり、体重を合わせて試合をするってことに凄く違和感があって。だから、自分よりデカいヤツと試合するっていうのが普通の感覚で。それに、自分よりデカいヤツ、強いヤツとやる方が燃えるものがあるしね。「コイツに勝ったら凄いやろ！」っていう。それがあるから練習にも気合いが入るし、「コイツに勝つにはどうすればいいんだろ？」って考えることが大事なんじゃないかと。

近藤　僕も無差別っていうのは一番のテーマですね。やっぱり格闘技って、本来は制約がないものだと思うんですよ。あんまり体重がどうこうっていう言い訳はしたくないんですよね。体重も含めてその人の強さの要素だと思うんで。だから無差別で、100キロ以上の人とも闘えるようにしておきたいし、40キロ、50キロの人ともしっかり闘えるように。

――あ～、相手が軽い場合も考えてるわけですね（笑）。それはそれで凄いですよ。

近藤　まあでも、やっぱり重い人とやるの

3・6パンクラス横浜大会ダイジェスト


5月の横浜文体でのウェルター級王座決定戦への進出を賭け、パンクラスismの北岡悟とSKアブソリュートの長谷川秀彦が激突。先に決勝進出を決めている井上克也がリングサイドから見守る中、判定2-1で勝利を収めたのは北岡。松本総帥率いるＳＫ軍団のベルト総取り計画は暗礁に乗り上げる結果に


高橋義生が返上したヘビー級王座を狙うランキング1位のセハクと、昨年11月大会で柳澤を下し総合初勝利の野地竜太が激突。試合は序盤、セハクがコーナーでの差し合いからテイクダウンを狙うも野地が腰の強さを見せ踏ん張る展開。最後は野地が首相撲から強烈なヒザ蹴りをボディへ叩き込み２連勝！


パンクラスアテナ第2戦は渡邉久江と慧舟會の実力者・大室奈緒子の一戦。いつものように宇野薫をセコンドに付け入場した大室が、渡邉のお株を奪う打撃技や得意のグラウンド技術で攻め込むシーンも見られたが、試合は、切れ味鋭い打撃を何度もヒットさせた渡邉が判定3-0で勝利を収めアテナ２連勝！


今年初となるパンクラスのビッグマッチ、３・６横浜文化体育館大会（観衆4500人・満員）。野郎ファンへのサービスなのか、今大会にはラウンドガールが一挙に６人も登場！　果たして、これは大会場だからなのか？　それとも後楽園レベルでも６人体制になるということなのか？　教えて、尾崎社長！



ジョシュとの試合を見てて、近藤くんは身体というか骨の使い方が凄いなと（TK）

はキツいんですけどね（微笑）。いまの段階では同じくらいの体重の人との試合になっちゃうんですけど、無差別っていうのは常に忘れないようにしたいですね。

――『PRIDE』のミドル級って93キロですけど、減量して93キロの選手も多いですよね。近藤さんは93キロ以上になったことは？

近藤　そこまでいったことはないですね。でも10キロくらいの差であれば、あんまり「体重差がある」って感じないですけどね。さすがにジョシュとやったときは感じましたけど（笑）。

髙阪　ジョシュの場合は、またちょっと特殊だからね（笑）。ジョシュと同じ体重の、他の選手とやっても、明らかにジョシュの方がやりにくいもん。

近藤　やっぱりそうなんですか。

髙阪　あれはなんなのかねぇ。特に乗られたときは、あの肉がつきたてのお餅みたいにまとわりつくんだよね（笑）。凄く動きにくいんで、自分の身体が重く感じる。で、立ってる状態でもなんかやりにくい。ジョシュの強さっていうのは、たぶんそこかなと思って。あれがバキバキの筋肉してたら、あそこまではなってなかったかもしれない。

――近藤さんも肉がまとわりついてくるのを感じました？

近藤　感じましたね。マウントを取られたときとかに。

髙阪　ピターッと貼りついてくるんだよねぇ（笑）。

近藤　やりにくかったのは体重差のせいなのかなっていままで思ってたんですけど、いま髙阪さんの話を聞いて、それだけじゃなかったんだなって分かりましたね。

――ミルコはジョシュとやる前に「練習してる体には見えない」って言ってましたけ



メインは全日本キックルールで行われた郷野聡寛vs桜木裕司戦。試合前から郷野は渡邊久江に勝ったらデートを要求するなど楽勝ムード。1Rはダウンを奪うなど圧倒的、郷野のペースで進むも、2Rに桜木が強烈なロシアンフックを炸裂させ大逆転勝利で押忍！（敬礼）

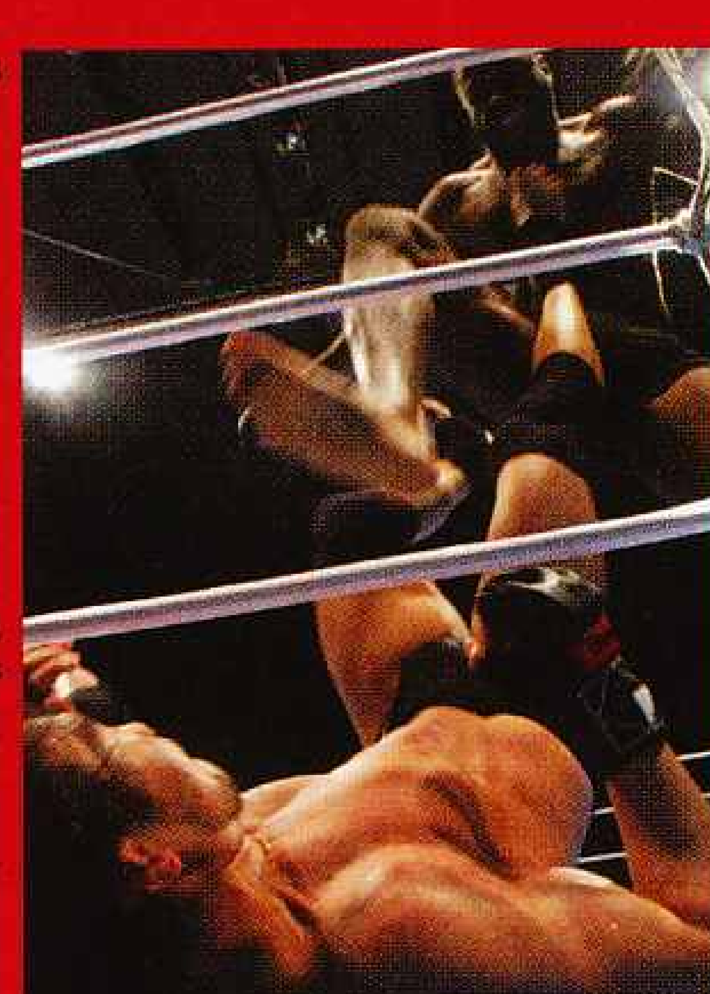


「グラバカ対ブラジリアン」大将戦に登場したグラバカの三崎和雄。1Rから積極的に三角絞めやアームロックを狙っていった三崎が2Rに得意の打撃から変形スリーパーを極め一本勝ちを収めた。対抗戦はグラバカの負け越しとなったものの、三崎が大将として一矢報いる結果に。



『DEEP』での対戦から約3年ぶりとなる佐々木有生vsグスタボ・シムの一戦。序盤から両者の打撃が激しく交差する緊張感溢れる展開。互いに決定打を与えられるまま試合終了のゴング。結果は手数で上回ったシムが判定2-0で勝利。試合後、シムは近藤への挑戦をアピール！

03年9月以来の再戦となる山宮恵一郎vsニルソン・デ・カストロ。その際、TKO負けを喫した山宮が「呪怨」をテーマに掲げリベンジを狙う。試合はセコンドに菊田とメインでの試合を控えた郷野を付けて入場した山宮がカストロ相手に成長ぶりを見せつけるも、判定0-3で破れ、恨みを晴らせずじまいに



近藤有己

ど、あれはあれでいいんですね（笑）。

高阪　そうそう（笑）。アイツ、めちゃくちゃ練習しますからね。だからジョシュは、ばっちりシェイプした状態があれなんですよ（笑）。

――近藤さんは、今後は体重を上げていったりとかは？

近藤　いや、体重はもっと落としていきたいですね。

――ほぉ〜！

近藤　自分もどっちかっていうと、ジョシュタイプなんですよ（笑）。

――ああ、モチ肌ですよね（笑）。

高阪　結局、その人にとって一番動けて力が出る体型っていうのが一番いいんだよね。

近藤　僕は、できればそれプラス見た目もよければなと（笑）。

高阪　あと筋肉を増やせばいいってもんでもなくて、オレの場合はちょっとウェイトやると肩とか首の辺りに筋肉がつきすぎちゃうんだよね。そうすると寝技のときに疲れやすかったり、打撃で手が上がらなくなったりするんで。だからね、だらしない身体でも強ければいいと（笑）。

近藤　僕もバッキンバッキンの体は好きじゃないですね。もっとシュッとしてるのが。イタリアンスーツが似合う感じで（笑）。

――立ち技系の体型ですかね？

近藤　理想としては、パッと見は格闘家に見えないっていうか。あんまりこう……分からせない感じ（笑）。耳とかも潰れてるんですけど、それもちょっと嫌ですね。

高阪　これはもう、しょうがないんだよね。最初は嬉しかったんですけど

オレも柔道やってるときはわかなかった（潰れなかった）んだよ。それだけが自慢だったんだけど、リングス入ったらだんだんわきだして。何が原因なのかなって思ったら、要は立ち技のディフェンスができてなくて、面白いようにもらってたんだよ。それでわいちゃった。

――打撃で耳がわくって珍しいですよね、きっと（笑）。

高阪　外人なんかは「強そうでいい」っていうんだけど、やっぱりわいてない方がいいよねぇ（笑）。若い子で「わきたい」ってやつもいるんだけど。

近藤　自分も最初はそうだったんですよ。

高阪　それは無謀やねぇ（笑）。

近藤　いまはそう思います（笑）。

――え〜、ではそろそろ今後の試合の話に入ろうと思うんですが。お二人とも4月に『PRIDE』に出場されるわけですよね。髙阪さんが『武士道』でヒョードル戦、近藤さんがミドル級GPと。……あ、その前に髙阪さんは新日本の両国大会で永田戦があるんですよね。この雑誌の発売日でもあるんですけど、3月26日に。両国があって、あと『HERO'S』も同じ日ですね。

高阪　固まっちゃいましたよねぇ。

――近藤さんが出るミドル級GPと同じ日には『WRSTLE-1』もあって。髙阪さん、永田戦の方はいかがですか？

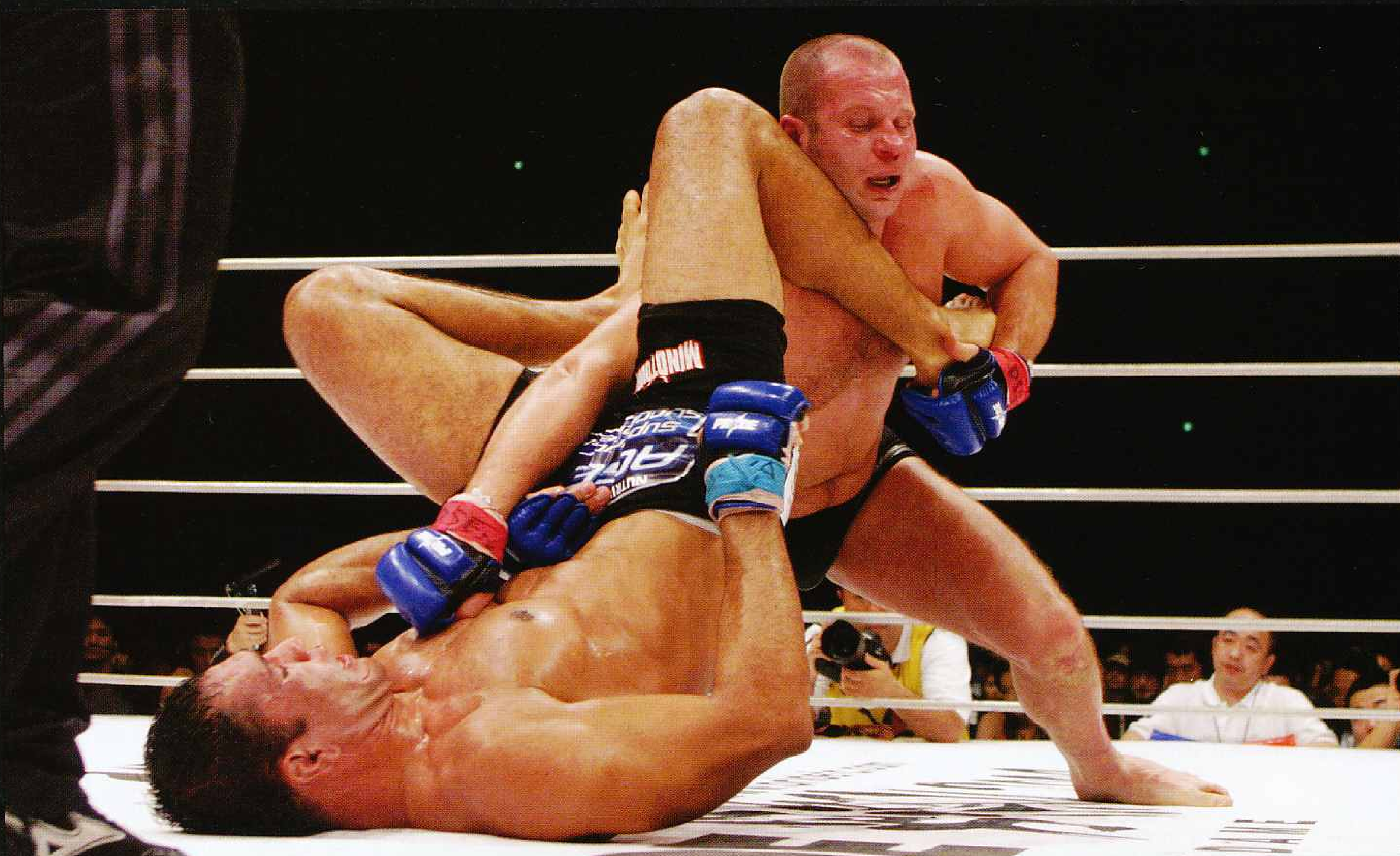
高阪　な、永田戦。えーっとね……（しばし固まる）。

――ワハハハハ！　考え込んでますが（笑）。

高阪　ちょっとプロレスモードにしないとね。5分ぐらい時間ください（笑）。

――わかりました（笑）。

高阪　いやでも、自分の中ではね、プロレスも総合も、やる内容は違うけど闘うっていう大きな括りの中では一緒かなと。むしろプロレスの方が、相手以外のこととも闘わなきゃいけないし、しかもそれに勝って



大晦日のヒョードルvsノゲイラ戦を見て、「あ、これはいけるわ」ってハッキリしました（TK）

髙阪剛

当たり前っていう難しさはあるよね。お客さんに納得してもらうとか、自分の持ってるものを出し切るとかの部分でね。そういう厳しさはある。だからヒョードル戦と、2週連続で勝負。自分の中で集中力をしっかりコントロールしないといけないなと。

――いま、プロレス界では小島選手が三冠とIWGPの四冠王なんですけど、それを狙ったりとかは……。

髙阪　よ、四冠!?　……あの、11月にパンクラスのベルトを巻いて思ったのは、やっぱりチャンピオンって責任が重いもんだなと。試合はもちろんだけど、練習でもなんでも、変な姿は見せられないじゃないですか。そう考えると、ベルトを獲りにいくのはいいけど中途半端な気持ちではできないなと思いますよね。

――面白いなと思うのは、学生時代から"競技"畑を歩んできた髙阪さんがいまはプロレスもやっていて、バリバリのプロレスファンだった近藤さんが格闘技一本という。近藤さん、プロレスをやりたいと思ったりはしないですか?

近藤　いまはまだちょっと、そこまでの余裕はないですね。

髙阪　自分もね、実際に出ることになる前はこれっぽっちも考えてなかったもん。運よく話をもらって、そこから初めて考える時間ができたっていうね。正直いえば興味もなかったし。でもやってみると、「これは大変なことに足つっこんじゃったな」って(笑)。

――近藤さんはプロレスファンだっただけに、余計に「簡単にはできない」って思うんでしょうね。

近藤　いまプロレス見ても「自分だったらこうしたいな」って思うんですけど「でも難しいよな」って。格闘技をここまでやってきたからこそ思うっていうか。中学生のときに思ってた「自分だったらこうしたい」は、もっと簡単なイメージだったんですけど。

髙阪　経験が邪魔するものってあるよね(笑)。

――髙阪さんが新日本に上がるきっかけとして、上井さんが髙阪さんを評価して、熱心に誘ったということもあったと思うんですけども。

髙阪　そうですね、はい。

――で今回、上井さんと前田さんが『HERO S』をやるということで、髙阪さんはそっちなんじゃないかって考える人も多いと思うんですよ。その辺はタイミングの問題ですか。

髙阪　もう、まったく単純にそうなんですよ。『HERO'S』の話は最近ですもんね。まあ自分は、自分が何をしなきゃいけないかっていうことだけで動いてるんで。今回もその基準で考えたときの選択が永田戦であり、ヒョードル戦だったというね。

――ブッカーK(川崎浩市氏)によると、ヒョードル戦は前の大会の段階から話はあったみたいですしね。

髙阪　そうそう。

――だから、このタイミングで、あえて『HERO'S』よりも『PRIDE』を選んだというわけではないと。

髙阪　ずっと前からヒョードル、ノゲイラ、ミルコの3人とは試合がしたいって言ってたんですよ。で、2月20日の『PRIDE 29』でヒョードル戦がありそうだっていう話があって。それからヒョードル・モードできてるんで。時期は『HERO'S』と重なっちゃったけど、どっちにしてもヒョードルと試合ができるってことはありがたいし、勝たなきゃいけない相手ですからね。

――会見では「全部上回ってる」とおっしゃってましたよね。勝算があるから出てきたと。

髙阪　ありますね。正直、大晦日の試合を見るまでは(勝算が)見えない部分もあったんですけど、大晦日でハッキリしましたね。「あ、これはいけるわ」っていうのが。

近藤　それは興味深いですね。

髙阪　ヒョードルが最初にノゲイラに勝った試合あったでしょ。あのときは見えなかったんだよね。「ノゲイラがああやろうとして、それをこういう風に潰しちゃうんだ」って。「全部潰されちゃってるよ」、「この被せ方は凄いな」って思って、勝ち方が見えない中でもやりたいとは思ってたという状況なんだけど、去年の大晦日で「これはいける」と。年末から3ヶ月ちょっとだから、ヒョードルもそう大きくは変わってないだろうし。

――それは期待出来そうですね。近藤さんから見てヒョードル vs 髙阪戦っていうのはどうですか。

近藤　髙阪さんが何を考えて、それをどう出すのかなっていうのが興味深いですね。髙阪さんって、細かく考えられる人ってイメージがあるんで。自分の場合は細かく考えるんじゃなくて、こう……。

髙阪　感覚?

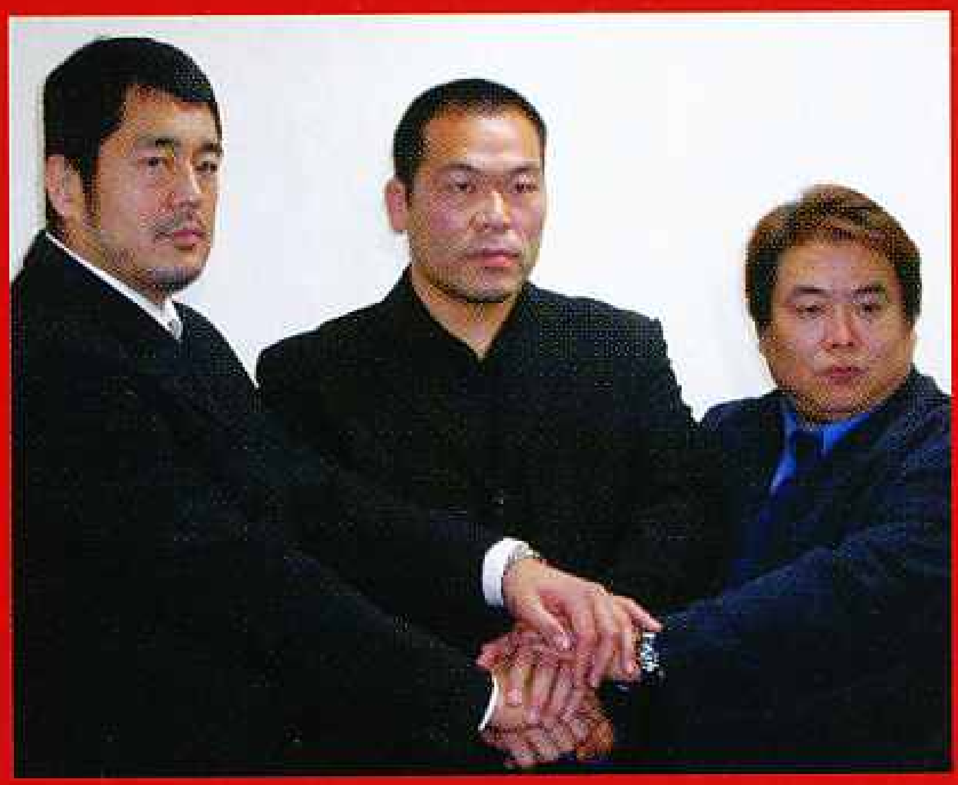
近藤　っていうと聞こえはいいんですけど(笑)。大晦日のヒョードル vs ノゲイラを見ても「ヒョードル凄えな!!」ってだけで終わっちゃうんですよ(笑)。

髙阪　ああ、でもそれはねぇ、オレがもうヒョードルとやるのを意識してたからだと思うよ。分析するっていっても、試合の直前になったらビデオは見ないしね。自分の中でいいイメージができれば、それでいいんですよ。あんまり細かく考えすぎても、試合ではできないしね。

――『PRIDE』初登場っていうことに関してはいかがですか。高田本部長も「やっと来てくれたな」って言ってましたが。

髙阪　自分のスタンスっていうのはね、もう一生変わらないと思うんですよ。強いヤツと試合がしたいっていう、それだけなん

TKvsヒョードル戦実現!
佐伯繁氏がDSE広報に!!



『PRIDE武士道-其の六-』

4・3(日)神奈川・横浜アリーナ　試合開始 17:00

[決定対戦カード]

エメリヤーエンコ・ヒョードルvs髙阪剛

美濃輪育久vsギルバート・アイブル

桜井隆多vsムリーロ・ブスタマンチ

ルイス・ブスカペvsルイス・アゼレード

高瀬大樹vsダニエル・アカーシオ

ヒカルド・モラレスvsエメリヤーエンコ・アレキサンダー

[PRIDE ミドル級グランプリ ラストワントーナメント1回戦]

アマール・スロエフ vs パウロ・フィリオ

[PRIDE ミドル級グランプリ ラストワントーナメント1回戦]

ディーン・リスター vs 小路晃

[チケット料金]

VIP(特典:専用入場ゲート・グッズ付) 50000円

RRS 23000円/スタンドS 13000円/スタンドA 6000円

[問い合わせ]DSE 03-5464-1531



こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県草津市出身。チーム・アライランス所属。柔道4段。93年9月にリングスへ入門、94年8月のデビュー以来、リングス、UFCで活躍。02年2月、リングスが解散すると、DEEP、新日本に参戦し、04年11月、パンクラス初登場。強豪ロン。ウォーターマンを破り初代キング・オブ・パンクラス・スーパーヘビー級王者に輝く。181cm、107kg

で。で、ヒョードルは『PRIDE』のチャンピオンだから、『PRIDE』で試合するのが当然だし、と。ただ、総合の世界を見渡すと、やっぱり『PRIDE』に出てる選手ってレベルが高いんでね。そこは興味ありますよ、うん。あれだけ強い選手がいるリングで試合できたら、自分にとっても凄くいいだろうなって。

——ヒョードルとは、リングスでの対戦では出血TKOで髙阪さんが勝ってるんですが、今回は完全決着戦っていう意識が強いんですか？　それともいま現在の、PRIDE王者のヒョードルと闘うっていう気持ちが強いとか。

日本人が外国人に負けて ガックリしてる姿を常識にしたくない

髙阪　まあ、どっちにしてもヒョードルって強いじゃないですか（笑）。だから試合がしたいっていう、それだけですよね。もちろん『PRIDE』のチャンピオンっていうのは強くなければなれないものだし、それ以外の根っこの部分とかも含めて「強いな」と。だからこそ試合がしたい。

——で、近藤さんはミドル級GP出場が正式決定したわけなんですが。相手はまだ全然分からないんですか？

近藤　そうですね。

——ただ、やってみたい相手としてはショーグンとかボブチャンチンをあげていて。打ち合ってみたいって感じなんですか？

近藤　いや、回避してみたいんですよね。

——はぁ～。

近藤　危険な所に身を置いて、それでもいかに危険じゃなくできるか（笑）。

——ボブチャンチンと髙橋選手の試合はいかがでしたか？

近藤　衝撃ですよね。

——体重を落とすと、あんなに凄くなるもんなんですかね。

髙阪　いや、それだけじゃないですよ、あれは。

近藤　もう、みんなが「ボブチャンチンはヤバい」っていうんで、そう言われるとなんか、そこに行ってみたくなりますね。普段の生活では危ないとこには行かないようにしてるんですけど（笑）。なんか、格闘技だけはそそられるっていうんですかね。

——ボブチャンチンとかショーグンとか、まさに危険地域ですよね。あの金原選手を一方的に倒しちゃうショーグンっていうのは……？

髙阪　「慣れてるな、コイツ」って感じがしますよね。ああいう、試合の中での突っ走り方っていうかね。あれを止めないと、勝機は見えないかもしれないですね。

——で、近藤さんはそれを止めてみたいと。

近藤　止めるというか、すり抜けてみたいですね。

髙阪　できそうやね、近藤くんやったら。

——その、止めるんじゃなくすり抜けるっていうのも、去年シウバと打ち合った経験から掴んだ目標というか、やり方なんですか？

近藤　そうかもしれないですね。シウバ戦で、真っ向勝負っていうことに関しては吹っ切れたというか。「真っ向勝負しなきゃいけない」っていう意地みたいなものから解き放たれた感じなんですよね。

——昇華したというか。

近藤　こだわりがなくなりましたね。

——そして今度は、ボブチャンチンとかショーグンみたいな暴風雨をすり抜けようと。具体的にはどういうイメージなんですか？

近藤　例えば、台風の目ってあるじゃないですか。台風の目って無風なんですよね？

——はいはい。

近藤　常にそこにいるようにするっていう感じですかね。

——で、ハタから見ると無風状態に見える試合になるという。

近藤　あ、いや……。

髙阪　ハタから見ると暴風雨なんですよ。一見、攻められてるんだけど、本人の中で

「日本人が負けるのはしょうがない」っていう雰囲気を変えたい

は無風状態ってことだよね。

――ああ～、なるほど。そういう感じなんですか？

近藤 まさにそうです。説明していただいて助かります（笑）。

――どんなに攻められているように見えても、実は大丈夫だという。それはレベルが高いですよねぇ。

近藤 だから判定になるとまずいんですけど（笑）。

――そういう感覚は、高阪さんもよく分かるわけですね。

高阪 うん、分かるんだけど、でもやるとなると難しいんですよ。ついつい〝ウッ！〟て力が入っちゃうから。練習だと冷静にできたりするんだけど、試合になるとね。試合のときって、完全に冷静な状態より2割くらい興奮してない？

近藤 してますね。

高阪 そこから少しでも興奮しすぎるとダメなんだよね。〝ちょい興奮〟ぐらいが一番、集中力もあって、反応できてっていう状態なんだけど、それをちょっとでも超えちゃうとやっぱり……。そのコントロールが難しい。

――高阪さんは『ゴン格』の記事の中で、近藤さんをミドル級GPのダークホースにあげてましたよね。



近藤有己

こんどう・ゆうき■1975年7月17日、新潟県長岡市出身、パンクラスism所属。97年4月、わずかデビュー1年3ヶ月にして船木誠勝を破り第5代キング・オブ・パンクラス王者（現在の無差別級）に輝き、99年4月に第8代王者として返り咲く。03年11月、菊田早苗を圧倒し第3代ライトヘビー級王に。現在はパンクラスのエースにとどまらず日本のエース的存在。180cm、87kg

高阪 記事ではそういう括りになってたけど、自分の気持ちの中では、一番期待してる選手っていう意味で。出場が決まってる選手、出るであろう選手の中で、明らかに違うことをやってくれそうなのは近藤くんだから。なんかこう、GPの常識ではないところで闘ってほしいなっていうね。

近藤 そうですね。自分としても、まさにそういうことを体現してみたいなと思ってますね。

――単に優勝して「ミドル級で一番強い」って言われるだけじゃない部分で見せたいもの、やりたことがあると。

近藤 そうですね。シュートボクセの選手、ショーグンの試合とか見てると危ないじゃないですか。怖いっていうか。それを「ホントは怖くないんだよ」って思わせるようにしたいっていうか、自分に証明したいっていうか。

――高阪さんも会見で「日本の大会で日本人が頑張らないでどうする」っておっしゃってましたけど、そういう意識は共通してるんでしょうね。

高阪 それは、ここ最近特に思いますね。日本人が外国人に負けてガックリしてる姿を常識にしたくないっていう。

近藤 お客さんの中でも、「日本人が負けるのはしょうがない」みたいな雰囲気が常識になっちゃってると思うんで、そこは変えたいですね。

――近藤さんが前に言ってた「日本人はやればできる子」ってやつですよね（笑）。そのためにも、4月のお二人の試合には期待してます。ということで今日はありがとうございました！

【3月12日／パンクラス事務所にて収録】

元　気



戦略から感覚へ “トリックスター”の新たなる境地

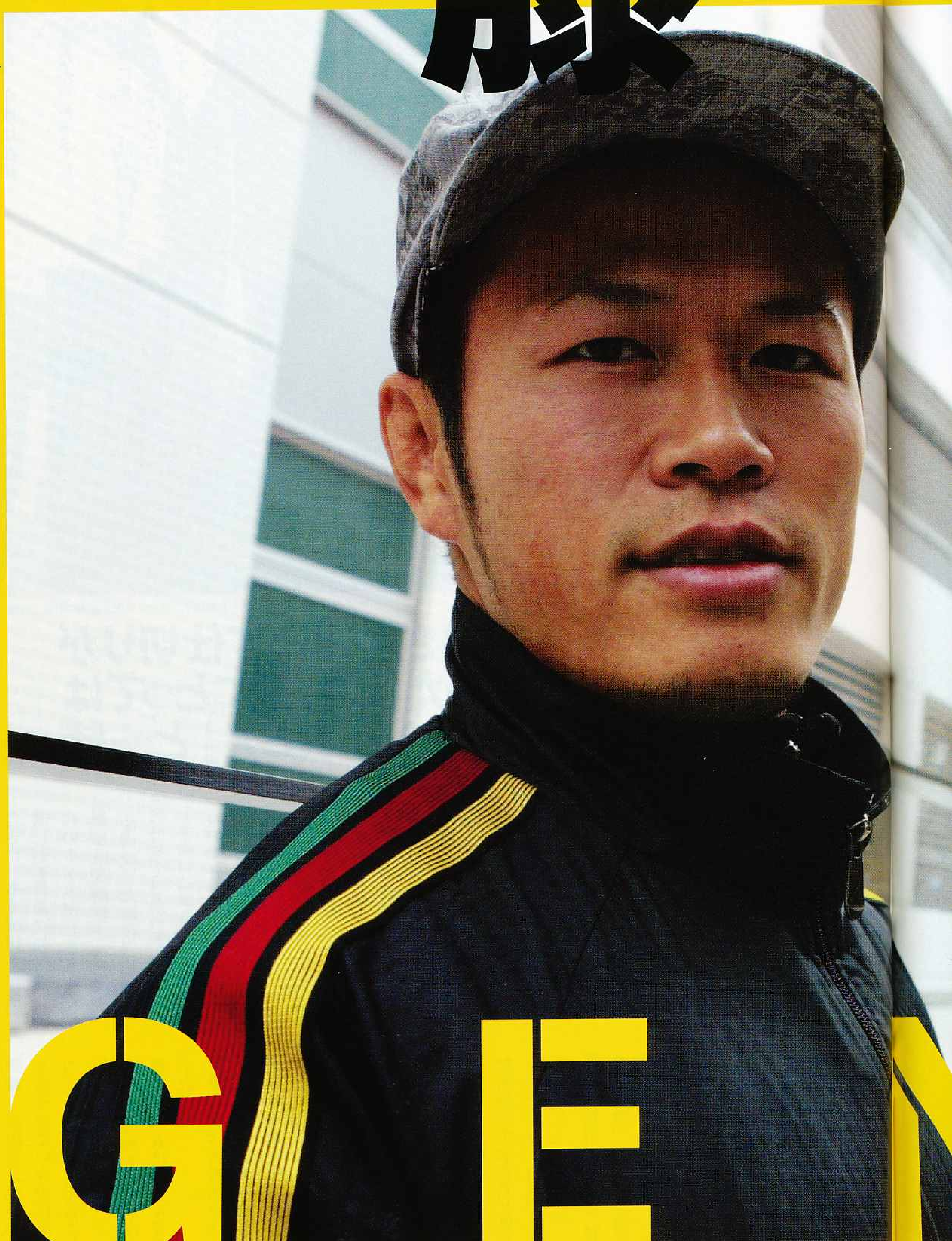
昨年、5・22『ROMANEX』でのホイラー・グレイシー戦以来、10ヶ月ぶりに須藤元気が総合格闘技に帰ってきた。新イベント『HERO'S』での対戦相手はなんと、“地獄の風車”ラモン・デッカー。これまで常に変化し独創的なモデルチェンジを繰り返してきた元気は、かつてのキック界超大物を相手にどんなアートを描き出すか？　大会直前とは思えないほど自然体の元気を直撃した。

聞き手・文／橋本宗洋
構成／堀江ガンツ
撮影／乾晋也
Tsuchinoko designed by hisa (Two Three)

N K

…。昔の自分とはもう“別人です”

須　藤



「細胞は3年で入れかわる。昔

――『紙プロ』では久々の元気さんへのインタビューということで、よろしくお願いします！

須藤　ごぶさたしてます。

――今回は3・26『HERO'S』で、昨年10月のMAX以来の試合となるわけですが。MAXで傷めた足の具合はいかがですか。

須藤　骨にヒビが入っちゃったんですよ。で、治ってスパーやってたら、今度は左足の靭帯を伸ばしちゃって。

――大晦日も試合ができなかったですしねぇ。

須藤　どっちみち、そんなに焦って試合しようとは思ってなかったんですけどね。もう、けっこうユルユルです（笑）。

――ユルユル（笑）。で、試合に出ていない間に映画『鳶がクルリと』の撮影なんかもあって。哀川翔さんと共演してるんですよね。

須藤　一緒に食事に行ったりもしたんですけど、ホントあのまんま、テレビで出てるまんまの人ですよ。飾らない人で。

――まあ、映画やらCMやらいろいろと活動してたわけで、完全に休んでいたわけではないと。靭帯の方はもう大丈夫なんですか？

須藤　完璧ではないんですけどね。まあケガするってことは、気持ちが浮いてる証拠だから、気を引き締めるいいきっかけにはなりましたね。格闘技に慣れてきちゃってたんでしょうね、きっと。変に要領よくなってたんで、ある意味、初心に帰ろうと思って。そういうことをケガが教えてくれましたね。

――2月のMAXには出る予定はあったんですか？

須藤　もともと出るつもりではいたんですけど、3月に総合の大会があるって聞いて、じゃあそっちに出ようと。どっちみち靭帯をやってたんで、3月の方がタイミング的にもよかったですし。……と思ってたら、まだ痛いんですけど（笑）。

――『HERO'S』は前田さんもいる大会なんですが……。

須藤　久々の前田さんですね。

――最近のファンには意外かもしれないけど、実は元気さんは前田さんと接点があるんですよね。リングスに2回出て。



須藤　懐かしいですね。

――当時も、前田さんといろいろ話はされたんですか？

須藤　はい。あの人も面白い人ですよね。歴史好きという共通点があったんで、歴史の話は盛り上がりましたね。

――幕末の話とかですか？

前田さんがいて仕切りが違うだけで、僕にとっては『ROMANEX』と一緒

須藤　前田さんは第二次世界大戦の話とかが好きなんですよ。

――あ～、『大空のサムライ』とかですね（笑）。

須藤　僕は戦国時代や幕末が好きなんですけどね。

――じゃあ、前田さんに対して怖いとか、そういうイメージもなく？

須藤　ないですねぇ。僕がリングスに出たときは、もう前田さんは引退してましたし。現役時代のトゲトゲしさもなく。僕は時代的に、前田さんが凄かった時代っていうのは見てなかったんで。……まあ、いまはいまで凄いんですけどね。選手の誰よりもデカイですからね（笑）。

――前田さんと話した中で、印象に残ってる言葉とかありますか？　それこそ手帳に書き込むくらいの（元気は印象に残った言葉、目標その他を手帳に欠かさず書き込んでいる）。

須藤　前田さんの場合は言葉っていうより、印象ですよね。口調っていうか、「あのな、格闘技っていうのはな……」（前田口調で）。

――ダハハハ！　あの独特な口調は誰しも真似したくなりますよね（笑）。で、先日の『HERO'S』の会見でも会われたんですよね。

須藤　「お前、男前になったな」って言われました。「前はこんなんやったけどな」（髪のあたりで手をヒラヒラさせる）って。

――ああ、ドレッドヘアだったと。

須藤　ドレッドにしてたのって、相当前なんですけどね（笑）。

――リングスに上がってたときはもうドレッドじゃなかったのに（笑）。そんな前田さんのいる『HERO'S』が新しい大会であることとか、いつものK-1や『Dynamite!!』とは違うっていうことは意識しますか？

須藤　前田さんがいて、仕切りがいろいろと違うっていうのはありますけど、僕にとっては『ROMANEX』と変わらない気持ちでいますね。

――対戦相手なんですけど、現段階でまだ正式発表はないんですが誰になりそうですか？

須藤　ほぼ決まりかけてはいるんですけどね。ラモン・デッカーで。

――ラモン・デッカー!!　それはまた、僕みたいなキックファン歴10年以上の人間にはたまんない人選ですね。実に谷川さんらしいというか（笑）。

須藤　もうキックはやってないんですけど、総合の練習をずっとやってきたらしいですね。総合はデビュー戦ですけど、キックで培ってきた経験は凄いですからね。気を抜かずにいかなきゃと思ってますね。

――デッカーの試合って見たことあります？

須藤　ビデオは見たことありますよ。凄いっすよね。ケンカが強そうっていうか、顔が闘い慣れしてますよね。

――凄いですよ。それこそ当時MAXがあったら、とんでもないことになってたんじゃないかっていうくらいのインパクトがありますからね。

須藤　そういう意味で、ぬかりなくいかないといけないですね。パンチはありますし。



今後、『HERO'S』の中心となりそうな５人が前田を囲む。前田の両脇を固める元気と宇野薫は共にリングス出場経験者だ。

GENKI

——今回、『ＨＥＲＯ，Ｓ』に出るにあたっての元気さんのテーマってどういうものになりますか？

須藤　自己を１００％表現するだけですね。自分が求められてるものっていうのが人それぞれで、いろんな声を聞くんですよ。Ｋ‐１が見たいっていう人もいれば総合がいいっていう人もいて。入場パフォーマンスも、最初は「何やってんだ」って言われたけど、やらなくなってみると「なんでやらないんだ」って言われるし（笑）。何をやっても文句を言う人は言うんで、そういう声に囚われずに、ある意味で自己中心的にクリエイティブなものを表現していけばいいのかなと。それで褒めてくれる人は褒めてくれるし、けなす人は何やってもけなすだろうと。そう考えた方が生きやすいですよ（笑）。

——それで評価は後からついてくればいいと。

須藤　そうですね。自分のやりたいことをやりたいように表現して。そこでセンスのいいことをやれば評価はされると思うんで。そうなる自信もありますしね。入場パフォーマンスしかり試合しかり、僕が出てる間は一秒たりとも無駄な時間をすごさせないっていう。

——元気さんって、常に目標を立てて、先のことを考えながらやってきたじゃないですか。そういう"須藤元気ヒストリー"の中で、いまはどういう時期にあたるんですか？

須藤　なんていうか、もう格闘技は覚えましたね（笑）。

——覚えましたか（笑）。

須藤　だから、楽しくやるだけですね。もう次のプロジェクトも自分の中では進めてるつもりですし。

——格闘技の次にやることですよね。

須藤　ですね。だけど格闘技を適当にやってるわけじゃなくて。楽しくやると結果が出るんですよ、面白いもんで。

——これまで、楽しくない時期ってあったんですか？

須藤　楽しくないっていうか、「上に行こう」とか、「アイツを倒せば……」とか「あの人が負ければオレはこの位置だ」とか、前はいろいろ考えてたんですけど（笑）。そういう生き方は疲れるなって気づきました。誰が勝とうが負けようが関係ないんですよ、本当に。試合なんて、１ヶ月たったら誰も覚えてないですからね。

——そんなことはないと思いますけど、まあ賞味期限は短くなってますよね。

須藤　格闘技なんてはかないもんですよ。引退したらただの人じゃあしょうがないですし。だから、いま自分が楽しいと思えることをやるのが一番いいんですよね。

——そういうふうにやってても、元気さんみたいな存在は周りがほっとかないでしょうしね。

須藤　ありがたいことですよ、ホントに。昔は戦略を考えてやってましたけど、頭で考えることって枠があるから限界も出てくるんですよ。考えるんじゃなくて感じることだなって、最近は思いますね。

——いま自分が持ってるものを出せばいいんだという。

須藤　対戦相手が布であれ岩であれ発砲スチロールであれ、それは関係ないんですよ。自分の好きな絵を描くだけなんですよね。

——ほぉ〜。そういえば昔、アントニオ猪木さんは「ホウキが相手でもいい試合をするのが一流のレスラーだ」って言ってたみたいですよ。

須藤　ああ、通じるものがありますね（笑）。やっぱりテレビの格闘技って、エンターテインメント性がないと見てもらえないじゃないですか。

――いくら凄いことやっても、伝わらないと意味がないですよね。

須藤　見てもらえないとテレビでやらないし、そうなると見る人がどんどん少なくなるわけですよ。見る人が少ないと、この世界がどんどんちっちゃくなっていってしまうんですよね。先細りに。やっぱりエンターテインメント性がないと限界がありますよね。僕も叩き上げできたんで、K-1で「こんなマッチメイクありかよ」って思うこともあったんですけど（笑）。いまはこだわらずに、それはそれでアリだと思ってますね。

――どういう状況であれ、自分のアートを描けばいいってことですね。

須藤　そうですね。

――それから『HERO'S』の後なんですけど、6月にUFCが日本でやるじゃないですか。そこで元気さんのライト級のタイトルマッチがあるんじゃないかって噂も聞きますけど。

須藤　そうですね。それも流れを見ながら。UFCはやっていきたいと思ってますし。タイトルマッチも組んでくれるんであればやりたいですけど。まあ、あんまり期待せずに、ユルく楽しくやってれば組まれるんですよ（笑）。

――あんまりアピールしても、組まれないときは組まれないですからね（笑）。

須藤　期待すると、あんまりよくないんですよ。アインシュタインが言ってるんですけど「僕が幸福なのは、誰にもまったく期待しなかったからだ」って。求めてばっかりいては、得られないんですよね。これは哲学じゃなくて物理法則、科学ですから。

GENKI

――じゃあ6月にUFCがあるとか、同じ時期に『HERO'S』の第2回があるんじゃないかとか言われてますけど、そういうことはあまり考えずに。

須藤　あまり考えすぎると"策士、策に溺れる"になりますからね。策を弄しすぎると、新しいチャンスが見えなくたっちゃうんですよね。試合でもそうで、考えてから反応してると遅いんですよ。「相手はいま疲れてるな」とか「いま、足が開いてるな」とか感じればいいんで。昔の達人って呼ばれる人はみんなそうだったんですよね。考えてないんですよ。だから、天然の人は強いですよ。五味とか（笑）。

――あの人は天然の強さですよねぇ（笑）。

須藤　考えないで、感じて闘ってますからね。来た球を打つって感じで。

――それが極意なんでしょうね。じゃあ具体的な目標というと、ホイス戦くらいですか。

須藤　そうですね。あとUFCのチャンピオンも目指しますけど、そればっかり考えるんじゃなくて楽しくやろうと。

――「ホイスとやるためには、この時期にこういう試合をやって」とか考えてないわけですね。

須藤　ある程度はありますけど、あくまで流動的ですね。パワーゲームにはまりたくはないですし。例えば、いま給料が50万だったとしたら、100万ほしくなるじゃないですか。で、100万持つと「これを元手に1億円稼げるんじゃないか」、「堀江社長みたいなのもいるぞ」ってなってくる。上ばっか考えて、いまこの瞬間を生きなくなるから幸せじゃないんですよ。豊かさっていうのは、やりたいときにやりたいことができるのが豊かさだなって思うんですよ。食べたいものを食べて、寝たいときに寝ると（笑）。

僕が出ている間は1秒たりとも無駄な時間は過ごさせない自信があります

――それってアスリートとしてどうなんですか（笑）。

須藤　いや、調子いいんですよ。何より疲れないですから。人間って周波数帯でできてますからね。エネルギーと物質は一緒ですから。

――周波数帯ですか……。それって"波動"みたいな話？

須藤　ああ、いまもう科学とスピリチュアルなものって一緒になってきてますからね。人間も波動でできあがってますから。$E=mc^2$、相対性理論ですよね。エネルギー＝物質×光の速さで、エネルギーと物質って一緒ですからね。声に出すこともエネルギー体なんですよ。人間もこの机も物質で、声に出すことも同じなんですよ。だから「ありがとう、ありがとう」ってずっと言ってると「ありがとう」が物質化するんですよ。

――「ありがとう」が物質化しますか！

須藤　これはもう科学で証明されてますし。

――しかし$E=mc^2$って公式は『紙プロ』に初めて載りますよ（笑）。

須藤　シンプルな法則なんですよね。自分が考えることもエネルギー体ですから、「あ〜、なんか楽しいなぁ」ってユルユルしてると、楽しいことが自然とやってくるんで



昨年の『ROMANEX』では、あのホイラー・グレイシーに衝撃の失神ＫＯ勝ちを収めた元気。イベント自体は"幻"となってしまったが、この一戦が行われたというだけでも意味があったと言える。

すよ（笑）。

──ちなみに、そういうことを考えるようになったのっていつ頃からなんですか？

須藤 去年の終わりくらいからですね。ケガで練習してなかったのもあって哲学とか量子力学とか勉強してると、全部つながってくるんですよね。みんな言ってることは同じなんだなって。

──ホイラーに勝った後くらいから、格闘技にまつわるいろんなことから開放されたんだなって感じはしますね。

須藤 そうですねぇ。殴ったり蹴ったりするのってはかないもんですから（笑）。ホイラーを倒した後も、なんか淡々としてましたからね。

──それって、格闘技ってジャンルに限界を感じたとか、そういうことではないんですよね？

須藤 熱いモノは持ってますよ。"We are all one"っていうメッセージを格闘技を通して伝えたいですし、いろんな活動ができるのも格闘技のおかげですし。試合の勝った負けたで一喜一憂するもんでもないなって思うんですけど、そう思うと勝てるんですよね。

──べつにホントに勝ちたくないわけじゃなくて（笑）。そう思うことで、逆に限界を感じなくなったと。

須藤 ホント、人間なんでもできると思いますよ。不可能はないですね。あとは意識コントロールですよね。思考と言葉と行為でうまくコントロールしていく。

──そうすると、「前の自分はセコセコしてたなぁ」とか思ったりもするんですか？

須藤 いや、そういうネガティブなことは考えないですね。そういう時期があったからこそいまがあるし。直感だけではできなかったこともあったと思いますから。入場パフォーマンスも試合も、頭で考えて「こうやれば盛り上がるんじゃないか」って考えてやってきたのがよかったとも思うんですよね。

──ある時期までは、それが正解だったと。

須藤 だから翼の片方みたいなもんですよね。で、これからはもう片方の直感という翼も広げれば、もっと高く飛べるんじゃないかって。

──そう考えると、かなり順調にきてるなって感じですか。昔、想像してた自分を裏切ってないんじゃないですか。

須藤 そうですね。でも時間って存在しないから、過去も現在も未来もないんですよ。いま、この瞬間の自分しか存在しないんですよね。10分前の自分っていうのは、もういないわけですから。"自分"っていうのは、常に別人なんですよ。

──"僕は別人です"と（笑）。



すどうげんき■1978年3月8日、東京都江東区出身。総合、寝技、K-1、なんでもござれの天才格闘家。そのファイトスタイル、入場パフォーマンスすべてがアート。今年はホイス戦実現とUFC王座奪取が期待される。177cm、73kg。

須藤 人間って、3年で細胞が全部入れ替わるらしいんですよ。だから3年前の自分といまの自分は別人ですよね。だから、いま楽しいことを考えていれば、3年後には楽しい自分の細胞だけになる（笑）。

──いまはまさに細胞が入れ替わってる感じですか。

須藤 ホント、顔も体もしゃべり方も、全部変わりますからね、意識によって。いつもしかめっ面してたらそういう顔になっちゃうし、ユルーくしてればにこやかな顔になる。しゃべり方も、前は早口だったんですけど、ゆっくりしゃべってみると「ああ、いい感じだな」って。だから、いつも温泉入ってる感じでしゃべろうかなと（笑）。

──あくまでユルく（笑）。

須藤 人間って、生きてる通りの人間になっちゃいますからね。愚痴ばっかり言ってたら、つまんない人間になっちゃうし。だから、かくありたい自分の環境を作ることでしょうね。一杯150円のコーヒーじゃなく、ホテルの喫茶店で1000円のコーヒー飲んでると、自然にそういう自分になっていきますからね。

──ちなみに、一番最近手帳に書いた言葉ってどんなものですか？

須藤 ちょっと見てみましょうか……「六本木ヒルズ、ハリウッドビューティプラザ、B1F」。

──待ち合わせ場所かよ（笑）。

須藤 えーっと、その前はですね、「知性を神とするなかれ。感覚が大事」。「知性ではなく直感が人生の開けゴマ」。やっぱりアインシュタインですね。

──いままで話してきたことと同じ内容なわけですね。頭じゃない、と。なんか、選手インタビューとしては史上屈指の試合の話をしないインタビューになりましたが（笑）。

須藤 大丈夫ですかね（笑）。

──全然OKでしょう。試合直前でこれだけリラックスできてる人って貴重ですよ（笑）。

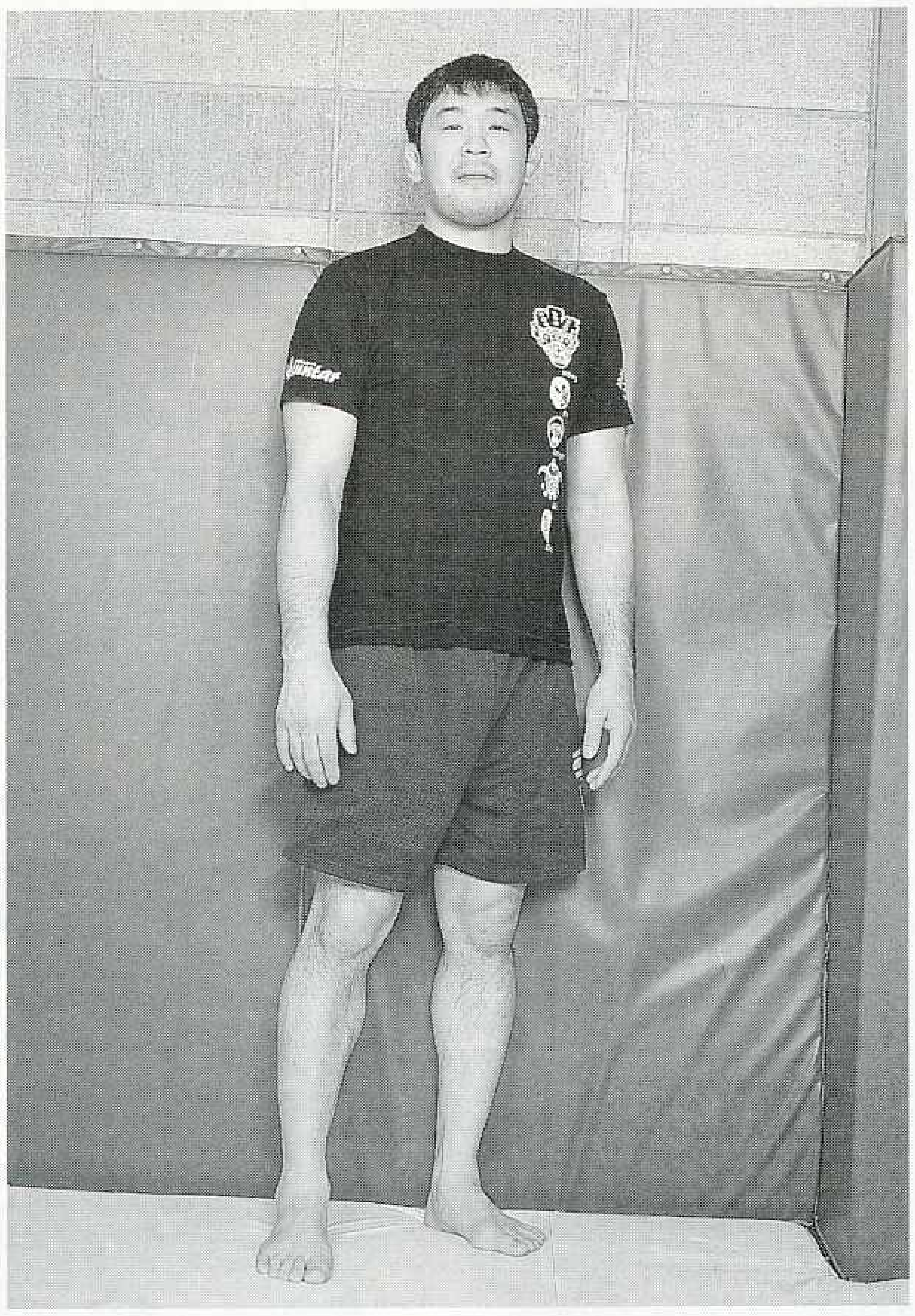
【05年3月15日／都内・某所にて収録】

CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2005 NO.85

PRIDE



HERO`S

HUSTLE

RADICAL SPECIAL

Columns

Another



群雄割拠大戦乱時代を読み解く

Iワールド的マット界

三国志

前田日明がスーパーバイザーを努める総合格闘技イベント『HERO'S』旗揚げにより、まさに戦国乱世、国取り合戦の様相を呈して来たマット界。いったい今後の戦局はどうなっていくのか、誰も先の読めない中、「予言」には定評がある"I編集長"こと井上義啓氏に、この"マット界三国志"の行方を大胆に占ってもらいました!

テレビジョン　関西テレビ　ドリームステージエンターテインメン



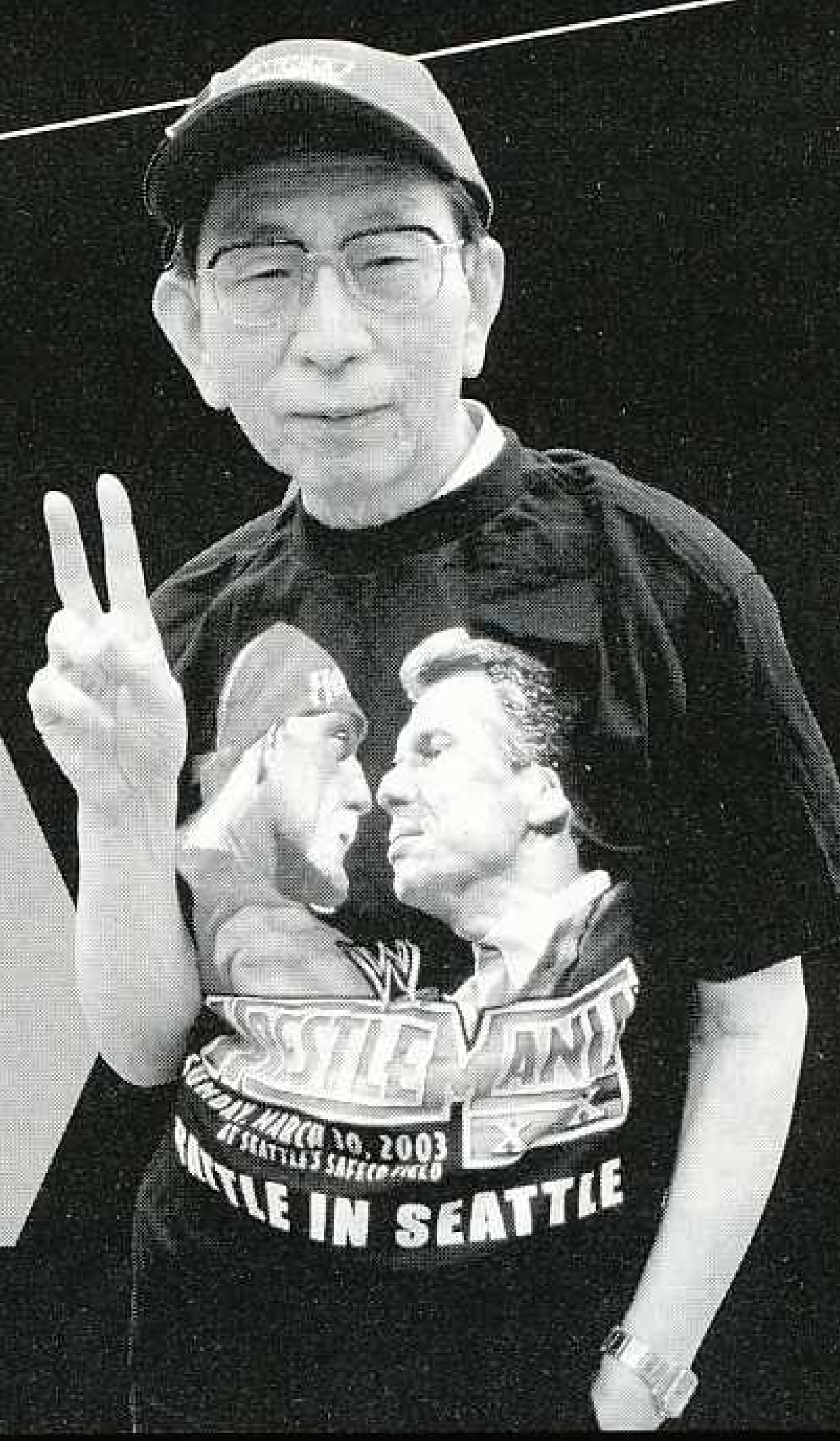
魏

言うちゃ悪いけど今月の大予言!!

「DSEvsK−1という枠組みではなく、あらゆる選手や軍団が“独立国”として細分化していくだろうな!!」

プロレスマスコミの哲人・I編集長の

喫茶店トークV



PROFILE

井上義啓。元・週刊ファイト編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けたプロレス者は数知れない。バード、殺し、母艦格闘技など破壊力抜群のI用語も次々生み出している。「紙プロHand」でも絶賛連載中。※なお、最近の新しい読者の中には、“I編集長”を紙プロの編集長だと思っている読者も少なからずおられるようですが、“I編集長”とはあくまで井上義啓氏の敬称であり、ニックネームなんだよな！（ドンッ）



ト界三国志武将リスト

—さて、井上さん。前回は井上さん独特のDSE、K・1に対する展望と提言をお伺いしたのですが、その直後に、前田日明「ビッグマウス」スーパーバイザーの強烈デビューがあって、マット界に激震が走りました。当然、井上さんの中でも新しい閃きが生じていると思うので、その新しい問題点を斬っていただきたいと思いまして……。

井上 そういうことだな。前田の出現で、格闘技三国志の様相を呈している。DSEが魏の曹操、K・1が呉の孫権、前田リングスが蜀の劉備だ。しかし、魏が司馬仲達の子孫（司馬炎）に乗っ取られて滅び、晋が建国されたように、DSE、K・1、前田リングスの中でも勢力争いが生じて、独立軍団が覇を争うと見ている。

—三国志であるだけでなく、魏、呉、蜀の中でも内乱が生じて、潰し合いが生じますか（笑）。

井上 すでにDSEではミルコがクロコップチームを作って、DSEの一角に拠点を構えてしまったじゃないか。ファブリシオ・ヴェウドゥムだけじゃないからな、ミルコ軍団は……。ロシアン・トップチーム、ブラジリアン・トップチーム、シュートボクセにしたって、DSEの構成分子の一つといったレベルから独立団体へと動きを早めている。そのうちヒョードルも自分の砦を持つよ。DSEだけでも、高田道場、吉田道場、グレイシー軍団を加えて、8つぐらいの乱立状態になる。当然、榊原代表は、こうした独立軍団によるトーナメントを狙って動くだろう。

—榊原代表はミドル級GPだけでなく、そんな大それた野望を抱いてますか（笑）。

井上 キミは考えが浅いねぇ。『紙プロ』の上昇気流も、これでストップかな（笑）。



言うちゃ悪いけど大・注・目なんだよな!!

I編集長大推薦・マッ

——ストップどころか、これまでもあったのかどうか（笑）。次どうぞ。

井上　みんな、『PRIDE』最大のビッグイベントはヒョードルとミルコのナンバー1争いと考えている。キミと同じで底が浅い（笑）。俺に言わせるとセルゲイ・ハリトーノフとヒョードルの遺恨マッチ、ハリトーノフとミルコの潰し合い、ファブリシオvsヒョードル、ノゲイラ兄vsファブリシオといったやね、もの凄いカードが次から次へと出てくるぜ。ということはだ。キミとこの『紙プロ』は、また上昇気流に乗ると言うことやね。

——〝I予言〟が当たってくれることを願います（笑）。

井上　DSEだけでも、これだけセンセーショナルだからな。そこへもってきて、よせばいいのにUFCが割り込んでくる。もっとも、割り込みは、せいぜい今年いっぱいでね。来年には消されてしまって、ベガスだけでこちょこちょとやってるだろう。あのレベルでは、DSE内乱の一角を占めることなんぞとうてい無理やからね。ヘビー級にしろ、ライトヘビー、ミドル級にしろ、UFCの連中が太刀打ちできるのはせいぜい日本人選手だけだ。

——髙田本部長とか吉田さんとかが怒鳴り込んできますよ（笑）。

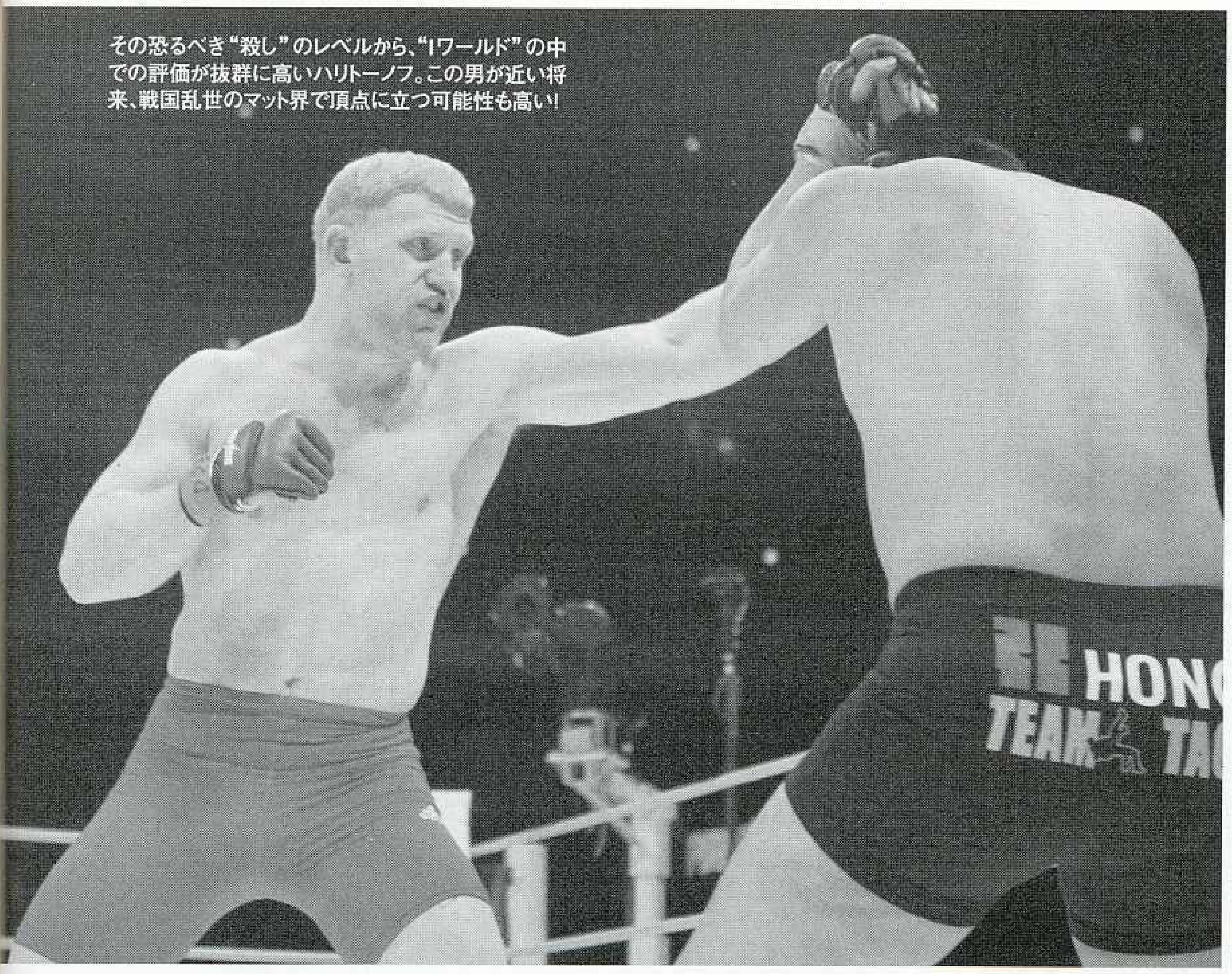
井上　本当のことを言ったまでだ。文句を言いたいのなら、ドヒャーッといった勝ち方を見せてくれ。日本人選手なんて、丸っきり〝殺し〟がないじゃないか。あんなことでDSE内乱に加わることなどできませんよ！

——厳しい提言、よーく心に留めておきます（笑）。

井上　K-1もやね。猪木軍団が〝核武装〟して割り込んでくるからねぇ。

——核武装！

「井上ワールド」の中ではヒョードルvsハリトーノフは〝殺し〟の度合いが一番大きい


その恐るべき"殺し"のレベルから、"Iワールド"の中での評価が抜群に高いハリトーノフ。この男が近い将来、戦国乱世のマット界で頂点に立つ可能性も高い！

井上　そうですよ！　今のところは新日のお先棒を担いでイタリアのミラノなんかでホイホイだが、どっこい、これも中邑なんかを猪木事務所に引き入れて、ちょっとした格闘技集団を形成するだろう。（K-1も）角田さんなんかを苦し紛れに曙のダンナにぶつけたりする必要はなくなる。ソウル大会ではチェ・ホンマンなんて凄い男もデビューしたし、そのうち韓国軍団ができるな。しかも、前田はリングス・コリアの再編を目論んでいる。韓国がこれほど格闘技的に熟しているとは思わなかった。やはり、前田という男は凄いパワーを秘めている。今年は、前田に引っ掻き回されるぜ。

──クリス・ドールマンなんていう大忠臣もいますしね。

井上　蜀の劉備が前田で、軍師である諸葛孔明が上井さんだ。ドールマンも有望な将軍ではあるがね。

──そこに猪木軍団が出てきますと、K-1はそれだけで三国志じゃないですか（笑）。

井上　だから、3・26両国で小島と中邑がIWGPのベルトを争っているなんてアナクロニズムだと言っている。DSEだけでも戦国乱世で、「武士道」なんて、きちんと採算ベースに乗せてしまってお釣りがくるぜ。K-1グループにしたって、K-1ルールの谷川軍団、KOK・MMAルールの前田軍団、MMA・プロレスルールの猪木軍団がやりあうから、1ヶ月に1回はどれかが試合をやってる。キミはK-1とK-1、DSEと前田リングスの抗争と見ているようだが、K-1とK-1グループがやりあうヒマなんかないと思うよ。3・26『HERO'S』にしたって、『ROMANEX』の丸投げじゃないか。上井さんが声を掛けなかったら、3・26さいたまスーパーアリーナはお流れになっていた。DSEとやり合うなんて考えられもしない話だ。

──榊原さんだって同じことを考えてるでしょうね。

井上　当然だ。ヴォルク・ハンは「裏切り者のヒョードルはセルゲイで殺す」と言っている。だから、「井上ワールド」では、ヒョードルvsミルコ以上に、こっちの方が〝殺し〟の度合いが大きいとワクワクしてるんだ。ずっと前から「アレクセイ・イグナショフを殺してしまったのではK-1はへばる」と言ってきたのはこのためでね。モンターニャ・シウバもソウルでまぁまぁいいところを見せたしね。〝大阪の馬鹿〟が『紙プロ』83号で提言したように、モンターニャvsホンマンの実現は近い。

──「Iワールド」の夢の対決ですね（笑）。

井上　しかし、これとても、DSEの強力な内乱に比べると弱いんだな。だからK-1はどうしても前田リングスの蜀と同盟を組まねばならない。このままだと呉の孫権のように魏との戦いに敗れて兵を引くという事態になりかねないからねぇ。そこで前田の出番だ。孔明が赤壁の戦いで魏の水軍を焼き討ちして大敗させたように、前田リングスがアッと驚く大戦果を上げるような予感がしてならんのだ。案外、猪木軍団との抗争の方が先かもしれないがね。

──猪木軍団がK-1グループから離れて第四勢力を形成するということですか？

井上　それも考えてるんだ。となるとプロレスルールによるガチンコで対抗するだろうから、上井プロデュースと正面衝突っていうことになる。これも面白い。ノアは三沢vs藤波で新日プロの5・14東京ドーム、三沢vs川田で7月のノア東京ドームを狙っている。それもいいのだが、3・26『HERO'S』と4・23『W-1』がドーンと突出してみろよ。新日とノアが考えている東京ドームがトーンダウンしないとも限らない。だから、前田・上井連合はマグニチュード9・0の大地震と大津波なんだ。気がついたときには逃げ場を失っているという大抗争になる。こんなことを言うから嫌われるのだが、プロレス団体のお偉方は前田・上井連合の動きを先読みする必要がある。みなさん、ノーンビリ構えておいでですが（笑）。

──そうなると、〝母艦格闘技〟どころじゃないですね。「戦闘竜を小橋のGHC王座に真剣勝負で挑戦させよ！」なんていう、素晴らしく独創的な提言をされてましたが（笑）。

井上　あれだけは間違ったな。まさか、前田プロデュースがこれだけのインパクトを持って引っ掻き回すとは予測できなかったからねぇ。

──ただ、新日はテレビ局に行って「これからの新日プロはプロレスルールによる真剣勝負でやっていきますので、生中継してくださ

前田・上井軍が巨大なPRIDE軍に アッと驚く大戦果を上げる予感

い。必ず視聴率とれます」と言うべきだとの提言は、新日分子の上井プロデュースに置き換えただけで、ドンぴしゃり当たりそうです。

井上 ほめられても嬉しくなんかないがね。ま、ハリトーノフとイグナショフを闘わせろとの提言は継続中だということか。

――では、今年中に起こる「I予言」を最後にどうぞ。「井上小説」であっても構いませんが（笑）。

井上 DSE vs K-1の図式ではなく、ロシアン・トップチーム、クロコップチーム、リングス・グルジア、リングス・オランダ、正道会館、猪木軍団といった〝独立国〟がDSE、K-1うんぬんではなく、独自のプロデュースでぶつかり合う時代を予想させ、予言させる。「プロレス団体はプロモーション化されて再分割へ急傾斜する」と言って久しいが、新日だけじゃなくて、全日プロもズバリ、その色合いを強いものにしている。武藤が興行会社専門へと大きく傾いてきたのも「I予言」どおりだ。今日しゃべった「井上ワールド」は多分に「井上小説」でもあるんだが、DSE、K-1、前田リングスが細分化される時が必ず来ると見ている。今年はそのうねりを予感させる戦いの連続になるだろう。ロシアン・トップチームとブラジリアン・トップチームの独立の動きがまず出てくるな。ヴァンダレイ・シウバのシュートボクセにしたってマウリシオ・ショーグンといった強いのが出て来たし、独立軍団を形成しても不思議はない。それを見て、K-1と前田リングスが動くだろう。猪木軍団は早くから独立愚連隊として後方戦線を掻き回しているから、ますますもって混沌とした情勢となる。しかしだ。これが本当だろう。いつまでもDSEでございK-1でございの時代じゃない。それをハッキリ予感させたのが、前田・上井連合軍の出現だ。ミルコにしたって、自分のプロデュースでやっていきたい気持ちは必ずもっている。そのうち、あのウラディミール・クリチコがミルコ陣営に加わるぞ。

――やはりクリチコは来ますか（笑）。

井上 そりゃそうですよ、アンタ！ ミルコはヘビー級ボクサーとしても名を挙げたいと狙っているからな。もうミルコ vs ノゲイラ兄といった試合は組まれなくなる。ファブリシオとノゲイラの2人がパンチ、キックの入った総合ルールでやり合うなんてエネルギーの無駄遣いだ。あの2人なら純然たるグラップリングマッチでしょうが……。この提言は〝大阪の馬鹿〟の頭からだけ出た話じゃない。ミノタウロにしたって、そう思っているはずだ。それを実現させるのが独立した軍団抗争だ。ま、そういうことだな。

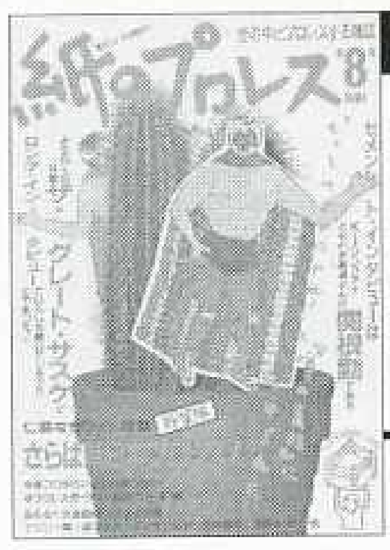
――よーくわかりました。次回もこの調子でよろしくお願いします！

【3月20日／電話取材にて収録】



名だたる武将が名を連ね、まさに群雄割拠のPRIDEマット。今年はミドル級GPだけでなく、ミルコvsヒョードルを中心としたヘビー級戦線も一大クライマックスを迎えるだけに、独走はまだまだ続くか。

本誌 Back Number



no.08 '94.01

特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！　20ページにも及ぶ大特集！

700yen⇒350yen　50%OFF

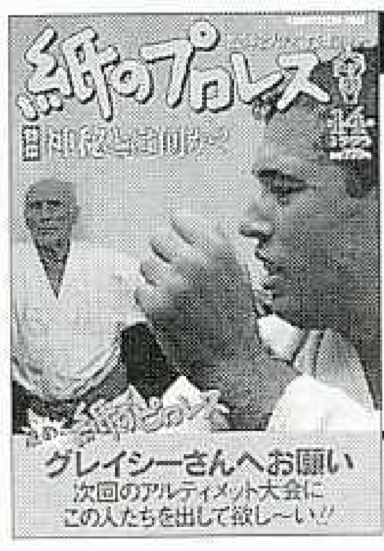


no.13 '95.03

特集 道場破りとは何か?

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！　山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

780yen⇒390yen　50%OFF



no.14 '95.04

特集 神秘とは何か?

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen　50%OFF

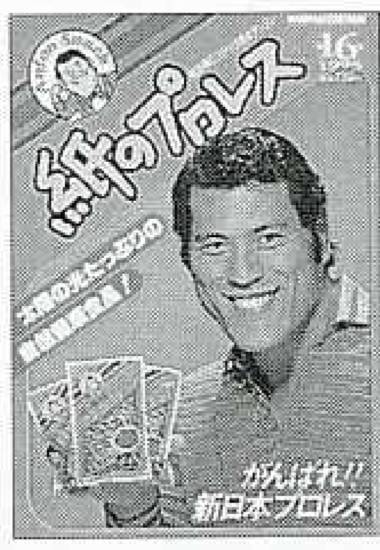


no.15 '95.05

特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？　山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Ｋーとは何か？　石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのＫ－１三兄弟（当時）インタビュー

780yen⇒390yen　50%OFF

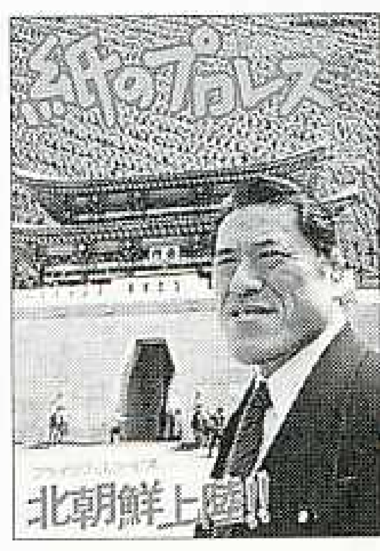


no.16 '96.06

特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！　マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！　糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

780yen⇒390yen　50%OFF



no.17 '95.07

特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen　50%OFF



極真魂溢れる16人を直撃!

完売間近

極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

1530yen⇒800yen　50%OFF

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。
下記の通信販売をご利用ください。

①『紙プロHand』で注文
②電話注文　03-5368-1797
③メール注文　kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。
※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。

ご注意　郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

紙のプロレスRadical 常備店

■アイドール新宿店
■新宿ファイター
■大山アメリカン
■プロレスマニア館
■チャンピオン
■リングスパレス
■バディスラム
■タコシェ
■レッスル池袋
■書泉ブックマート
■書泉ブックタワー
■書泉グランデ
■グレートアントニオ
■東京イサミ

---

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08 / 880yen

不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!

●"首の皮一枚" ホイス&エリオグレイシー
●"青い目のケンシロウ" ジョシュ・バーネット
●純プロ頂上対談!
　武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
●猪木とは何か?
　アントン実兄・猪木快守

売り切れ寸前!!

no.57 表紙 高山善廣 '02.11 / 840yen

一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!

●サップと地球規模のタイマン勝負!!
　高山善廣
●新たなる"U"が始動!! 田村潔司
●悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ
●"北尾戦・セメントマッチの真実"
　ジョン・テンタ

no.58 表紙 武藤&船木 '03.01 / 880yen

新春特大号!!「明日、また生きるぞ!」な対談の大連発!!

●夢幻のファンタジー対談
　武藤敬司×船木誠勝
●Uスタイル対談　田村潔司×高阪剛
●Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健
●カルガリー師弟対談
　ミスターヒト×ハシフ・カーン

no.59 表紙 ヒョードル '03.02 / 880yen

吹けよ!呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!

●いざノゲイラ戦!!　E・ヒョードル
●アメリカン・ドリーム
　ダスティ・ローデス
●爆発!!　WJマグマ語録
●吉田道場の秘密兵器　中村和裕
●UWFの再興と再考　田村潔司

no.60 表紙 ヒョードル '03.03 / 880yen

英雄、変貌好む!!『PRIDE』RE・BORN!!

●ノゲイラ撃破!!　E・ヒョードル
●驚愕の格闘芸術対談!!
　武藤敬司×須藤元気
●あのマーシーがすべてを告白!!
　田代まさし
●全日本中継の真実!!　倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04 / 880yen

5・2仁義ある闘い!! やっちゃうぞバカヤロー!!

●裏番組をブッ飛ばせ!
　橋本真也×小川直也
●1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
●プロレス・格闘技クロスオーバー対談
　エンセン井上×金原弘光
●リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05 / 880yen

誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!

●ヴァーと笑顔で初登場!!
　佐々木健介
●現役復帰間近!?　船木誠勝
●藤田と新日を一刀両断!!
　E・ヒョードル
●新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲（イラスト） '03.06 / 880yen

吉田秀彦が大英断! ミドル級GP出陣!

●「お前は男だ」劇場炸裂!
　高田延彦
●『PRIDE』REBORNを大総括!!
●憂国の虎
　ザ・マスク・オブ・タイガー
●芸能界一の川田番　ダチョウ倶楽部

no.66 表紙 ミルコ '03.09 / 880yen

ミルコ、『武士道』電撃出陣! もはや誰にも止められない!!

●緊急独占インタビュー!　ミルコ
●マッハの野望を砕いた
　"赤い暗殺者"登場!!　長南亮
●"天才空手少年"VT秒殺デビュー!!
　中嶋勝彦
●『東スポ』とは何か?　柴田惣一

no.69 表紙 OH砲 '03.12 / 900yen

大晦日・格闘技大戦&1・4プロレス戦争直前!! 年末年始もドゥ・ザ・ハッスル!!

●出てこい! 泣き虫!!
　橋本真也&小川直也
●『泣き虫』著者登場! 金子達仁
●大晦日直前インタビュー!　田村潔司
●アイ アム リアルプロレスラー
　美濃輪育久

no.70 表紙 ミルコ '04.01 / 880yen

年末格闘技大戦&1・4プロレス戦争大総括!! OH、ゴーバー登場!『ハッスル』とは何か!?

●PRIDE征服宣言!　ミルコ
●シウバに宣戦布告!　近藤有己
●ド真ん中の真実を語る!
　佐々木健介&北斗晶
●発表!
　紙プロ大賞&マット界語録2003

no.71 表紙 OH砲&高田 '04.02 / 880yen

プロレスよ、踊れ! 3・7『ハッスル2』は大フィーバー!!

●『PRIDE GP』優勝宣言!
　ミルコ&ノゲイラ
●待望の『紙プロ』初登場!　川田利明
●理想のプロレスを追い求める! AKIRA
●スクープ!
　幻の猪木vsアミン戦の真実!!

no.72 表紙 ミルコ&ヒョードル&ノゲイラ '04.03 / 840yen

最強への求道者たち全員集合!! PRIDE・GPに格闘ロマンを見よ!!

●GPの大本命をオランダでキャッチ!!
　エメリヤーエンコ・ヒョードル
●第二のミルコとなるか!? ステファン・レコ
●K-1に暴力を持ち込んだ男
　山本KID徳郁
●全て見せます!!『突撃! 佐々木健介邸』

no.73 表紙 小川直也 '04.04 / 880yen

暴走王が忘れたころにやってきた! PRIDE・GPでハッスルするぞ!!

●GP出場決定、緊急インタビュー!
　小川直也
●PRIDE・GP出場全選手
　パーフェクトガイド
●キックの名伯楽登場！　伊原信一
●魔界のニューリーダー　村上和成

no.74 表紙 小川直也 '04.05 / 880yen

シュート? ワーク? くだらねえ、次元が違うよ! いつ何時、どこでもハッスルするぞ!!

●PRIDE・GPでハッスル成功!
　小川直也
●リベンジロード発進!!　桜庭和志
●"ハードコアのカリスマ"
　ミック・フォーリー本誌初登場!
●掣圏会館皇帝　佐山サトル激語り!!

no.75 表紙 小川&桜庭&吉田 '04.06 / 880yen

英雄、奇蹟の揃い踏み! 小川、桜庭、吉田がPRIDE GP準決勝に集結!!

●シルバ戦直前に大ハッスル宣言!
　小川直也with藤井軍鶏侍
●奇蹟の独占インタビュー!　高田総統
●インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン
●年金未納からUFOまで
　ザ・グレート・サスケ

no.76 表紙 小川直也 '04.07 / 880yen

プロレス大爆発へ最後の挑戦! ハッスルするなら今しかねえ!!

●スクープ発言連発!　小川直也
●小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!!
　破壊王×ノゲイラ
●厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志
●新連載『月刊PG談（仮）』
　吉田豪×掟ポルシェ

no.77 表紙 小川直也 '04.08 / 880yen

『PRIDE・GP決勝』直前濃密大特集! 小川、史上最大の査定試合へ!!

●「相手がヒョードルだろうと俺は
　ハッスルする!!」 小川直也
●狙うは皇帝の首ひとつ!　ミルコ
●サンボの神様降臨!!　ビクトル古賀
●ロシアで英雄と再会!　ヴォルク・ハン
●幻想大国ロシア・現地潜入徹底リポート

no.78 表紙 小川直也 '04.09 / 840yen

『PRIDE・GP』徹底総括! ハッスルとは出直しの連続なり!!

●衝撃の敗戦直後、独占インタビュー!
　小川直也
●小川の敗戦をどう見る!?
　高田PRIDE統括本部長
●K-1のトップが小川を語る　谷川貞治
●壮絶インディー人生!　田中将斗

no.79 表紙 高田総統&小川直也 '04.09 / 840yen

プロレス暗黒時代に魔王降臨! 高田総統の激白を独占スクープ!!

●ハッスルキャプテンに休息なし!
　小川直也
●特別付録・高田総統特製ピンナップ
●谷川さん推薦企画『曙は是か非か?』
●ビビッたか? ボヤいたか!?
　金原モンスター軍

no.80 表紙 ミルコ・クロコップ '04.10 / 880yen

『PRIDE.28』直前! 守護神ミルコ、外敵狩りへ――

●独占ロングインタビュー　ミルコ
●ハッスル軍お家騒動を激白!!
　小川直也
●新連載! 佐山サトルの右流々ン探訪紀
●袋とじ企画・女子プロ界の謎に迫る!
　グリズリー岩本

no.81 表紙 桜庭和志 '04.10 / 880yen

サク、4度目のシウバ戦決定! 大晦日格闘技戦争・濃密大特集号

●ヒョードルの弱点を発見!?
　ノゲイラ＆ノゲイラママ
●新日本でハッスル成功!　小川直也
●スーパーひとし君登場!　草野仁
●狂気の天才対談が実現!!
　佐山サトル×船木誠勝

no.82 表紙 桜庭和志 '04.12 / 890yen

大晦日大戦・超直前特集号! 男のSADAME、見に来いやーッ!!

●「ボクは絶対に諦めない」
　桜庭和志ロングインタビュー!!
●"道場破り"の全てを激白!　安生洋二
●WJの秘密を大暴露!
　永島勝司×ターザン山本!×吉田豪
●伝説の悪徳レフェリー降臨!　阿部四郎

no.83 表紙 ミルコ '05.01 / 880yen

打倒ヒョードルに向けミルコが激白! PRIDEヘビー級王座への野望と渇望!!

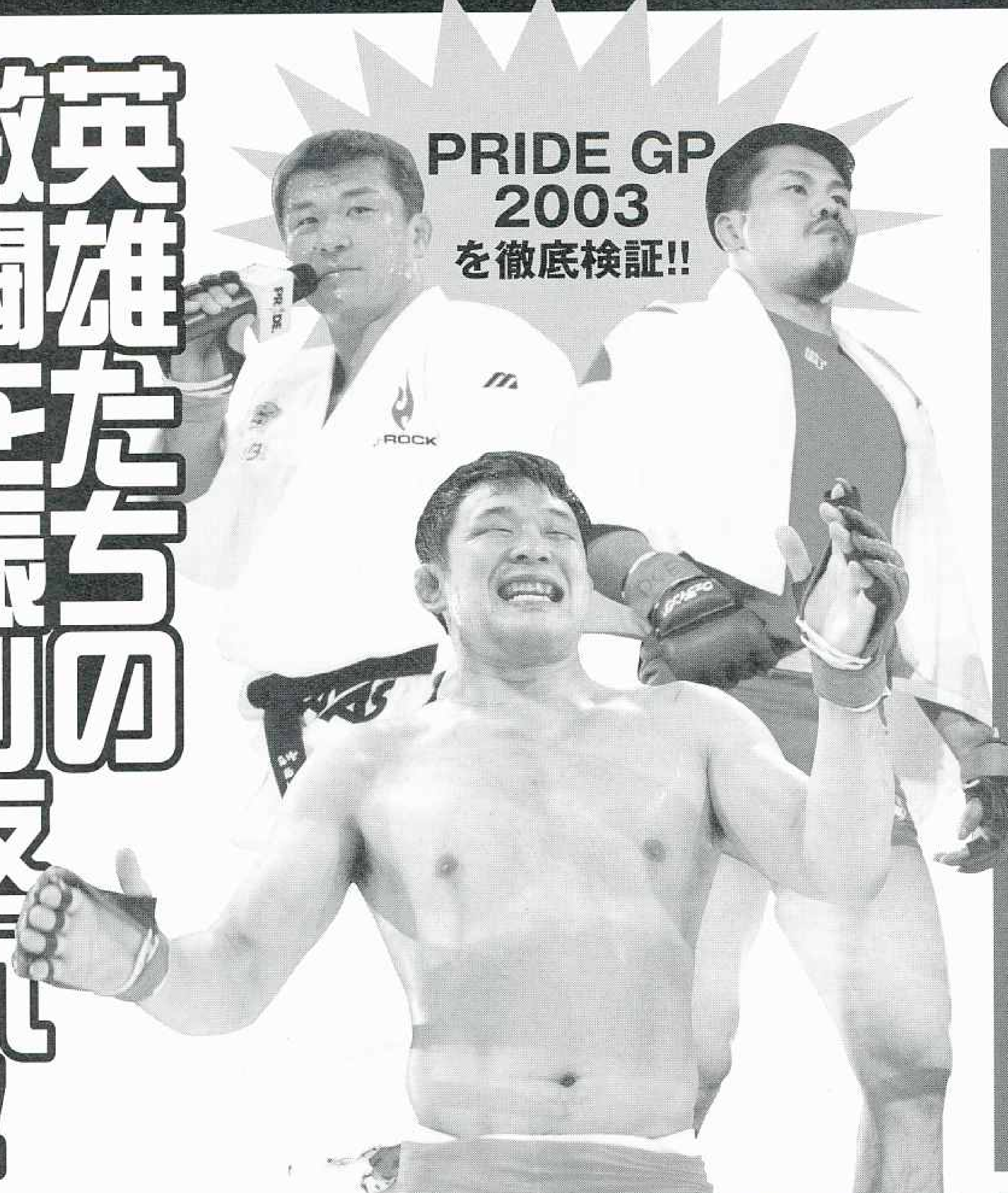
●『PRIDE 男祭り』怒濤の大総括!
●2005年ハッスル大進撃計画を発表!!
　小川直也
●蘇る新日本黄金伝説!! 橋本真也×船木誠勝
●『シベ超5』公開記念SP対談!
　水野晴郎×サスケ

no.84 表紙 セルゲイ・ハリトーノフ '05.02 / 880yen

ロシア人はロシア人が始末する! ハリトーノフがヒョードルに宣戦布告!!

●PRIDE王座へまっしぐら!　ミルコ
●"殺人落下傘"が3強越え宣言!!
　セルゲイ・ハリトーノフ
●"頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司
●"起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か?
　前田日明復活大特集!!

英雄たちの激闘を振り返れ!



Radical Back Number

伝説のミドル級スーパースターウォーズ!
PRIDE GP 2003の復習はこちらのバックナンバーで!!



no.64 灼熱のPRIDE GP 2003開幕直前! 爆弾発言連発の出場全選手インタビュー!!

- 3度目のシウバ戦に何を語る!?　桜庭和志
- 孤高の男が覚悟の決断!　田村潔司
- 波乱に継ぐ波乱!『OH祭り』とは何か!?
- 真夏の胸騒ぎ企画 スマックガール水着特写!!

'03.07 / 900yen



no.65 ショック! 桜庭、田村が初戦敗退…。伝説となった開幕戦を徹底検証!!

- 「何回でもシウバと闘いたい」桜庭和志
- 沈黙を破る独占インタビュー!　田村潔司
- 格闘技暗黒伝　電撃ネットワーク・ギュウゾウ
- DSEがプロレスを主催!?『ハッスル』誕生前夜

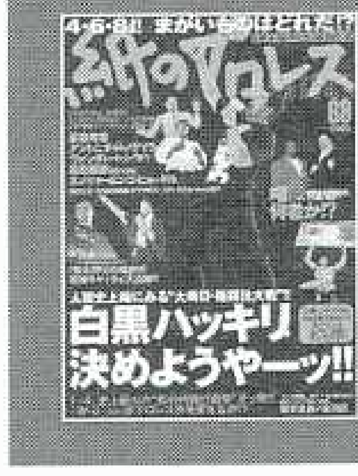
'03.09 / 880yen



no.67 戦慄のPRIDE GP 2003決勝戦ド直前! 吉田、シウバ、ランペイジ、リデルに直撃!!

- 出るか、必殺"袖車"!!　吉田秀彦
- 壮絶なる暫定王者決定戦　ノゲイラvsミルコ
- 親友にして"裏の参謀"が語るアントニオ猪木の真実!!
- 「脳ミソが腐った」(byアントン総帥)新日本プロレス特集

'03.10 / 880yen



no.68 PRIDE火山が東京ドームで大噴火! 史上最大のPRIDE GP 2003を大総括!!

- 統括本部長がGPを激語り!!　高田延彦
- 強豪ランデルマンに一本勝ち!　桜庭和志
- キックのカリスマが『紙プロ』初登場! "野良犬"小林聡
- 伝説のド真ん中劇場!『コラコラ問答』完全収録!!

'03.11 / 880yen

バックナンバーは電話で注文できます!!

03-5368-1797

【平日15:00～22:00 (株)ダブルクロス】

no.15 表紙 小川直也　'99.02 / 780yen

リアル・アルティメット・クラッシュ!! 小川 vs 橋本"1・4事変"勃発!!

- あの"1・4事変"を徹底大検証!!
- "前田日明・最後の相手" アレキサンダー・カレリン
- 引退記念雑談会 「語ろうマサ・サイトー!」
- S多重アリバイ　佐野雄飛

no.16 表紙 エンセン井上　'99.03 / 780yen

格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!

- 環境問題を『紙プロ』で語る!! アントニオ猪木
- 完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
- 相撲多重アリバイ　石川孝志
- マーク・コールマン

no.29 表紙 秋山準　'00.07 / 840yen

「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!

- 三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- プロレススーパースター列伝 仲野信市
- 本誌独占ジャンボ鶴田夫人 最愛の夫の真実を語る!!
- TKおかん

no.32 表紙 小川直也　'00.10 / 840yen

針はどちらに向くのか!? 新プロレス vs 純プロレス開戦!

- 田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ドラゴンの大爆笑10　藤波語録
- プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村
- "和製カレリン"本田多聞

no.34 表紙 小川直也　'01.01 / 840yen

『猪木祭り』開幕ーッ!!　プロレスは「闘い」を忘れたときに老いていく!

- UFCミドル級王者　ティト・オーティズ
- プロレススーパースター列伝 ミスターヒト
- 修斗から『猪木祭り』へ!　宇野薫
- ボブチャンチン&オバチャンチン

no.35 表紙 サクマシン(イラスト)　'01.02 / 840yen

「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号

- ZERO-ONE本格始動　橋本真也
- プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
- "ノアの怪物"杉浦貴
- UFCの巨人　ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也(イラスト)　'01.02 / 840yen

新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!

- ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!
- ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言
- W☆ING　史上最凶の歴史を紐解く
- 吉田豪に"ドラゴンの呪い"が襲う!!

no.37 表紙 小川直也(イラスト)　'01.04 / 840yen

小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻

- 安田忠夫が借金から 自殺未遂まですべてを語る!
- アブダビコンバット2001一大探検記!
- シュート活字×ファンタジー活字
- 他に比類なきプロレスが WWFにはある!

no.38 表紙 高田(イラスト)　'01.05 / 840yen

小川と長州、どちらが孤独だったのか!?

- 忘れ物の正体は――。高田延彦
- ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
- プロレススーパースター列伝 阿修羅原
- 死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明　'01.06 / 840yen

どうなるんだ、リングス! 前田 is デッド!?

- 前田道場新エース・金原弘光
- 怪物か!?　それとも…… 藤田和之座談会
- 壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 表紙 アントン総帥　'01.07 / 880yen

猪木軍 vs K-1に見たいものは"地上最強のプロレス"

- 蘇れ!Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光
- 熱いこの叫びを聞け!　大谷晋二郎
- プロレススーパースター列伝 グラン浜田
- グラバカの核弾頭　郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン　'01.08 / 880yen

Can you カミングアウト? "最後の黒船" WWF襲来!

- リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る
- 真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!
- W☆INGの真実・茨城清志
- 毒舌知能犯　秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥　'01.09 / 880yen

猪木なら何をやっても許されるのか!?

- ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- "ヒャッホーの真実"辻よしなり
- 蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- 誇り高きルチャ戦士 カト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志　'01.10 / 880yen

サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!

- ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー
- 大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
- 金原弘光×サスケの 新日本プロレス学校同窓会
- 野武士が語るんだよな　中野巽耀

no.44 表紙 桜庭&シウバ　'01.11 / 880yen

サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?

- その修羅場の数々! シーザー武志
- 怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴
- ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- 闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥　'01.12 / 880yen

「K-1 vs 猪木軍」命懸けのエンターテイメント!!

- 悪魔の書、現る!　ミスター高橋
- ジェラルド・ゴルドー人生相談
- プロレススパースター列伝 グレート小鹿
- 語録で振り返るマット界2001

no.47 表紙 ビンス・マクマホン　'02.02 / 880yen

WWE日本侵攻5秒前!

- "天才"武藤敬司が 『紙プロ』驚愕の初登場!
- 噂の馳浩が新日分裂から ミスター高橋本までを語る!
- 第一次リングス閉幕特集
- プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志　'02.03 / 880yen

見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!

- 奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー
- 和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光
- 伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
- WWEを知る男　ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン&小川&桜庭　'02.04 / 880yen

究極の格闘技大戦争勃発!! マット界灼熱の噂!

- 和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
- アレクに怒りの火を付けた 菊田早苗とは何者か!?
- 破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行!
- ビッシビシいくわよ!!　小畑千代

no.50 表紙 桜庭和志　'02.05 / 880yen

サクが笑えば、世界が笑う!!

- 「地方発世界」開始! 小川直也&橋本真也
- リングスロシア軍団の軌跡
- パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!
- ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

no.51 表紙 橋本真也　'02.06 / 880yen

ZERO-ONEに願いを!

- 両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也
- 『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子
- 天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談
- 新・超獣　ザ・プレデター

no.52 表紙 OH砲　'02.07 / 880yen

見えない鎖を引きちぎれ! 小川直也リング外での暗闘!!

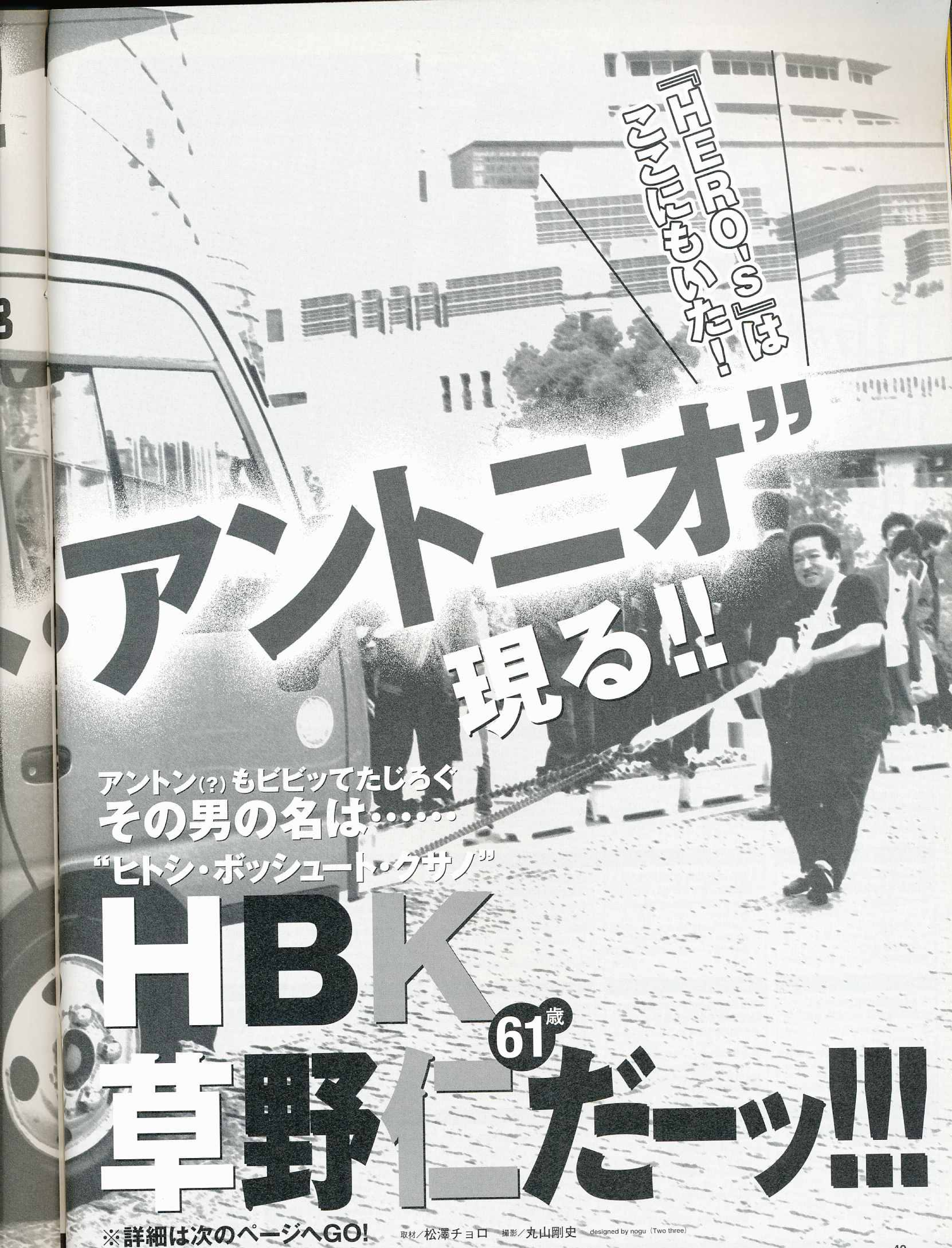
- 全身プロレスラー・高山善廣
- USAの渡世人ドン・フライ
- 『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム
- 戦慄の『LEGEND』前夜!

売り切れ寸前!!

no.53 表紙 桜庭和志　'02.08 / 880yen

世紀のビックイベント『Dynamite!』直前大解剖!!

- ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久
- 独占肉弾スクープ! マット・ガファリ
- 爆裂!　川村社長ガチンコ語録!
- 偽造王の知られざる半生!　一宮章一



『HERO'S』はここにもいた！

“アントニオ”現る!!

アントン(?)もビビッてたじろぐ

その男の名は……

“ヒトシ・ボッシュート・クサノ”

HBK草野仁（61歳）だーッ!!!


※詳細は次のページへGO!

取材／松澤チョロ　撮影／丸山剛史　designed by nogu（Two three）

浅草キッドも仰天!

六本木ヒルズに

“平成のグレート・



夢の“草野ランド”建設へ向け浅草キッドが動いた！

『紙プロ』でもお馴染みの浅草キッドと草野仁が最強タッグを結成し、とんでもない番組をスタートさせると聞きテレビ朝日のある六本木ヒルズに直行した！　そこで目にしたのは、“HBK（ヒトシ・ボッシュート・クサノ）”こと草野仁の猛ハッスルぶり！　今年61歳になるという草野さんは、扉ページにあるように軽々と5tバスを引っ張ったかと思えば、電話帳も楽々とブチ破る！　その凄まじさはテレビで確認してもらうとして、番組の見所を浅草キッドのお二人と、主役の草野さん、堂真理子アナウンサーに語ってもらいました！





見よ、このハッスルぶり！最強の61歳ここにあり！



とにかく凄いとしか言いようがない草野さんの暴れっぷり！　ディーバ（ロシア人）を引き連れロック様になりきって我々の前に登場



とにかく凄いとしか言いようがない草野さんの暴れっぷり！　ビール瓶だって、グーで割ろうとするぐらい気合いが入りまくりなんです！



とにかく凄いとしか言いようがない草野さんの暴れっぷり！　ロシアの鉄の爪も凄いけど、草野さんだってリンゴをヒネリ潰しますよ！



とにかく凄いとしか言いようがない草野さんの暴れっぷり！　草野さんにかかれば電話帳だって真っ二つ！　もちろんガチンコです！



とにかく凄いとしか言いようがない草野さんの暴れっぷり！　得意の相撲では元関取相手に真っ向勝負！　これまたガチンコですよ！



とにかく凄いとしか言いようがない草野さんの暴れっぷり！　最近ブレイク気味の長州小力にも容赦しません！　ポポイのポイです！



とにかく凄いとしか言いようがない草野さんの暴れっぷり！　瓦の5枚ぐらい朝飯前！　もちろん、これだってガチンコです！　押忍!!

「ビンス・マクマホンVS草野仁」のマイク対決っていうのも当然、夢見てます！（博士）

——特番は拝見してましたが、まさかというのが正直な感想でもあるんですけども、まず一発目の収録を終わった感想をお聞きしたいんですが。

博士　この番組のレギュラー化は『想定の範囲外』ですからね（笑）まあ、ホントに「ライブドアとフジテレビが提携したら……？」って言うのと同じで異業種の業務提携っていうのは〝一番ナイ〟って思われるモノをやってみるのが面白いんじゃないんですかね。そういう意味で言うと、草野さんと浅草キッドの合体っていうのも、まず机上の空論で〝ナイ〟っていう前提で話していることが特番で実現して、こうしてM&Aが成功したわけですよ（笑）。

——玉袋さんはいかがですか？

玉袋　やっぱり、〝ウナギと梅干し〟とかね、〝天ぷらにアイスクリーム〟とか、食い合わせがあんま良くないっていうのはね、あれは俗説であって、「実は食ってみたら、おいしかった」ってところをゼヒとも皆さんにお見せしたいなと思っております。

——主人公というか、主役の草野さんはいかがでしょうか？

草野　いやいやいや（笑）。まあ、そもそも最初にお話を頂いた時に、実は日頃から博士にしても玉ちゃんにしても、大体こういう感じの方かなってのは想像してたんですけど、実際に会って、いろいろご一緒に仕事して、それぞれに芸能界で生きていく人として、凄く奥の深いモノを持った人たちで、それが凄く魅力的だったし、「あ、2人となら、安心してやっていけるな」っていうか、なんか、得も言われぬね、やっぱり相性ってのは絶対あるんですよね。そういう意味で、過去2回ご一緒させて頂きましたけど、とてもいい気分で仕事に取り組むことができましたんで。このご縁は絶対大事にしたいなと私も思っております。ある意味では、勝手なことをいろいろ言ったり、やったりしてると思うんですけども、お2人の素晴らしい、こう絶妙な采配の中にポ～ンと飛び込んで、見ている方にとって、「これは面白いぞ。結構いろんなこと教えてくれたぞ」ってことに上手くつながっていくといいなと思っています。とても気持ちよくやらせて頂いてます。

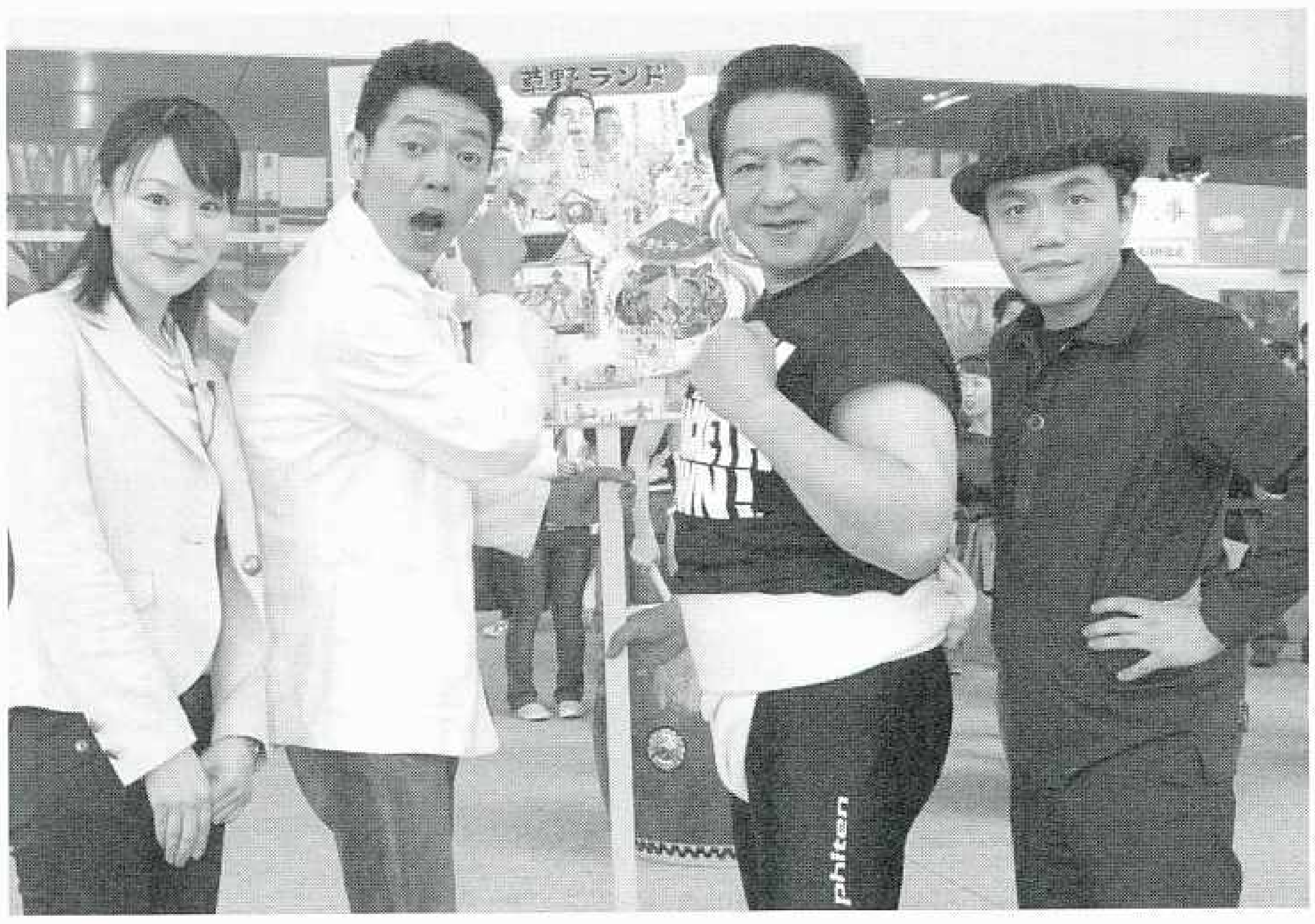
——お二人的には、いま芸能界最強というのは、草野さんで間違いないっていう感じですかね？

博士　『最強』だけじゃないですよ。もちろん、スプリンター、相撲、レスリングなどの草野伝説を実証する体力勝負も仕掛けますが、文武両道ですからね、草野さんは。今後は頭脳の方のバトルもやっていきますからね。考えてみれば、堀江（貴文）社長の東大の先輩だし、で、堀江社長っていうのは、我々『ド・ナイト』のルートを持ってますから、いま「デーブ・スペクターvs堀江」という因縁試合のマッチメイクも考えてますし（笑）。お互いのルートを持ってきて、その化学反応を試そうっていうキャスティングは、いろいろと考えてますね。

玉袋　夢のカード続出ですよ！ 草野さんの名前があるだけに、かなり選択肢は広がりますよ。

——秋には、陸上のマスターズに草野さんが出場するみたいですけど。

玉袋　そうですね。やっぱ草野さんは、いまの疲れてる中年の方たちに勇気を与えるっていう部分で、これはいいと思いますよ。



草野　（陸上は）ずっとやってませんでしたから、ホントにしっかりメニューを組んで、時間かけて、身体をそのために作って行かなきゃいけないんで、少し時間は掛かるとは思いますけど、でも、せっかくのいい機会を与えて頂きましたんで、必ずそこに向けてやらなくちゃいけないな、と（笑）。

博士　草野さんと打ち合わせするのに、今、ここに加圧式トレーニングの本を持参してるわけですよ、俺は（笑）これはもう確実に、この加圧式トレーニングなんかもやってもらって、アンチ・エイジングに取り組んで頂いて、60歳代の世界記録を作ろうって野望がありますからね（笑）。

——44歳で現役復帰の角田さんも顔負けですね（笑）。

博士　草野さん自らが、ミステリー・ハンターですからね。本人が本人のミステリーをハンティングしているわけだから。思うに遺伝子レベルでいうと、ホント、草野さんは日本で有数の優良なDNAの持ち主ですから、これは！ 精子銀行に、まず精子を入れてもらって、希望者と受精させせましょう。

草野　ハッハッハッハッ！

玉袋　科学番組でもあるわけですね。凄いね。いろんなものを全て包括してる番組ですよね。

——キッドさんは格闘技方面にもいろんなルートがありますけど、そちらの方にも草野さんを売り込んでいくつもりなんですか？

博士　もちろん。2メートル15センチで160キロの韓国の大巨人、チェ・ホンマンも既にブッキングは終えましたから。韓国大会終了後以降だけど。今年、彼は第二のボブ・サップになるからね、バラエティーでも。だからね。チェ・ホンマンは草野部屋に入れて軍団化したいですね。

玉袋　今日の春一番率いる猪木軍団っていうのはセコすぎたからね（笑）

——草野さん、『PRIDEミドル級GP』の日本人枠がまだ空いてるみたいですけど、そちらはいかがですか？

草野　ハッハッハッハッハッ！

博士　いやいやいや、これは冗談抜きに『PRIDE男祭り』に、なんらかの形で参戦出来るよう根回ししているんですよ。

——勝負は大みそかだと？

博士　そうそう。これは、フジテレビさんと話し合いますけどね。これは紅白の裏で草野さんの古巣・NHKへの挑戦状にもなりますからねぇ。

——ふんどしして太鼓を叩くわけじゃないですよね？

玉袋　それもいいね～。太鼓もありだね～。まぁ、日本に限らず、今後は、WWEも視野に入ってますしね。

博士　そう！『ビンス・マクマホンvs草野仁』のマイク対決っていうのは、当然、夢見てます。WWEマニアの本人も色気があるはずですから（笑）ちょっといろいろね、チャンネルの壁があると思うんで（笑）。でも、取り組み方も『ザ・ワイド』で広く交渉しますから。

玉袋　今年は常に草野さん祭りは続いていくと。男祭りは大晦日だけだけど、草野さん祭りは、毎週毎週やっていくということで。ね？

堂アナウンサー　はい。よろしくお願いします！

『紙プロ』読者なら
見なきゃ嘘よねん！
『草野☆キッド』
一発目の放送は
4月5日（火）
深夜24:46~25:16
まで
テレビ朝日系列で放送ッ!!

マグマ級の衝撃だぞコラッ!

本誌独占!!

マグマ級のスクープをゲットしたぞコラッ! すでに携帯サイトの『紙プロHand』では情報解禁済みだが、リキプロ代表・立石史さんの結婚&妊娠が発覚した! しかも、すでに妊娠6ヶ月というから、またビックリ!『紙プロ』では独占スクープとして立石代表のダンナさんになる北斗一城(ほくと・かずき)さんにも接触して、いろいろと聞いてきたぞコラッ!!

リキプロ代表・立石史さんの結婚&妊娠が発覚!!



聞き手&撮影/松澤チョロ

――立石代表! マグマ級の衝撃情報を入手したんですけど、結婚&妊娠6ヶ月って本当ですか!?

立石 はい。まぎれもなくホントです。

――やっぱりホントなんですか。でも妊娠6ヶ月ってことで、かなり驚いてるんですけど、長州さんとかは知ってるんですか?

立石 リキプロのメンバーは知ってますね。でも、長州に言ったのが2ヶ月前ぐらいなんですよ。

――2ヶ月前っていっても、もう妊娠4ヶ月ですよね。

立石 そうですね。その辺は長州イズムで前フリはしませんでした(笑)。

――アハハハハ! ちなみに長州さんは、どういったリアクションだったんですか?

立石 さすがに一瞬、あわあわしてましたね。

――近々、結婚するっていうのは知ってたんですか?

立石 それも言ってなかったんですよ。

――じゃあ、結婚と妊娠を同時に報告したわけですか?

立石 そうです。「私、今度結婚しようと思ってて、赤ちゃんもいるんですよねぇ。いま4ヶ月で」って(笑)。

――アハハハハ! 人ごとみたいに(笑)。

立石 そしたら「あ、そっか。頑張れよ」みたいな感じで言ってもらえましたね。

――でも、リキプロファンは当然心配すると思うんですけど、これからどうするつもりなんですか?

立石 リキプロは産休を取らせていただいて、身体が落ちつき次第、なるべく早い時期に復帰したいなっていう風に思ってます。

――いつぐらいから産休を取る予定なんですか?

立石 私は9ヶ月ぐらいまでは働きたいなって思ってるんですよ。

――9ヶ月まで働くんですか?

立石 はい。8月の頭が出産予定日なんで、6月いっぱいまでは働きたいと思ってます。

――今度の4・16後楽園大会は立石代表おめでた興行とかにした方がいいんじゃないですか? 大会タイトルの『潰し合い!!』は胎教には良くなさそうですけど(笑)。

立石 ホントですよね(笑)。私の考えの中では、特に発表もしないで、ひっそり産んじゃおうって思ってたんですけどね。

――ウチの携帯サイトで連載中の立石さんのド真ん中日記で、一足早く結婚&妊娠報告をしてもらったんですけど、早速「父親は誰だ?」とか、中には「宇和野貴史の子供で間違いない!」って声も出てましたけど(笑)。

立石 それはないです!(キッパリ)。

――ということは、リキプロ関係の方ではないんですね?

立石 はい。もうWJに入る前からずっとお付き合いさせていただいてる方です。

――じゃあ、いろいろと苦労してるときも支えてくれた方なんですね。

立石 そうですね。あと、私にプロレスの考え方を叩き込んでくれた人です。…

…さっきから私の横に座ってる、この人なんですけど（笑）。

――どうも、はじめまして！……っていうか、リキプロの会場でいつも「貴史」コールとかしてる方ですよね？

北斗　そうです（笑）。

――お仕事は何をされてる方なんですか？

北斗　一応、自分で会社をやってるんですけど、飲食店とか、輸入雑貨関係の仕事とかやったりしてます。

――じゃあ、肩書き的には青年実業家になるんですかね？

北斗　そこまでいったら、ちょっと行き過ぎかなって感じですけど（笑）。

――年齢的には、おいくつになるんですか？

北斗　34歳になりますね。

――年齢的には一回り近く違うわけですね。付き合って、どれぐらいになるんですか？

立石　もう5年ですね。

――ということは、立石代表が10代の頃から付き合ってるわけですね？

立石　そうですね。

――旦那さんもプロレスは好きなんですよね？

北斗　小学校の時にテリー・ファンクに投げられたことありますからね（笑）。まあ、彼女のプロレス観は僕が叩き込んだのは間違いないです。

立石　だから、相当間違ってると思います（笑）。

――でも、どうですか？　プロレスファンの目から見て、彼女が団体の代表をやってるっていうのは。

北斗　ちょっと複雑ですね（笑）。でも最初、短大を卒業したら普通のOLをやろうとしてたんですよ。で、「それでいいの、お前」って聞いたら「やっぱりプロレス関係がいい」って考えが変わったみたいで、片っ端から応募したり、会場まで一緒に行って直訴みたいなことかもしてましたね（笑）。

彼女はディーバに憧れてWWEに履歴書も送ってるんです。（北斗）

――凄いカップルですね（笑）。

立石　かなりバカップルですよね（笑）。

北斗　あるコネは使ってみたいな感じでやってたんですけど、その頃、たまたまWJが旗揚げしたんですよ。で、僕は偽りなく生粋の長州ファンなんで。

――ということはWJに猛プッシュしたんですね。

北斗　そうですね。長州、藤波の時代からずっとファンで、その長州さんが新しく団体を旗揚げするって聞いて「絶対、WJにしろよ」と。それで、実際入れたんですけど、その後は皆さんもご存知のとおりで（笑）。

――あえて説明は省略させてもらいます（笑）。で、その後、リキプロの代表になるわけですけど、プロレスファン的にはどうなんですか？　彼女が団体代表って、なかなかないシチュエーションだと思うんですが（笑）。

北斗　あり得ないですよね。でも、スケベ心としては長州さんと仲良くなって欲しかったですね（笑）。だから、彼女と会うと「今日、長州さんどういう洋服着てた？」とか「あゆみたいなサングラスかけてた？」って、いつも聞いてましたからね（笑）。

――アハハハハ！

北斗　で、彼女は巷では、なんて説明してるか知らないですけど、もっと表に出たいって言ってたんですよ。「目指せ、ディーバ！」って言ってたぐらいで（笑）。

立石　言ってないよ！（笑）。私はビンス・マクマホンに憧れてたんですよ。でも、それをやるのは現実的に凄い難しいことだなってわかって。

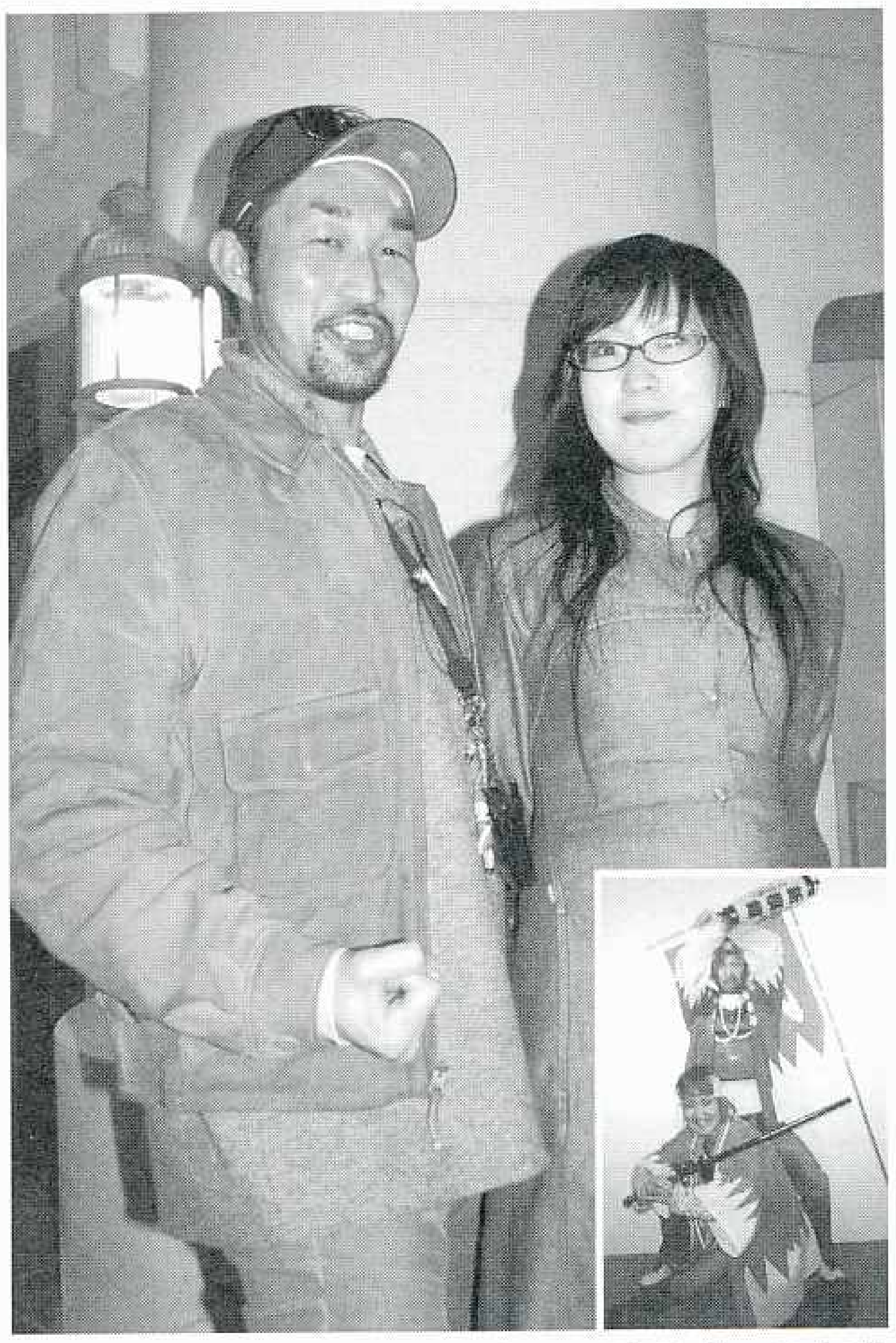
――たしかに、長州さんの団体でディーバはやらせてもらえないでしょうね。でも、立石代表的にはディーバよりもビンスになりたかったと？

立石　実はそうなんですよ（笑）。

――経営者っていうだけではなく、リングにも上がりたかったってことですか？

立石　両方やりたかったんです。

北斗　でもコイツ、一緒にアメリカ行ったとき、ロブ・ヴァンダムとハリケーンに会ったら、「私、ディーバになりたいんです！」ってアピールして、オフィスがあるコネチカットの連絡先とか聞いてましたからね（笑）。



2人はバカップルではありませんよ！　ちなみにリキプログッズの中で抜群の売れ行きを見せている「長州復刻Tシャツ」のアイデアを出したのは立石代表の旦那さんの北斗さん。長州もお気に入りの一品だという。

――凄い行動力ですね（笑）。

北斗　「ヒロコより先に出たい！」って勢いでしたからね（笑）。

立石　ちゃんと履歴書も送りましたからね。

――それは初耳ですけど、その後は音沙汰なしですか？

立石　残念ながらなかったです（笑）。

――立石代表は自分でトンパチだって言ってましたけど、想像以上かもしれませんね（笑）。

北斗　雑誌とかで見ても結構おしとやかにやってるんで、ホントはもっとイケイケでやりたいクセにかなり押さえてるなって思ってましたけどね。

――さっきも言いましたけど、旦那さんもリキプロの会場では、かなりの大声で「貴史」コールとか送ってるんで、目立ってますよね。

北斗　やっぱり、リキプロの興行を盛り上げたいじゃないですか？　まあでも、新日本とか行ったらヤジ飛ばしてますけどね。ヤジ将軍ですから（笑）。

立石　凄いヒドイこと言ってますからね。

――リキプロの選手とは面識はあるんですか？

立石　和田選手や宇和野さんとは、わりと仲良くしてるんですけど、石井さんとは、あまり会う機会がいままでなかったんですよね。面識はあると思うんですけど。

北斗　やっぱり、リキさんとか石井さんって、ちょっと怖いじゃないですか（笑）。

――その気持ちはわかりますね。

立石　でも、長州とも会ったことありますからね。

――じゃあ、長州さんは誰の子供かっていうのは認識してるんですね。

立石　はい。ただ、凄いしゃべる人なのに長州の前では一言もしゃべんないんですよ。

北斗　ダメなんですよね。もうガッチガチになるんで（苦笑）。中村祥之さんじゃないですけど、リキさんの前だと直立不動で全然しゃべれないですね。

――結婚式の日取りはもう決まってるんですか？

立石　5月14日です。新日本の東京ドーム大会と興行戦争なんですよね（笑）。

――興行戦争を仕掛けましたか（笑）。

立石　はい（笑）。

――もしかしたら、新日本から長州さんにオファーがあるかもしれませんよね。

立石　まだ、その辺はハッキリしてないんですけどね。

――それは実現してもらいたいですね。

北斗　俺はリキさんに仲人やって欲しいんですけどね。

――可能性はないこともないでしょうけど。

北斗　だって、僕をプロレスに導いたのは長州さんじゃないですか？　それで、彼女が働いているのも長州さんのとこだし。生意気言うようですけど、仲人としての責任があるんじゃないかなって勝手に思ってます（笑）。日にちの問題はありますけど、長州さんは基本的には出てくれるって言ってるみたいなんで。

立石　「喜んで」って言ってくれてたんで。ただ、私は試合は優先して欲しいなっていうのはあるんですよね。だから、それがどうなるかはわかんないです。チョロさんも来てくださいよ！

――僕は呼ばれなくても行くんで大丈夫です（笑）。ちょっと気の早い話ですけど、将来、子供がプロレスラーになりたいって言ったらどうします？

北斗　彼女がどう思ってるかわかんないですけど、アマチュアレスリングはさせたいですね。

立石　私もレスリングはさせたいって思ってた。

――ホント、息が合ってますね。

北斗　ただ正直言って、子供出来たってわかったときも、家のこととか、僕の仕事とかっていうよりも、リキプロをどうしようっていうのが大きかったんですよ（笑）。

——ファンも、そこが心配でしょうからね。

北斗　産休って言っても、休まないで出来るわけはないじゃないですか。少なくても3ヶ月〜半年は休まなきゃいけないと思うんで、その辺は最初凄い悩みましたね。俺的には彼女がリキプロで働いてるのも、全部、長州力を応援してるってことなんですよね。だから、「道場開放しろよ」とか、いろんなことを言ってましたからね。そのリキさんを、ここで子供が出来ました、だから彼女はしばらく仕事が出来ません。もしくは、辞めますってなって、俺が原因で長州さんを悲しい目とか苦しい目にあわせちゃっていいのかっていう部分は凄い悩みましたね。

——休んでる間、俺が代表やってやろうかとか考えませんでした？

立石　言ってた、言ってた（笑）。チョロさんとかどうですか？

——面白そうですけど、長州さんは『紙プロ』ダメみたいだし、無理だろうなぁ。

北斗　チョロさんがやったら、サダハルンバみたいになるかもしれないですよ（笑）。

——いやいや、それは無理です（笑）。

北斗　でもホント、リキプロに迷惑かけちゃうっていうのはツライですね。長州さんは「おめでとう」って言ってくれるみたいですけど、内心「まいったなぁ」って思ってると思うんでね。

——さすがに、そこで「何がやりたいんだ、コラッ！」とは言わないでしょうからね（笑）。

北斗　でも、これで辞めたりしたら、またＷＪの呪いなんじゃないかって、ファン的には面白い話になっちゃうんで、それだけは避けたいと（笑）。

——変な話ですけど、プロレス好きの2人としては、喧嘩もかなり激しいんじゃないですか？

北斗　前にエルボーで彼女のメガネをブッ壊したことはありますけどね（笑）。

立石　高いところとか見つけると、すぐムーンサルトとかするし、私、シャイニング・ウィザードもやられたこともありますよ。

——それは自宅とかでですか？

立石　はい。ＳＴＯとかもよくやられるし。

——でも、普通、家でシャイニング・ウィザードはやらないですよ！（笑）。

北斗　まあ、流行りモノはやりたくなるんでね。

立石　私、練習台ですから。

——さすがに妊娠してからは、プロレスごっこはしてないですよね？

立石　受け身を取らなきゃいけない技はやらないけど、打撃系はやられますよ（笑）。

——それはヒドイ話ですね（笑）。

北斗　愛情表現ですから（笑）。

立石　でも、プロレスごっこはしますけど、喧嘩したときは殴られたりはしないですよ。

北斗　喧嘩はしないです。まあ年齢的なところもあると思うんですけどね。

——立石代表のどこに惹かれたんですか？

北斗　まあ、長州力かなぁ。

立石　なんだよ、それ！

北斗　いい意味でも悪い意味でもトンパチっていうか、たとえば23歳でプロレス団体の代表やるっていう思い切りの良さとかは凄いと思いますね。僕らの業界にいる女の社長とかも、みんな大胆なんですよね。先のこととか、リスクを考えるんじゃなくて、「私は今を思いっきり生きればいいから」って感じで仕事をしてる人が多いんで。彼女もそういうタイプなんで、先のことは考えないで、思いっきり大胆にやっちゃうところが一番好きなところでもあるし、魅力ですね。

——プロレスファンの視点から見て、代表・立石史はいかがですか？

北斗　代表として、たいしたもんだなと思うのは、プロレス界のタブーは絶対守ってますよ、僕に対しても。それは凄いと思いますね。「教えてよ！」って言っても、「それは外には漏らしちゃいけないから」って。

——それって代表としては当たり前なのかもしれませんけど、なかなかできることじゃないですよね。

北斗　もう一つ凄いと思ったのは、リキさんがハッスルポーズをやるまでは、「お前、ハッスルポーズやってみろよ！」って言っても「できない」って言ってやってくれなかったんですよ。ホント、長州イズムを持ってますよ。

——長州さんは『東スポ』でハッスルポーズを披露してましたけど、それからはオッケーなんですか？

北斗　そっからはやってましたけどね。

立石　やってない、やってない（笑）。

——とりあえず、産休までは代表としてハッスルしてもらいたいですけどね。最後に4・16の後楽園大会の見所を教えてください。

立石　まずは、アパッチ軍との完全決着をそろそろ付けとかないと次にも進めないので、その辺で潰し合いが見られると思います。あとはもう一つ、前田さんと上井さんが来場して、一週間後に『ＷＲＥＳＴＬＥ－１』が控えてるんで、何かしら目が離せないことが起こるような気がします。

——前フリがあるかもしれませんからね。

立石　そうですね（笑）。まあ、そんな感じです。これからも、2人で頑張っていくので、リキプロ共々、応援よろしくお願いします！

【3月16日／『ルノアール恵比寿東口店』にて収録】

2人で頑張っていくのでリキプロ共々、応援お願いします！



立石代表と旦那さんのド真ん中にいるのはZST等で活躍する櫛田雄二郎。櫛田君と立石代表の旦那さんは高田道場で一緒に練習を積んだ仲間なのだ。現在フリーの櫛田君はリキプロ道場開放日には長州から指導を受けているという。元々プロレスラー志望の櫛田君は今年7月に2度目のメキシコ修行へ旅立つという

前田日明×K-1

ミラクルドッキングの背景とは何か？

上井さん！
『HERO'S』と『W-1』は
ズバリ、K-1なんでしょ!?

K-1という巨大組織が
ボクらの土台を
つくってくれてるんです



ターザン山本！
［ターザンギャルド取締役］

上井文彦
［ビッグマウス代表］

構成／ジャン斉藤　撮影／松澤チョロ　designed by bun-chan (Two Three)

3・26『HERO'S』はどのようにして突如開催が決まったのか？　なぜ"上井プロレス"の名称はあの『W-1』に落ち着いたのか？　前田日明を引っ張り出した"平成の仕掛け人"上井文彦氏にターザン山本！（新会社ターザンギャルド設立）が直撃した!!　開始30分前に到着してやる気満々炎上上等のターザン。ところが同時刻に取材のダブルブッキングが発覚！　さすがターザン、前号本誌の馬場さん座談会・市瀬氏連絡忘れ事件に続いて無駄にドラマチックだ。不幸中の幸いとでもいうべきか、その雑誌との待ち合わせ場所が本誌取材場所からたまたま近所ということで「20分でかたずけてきますよぉぉぉ！」と対談開始5分前にその取材場所へ。その後上井さんが到着し、待つこと20分後――。ターザンが怒濤の勢いで帰ってきた!!　対談スタート！

ターザン　（席に着くなり）上井さん！見事に"宝くじ"を当てましたね！

上井　（いきなりの質問に驚いて）え？（対談は）もう始まってるんですか？

ターザン　（聞く耳を持たずに）前田日明という"宝くじ"は大当たりしましたねえ。大、大、大等賞ですよ、これ！

上井　ああ、ボクも当てたような気がします（笑）。

ターザン　そうでしょ？　史上空前、前代未聞、奇跡大爆発の大当たりですよぉぉぉお!!　しかもさぁ、K-1やTBSという前後賞までもが付いてきたんだから大万々歳ものだよ!!（イスから立ち上がって）。

――お、落ち着いてください。山本さんが当てたわけじゃないんですから（笑）。

ターザン　いや、この大当たりはさぁ、みんなの共有財産になったわけだろ！　いまプロレス界は話題がなくてめっきり冷え切っていたわけでしょ？　上井さんがあの前田日明を引っ張り出すことによって、厳冬のプロレス界に暖かい春の風を舞い込ませたわけですよ。それをやってのけた上井さんは偉いねえ！

プロレス界で正真正銘かつ真実の春を迎えたのは上井さんだけですよ!!（ターザン）

上井　ありがとうございます（笑）。

ターザン　でもその奇跡的な春風をプロレスマスコミが上手く利用できていないという現状があるんだよなあ。

――山本さん的には、専門誌（紙）の前田日明の扱いには満足してないと？

ターザン　俺がもし編集長だったら、毎週のように前田日明を表紙にして徹底的に大特集をやりますよ！　だってさぁ、『ゴング』は大仁田厚の卒業特集なんかやるそうだけど、そんなの誰も読まないじゃない？　『ゴング』は絶好の躍進機会を指をくわえて逃しているわけだよ！

――そこまで言いますか（笑）。

ターザン　そういう意味では、このプロレス界で正真正銘かつ真実の春を迎えたのは、ここにいる上井さんだけだよ！

上井　そんなことはないですよ（笑）。

ターザン　（無視して）上井さん、おめでとう！　上井さんが春を独り占めですよおおおお!!

――俺だけの春（笑）。

ターザン　そう、上井さんは実は"ひとり春・独占の男"なんだよ！



K-1のバックアップを受け電撃的に『HERO`S』を開催することになった上井さん。一方、博多一揆塾の山崎さん夫妻のバックアップを受け『有限会社ターザンギャルド』を設立したターザン山本！　目指すは借金返済とのこと。

上井　いやいや、まだまだ春は遠いですよ（笑）。ビッグマウス（＝上井さんの会社）は金銭面では決して豊かになってないし、まだイベントの成否も出てないので。

ターザン　この『紙のプロレス』は『HERO'S』の大会当日、3月26日発売だから大会自体は成功しているかどうかはわからない。でも、現在進行形として確実に春が近づきつきあるでしょ？

上井　そうですね。（新日本プロレスを）辞めたときは何の計画もなかったし、プロレス復興を目標に掲げても何も具体論がなかったわけですから。そこから考えたらいまは前向きですね。

ターザン　組織を離れて一匹狼になってもこの業界自体が低迷している時代にさあ、"いったい何ができるんだ？"という疑問点がボクにはあったんですよ。しかし、上井さん！　世の中には"隠し球"というか、"切り札"があったんだねえ。前田日明は究極の逆転必殺技ですよぉ！

上井　フフフ。ボクもここまでインパクトがあるとは思わなかったです。

ターザン　前田日明の再登場、そしてK-1とのドッキングはまったく読めなかったですよ！　夢にも思わなかっただけに、まさしくこれ以上ないお得なサプライズ感がボクたちにはあるんだよなあ。

上井　ボクも最初から決めていたわけじゃないですよ。前田日明と一緒にやろうというのは。

ターザン　そうでしょ？　いったい、どうやって前田日明という"宝くじ"が転がってきたんですか？

上井　それは武内（惣／日本空手道璞名館代表師範）さんからの一本の電話ですね。武内さんからはたまたま中嶋勝彦選手のことで相談はされていたんですよ。で、武内さんは前田日明と親しかったから「上井さん、前田日明との関係はどうなっているんですか？」って聞かれて。ボクは「いまはちょっと、こじれてますけど、いまでも一緒に仕事をしたいと思ってます」と言ったんです。そこで武内さんが動いてくれて、すべては始まったというわけですね。

ターザン　上井さんの一番いいところは、過去に何かトラブルがあったとしてもそれを払拭できる知恵と勇気とパワーを持っているというか、マイナスを一転してプラスに調整する偏見のない考え方を持っているということですよ。

上井　だって、そのときは嫌なことでも年月が経てば変わっていくものですよ。前田日明の場合は、年月が経てば憎しみは倍増するって言ってましたけど（笑）。

ターザン　上井さん、それは違いますよ。前田日明という人は、怨念が倍増するとは言うけれど、こちらから礼を尽くして「前田さん、すいませんでした！」と飛び込めば大きな心で許してくれるんです。寛容精神が非常にある人なんですよ！　そう思いません？

上井　うん。山本さんの見解のほうが正しい。前田日明の心は大きいと思いますよ。だから思い切って飛び込んでいけばいいんですよ。実際、前田さんと『東ス



ポ』さんも和解しましたからね。

――『東スポ』と前田さんはフィルム強奪事件で関係が悪化してたんですよね。

上井　他にも前田日明が「昔は許さない!」と言っていた人たちと会っていますから。名前を出して悪いんだけど、『週刊ファイト』の井上譲二編集長（not井上義啓）なんかも「ボクがあいだに入りますから」とは言ってるんですよ。

ターザン　たしかにいまだに前田さんと軋轢がある人は多いですよね。その経緯や誤解を解くのは難しいけども、その厚くて高い壁を突破するべく、上井さんは猛チャレンジしているわけでしょ？

上井　それは前田さんを引っ張り出した人間として、前田日明を取り囲む良い環境をつくってあげることがボクの使命になるからです。前田日明には、やれ暴力を振るうとか悪口を言うとか、そういう悪印象しかないわけじゃないですか。それを取り払ってあげたい。

ターザン　（急に小声になって）み〜んな、前田日明を恐れているんですよ。ボクの部下だった安西記者（＝アンザイ・グレイシー）とか宍倉次長（現『週プロ』顧問）だって！　あの頃、前田日明を恐怖の人間、狂気の人間、狂気の人間として見ていたからね。

上井　フフフ。谷川（貞治＝K－1プロデューサー）さんも昔はデコピンやられたって言ってましたね。

ターザン　あのデコピンは前田日明の愛情表現の裏返しなんだけどね。それをなすがままに受けて立つ谷川氏も偉いけどさぁ。

上井　前田さんも谷川さんのことを認めてますね。「彼は頭が良い」と褒めちぎっていました。

ターザン　はぁ〜!　谷川氏と前田日明に関係を考えたら、数年前には信じられないことですよ、それは。これはもう上井さんが前田日明という人のクッション役になったおかげですよ!!

上井　ボクを中心に考えれば、ボクは放射線状に良い付き合いができているんですよ。たとえばボクはAさんとBさんという2人の人間と親しい関係にあったとしますよね。となると、ボクとAさん、Bさんのあいだで三角形の構図ができるわけですよ。でも、困ったことにAさんとBさんはダメな場合はある。そこでボクがあいだに入ることによって、三角形をつくれるんですよね。

ターザン　美しい三角形!　人間関係というのは、見事な三角関係になったときに初めてパワーが出るんだよねぇ。これは書けないけど、○○さんと前田日明では、その三角形は成立しないでしょ？

上井　難しいでしょうね。

ターザン　でも、それ以外の人間に関しては、上井さんは見事な三角形をつくりあげていますよ!　谷川氏もそうだし、そして石井（前）館長（以下、館長）もそう!

上井　結局ね、前田日明というのは3年間孤立していたわけですよ。

ターザン　マット界から絶縁していたのか、拒否していたのか、それとも自分の世界にじっと閉じこもっていたのかはわからないんだけど、とにかく独りぼっちだったことだけはたしかだよね。

上井　いまやっと表舞台で出てきてくれた。前田日明が『HERO'S』記者会見で山本KID選手たちの肩を抱えて嬉しそうな顔してたけど、あんな表情、何年もしてなかったと思うんですよ。前田日明は、俺の周りにたくさん人がいるじゃないかという意味で嬉しかったんじゃないですか？

ターザン　上井さんを通して、どんどんと美しい三角形が成立してるんだねぇ。

上井　それでね、山本さん。前田日明は長州力とも三角形になってますから。

ターザン　え!?　そうなの？

上井　まだ発売してないですけど、今度の『ゴング』（3月15日発売）の表紙は前田日明と長州力の2人ですよ。2人が極秘会談することをボクが『ゴング』に教えて、2人のツーショットだけを撮らせたんです。

ターザン　写真だけ？

上井　そうです。もう2人がどんな会話をしたのか、どんなやり取りがあったのか？　ファンは興奮しながら想像していると思うんですよ!

ターザン　それは『ゴング』だけなんですか？

上井　そうなりますね。

ターザン　それってなぜ『週プロ』じゃなくて『ゴング』だけなんですか？　上井さん、これは重要な問題ですよ!

上井　別に『週プロ』さんに変な感情を持っているわけじゃなくて、前田日明に長州さんが絡むとすれば、『ゴング』のほうが合ってるんじゃないかなって。

――『ゴング』は長州さんの色が強いですからね。

上井　あとね、前田さんは金沢（GK＝『ゴング』プロデューサー）さんをすごく評価しているんです。そんな前田日明の気持ちを考えても、『週プロ』さんには申し訳ないけど、『ゴング』さんを選んでしまった。

ターザン　レスラー側からすると、取材する人間とお互いの感性がマッチしてないとマズイもんね。しかし、そういうことを堂々と口にできる上井さんは裏表がないねぇ。好きだよ、俺（マジマジと上井さんの顔を見つめて）。

上井　でも『週刊プロレス』さんは『週刊プロレス』さんでちゃんと企画は投げようと思ってますよ。違う組み合わせだったら『週プロ』さんを選ぶかもしれない。このコンビだったら絶対に『ゴング』!　そう思うでしょ？

ターザン　上井さんが言うように『週刊プロレス』の表紙に長州さんと前田日明の2人は似合わない!　スイングしない!!　まったくショッキングじゃない!　違和



2005年のキーワードとして"再会"を掲げていた谷川氏。前田と関係が断絶状態だった時期には「前田日明とのマスコミ懇親会を実現させる会」（会員0）の理事長として「んあ〜、懇親会をやるべきですよ〜!」とうわごとのように繰り返していた。めでたく再会したいま、理事長としての野望が一歩近づいた（?）。

前田さんは谷川さんのことを認めています。「頭が非常に良い」って褒めちぎっていました（上井）

感丸出しの二重奏ですよ、これ!!

——どんな二重奏ですか（笑）。

ターザン　上井さんは決して『週プロ』を差別してるわけじゃなくて、自分の感性に基づいてやってるわけでしょ？

上井　じゃないと、こんなこと言わないですよ。

ターザン　しかし、上井さん。いままで新日本プロレスのマスコミに対する対応の仕方というのは、ある意味で高飛車というか、もう高見からマスコミを見下ろしてやってきたわけですよ。「さぁ載せろ！」という態度。上井さんはその新日本を退社して考えに変化があったのかもしれないけれど、すべての媒体と専門誌を大事に考えている発想があるよね。

上井　それはありますよ。ホントはプロレスがゴールデンタイムでやっていれば大きな宣伝になるんだけど、いまはそうじゃない。活字やインターネットで露出を多くしないといけないと思うんです。

ターザン　特に専門誌に多く露出して、前田日明が表紙を取るとか、あるいは巻頭記事に登場させようとする上井さんの拘りには強いパワーを感じますよ。

上井　ここ4週間で前田日明は専門誌の表紙を4回も飾りましたからね。現役じゃないのにそんなこと普通はありえないでしょ？　たしかに選手たちから文句が出るのはわかりますけどね。坂口（征二＝ビッグサカ）さんみたいに。

——村上和成や柴田勝頼を表紙にした『週プロ』と『ゴング』を取り上げたサムライTV！「早刷りコーナー」の生放送中にビッグサカが「いまテレビを見ています。毎日、闘っている選手たちが話題になるんじゃないんですか？」という内容で抗議FAXしたそうですね（笑）。

ターザン　でもね、坂口さんの考え方自体がもう古いんですよ。正しいんだけどまったくピンボケですよ！

上井　（きわめて冷静に）そこまでは言わないけど。

ターザン　じゃあボクに言わせてください！

——ワハハハハ！

上井　まぁ、あくまでも主催者の論理と書き手の論理は違うわけじゃないですか？　ボクは書き手の論理にのっとったものを提供しないと表紙にはなりえないと思うんですよ。ベルトを10回防衛しました、タッグのベルトを獲りましたという話題は、もしかしてそれは主催者のマスターベーションかもしれない。雑誌というのは、ファンの見たいものを提供しないといけないわけだから、話題になっているものを取り上げるのは仕方ないことですね。

ターザン　前田日明はマスコミにとって格好のネタ、最高級の素材ですからねえ。プロレスファンや格闘技ファンにとってシンボリックな存在としてのパワーが巨大というか無尽蔵にある。かつてのアントニオ猪木やジャイアント馬場もそうだったし、いまでいえば『PRIDE』の髙田延彦なんかがそう。そこに前田日明という第4の象徴が登場したことで、ものすごいファンの期待感が爆発したと思うんですよ。

上井　それはボクも感じてますね。

ターザン　その前田日明のインパクトがまず専門誌やスポーツ新聞に伝わって、そしてK-1、TBSにまでも及んだ。今回前田日明がシンボリックな存在として『HERO'S』を行うことになったのは、前田日明という地熱がいろんなところに伝導して核爆発したからですよ！

上井　おそらく前田日明がいなかったら、『HERO'S』はやってなかったでしょう。今回、ゴールデンタイムで放映できるのは、K-1の力があったからだと思いますけどね。

ターザン　TBSは大晦日の『Dynamite!!』が高視聴率をマークしてい

一回目の会見のときはこっちがビクビクするぐらい前田さんの表情は堅かった（上井）



3月1日、上井氏がプロレスイベントの名称を谷川氏の承諾を得て『W-1』に！　『HERO'S』の開催も急遽決定して一気に動き始めたビッグマウスだが、ご覧の通り前田日明の表情はまだ堅い。



1月23日、上井さんのスーパーバイザーとして3年ぶりに表舞台に登場した前田日明。なんとフラッシュを焚くカメラマンを一人一人をにらみつけながら着席！　殺気みなぎる会見になった。



前田日明×K-1ミラクル合体!!
ターザン山本！×上井文彦



『HERO'S』に参戦する腕相撲世界王者アラン・カラエフ（リングス・ロシア）と腕相撲に興じる日明兄さん。ちなみにカラエフは、ボール牧・師匠率いる「KAKUDEN外人部隊」のエースとして日本デビューが期待されていた。



K-1グループが誇る中量級ファイターが集った3・5『HERO'S』記者会見。見てみ、日明兄さんの嬉しそうな表情ったらないよ！　以前とは顔つきも変わってきた。

るんで、K-1に対しての評価がベラボウに高いわけですよ。そのK-1を通してTBSはMAXや『Dynamite!!』以外の武器を手に入れようとしている。去年つまづいた『ROMANEX』のかわりとしては、今回の『HERO'S』はいいタマに見えているはずですよ。

上井　ファンは『ROMANEX』が『HERO'S』に移行したとは思ってないじゃないですか？　そういうイメージチェンジができたことはK-1にとっては幸運ですよね。

ターザン　当然、上井さんはK-1やTBSの手応えを感じてるんですよね？

上井　前田日明と上井文彦が総合（格闘技のイベント）をやるのなら、K-1やTBSがバックアップしてくれるという話でしたからね。ボクや前田日明がやることをテレビやファンが評価してくれれば、プロレスイベントの『W-1』にも良い意味で繋がりますよ。

ターザン　今回のK-1のスタンスは面白いよ。決して表に出ないで、裏に回って上井さんや前田日明をしっかりとバックアップしている。この構図は新しい評価すべきスタンスですよ！　いままでは石井館長が後ろで構えていて谷川氏が全面に出ていたけれど、今回の『HERO'S』は2人が揃って裏方にまわっている。

上井　ボクも理想的な関係だと思いますよ。『HERO'S』に関しては、このかたちが一番いいと思いますよ。やっぱりK-1が持っているイメージは立ち技だとボクは思っているし、なぜ総合をやるの？　と疑問を感じているファンや関係者はたくさんいるんじゃないかと思うんです。そういう人たちのためにも、前田日明が前に出ることはいいことですよね。

ターザン　絶妙な構造、最高の友好関係、ベストな提携関係!!　この関係を確立するために、どのようなトップ会談が実現して、どんな申し合わせをしたんで

2回目の会見から前田日明の表情に余裕がにじみ出てきたよねえ（ターザン）

すか？

上井　申し合わせというか、話は突然やってくる。いつも！

ターザン　え？　突然やってくる!?

上井　ボク、谷川さんを一言で表現するなら、〝ある日突然〟ですから。

ターザン　ああ、なるほど、たしかに！　谷川氏は本当に〝ある日突然男〟ですよ！　曙のときもそうだったし、武田幸三のときもそう！　全〜部〝ある日突然〟やったんですよ、谷川氏は。

上井　中西（学）のK-1参戦のときもそうですよ。「上井さん、話がありますす。これは絶対にやらないといけないんですよ〜」って（笑）。

ターザン　つまり、谷川氏は無理難題を綺麗に取りまとめる〝最強の使者〟なんだよ！

上井　いまK-1さんとお仕事させていただいてますけど、一番頂上に石井和義という強烈なカリスマがいて、その下で谷川さんを始めいろんな関係者たちが土台として支えている。K-1は組織として完璧に成り立っているんですよ。

ターザン　その完璧な組織をコントロールしている石井館長は大した人物ですよねえ。

上井　ホント凄いですよ。ボクが一番ビックリしたのは、1月に館長と食事をしたときに「上井さん、こないだ〈×××〉にでかく載ってましたよね」と言われたこと。館長が〈×××〉のことを読んでいるのにビックリしましたね。

ターザン　普通は読むわけないですよ!!

——山本さんも〈×××〉で連載してますけど（笑）。

ターザン　（無視して）記事はトバシもトバシ、面白いぐらいのトバシ記事のオンパレードなんだから！

上井　それを館長がチェックしているんですからね。もしくは周りにチェックさせている。それくらいプロレスマスコミ

がどういうことを書いているか調べてるんですよね。ホントに驚きました。

ターザン　組織の長として一番大事なことは、チェック能力のネットワークがあるってことですよ！　石井館長はそういうシステムをしっかり確立しているんだよね。

上井　そういう意味では、新日本プロレスという会社はただの集まりだった。健全なる会社組織じゃなかったんですよ。

ターザン　しかし、館長は表に出なくなったことで、逆にきめが細かくなったわけだねえ。

上井　話をすると、本当に鋭いことを言いますからね。

ターザン　館長はシビアでビジネスマンとして切れる考えを持っているでしょ？

上井　シビアです。そのシビアな石井館長に唯一真正面からものが言える前田日明も凄いですよ。男と男の闘いをしてましたねえ。

ターザン　それは信じられない光景ですよ!!　むかしのリングスと正道会館の関係を考えたら。

上井　だから、前田日明もここ3年間のあいだに彼の心を深く広くすることがあったんだと思いますよ。

ターザン　K-1と前田・上井コンビのパワーバランスはこれからどうなっていくんですか？

上井　パワーバランスは絶対にK-1さんに重きがあるべきですよね。K-1はボクらの土台をつくってくれてるわけですから。ボクらは所詮、K-1さんの手のひらの上ですよ。

ターザン　それは非常に良い意味での〝手のひらの上〟ですよ、上井さん！

上井　そうなんですよね。その〝手のひら〟でボクたちがどうやって面白いことをやっていくのかが問われるんですよね。ボクと前田さんが2人でやるよりもK-1さんと組むことでもっと大きなことができると思ってますから。だってK-1には紅白（歌合戦）の裏で平均20％の視聴率を獲った手腕があるわけでしょ？　あのTBSが頭を下げてくる実績があるわけですよ。だからその媒体をフルに利用したいから、ボクらは乗っかるんじゃなくて乗っけてもらっているんです。

礼を尽くして飛び込めば前田日明は大きな心で許してくれるんですよ（ターザン）

ターザン　いやぁ、上井さんはビジネス感覚が抜群というか、ビジネスのパートナーシップが非常に優れているねえ。

上井　ボクらは2人でやっても記事にはなる。でも利益にはならない。利益を目指すのなら、石井館長や谷川さんが持っている巨大な組織の上に乗っけてもらうのが一番だと思ったわけですよ。

ターザン　ボクはね、上井さんと前田日明、谷川氏と石井館長という関係をもっと大きく打ち出したほうが面白いと思うんですよ！　『HERO'S』も『W-1』もズバリ、K-1がやっていると！　その象徴として前田日明がいて、上井さんが支えていると！　これがマット界の新しいスタイルですよと満天下にアピールすべきなんですよ！　だって前田日明、上井さん、K-1、この三角形は誰もが美しいものとして見てると思うんですよぉぉぉぉ!!バンバン!!（机を叩いて大炎上）。

上井　でも、それを言ってはいけない不文律みたいなものがK-1にはあると思うんですよね。それはそれでボクは構わないとは思うんですよ。

ターザン　でも、ファンや関係者は、上井さんと前田日明の背後にK-1がいることは誰もわかっていますよ！

上井　実際、K-1は総合から撤退すると言ったんだから、ボクや前田さんがK-1の総合（格闘技イベントを）を預かっているというアピールでいいとは思うんですよね。ボクはプロレスに戻りたいと思ってますから、前田日明に良きアドバイザーが現れたら、ボクは引っ込んでプロレスに専念しますけど。前田日明には、ボクよりもっと相応しい人間がいるんじゃないかなって。それにここ最近、前田さんの表情が急激に昔の前田日明に戻りつつありますから。

ターザン　2回目の記者会見のときから、前田日明という人の表情が穏和になったというか、いい顔になったというか、余裕がにじみ出てきたよね。

上井　一回目の会見のときはこっちがビクビクするぐらい堅かったですよ。あのときはホント凄かった。記者会見で殺気を感じたのは初めてだもん。

ターザン　も～うギスギスしてたんでしょ？　3年間もボクらの前から消えていた時間があの会見で一気に爆発したわけですよ。損得という言い方はしたくないけど、その怨念の爆発で一番得したのは、上井さん、あなたですよ！

上井　ボクが一番いい思いしてますよね（笑）。ホントに。

ターザン　幸せ者ですよぉ。もう関係者、選手、ファンから上井さんへの賞賛の声が殺到してるでしょ？　違います？

上井　大反響がありますよね。『HERO'S』のチケットも売れていますから。

ターザン　『HERO'S』のチケット料金を1万円と6千円の二本立てにしたのは誰のアイデアですか？

上井　いや、その辺のことはわからないです。みんなの総意だと思いますよ。急なことだから、低価格にしてたくさんのお客さんにライブで見てもらおうということですよね。

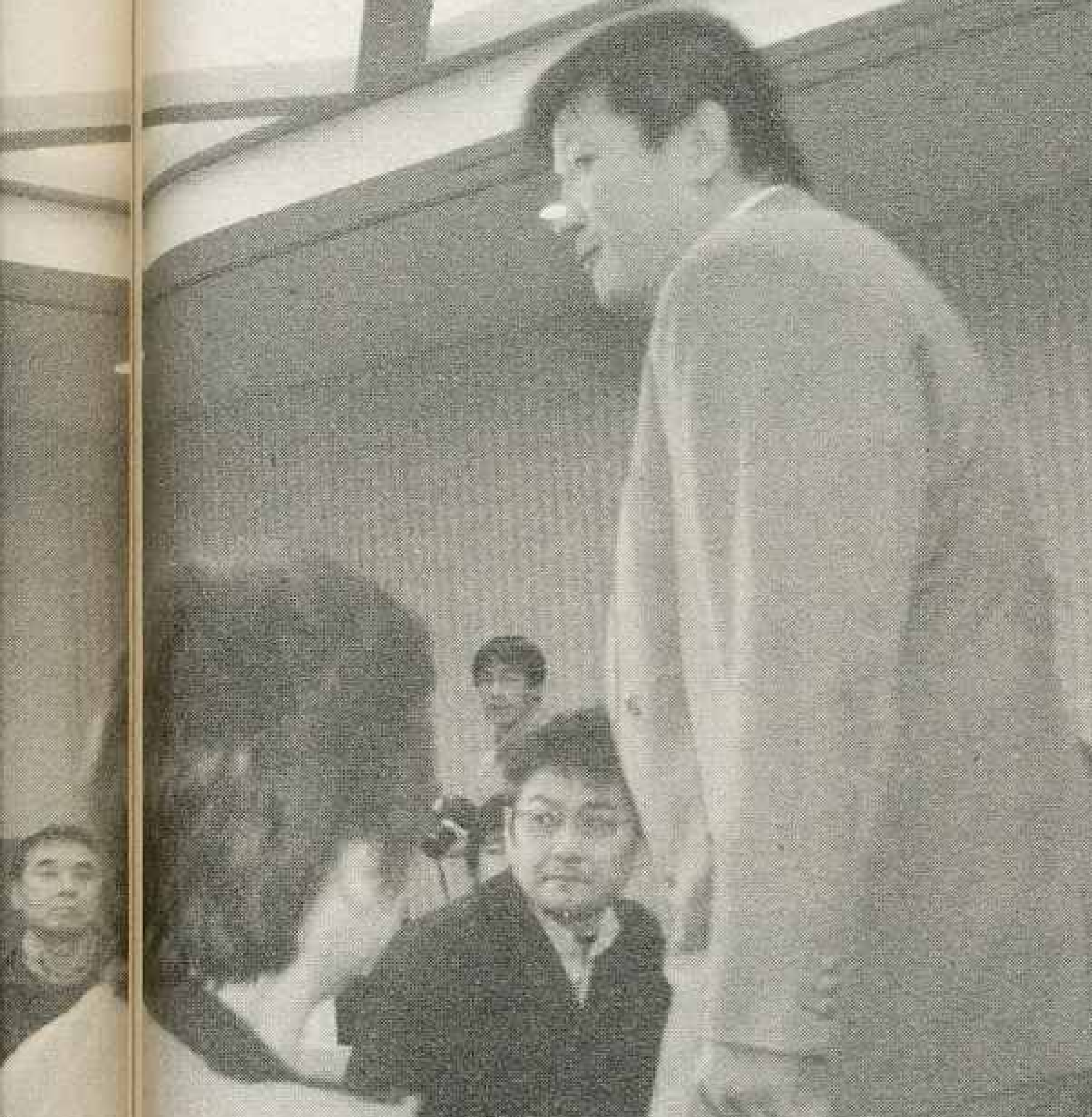
ターザン　これはなかなかできないことですよ！　料金設定というのはいまの時代で重要なテーマなんだから。

上井　TBSのゴールデンタイムで放映できることが心の余裕になってますよね。じゃないとこんな価格設定にはできない。K-1さんの論理では、ゲート収入は最後に考えるんです。つまりどういうことかというと、いちばん大事なのはテレビの放映権料。これは確実な収益じゃないですか。あとスポンサードも確実。このふたつの収益で経費と選手のギャラをペイする。

ターザン　そのふたつで楽勝にペイできますよ！

上井　で、ゲート収入が直接的な儲けになるわけですよ。たとえば『HERO'S』でいえば、1万円のチケットが1万枚売れたらそのまま1億円の売り上げが生まれるわけですよ。

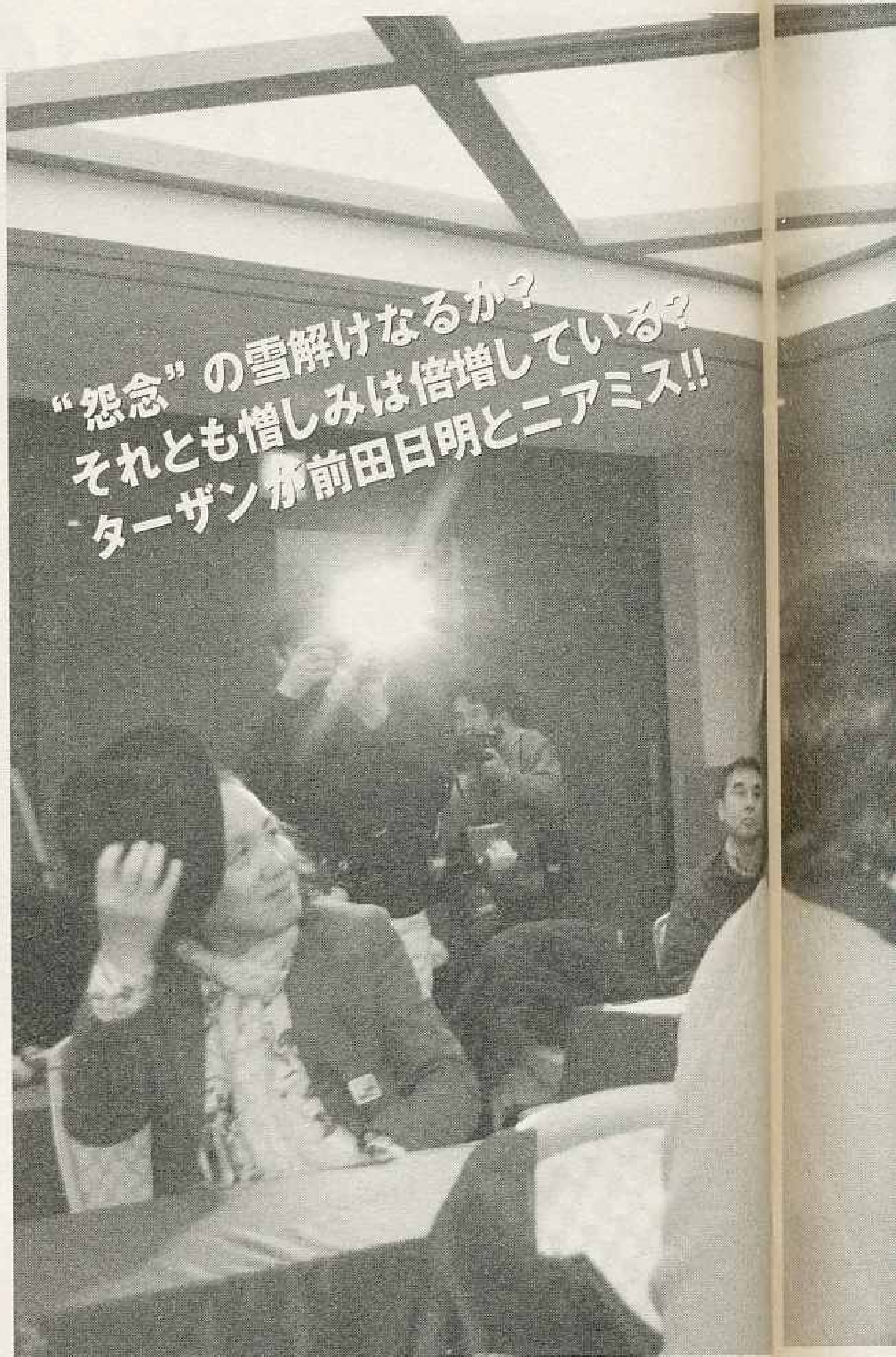
ターザン　でも、上井さんは新日本の営業部出身だから、すべてをチケットの儲



3月1日に開催された『HERO'S』記者会見で前田日明は退席する際、なんと長きに渡り関係を断絶しているターザンに視線を向けた!!　のではなく、ターザンの隣の人に挨拶。ズコッ！　勘違いして帽子を取って挨拶しようとするターザンの立場って……。とにかくかつて「リングス断筆」宣言をしたことがあるヤスカクおじさんも見守る"SADAME"な風景!!



けで賄うシステムでやってきたわけでしょ？　そこに違和感は感じないの？
上井　それは旧態依然としたやり方なんですよね。最大で売れたらこれだけという計算をもとに興行を打つわけですけど、フルハウスになるなんてわかりっこないじゃないですか。
ターザン　その通り！　その構造自体が旧式も旧式、大旧式なんですよ！
上井　ゲート収入という不確定なものをアテにして、それで経費やギャラをまかなって、そして収益をも弾き出すなんていまの時代には無理がありますよ。
ターザン　でも、新日本や全日本はその不確定要素の強いチケット収入をプライオリティにしてきたんですよ。これからもきっとそうですよ。そういう意味でも、ボクは3・26の『HERO'S』のチケットがどういう売れ具合なのか？　どれだけの客が入るのか、そこが非常に興味深いですねえ。
上井　たしかに面白い実験ではありますよね。
ターザン　上井さん！　ボクはここで断言するよ。こういう短い準備期間で突発的に打つ大実験は絶対に成功すると！
上井　山本さんにそう言ってもらえると心強いです（笑）。
ターザン　だって10・9新日本vsUインターの全面対抗戦はあんなに短い準備期間で大成功だったわけじゃない？　今回も大成功は間違いないですよ!!　もうこれは前田日明というシンボリックな存在が出現したことで、マット界に春一番の突風が吹いたんですよ!!
上井　やっぱり前田日明の何が支持されているかといえば、紛いのない真実味だと思うんですよ。み～んなウサン臭いじゃないですか。
ターザン　ウサン臭いねえ！　前田日明以外はみんなどこか少しずつウサン臭いですよぉぉぉ!!
上井　前田日明には真実味があるもん。言ってきたことと、やることが同じじゃないですか。引退したら絶対にリングに出てこない。本人は何回も出たかったと思いますよ。それでもカムバックしない男の信念が前田日明にはあるんです。でも、ボクはリングに出したいですよ！　どうにかして前田日明にトレーニングさせてリングに上がらせる算段はできないかなって（笑）。
ターザン　ボクとしてはね、馬場vs猪木という2団体対立時代を経て日本マット界が発展してきたわけだし、やっぱり『PRIDE』vs『HERO'S』、つまりはそのシンボリックである髙田延彦vs前田日明という構図で互いに切磋琢磨することが大きな刺激になると思うんだよね。BI対立時代以来の大型対立構造をつくれる大チャンスだと思うんですよ！
上井　ボクもそれでいいと思いますよ。そうすれば業界自体が活性化するんじゃないですか。
ターザン　3月26日の『HERO'S』と4月3日の『武士道』、4月23日は『W-1』と『PRIDEミドル級GP』のバッティング！　まさに『PRIDE』vsK-1の対立構造ができてますよね、じつに！
——ちなみに3月26日は新日本プロレスの両国大会もありますけど。
ターザン　すべてが後手、後手にまわったド周回遅れの興行ですよぉぉぉ！
——ああ、競っているんじゃなくて、新日本がド周回遅れしてのバッティングでしたか（笑）。
ターザン　IWGP挑戦者決定トーナメントが話題にならないから、今度は小島（聡）と中邑真輔の一騎打ちを急に持ち出してきて、ニッチもサッチもいってない苦しい現状を恥ずかしげもなく告白してるようなもんですよ！　新日本はすべてにおいて出遅れている！
——『HERO'S』開催が急遽決まったことで新日本もかなり焦っているのはわかりますよね。
ターザン　ボクらが注目すべきは『PRIDE』vsK-1！　こういう対立構造を意識的に仕掛けているのは石井館長しかいませんよ。最終的なキーワードは石井館長！　マット界全体をひとつの生態系として考えたら、石井館長がすべてをわからないように動かしているわけですよ。違う、上井さん？
上井　そうかもしれませんね。石井館長はあのビンス・マクマホンを超えていると思いますから。
ターザン　単に『PRIDE』に勝とうとかそういうことは思っていない。この業界の発展が館長の大きな狙い、それこそがはてしない野望なんですよ！
上井　館長はグローバルに見られていますから。ボクらとは本当に視野が違いますよ。
ターザン　石井館長がいる。髙田延彦がいる。上井さん、そうすると、猪木さんという存在はいったい何なんですか？　ボクはハッキリ言うよ。（急に小声になって）もうボケてるでしょ、猪木さん。
上井　そう言われましても（笑）。
——ガハハハ！　上井さんが困ってますよ（笑）。
ターザン　だって、もう寂しい存在じゃない、ボクらの大ヒーローだった猪木さんは。主役の座から転がり落ちてさぁ。
上井　こうなったら、アントニオ猪木は、一度は前田日明とリング上で対決しないといけないでしょうね。ボクとしてはぜひ実現させたい。ファンはその対決を見たいはずですよ。どんな素晴らしいカードを組んだって、アントニオ猪木vs前田日明という究極のカードには敵わないと思っていますから！
ターザン　それは上井さんのライフワークとしてあるの？
上井　やりたいですねえ。もう何が起こるかわからない。前田さんは猪木さんに対してメチャクチャ文句を言ってますしね。もしかしたら猪木さんが「1、2、3、ダー！」をやるときに前田日明が蹴りを入れるかもしれないわけですよ!!


"怨念"の雪解けなるか？
それとも憎しみは倍増している？
ターザンが前田日明とニアミス!!

前田日明に良きアドバイザーが現れたら ボクは引っ込んでプロレスに専念します（上井）

前田日明×K-1ミラクル合体!!
ターザン山本!×上井文彦

ターザン　いやぁ、上井さんも凄いことを考えているねえ（笑）。

上井　ボクはそれが見たんです。両方ともすごいプロデューサーじゃないですか？　その2人をリングでいったいどういう絵を描くのか興味深いですよね。

ターザン　2人に共通するところはいっぱいあるんですよ！　圧倒的な自信家にして自惚れ屋、そして有無言わせずおいしいところ取り、さらにファンやマスコミを非常に気にする、優秀な部下や選手が自分のもとをみんな去っている！　そんな2人がやりあったら、どうなるかわかりませんよ!!

上井　いずれ『W-1』でやりたいですね。猪木さんが「嫌だ！」と言ったらそれまでですけど。

ターザン　でも「嫌だ！」と言ったら猪木さんの株が下がるでしょ？　言いたくてもボクは嫌とは言えないと思うよ！

上井　前田日明はすでに臨戦態勢ですからね。

ターザン　そういうことを考えて2人をなんとかしようとしている上井さんは幸せな男だねえ（目を丸くして）。

上井　プロデューサーとしては最高に面白いですよね。

ターザン　いまマット界で自分の立場を一番楽しんでいるのは上井さんですよ！

上井　楽しんでいるというか、もうヨレヨレですけどね（笑）。

ターザン　幸せ疲れ！　すべては上井さんの情熱がもたらした騒ぎなんだよねえ。この世界で一番大切なのは熱意と情熱だったことが上井さんの行動よって証明されましたよぉぉぉ！

上井　ボクはホントにプロレス界を復興させたいと思っている。ボクの思いはそれだけですよ。

ターザン　なぜそんな上井さんを新日本はやめさせたんでしょうねぇ。

上井　いや、だからみんなが手柄を立てたくて、ボクが表に出るのをひがんじゃったんじゃないですか。

ターザン　マット界のキーワードはいつ何時でも嫉妬だからねえ。

上井　ボクがやったところで新日本の経営は改善しなかったわけじゃないですか？　だからボクが退いて良くなればと思ってましたけど。

ターザン　そう考えると、上井さんがプロデューサーとして新日本でやってきた2年間は本当に美しかったねえ！

上井　いや、ボクがひとりで無駄にお金を使ったことになってるんですよ（笑）。

ターザン　いや、上井さんがいなくなったことで新日本は大急降下、墜落寸前ですよ！　ダッチロール状態で墜落寸前！　パチパチパチ！（なぜか大拍手）。

——ビルの大爆破を見学しているかのような興奮ですね（笑）。

ターザン　上井さんがもし新日本に残っていたら、こんな墜落は免れた。上井さんはちゃんと仕切ってましたよ！

上井　いやいや、そんなことないですよ（笑）。ボクだって同じような迷走をしていたと思いますけどね。

K-1の“手のひら”でいかにして面白いことをやれるかが問われてくるんです（上井）



【うわい・ふみひこ】『HERO`S』、『W-1』開催と大忙しの上井氏。ビッグマウスとしては、前田日明の許可を得てUWFグッズ販売を考えている。「紺色の旧UWFジャージをつくります！　吉田（豪）さんがほしいと言っているんですから、みんなほしいに決まってますよ!!」と熱く力説!!　な、何事にも熱血全力投球だ!!

ターザン　（まじまじと上井さんの顔を見つめて）墜落寸前の新日本から脱出できて、前田日明と再会して、上井さんも強運の持ち主だねえ。

上井　運は強いと思ってますね。前田さんとこういうかたちで仕事もできて。

ターザン　上井さんもボクも山口県だけど、山口県人は運が強いんですよ！　シーザー武士さん、長州さんも山口県出身。山本宣久、大谷晋二郎、佐山聡もそう。最強だねえ、山口県人は！

上井　藤田稔もそうですよ。

ターザン　一癖も二癖もある人間ばっかりだ。み〜んな、ワガママだしさ。

上井　あとシュートボクシングの緒方健一選手も山口県ですね。

ターザン　え？　緒方さんもそうなの？……みんな野心家でエゴイストの塊ですよ!!

上井　メチャクチャですよね（笑）。

ターザン　今日の結論がわかったよ!!　それは山口県が最強ということですよぉぉぉ!!　上井さん、今日はありがとう!!

上井　こちらこそ、ありがとうございます（笑）。

——どんな締めですか（笑）。最後にひとつだけ。山本さんは前田日明のもとへ飛び込まないんですか？

ターザン　え……？（炎上から一転して固まる）。

——いや、さっき山本さんは「こちらのほうから『前田さん、すいませんでした！』と飛び込めば大きな心で許してくれる。寛容精神がある人なんですよ！」と言っていたじゃないですか？　さぁ山本さん、長年の凍結関係に終止符を打つ決断のときです（笑）。

ターザン　それは、これからのお楽しみですよぉ（もったいぶりながら）。長州力が前田日明と会ったでしょ？　次は前田日明と猪木さんでしょ？　本当のメインイベントは、そのあとですよぉぉぉ！

——真のメインイベントは前田日明vsターザン山本！だったとは（笑）。

ターザン　本当に本当に美味しくて贅沢で極上なものは、最後の最後に取っておくべきなんですよぉ。ボクはじ〜〜〜っと黙って、そのメインイベントのゴングを待ちますよ。

上井　いずれ、ボクと山本さんと前田日明の3人で講演会でもやりましょうか？

ターザン　や、やりましょうよ……（声にならない声で）。

——なんで小声なんですか（笑）。

上井　やるんだったら、UWFの香りがまだ残っている徳島がいいですよねえ。

ターザン　フクタレコードの福田さん（＝第二次UWF徳島大会をバックアップしていた名物店長）もいるから。あと徳島は野菜も魚も美味しいねえ。

——前号の馬場さん座談会に引き続いて、また食べ物の話ですか（笑）。

ターザン　上井さん、UWFというのは不滅なんだね！

上井　滅びているんだけど、精神だけは生きているというか。その精神で頑張りたいですね。『HERO'S』が終わったら『W-1』もありますし。

ターザン　UWFという精神は、時代性を飛び越えてブーメランのように戻ってくるんだなあ。

——前田日明、髙田延彦もUWF。上井さんもそうですよね。一度はこの業界から消えかけた人たちばかりですよ。

ターザン　ボクだって消えかけたUWFですよぉぉぉ!!　UWFバンザ〜イ！　上井さん、前田日明バンザ〜イ!!

【3月12日／後楽園『コロッセオ』にて大炎上!!】

髙田延彦



『HERO'S』？
3年経ったら聞きに来なさいよ

聞き手／山口日昇　構成／ジャン斎藤　撮影／森モーリー鷹博　designed by Tani-Yan（Two three）

桜庭vs田村というカードは、今年中に実現させなければならない

—本部長！　今日は、4月23日に開幕する『PRIDEミドル級グランプリ（以下、GP）』の展望と、風雲急を告げるマット界の状況について話を伺わせてください。

髙田　私が話すことはないだろう？（爽やかに）。DSE代表に話を聞いたほうが早い。とくに外のことについてはね。

—その〝外のこと〟で、みんなが本部長の声を聞きたがってますよ。

髙田　そうなの？

—はい。とくに本部長の〝古くからの知り合い〟が表舞台に復帰したことについてなんですが。

髙田　〝古くからの知り合い〟って、髙田総統のこと？

—そうきましたか！

髙田　違うの？

—では、その髙田総統の話から始めましょう（笑）。その髙田総統が出没する『ハッスル』に、インリン様という高貴な女性が登場しているのはご存じですか？

髙田　インリン様？　知らない……って知ってるよ。

—ボケツッコミですか（笑）。

髙田　新聞で読んだ。

—そのインリン様が2月の『ハッスル・ハウス』で「セクシーな男とは、フンドシ一丁で魅せられる男のことを言うのよ」と定義してたんですよね。それを聞いて思い出したんですが、昨年の『男祭り』でフンドシ一丁で太鼓を叩いた本部長の引き締まった身体は、セクシーというよりは凄まじく鍛えている印象を受けましたね。

髙田　私は週に4日、趣味程度の運動しかしてないよ。

—週に4日！　常にシェイプアップを心掛けているわけですね。

髙田　自分の一番いいときの身体を知っているからね。崩れていく自分の姿は許せないんだ。現役のときでも、試合が終わって10日ぐらい休んだら、とたんに身体が変わってしまう。フィジカルなことも影響して、筋肉がベロンと垂れ下がってくるからね。

—本部長の美学的には、そういう弛んだ身体は許せないと。

髙田　単純に好きということもある。汗を流すこと、トレーニングすること。それと、その合間にたまに鏡を見ることもね（笑）。

—それはナルシストでもあるということですよね。もちろん、いい意味ですが（笑）。

髙田　そうだね。私は引退したけど、プロファイターはいい意味でナルシストじゃなきゃダメだよ。それが鼻につくくらいになると気持ち悪いけどね。

—で、インリン様は「セクシーさには哲学と思想が必要だ」とも言っていました。これは「セクシー」だけにかかわらず、何事にも当てはまることでもありますよね。

髙田　それはそうだろう。例えば『PRIDE』というイベントにだって思想や哲学はとても大事な軸になってくる。

—その『PRIDE』は、いよいよ『ミドル級GP』が開幕するわけですが、このGPこそが〝世界最強〟を目指す『PRIDE』の思想と哲学がギッシリ詰まっている闘いと言えますよね。

髙田　GPというイベントのスタイルを通して、ファンに『PRIDE』の理念を伝えやすくなっている。いま現在『PRIDE』にとって最も重要なコンテンツのひとつだよ。これを10年先20年先も続けているかどうかはわからないけれど、当面5～6年は、このGPのスタイルを続けるべきだと思うよ。



髙田延彦vs前田日明 2005年マット界!!

—新体制になって、『PRIDE』が大きな潮流を生み出すきっかけになったのが、一昨年のミドル級GPでした。それまで何かに縛られていた感もあった『PRIDE』が、自力で大きな流れを作り出していきましたね。

髙田　あれから非常にいい流れになっているよね。『PRIDE』にとって大きな分岐点となったその一昨年のミドル級GPと現在を比較しても、『PRIDE』の見え方、色合い、選手のモチベーション、そして実力のレベルも大きく変わってきている。非常にいい意味でファイターの意識もプロ化している。プロを感じさせる試合内容、プロを意識したコメントが多くなっているよ。

—このまま行けば、今年のミドル級GPも凄いことになりそうですね。

髙田　間違いないだろうね。

—まだ参加16人全員は決定していませんが、強豪外国人が多く参戦することで、日本人選手が勝ち残ることができないんじゃないかという風評もあります。本部長的にはどう思いますか？

髙田　そんなことはないだろう。出場が決まったサク（桜庭和志）、吉田（秀彦）選手、近藤（有己）選手たちは十分に優勝を狙える位置にいると思う。厳しい闘いになることは明らかだけど、それは日本人だけに限らず、どの選手でも同じことだと思うよ。それはヴァンダレイ・シウバにとっても同じだろう。

—前回のGP覇者にして現役ミドル級王者でさえも過酷な闘いを強いられる。

髙田　ダン・ヘン（ダーソン）も満を持してGPに出てくる。ランペイジも復讐の牙を研いでいる。本命なき闘い、裏を返せば、すべてが本命となるトーナメントになることは間違いない。

—ところで、桜庭さんは内に秘めたるモチベーションが高くて、密かに優勝でも狙ってたりするタイプですけど、本部長からはどう見えてるんですか？（笑）

髙田　サク本人からは、8月の決勝ラウンドを見据えている気持ちは感じる。言動の端々にその覚悟



"欧州の柔道王"ポール・ナツラは、6月『PRIDE』登場を予定している。そして、榊原DSE代表が欧州・中近東視察旅行でレスリングのトップアスリートと接触。いますぐの大活躍は現実的に厳しいが、オリンピック系アスリートのポテンシャルを持ってすれば、数年後には"vs叩き上げ"の構図ができていてもまったく不思議議ではない。

これから『PRIDE』には"アスリート系vs叩き上げ"という構図が生まれる

が見える。

―身近にいる本部長がそう感じるなら頼もしい限りです。桜庭さんは、マスコミというか他人には、いつも煙に撒くような発言しかないですからね（笑）。

高田　サク自身、厳しい闘いになることは当然わかっているだろうけど、サク本来の動きが100%できたら当然ファイナルまで残れるという自信はあるだろうね。

―サクちゃん本来の動きをするには、当然コンディションが問題になりますけど、本部長の目から見てそこはどうなんですか？　とくに昨年大晦日の『男祭り』を欠場する原因となった肋骨の骨折ですが。

高田　肋骨の骨折は、古傷になるようなネガティブな大怪我ではないんだよ。非常にコンディションがいい中での偶発的な怪我だったから。むしろ、そのお陰と言ってはなんだけど、古傷のヒザを休ませることもできたんだよ。

―それは不幸中の幸いでしたね。去年のヘビー級GPでは、セルゲイ・ハリトーノフという伏兵が衝撃的に現れましたが、今回は誰が伏兵になる予感がしますか？

高田　（マウリシオ・）ショーグンと（イゴール・）ボブチャンチン。

―やはりあの2人！　とくにショーグンは24歳と若くてどう猛。非常にやっかいで危険な存在ですよ。

高田　当然、ショーグンは大型台風になるよ。私はボブチャンチンにも強く注目したい。だって彼はまだ31歳だからね。

―ボブチャンチンは一時期、再生不可能といった雰囲気も漂っていましたが、藤井軍鶏侍や高橋義生との試合では、かつて『PRIDE』のトップとしてマーク・ケアーたちと凌ぎを削っていた頃の破壊力に、スピードがプラスされてましたよね。

高田　パンチの重さは落ちてないけど、カミソリのようなスピードを身に付けてきた。並のファイターならあり得ない復活劇だよ。『PRIDE』というリングは一度沈んだら、なかなか浮上できないシビアな場でもあるからね。

―落ちるのは簡単だけど、這い上がるのはとにかく厳しいリング。多くのトップファイターが姿を消しているわけですからね。

高田　誤解がないように付け加えるならば、ボブチャンチンが衰えたんじゃなくて、周りがレベルアップしすぎたところもあるんだよ。

―ああ、それは絶対にありますね。

高田　彼は遅れを取った。これはコールマンにも言えることなんだ。でも、前回のミルコ戦のときのコールマンは、モチベーション、コンディショニング、すべてにお



髙田延彦vs前田日明 2005年マット界!!

強豪がひしめくミドル級GP出場者のなかでも、ズバ抜けたどう猛さを誇るショーグンと、大復活を遂げたボブチャンチンの躍進は大きく期待されている。"世界最高峰"の舞台によく映えるファイターたちだ。

いて過去最高潮だったと本人は言ってたんだよ。

―去年のヘビー級GPでは、あのヒョードルでさえコールマンの圧力には押され気味の場面もありましたね。40代にして、彼はいまだ一流のファイターですね。

髙田　にも関わらず、ミルコはまったくコールマンを寄せつけずに完勝してしまった。もう私たちが想像する以上にトップの壁が高くなっている証拠だよ。話を戻すと、コールマンやボブチャンチンが落ちたんじゃなくて、ミルコ、ヒョードル、ノゲイラの3人が異常な速度でリングのレベルを引き上げた。周囲が異常にレベルアップしている中で、ボブチャンチンもジワジワと軌道修正して追いついてきた。諦めずになんとかトップに食い込もうとする日々の努力の賜物だよ。それが、強者の藤井軍鶏侍や、高橋選手をキッチリ仕留める結果につながっているんだよ。

―ボブチャンチンの身体を見ても、日頃の鍛錬の度合いがよくわかりますよ。

髙田　ボブチャンチンが表舞台から消していた時期の裏側を想像するだけでも、彼のリングに懸ける思いを感じられるよ。

―ボブチャンチン一人だけすくい上げても、そこには強いドラマ性が見え隠れしている。そして桜庭さんやヴァンダレイといった、強い思い入れを持って見られる選手もいる。吉田選手の出方や闘いぶりもド注目ですし、GPという競技性の強いイベントの中でも、個々の色合いが明確に浮き出てきそうですよね。

髙田　そうだね。より多くのお客さんがより強い思いを持って見れるということは、イコール発信力、遠心力、求心力が強いということだから。その熱気を世界に発信できれば、世界レベルのアスリートたちが『PRIDE』という場に目を向ける大きな材料になる。いろんな意味での波及効果があると思うよ。

ショーグンがグランプリの大型台風になる ボブチャンチンにも強く注目したい

―オリンピック系アスリートからの転校組からでは、ヘビー級では"欧州の柔道王"ポール・ナッラの『PRIDE』参戦も決定しましたね。

髙田　レスリングのルーロン・ガードナーもいる。ミドル級にも金メダリスト級の選手が次々と参戦することになるだろうし、ひとつの見方として"オリンピックアスリート系vs『PRIDE』の叩き上げ"という構図が生まれるわけだよ。

―ああ、なるほど。

髙田　叩き上げのファイターには「メダリストだから何だ!」という対抗心が出てくるはずだよ。

―ヴァンダレイなんかは叩き上げ中の叩き上げですからね。そうなったら圧倒的な闘争心を燃やしてくるでしょうね。

髙田　ランペイジも同じ。彼らはPRIDEファイターとしての誇りを強く持っている。アスリート系がどんどん増えることで、叩き上げ組がさらにドン欲になってくる。5年後の生態系がどう変わっているのか楽しみだよ。

―髙田道場入りしたナッツラの練習を見て、その確信をより深めたところもあるわけですか?

髙田　凄いよ、ナッツラは。柔道の戦績を見れば一目瞭然。

―"312連勝"の柔道公式レコードは異常とも言えますね。

髙田　私は彼を"リアル・ヒクソン"と称したけど、寝技の実力もヒクソンを遥かに超えている。とにかく寝技のバリエーションが多い。そして彼は柔道衣を着る・着ないにこだわりはない。相手のスタイルによって着たり脱いだりしようと考えているんだ。吉田選手が使ってるような道衣技も含めて、『PRIDE』で見られなかった実践的なグラウンドの技術をどんどん見せてくれるはずだよ。それこそノゲイラとでも闘うことになれば、ゾクゾクする寝技合戦になることは間違いないね。

―ああ、ノゲイラvsナッツラはぜひ見たいですね。

髙田　業界のナッツラに対する評価は非常に高い。でもいざ試合になったら、こればかりはどうなるか

わからない。そこが『PRIDE』の怖さだろう。

——髙田さんは、PRIDE統括本部長として、髙田道場所属のサクちゃんとナツラが仮に負けてしまったとしても、いい意味で納得できる線引きができてるような気がしますね。むしろ『PRIDE』というリングは、期待の星や団体のエースであろうと一瞬で潰されてしまう残酷さを兼ね備えていないと存在意義がない、という意識になってきてませんか？

髙田 私も、ファンや関係者の巨大な期待を一身に背負ったサクが、無残にも負けてしまった姿を何度か見てきてるからね。現実的な光景を目の当たりにすることでかなり鍛えられてきたよ。

——それはボクも一緒ですね。本人を目の前にして言うのもなんですが、本部長vsヒクソン戦から始まり、最近でいえば小川直也の敗戦まで。これでもかと、『PRIDE』のリングはファンの夢や想いを喰い続けて、巨大化して、しかも信頼感まで勝ち得てる。とてつもない怪物ですよ（笑）。

髙田 もうどんなヒーローであっても、時と場合によっては痛烈な仕打ちを受ける。『PRIDE』でもっとも支持を受けてきたサクの負けを通して、私も教育されて鍛えられた。でも、だからと言って、サクが負けてもしょうがないということではない。いまはむしろ、サクの背中を「行ってこい！」と力強く押せなくなってきた。サクの試合が見たいんだけど見たくない。ちょっとこの2〜3年、そういう心境になっているんだよ。

——それも一緒だなあ。見たいんだけど見たくない気持ちが湧き出てくる。でも、見たくないんだけど、ぜひ見たい。ギリギリの緊張感が『PRIDE』の真骨頂ですよ。

髙田 それは要するに、見たいんだけど見たくないものが、じつはもの凄く見たいものなんだよね。観る者をそんなに揺れ動く感情にさせる闘いは、他にはない。

——そうですね。見たかったら見るし、見たくなかったら見ない。ふつうはそれで終わりですからね。なんか、こんがらがった言い回しになってますけど（笑）。

髙田 去年の大晦日、ヴァンダレイvsサクが決まったとき、そういう空気感がファンや関係者に漂っていたね。『PRIDE』流の哲学や思想がないと生まれない緊張感だ。

——その『PRIDE』流の哲学や思想が詰まった世界とは、まるで毛色の違った思想を持つと思われるのが〝赤いパンツの頑固者〟こと田村潔司です。その田村選手は『PRIDE・29』で拳を負傷したので現時点でGPに参戦するかどうかはわからないですが、その田村選手に桜庭選手が対戦表明をしましたよね。

髙田 あのシーンは面白かった。

——Uインターの末期に田村選手から「髙田さん、ボクと真剣勝負をしてください！」と挑戦表明されたシーンとオーバーラップしました？

髙田 むしろリングに上がるサクを見て「なにしてんだ？」と。

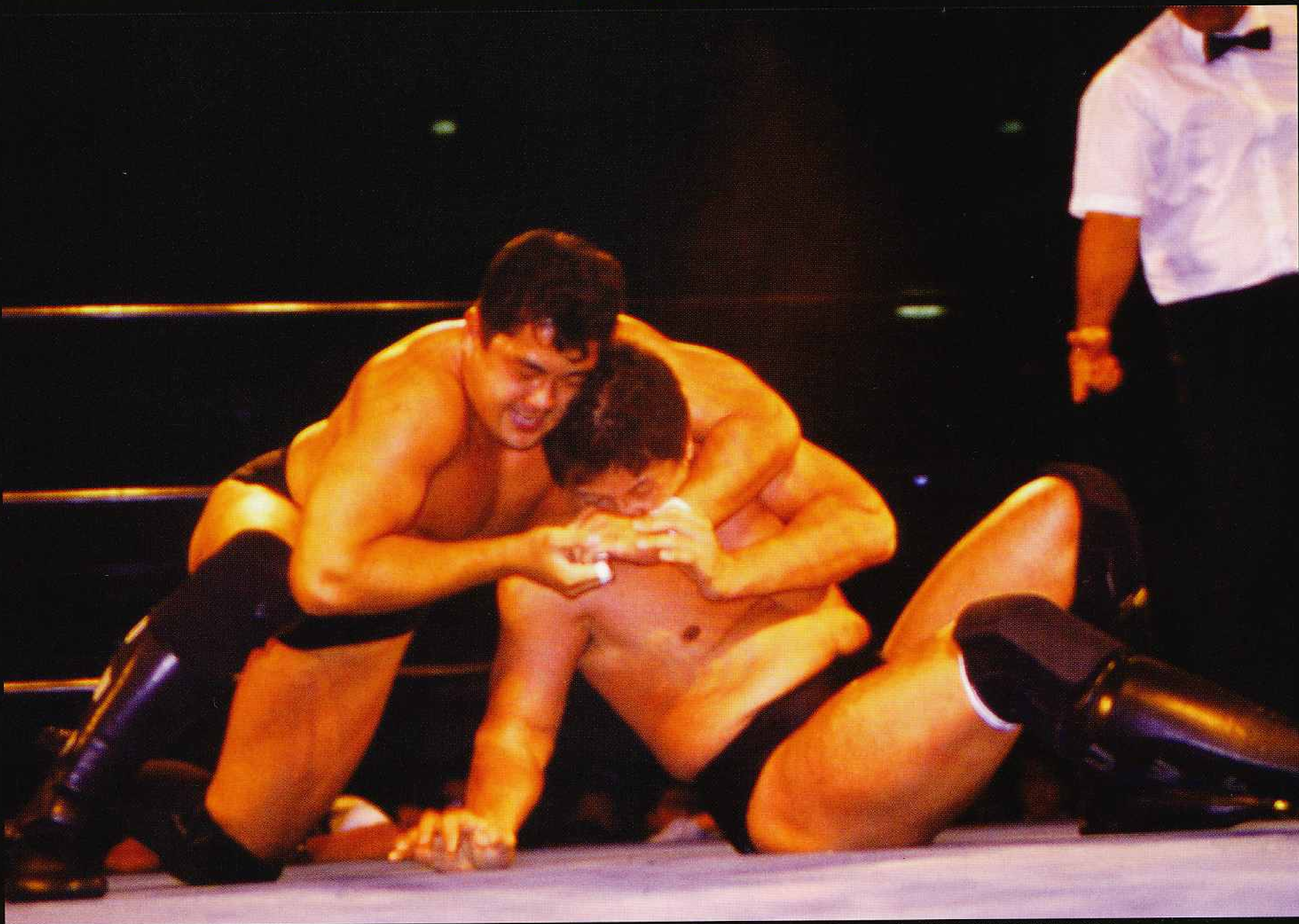
——聞いてないよ、と（笑）。

髙田 あんな行動を取るとは思いもしなかった。でも、サクが自分

『PRIDE』という場は、もうどんなヒーローであっても、時と場合によっては痛烈な仕打ちを受ける



『WRESTLE-1』？　興味はないしプロレスのことはよくわからない。3年続けたら答えるよ



新日本、旧UWF、新生U、Uインターvsリングスと長きに渡って時代の先頭を歩いていた、前田日明と高田延彦の両雄。前田日明が復活したことで新たなる闘争の幕開けとなるかーー？

の意志で結論を出して起こした行動だよ。それも出たがりじゃない桜庭がマイクを持った。

——桜庭和志、格闘技人生初の決意表明！（笑）。

高田　彼の中で強い決心があったんだろう。だからむしろ私の中では、サクが積極的に闘いへ向かう方向へアクションを起こしたことで、彼の状態の良さを確信したよ。

——あのシーンについて、ターザン山本！という普段はまったく何を言ってるのかわからない人間が、「桜庭が『PRIDE』の人間であること、『PRIDE』を背負っていることが、あの発言で証明された！」と言ってたんですよ。そこだけはボクも〝なるほど〟と思ったんですよね（笑）。あの桜庭さんのマイクは、田村選手に対して「早く『PRIDE』の激流の中に入って来い。そのほうが面白いよ！」という呼びかけだったという気もするんです。それに田村さんがどう応えるかはわかりませんけど（笑）。本部長はそういう田村選手をどう見てるんですか？

高田　サクのアクションを真っ正面から受け止めて正しい答えを出すことを信じているよ。

——だいぶ前ですけど、田村選手が初めて『PRIDE』に参戦して、ヴァンダレイとタイトルマッチをやったときに、本部長が珍しく怒りをぶちまけてましたよね。「シウバ銀行に預けたサクの貯金通帳を拾って、勝手に下ろしにきた」と（笑）。その頃の感覚とは違ってきてますか？

高田　変わってる。きわめて彼の思考というのが見えにくくなってきたな。

——吉田戦以降、闘った相手がロニー・セフォーとアリエフ・マックモドですからね。それは見えにくくなりますよね。

高田　ファンからすれば、『PRIDE』に出る動機が、いまいち掴めない状況になっている。プロモーションのためなのか、己の強さを証明したいのか、アルバイトなのか。はたして自らの意思で出てきてるのかさえも見えにくい。動機が見えないからこそ、『PRIDE・29』であいうマッチメイクになったと思うんだ。他の試合では、GPに出てもおかしくない選手同士が潰し合いをやってる。その中で今回の田村の相手はあまりにもハードルとして低すぎるからね。田村本人もそれでいいのか、イベンターもそれでいいのか、ファンに対してもそれでいいのかと考えてしまう。私も『PRIDE』の人間として、そしてひとりの『PRIDE』のファンとしてね。それは、やはり田村潔司に「ここに出るからには上を目指せ」という期待しているからこその裏返しの感情かもしれない。

——『PRIDE』という場に出てくるということは、田村さん自身もファイターとして何かしらのギリギリ感を欲してるとは思うんですよ。一昨年のGPでは、一回戦で吉田選手とあれだけの試合を見せたわけですし。

高田　ある意味、そのときの吉田選手が〝おいしい〟と思ったんだろ。

——ひと昔前のプロレスラーの感覚だったのかもしれない、と。

高田　でも、桜庭戦に関しては2

(前田日明については)つまらない答えで悪いけど、何とも思ってないんだよ

髙田延彦vs前田日明 2005年マット界!!

度オファーして蹴られてる。このカードは本人やイベンターにしても、そして何よりファンにとっても〝おいしい〟試合だろ? ただファンは動機が見えないから、もどかしさは感じているんじゃないか。いまの『PRIDE』はテーマありき。そのテーマがボヤけ過ぎると『PRIDE・29』のように「このマッチメイクはなんなの?」となる。だからいまの田村は、『PRIDE』の本質的な部分とは微妙にブレてる。でも、軌道修正するのは簡単だよ。DSEが用意した勝てそうな相手を拒否して強者を求める本物の頑固者を追求することだよ。それができればあの男の色合いを薄めずに、面白い展開にはなると思うよ。

——いまの『PRIDE』の本質的な部分に、入りたいのか、入りたくないのか。避けてるのか、避けてないのか。そのへんがわからない。さっきの話だと、ひと昔前の「ここに出たらおいしい」というプロレスラーの触覚は間違いなく持ってるんでしょうけど、それだけでもない気がするし。それだけ『PRIDE』が激しい流れになってる証明でもあるんですけどね。

高田 ひとつだけハッキリ言えることは、桜庭vs田村というカードは、絶対に実現させなければならないね。今年中にね(笑)。

——さっき言っていた『PRIDE』の真骨頂であり醍醐味である、見たいけど見たくない、見たくないけど、だからこそ見たい究極のカードですよね。結末やその後の展開も予想できない部分を含んでいると思いますし。

高田 いまならファンもガッチリと勝負論を組み入れて、桜庭vs田村戦を見れるよ。3~4年後に実現しても色褪せちゃうよ。私も衰えた2人の試合は見たくない。田村自身、このままで終ってしまうのは年齢的にも本当にもったいない。志があるならいまアクションを起こさないといけない。見せてくれるんであればベストな田村が見たいし、アスリートとしてベストの年齢で闘ってほしい。

——やっぱり田村潔司には期待したいですよ。日本人選手の中でも飛びぬけて色気がある選手ですから。

高田 そろそろ色気だけで喰ってるんじゃないところを証明しないとな。

——その〝商品〟という観点からすると、日本人がGPでは勝てないという空気を含めて、なかなか日本人選手が育っていない現状がありますよね。実力的にも〝商品〟としても駒が多いとは言えない。本部長は昨年、ブラジルへ視察に行かれましたけど、日本との違いをどう感じましたか?

高田 練習環境に関しては、はるかに向こうの方が整っているよ。それは設備的なことじゃなくて、たとえばスパーリング相手なんて同レベル、もしくはそれ以上の実力を持った相手がゴロゴロいるわけだ。シュート・ボクセでいえば、ショーグンやニンジャのように年齢的に伸び盛りの選手がいて、一方では、ヴァンダレイ・シウバという不動のチャンピオンがドンと構えている。そういう環境の中で多くの下の人間たちは「早く日本に行きたい。次は俺が『PRIDE』に出る!」という激しい競争心を燃やしながらまるで試合のような練習してるわけだよ。

——強くならないほうが不思議な世界ですね。

高田 うん。月並みだけど、日本で忘れかけているハングリーという言葉がブラジルで蘇ったよ。あのエルビス(ニーノ・シェンブリ)でさえ、金がなくてカップラーメンを食べている。恵まれていない環境の中から這い上がろうとみんな必死なんだよ。

——ニーノクラスでその食生活!

馬場vs猪木のBI対立時代以来の大型対立構造、前田vs髙田はマット界にどんな刺激をもたらすか? 裏を返せばDSE vs K−1という対立図式にも当てはまる。2005年はさらに興行戦争が激化する!?



高田 『PRIDE』に1~2回出たからって生活が安定するわけじゃない。勝ち続けることによって、初めて車や家を手にできる。ブラジルの選手でいい生活してるのはほんの一握りだから。

——底辺で彷徨うか、そこから飛び抜けるか? という極端な世界。中間層はあまりいない。日本の総合の世界は、逆にその中間層のファイターが多いですよね。飛び抜けた存在はわずかで、底辺もあまりいない。こういう状況を、本部長的には変えていきたいわけですか?

高田 もちろん変えていきたい。私も8年間髙田道場をやってきたけど、『PRIDE』で通用する生え抜きの選手が一人も生まれてない。練習場、練習相手、環境的にはやれることはすべてやってきた。ウチには出稽古にやってくる選手も多いし、目の前には桜庭がいて、しかもイベントに道がある。選手の資質はもちろん問われるんだけど、あまりにも選手が育たないから、環境に欠点があるのかと考え続けたんだ。私自身ブラジルに行ったり、『PRIDE』の解説席に座ったり、ルール・ミーティングなどを通じて、いま『PRIDE』に上がってる外国人選手たちの匂いを嗅いでいるわけだけど、そこでも日本人が忘れかけていた「ハングリー」という5文字を強烈に感じることができる。そ

いま自分のなかで外に対する発言をした
ところで何かを生むとは到底思えないんだ

髙田延彦vs前田日明 2005年マット界!!



のハングリーという点で考えると、いまの髙田道場の環境で、選手たちにハングリーな精神を植え付けることができるのか？ と疑問に思った。

——恵まれた環境は、裏を返せば恵まれていない側面もあるんじゃないか？ と。

髙田 たとえばお金が千円しかないときに、卵、鶏肉、プロテインが買いたい。どうしたらいいか？ じゃあ節約しようとか、あるいは試合のチャンスをもらったら絶対に勝ってファイトマネーで良いものを喰おうって意欲が湧き出てくる。単純な話だけど、自分で生活する意識が希薄だからこそ、甘えが多くなってくる。いま失いかけているハングリーな精神を芽生えさせるためには、あえてそういう環境をつくってあげなきゃいけない。

——内部的な改革が問われるわけですね。髙田道場は保証されている世界だったわけですよね。

髙田 その保証が資質の芽を摘んでしまったり、必要最小限のハングリーさをも生み出すことができなかった。いまの『PRIDE』のリングで勝ち抜いていくためには、肉体と技術の他にハングリーというパーツも必要になってくるからね。

——たしかに不足がないように与えてきたシステムを変えていったら、面白い結果が出るかもしれないですね。

髙田 出してもらいたいね。

——ところで、マット界自体は非常にハングリーな状況になってきているというか、よくも悪くも、喰うか喰われるか、という猛々しい雰囲気も漂ってきました。その匂いのもとは、『PRIDE』のオポジションと言ってもいい『HERO，S』というイベントがスタートすることなんですよね。

髙田 らしいね。新聞で読んだ。

——『HERO，S』の象徴には、本部長の〝古くからの知り合い〟の前田日明が君臨するわけですが、好むと好まざるに関わらず、ファンやマスコミは髙田延彦vs前田日明という構図を見ますよ。

髙田 私は自分を『PRIDE』の顔とは思ってないよ。『PRIDE』の顔はファイターたちだよ。そんなの当たり前だろ。

——は!? 十分に本部長は顔ですよ！ 前田日明との対立構造的な捉え方は本部長からするとハタ迷惑？

髙田 どうぞ御自由に。

——いま現在、前田日明という存在にはどういう思いがありますか？ 2人の間には2人にしかわからない想いもあったり、逆に長くて深い川もあるとは思いますが。

髙田 つまらない答えで悪いけど、何とも思ってないんだよ。

——前田日明の一挙手一投足は気になる？

髙田 私の頭の中は『PRIDE』と髙田道場、モンゴリアンチョップ、そして守られなければならない人たちのことでパンクしそうだよ。どうしてもと言うなら、まず3年経ったら聞きにきなさいよ。それが答えだよ。

——さらにK-1グループは、4月に『WRESTLE-1』というプロレスのイベントも続けて開催するそうです。つまり、K-1グループにも総合格闘技とプロレス部門ができるようになるわけですよ。その顔が前田日明になる。DSEにも総合格闘技部門とプロレス部門があって、そこの柱が髙田延彦になるわけですよ。

髙田 私は『ハッスル』の柱ではないよ。

——ああ、そうですね（笑）。では滅多に姿を現さない髙田総統の代弁者ということで、『WRESTLE-1』については何かありませんか？

髙田 さらにもっと（興味は）ない。

——あ、もっとない（笑）。

髙田 プロレスのことは私はよくわからない。これも3年続けたら答えるよ。

——上井さん曰く「精神のガチンコを武器にして、WWEに対抗する」みたいです。

髙田 はい。わかりました。

——ホント興味がなさそうですね（笑）。

髙田 ほっといてくれる。

——ヨソに対してコメントを出すのは髙田総統に任せておく、と（笑）。

髙田 総統によろしく言っておくよ（笑）。私としては、いま食べてるものがおいしすぎて、余計な講釈抜きに「ウマい！」という感嘆の声しか出てこない。とにかくいまやってることで精一杯。それにいま自分の中で、外に対する発言をしたところで何かを生むとは到底思えないんだ。

——発言で火が点いて、それが面白く転がっていきそうだ、という感覚がまだないんですね。

髙田 『PRIDE』がやっていることは、他のものとは別次元のステージだよ。これだけは譲れないとか、これは火の粉を被っても言わなきゃならないというのは、数年前の新日本プロレスに対しての思いが最後だろうね。

——内部充実が先決だ！ と。わかりました。ミドル級GPの大爆発を期待しています！

【05年3月9日／髙田道場にて収録】

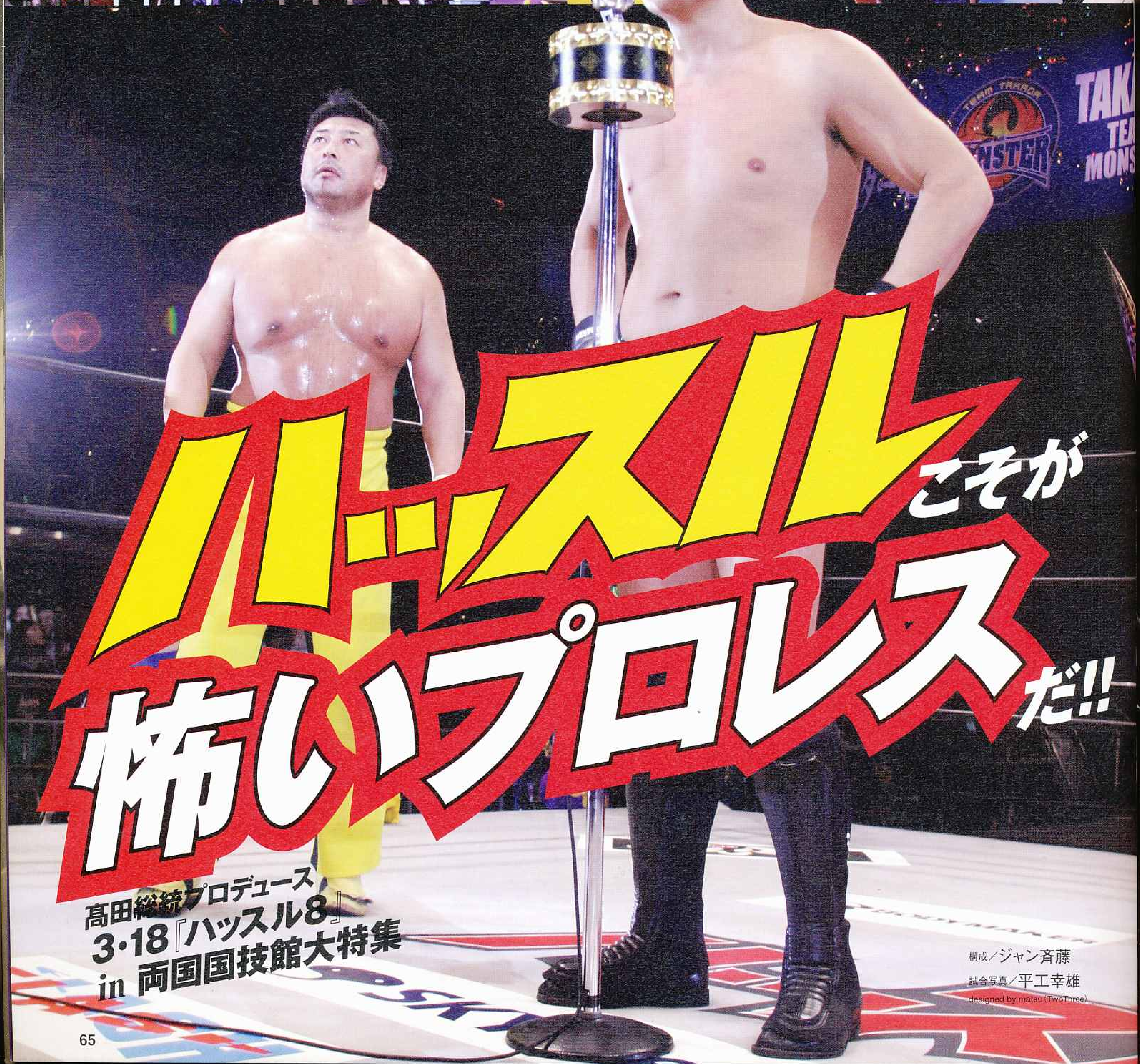
PRIDEネットワーク拡大!
未知の強豪続々発掘!!

ヒョードルとの再契約も完了!

小川直也、試合に勝って勝負に敗れる!
観客ジャッジシステムが圧倒的現実を突きつけた!!







ハッスルこそが怖いプロレスだ!!

髙田総統プロデュース
3・18『ハッスル8』in 両国国技館大特集

構成/ジャン斉藤
試合写真/平工幸雄
designed by matsu (TwoThree)

のハングリ
と、いまの
手たちにハ
付けること
間に思った
――恵まれ
恵まれてい
ないか？
高田　たと
いときに、
買いたい。
ゃあ節約し
合のチャン
勝ってファ
を喰おうっ
る。単純な
する意識が
が多くなっ
ているハン
させるため
境をつくっ
――内部的
ですね。高
る世界だっ
高田　その
でしまった
グリーさを
なかった。
のリングで
は、肉体と
というパー
からね。
――たしか
えてきたシ
ら、面白い
いですね。
高田　出し
――ところ
常にハング
ているとい
喰うか喰わ
い雰囲気も



さらばドキュメンタリープロレス『ハッスル』は〝漫画〟の中のリアリティを見いだす

〝ハッスル大統領〟／本誌編集長

3・18『ハッスル8』総括

山口日昇

聞き手／ジャン斉藤

本文構成／松澤チョロ

designed by matsu（TwoThree）

PRIDEネットワーク拡大!
未知の強豪続々発掘!!

ヒョードルとの再契約も完了!



――さっそくですが、今回は〝ハッスル大統領〟に『ハッスル8』の総括をお願いできればと思っております!

山口 はい。でも、そもそも俺はなんで〝ハッスル大統領〟って呼ばれてんの?

――小川選手が最初に言い出したんだと思いますけど。『ハッスル』で一番偉い人ってことなんじゃないですか?

山口 なんで? 一体ボクは『ハッスル』の何なの?(笑)。

――そこで、ちょっと興味深い雑誌がありまして(表紙に「ハッスルできない格闘技事情」と打たれた『サイゾー』5月号を取り出す)。この雑誌に昨年末の大統領の失踪話が座談会形式で記事になってるんですが、山口日昇が失踪した理由はなんと、『ハッスル』にインリン様が参戦することを嫌がったからと書かれてるんですよ!

山口 は? な、な、なんだって?

――「山口日昇編集長が『ハッスル』のプロデュースやマッチメイクにかかわっているんだけど」と書いてありますね。

山口 全力でやらさせていただいてますよ(アッサリと)。

――またアッサリ肯定しますね(笑)。

山口 もういいんじゃないの。だって、キミたちも知っての通り『紙プロ』の仕事なんかしてないでしょ、俺(笑)。もはや編集長なんて名前だけだもんね。

――またアッサリと(笑)。思わぬカミングアウトが飛び出したところで、失踪理由はインリン様が原因というのは本当なんでしょうか? この雑誌には「インリンを出す出さないで、DSEとDSEの機関誌と言われている『紙のプロレス』がモメたらしい」「インリンが出るんだったら『ハッスル』から距離を置かせてもらうって大反対した」って書いてありますけど。まず『紙プロ』はDSEの機関誌なんですか?(笑)。

山口 それは違うでしょ。キミたちがよく知ってる通り。『PRIDE』や『ハッスル』を人体に例えれば、気管支くらいの役割は









『ハッスル』には怖さが根っこにあって、それを軽く見せている

果たしてるかもしれないけどね。

――ウマイ! 空気を出し入れしてるって意味ですか?

山口 深い意味はないよ。でも、「距離を置かせてもらう」とか、そういうボキャブラリーでビシッと物事言えたらカッコいいよなぁ。

――そもそも、大統領はインリン様をマジメに『紙プロ』の前々号の表紙にしようとしてましたからね。

山口 どっちかと言えば俺はインリン様に洗脳されたい気持ちでいっぱいですよ(笑)。

――その気持ちもわからなくはないんですが、売り上げを考えて、インリン様の表紙は、我々編集部で、すんでの所で阻止させてもらいましたから!

山口 ……残念! でも、俺ってまったく実権がないんだね、『紙プロ』で。発行するのもうやめようかな(笑)。

――何を言ってるんですか! 実権がないなんて、そんなことはない……と思います(笑)。

山口 でも思い切りがないよ、最近の『紙プロ』は。もっとガーンと針を振らないと! だって、インリン様がキャプテンにフォール勝ちしたっていうのは、ある種、これはプロレスの大革命ですよ! それを転がしていかないとね、マジメな話。インリン様表紙でも売れるように深く斬り込まないと。

――『ハッスル8』の翌日のスポーツ紙の大半は、小川vs川田戦を差しおいてインリン様のM字ビターンコンテストが一番大きく扱われていたわけですが、試合以外の部分が誌面を飾るっていうのはどうなんですか?

山口 全然オッケーでしょ。雑誌で言えば〝見出し〟だもん、インリン様は。なかなか〝本文〟を読んではくれないもんなんだよ、世間の人々は。だから、ショッキングかつダイナミックな〝見出し〟で引きつけて記事を読ませることも必要じゃない。K-1韓国大会にしても、まだ現段階では発表されてないけど視聴率は結構取ると思うんだよね。やっぱり、テレビの視聴率=社会の窓、だから。

――社会の窓!? と言いますと?

山口 社会の窓というか、地方の見方が数字に表れるというかさ。地方の見方=世間と定義してもいいと思うんだけど、その世間にK-1というを読ませるためには、ダイナミックな〝見出し〟が必要でしょ。その〝見出し〟が曙でありチェ・ホンマン。『ハッスル』で言えば、それは小川直也であり、インリン様ですよ。いまのK-1の場合、〝本文〟がなくて〝見出し〟だけという批判もあるんだろうけど(笑)。

――でも、『ハッスル』も最近のK-1と同じとは言いませんけど、純プロレスファンからは、ズバリ言うと、試合のレベルが低いっていう意見もありますよね。

山口 それは従来のプロレス観に当てはめると、そこから逸脱してるから……ということでしょ。ノアのロングラン・プロレスや、もしくは天山vs小島の脱水症状マッチとは違う土俵で勝負しようとしてるわけだから、試合のレベルの価値観が違うと思うんだよね。面白いか面白くないかで「面白くない」って言われたら、「すいません」って言うしかないけど、従来のプロレスの試合と比較されても答えようがない。

――今回の小川vs川田戦は、逆にそういった従来のプロレスの、いわゆる〝いい試合〟を目指してたわけではないんですか?

山口 全然違うでしょ。だって「観客ジャッジメントマッチ」だよ。従来のプロレスの〝いい試合〟の価値観でやるなら、ノアや新日本のような方法論になっていくよね。いわゆるカウント2・9で返して、ハイスパートで、魂をぶつけ合うようなプロレスっていうのは、『ハッスル』の中でも、今後自然に出てくるのかもしれないけど、いまは必要ないでしょう。とりあえず、いまは『ハッスル』のスタンスはどういうものかっていうことを強烈に見せる必要があるから。だから、いわゆる純プロレスのフォーマットと言うことでいったら、ノアにはかなわない。

――上井さんも同じようなことを言ってま

したね。

山口　上井さんがやろうとしてることは「顔面が腫れあがるようなプロレス」なんでしょ？　……そうならないかもしれないけど、現時点ではそう言われてる。でも、それをプロレスのフォーマットの中で、しかも〝勝負論〟を前面に打ち出したプロレスの試合で、総合格闘技と肩を並べるくらいの求心力を持てるかっていったら難しいんじゃない？　いまプロレスが辛うじてスポーツ紙の紙面を割けてるのは、要はどこそこの団体とどこそこのスポーツ新聞が仲がいいとか、どこかの団体とどこかのプロレス雑誌が仲がいいっていう、要は政治力だから。昔からの共犯関係でなりたってる。いま、『ハッスル』は共犯関係を結んでるマスコミはないんだよ、一つも。だから、インリン様登場も大事件にならない。

――一つだけ、『ハッスル』と共犯関係を結んでるところがありますよ。

山口　どこ？

――『紙のプロレス』という雑誌です（笑）。

山口　でも『紙プロ』はインリン様を表紙にしないじゃん！（駄々っ子のように）。

――共犯関係のハードルが高すぎですよ、それ（笑）。大統領の話だと、『ハッスル』で求めているのは遠心力だけって曲解されてととらえられる可能性もあると思うんですが。

山口　さっきの話じゃないけど、遠心力は〝見出し〟であって、〝求心力〟は記事だから。どっちかが欠けても転がらないでしょう。今回の「観客ジャッジ」で、「求心力あっての遠心力」「求心力が肝」ってことを、両国の観客のジャッジという現実を突きつけられて、小川直也はわかり始めたと思うんだよね。

――相当、こたえてたみたいですからね。

山口　小川直也は、やっぱり遠心力は強いし、ちょっと前までは格闘技の分野や、強さっていう幻想や、何をやらかすかわからないっていう魅力のもとでは求心力があったでしょ。でも、その〝強さ〟っていう幻想を証明するためにはガチンコのリングで実証









ト性を現実のリングで現出させないとプロレスの発展はないと思う

していかなければいけないわけだよね。プロレスのフォーマットの中で強さを競い合っても真の意味では通用しないっていうのは小川直也が一番わかってると思うんだよ。だからといって、ジュードー・オーvsロシアン54をやってればいいのかっていうと、またそれは違う話だけどね（笑）。

――ちょっと話は違ってきますよね（笑）。

山口　それに、小川直也は、ことプロレスの中での求心力は「別にいらねえよ！」っていう態度だったでしょ、いままでは。「俺は対世間だ！」っていうことで、ある種、逃げてたっていうか、目を背けてた部分があった。だけど、プロレスというフィールドの中で、川田戦で初めて向き合ったわけだよね、プロレスファンと。

――川田戦は、かなり闘いに没頭してたような印象がありましたけど。

山口　だから、『PRIDE・GP』のヒョードル戦より緊張したっていうのは嘘じゃないと思うよ。これまで、格闘技っていうフィールドの中では求心力を持ってたけど、プロレスのフィールドの中での求心力はなかなかつかなかったから。

――潜在的に小川直也はプロレスの敵だっていうようなイメージがプロレスファンの中にありましたからね。

山口　それが逆に求心力に繋がってたよね。でも、いまはプロレスの敵というスタンスじゃないからこそ、小川直也には厳しいんだよ、みんな。でも、プロレスにどっぷり浸かった中で、小川直也が何を見せていくのかっていう物語は、みんなが想像してるよりけっこう面白いことになるんじゃないかなって思うけどね。それにしても、「観客ジャッジ」っていうのは残酷だよね（笑）。だって、ガチンコだもん。

――残酷ですよ！　会場の写真を見たんですけど、子供もしっかりボードを挙げてましたからね。小川選手に上げてる子供もいましたけど、子供たちまで残酷な現実を突きつけてるんだって思うと、ホント怖かったですね。

山口　よく、『ハッスル』ってWWEのパクリだとか、WWEを目指してるんじゃないかって言われるらしいけど、WWEであんなことやらないからね（笑）。

――できないですよ！（笑）。

山口　髙田総統も言ってるとおり『ハッスル』は〝漫画〟の世界でいいんですよ。漫画の世界だけど、漫画の中でしか表現できないようなリアリティーや物語があれば。いまのプロレス界の人たちは、関係者やプロレスラーも含めて、格闘技へのコンプレックスなのか、自分たちはドキュメンタリーの世界の住人のように見せたがるでしょう。

――それはあるかもしれませんね。

山口　みんなドキュメンタリーの中の住人でいたいと思ってる。俺はそれはカッコつけすぎだと言いたいね。漫画なら漫画でいいじゃん。表現方法に貴賤はありませんよ。漫画の中でこそ表現できるリアリティーやストーリー。あるいはドキュメント性がある。そういったものを現実のリングに現出させることや、つくりあげる過程に誇りを持たなければ、プロレスの発展なんかないと、俺は思うからね。天山対小島の中には、「失敗した」っていうリアリティ、ハプニング性はあるのかもしれないけど、それを「だからプロレスは真剣であり過酷なものなんだ」というふうに〝勝負論〟やドキュメンタリー性に直結させても世間には届かないと思うし。

――届かないですよね。で、小川vs川田戦後の「観客ジャッジ」は、どういう結果になっても小川に支持があったように操作するという見方をしてた人も多いと思うんですよ。実際、自分もそうだったし（笑）。

山口　でもあれはね、地方でやったらまた結果は全然違ったと思うよ。両国の次の日の静岡大会でも歓声の度合いは小川直也が一番だしね。そういう意味でいうと、両国に集まってたファンっていうのは後楽園ホールの拡大版というか、プロレスマニアがやっぱり多い。そういうマニアは小川直也に対して高いハードルを設定してる。だから、あ

PRIDEネットワーク拡大!
未知の強豪続々発掘!!



の結果は小川直也に対する期待値の裏返しでもあると思うんだよね。

――そう考えると、小川直也ってホントに評価の落差が激しいですよね。評価されるときはもの凄く評価されるけど、落とされるときはとことんまで落とされるというか（笑）。

山口　そういう意味では面白い存在だよ、やっぱり。キャプテンっていうポジションは向かないのかもしれないけど（笑）。そんな落差の激しいプロレスラーはいないよね。それに最近になって髙田総統が小川直也に対して「しょっぱい、しょっぱい」って言い続けたのもあって、ファンやマスコミも「小川はしょっぱい」って洗脳されてきてるでしょ（笑）。

――最近は「言ってもいいんだ」っていう感じになってきてますよね。

山口　そう。それまでマスコミやファンも声を大にして言いたかったんだけど、総統の言葉をきっかけに「それ!」とばかりに言い出した。でも、そういう人たちは自分の言ってる言葉に酔っちゃって、小川の変化や想いを見逃してると思うけどなぁ。まあ、それだけ総統の洗脳力が凄いとも言えるんだけど、そういうイメージというか先入観だけで見てる人が多い。だからね、俺から言わせると『ハッスル』こそ〝怖いプロレス〟なんですよ!（笑）。笑いと恐怖は紙一重っていうけど、やっぱり世間や観客と闘っていくということは怖いことだからね。

――『ハッスル』は〝怖いプロレス〟!

山口　顔面を腫らしたりとかの、そういう怖さではないけど、マイク合戦にしてもなんにしても〝怖い〟よ、『ハッスル』は。シュート発言のオンパレード。そういう〝怖さ〟が根っこにあって、それを〝軽く〟見せてる。例えば「顔面を腫らすプロレス」が目の前で展開されたとする。例えば猪木さんと前田日明がリングの中で対峙して一触即発のシーンがあったとする。それをいまのファンが〝怖い〟と思うかっていうと、俺はそんなに思わないんじゃないかと思う。プロレスの中での〝怖い〟という概念が違って











漫画の中でこそ表現できるリアリティやストーリー、あるいはドキュメント性

きてると思うんだよ。

――それこそ、過去の因縁とかを知ってるマニア層はそこに〝怖さ〟を感じるかもしれませんけどね。

山口　それは記憶がそう思わせるだけでしょ。いまの時代性の中で〝怖い〟という概念は、やはり〝勝負論〟が前提にあったほうがわかりやすいわけで、それは『PRIDE』やちょっと前のK-1のほうが見えやすい。プロレスのフィールドの中で〝怖さ〟を求めても表現しきれないんじゃないかって思うよね。なんでリング上で闘うのかというテーマがわかってないと、観てるほうも、ただバカスカ殴り合ってるだけだったら、格闘技のほうを観るよ。だから、『WRESTLE-1』が〝怖いプロレス〟をやるっていうんだったら、早く観てみたい。楽しみですよ。その〝怖いプロレス〟とは真逆の表現方法だけど、『ハッスル8』も怖かった。今回は、あの世界観がプロレス・ファンに思ったより受け入れられたという部分もあると同時に、やっぱり、まだまだだなぁっていう思いもあるね。一足飛びには行かないよね。

――〝大統領もつらいよ!〟と（笑）。でも、『ハッスル』って、まだ一年半も経ってないのに、成長の度合いが急速ですよね。

山口　月並みな言い方すると、それはスタッフや選手や関係者が真剣に取り組んでるからですよ（笑）。その真剣さの度合いは絶対に他の団体には負けてないと思うよ。やってることがバカバカしいことが多く見えるんで、そうは見られないだろうけど。今回の「観客ジャッジシステム」に限らず、アトラクション性の高い試合が両国では並んだけど、あの駒で、しかもやってることは他のプロレス団体ではやらないものばかりだから、スタッフにも選手にも緊張感あるし、ファンも楽しみながらでも、ある種の緊張感を持って観られたと思うんだよね。それは格闘技の〝勝負論〟とは別の緊張感だけどね。

――そういう意味では、前田日明が言っている、選手だけじゃなくて、裏方も緊張感を持ってやるプロレスと近いわけですね。『ハッスル』がいまの方向性でやっていく中で、プロレスが壊されていくっていう意見もあるんですよ。以前、大統領はそういう人たちは突き放すというか、切り捨てるしかないというような言い方をしてましたよね?

山口　俺はなんでそんなに偉そうなんだ（笑）。そんなこと言ってたんだ？　すいませんでした!　でも、プロレスが壊されてるっていうのは、1年前に言われるのはわかるけど、いまそれを言われても、ちょっと困っちゃうよね。でも、そういう意見は真摯に受け止めて、その人たちが「それでも面白いね」っていうところに持ってかないといけないだろうね。

――そうですよね。自分の考えで言えば、ポジティブに壊してる気がするんですよね、『ハッスル』は。某老舗団体の「アルティメット・ロワイヤル」とかは確実にネガティブに壊してるなっていう印象があったんですけど。

山口　それにさ、髙田総統が「日本のプロレス界を根こそぎブチ壊す」って言ってるんだもん!　壊れてもしょうがないじゃん!（かわいらしく）。

――そ、それはすいません（笑）。

山口　その言葉に嘘はないんだよ。総統が根こそぎブチ壊しますよ!　その後にどんなものができるのか想像できないから、みんな不安なんだろうね。でも、きっと面白い世界が開けてるはずですよ。

――最後に〝ハッスル大統領〟として、どうしても言っておきたいことは?

山口　俺としては『ハッスル8』のことより、やっぱりK-1韓国大会のことが語りたいなぁ。曙やチェ・ホンマンが宝なんじゃなくて、ガオグライの凄玉さ加減を……。

――（遮って）あ〜、なんか長くなりそうなんで、今回はこの辺で締めさせていただきます!　大統領、お疲れ様ですっ!!

山口　やっぱり俺は『紙プロ』とは共犯関係は結べない!（笑）。

【3月21日／ダブルクロスにて収録】

識者がジャッジする

この深く重い結末をどう見たか——?

川田利明vs小川直也



初山潤一
「小川直也の清々しいドロ臭さ」

『東京スポーツ』小川番/オーちゃんズ12

小川対川田に観客参加型ジャッジシステムの採用が決まった時、もの凄く不安だった。観衆の決める答えが、見えていたからだ。

最近の小川を振り返ってほしい。昨年のPRIDE・GPではいいところなくヒョードルに秒殺され、最強伝説が崩壊。ハッスル7ではインリン様にフォール負けしてしまう。

キャプテン・ハッスルになってからの小川のファイトは、キャラクターへの依存度が高くなり、何だか冴えなかった。高田総統ならまだしも、シビアな後楽園ホールの観衆から「小川、しょっぱい!」と痛烈なヤジを浴びるマイクアピール。散々な評価を受けても、改善している風にはとれない。川田の「プロレスを怠っている」という批判は、まさに的を得ていた。

そんな状況では何をしたって、観衆の支持を得られるワケがなかった。偶々名勝負になったところで、小川に票が流れてしまうほど、川田が築いてきたものもヤワではない。プロ8年間で100試合していない小川がたった1試合で、これまで何千試合を戦ってきた川田を越えることなどハナから無理な話だ。

最悪の事態も予想できた。国技館全体が黄色いボードで埋め尽くされ、新キャプテン・川田誕生。その時、あの男はどうするだろう。小川の性格上、「もう、やってらんねぇよ」と、とっととリングを降りてしまうのではないか。ハッスルも何もかも、投げ出してサヨウナラ。そんな危うささえ感じていた。

しかし、予感は覆された。小川は生き残るために必死だった。川田という好敵手のおかげとはいえ、ゴツゴツとした骨太のファイトを展開できた。以前の怖さはないが、プロレスラーとして何倍もの技術とキャリアを持つ川田に、ひたむきに食らいついていく。こんなドロ臭い小川は、初めてだった。

そういえば最近、似たような姿を見たことがある。新球団の楽天イーグルスに集った30代後半の選手たち。前球団からクビにされた男達は、プロ野球の枠に残ろうと懸命にもがいている。元中日の関川外野手は客席ガラガラのオープン戦でも、決死のヘッドスライディングで2塁に滑り込んだ。小川の表情には、関川外野手をほうふつさせる切羽詰った危機感があった。

試合は勝ったが、予想通りネット投票と観衆の支持は川田にあがった。これまでのツケは大きかったが、小川はキレることなく、事実を淡々と受け入れていた。身勝手の上に不平不満の塊のような男が、初めて清々しい顔をしていた。

ここで信じられないことが起こる。場内からはまさかの大「オガワコール」。観衆が最後に暖かい声援を送ったのは、間違いなく小川のドロ臭さを見直してのものだろう。

弊紙・東スポのファイトクラブ取材班が大会終了後の会場で行った100人アンケートでは、なんと7割が小川キャプテンを支持。スポーツ紙では「小川屈辱、観衆に認められなかった」と見たままを報じる記事もあったが、足で稼いだデータは違う。両国に集まった目の肥えたファンは、素直に小川の頑張りを認めてくれた。



終わってみると、最高の結末に思えた。主催者側が意図したであろう「小川が大熱戦を制して形勢逆転、観衆の支持を得てキャプテン残留」という幕引きより、遥かに伝わるものがあった。確かに小川の持つポテンシャルからしたら、もっと高いレベルの試合ができたかもしれない。実際に小川自身は試合内容に不満でかなり落ち込んでいたが、そのことが逆に今後への期待を抱かせた。観衆の支持というプロとして最も大事なファクターに、真正面から取り組む。

今さらながらそれに気づいたことで、キャプテン・小川は一皮向けるハズだ。

一揆塾塾長/ターザンギャルド取締役

ターザン山本

「小川直也が本当のチキンになった日」

3月18日に行われた『ハッスル8』の両国大会のタイトルを付けるとしたら、私なら「小川が本当のチキンになった日」にする。

ウン、そうなのだ。今まで言われてきた小川のチキンは、あれは実をいうとアングルだったのだ。それがわかっただけでも『ハッスル8』は、大きな収穫があった興行である。

最初から書くと、日本マット界初の観客によるジャッジメントマッチ、小川直也対川田利明の一戦は、あれはわかりやすくいうと「60分3本勝負」の試合だったのだ。

そういえば昔のプロレスではタイトルマッチは、1本勝負ではなく、みんな3本勝負だった。その場合、必ず1本ずつ挑戦者と王者がフォールを取り合ったあと、3本目で勝負をつける。

あのやり方は見ていてかったるいというので、いつの頃からか格闘技と同じく、すべての試合は1本勝負が主流となっていった。

じゃあ、なぜ今回、小川vs川田戦が観客によるジャッジメントマッチになったのか? それは小川というレスラーに問題があったからだ。

ズバリ言ってしまうと彼の中ではレスラーとして絶対に必要な〝負けることの意味〟というプロレスにかかわる重大な遺伝因子がないからだ。

この部分で彼はレスラーとしてはズバリいうと失格なのだ。だから試合をすると小川は勝つしかないレスラーなのだ。

そういう小川とシングルで闘った橋本真也が非常に不幸なめにあったのは当然である。だから今回も小川はとにかく川田に勝つしかなかったのだ。

川田は小川に負けてもいいのだ。負けることの意味をわかっているプロレスの遺伝因子が体の中にあるからだ。だから、川田は小川に負けてもまるで平気だった。余裕しゃくしゃくだった。

試合で負けたのに勝った小川に「俺は小川に(プロレスに)目覚めて欲しいんだよ!」と叫んだ。あれは大、大、大正解なのだ。

つまりあのジャッジメントマッチは小川というレスラーにしかあてはまらない試合形式だったのだ。レスラーとして何かが欠けていることを、本人にわからせるために試合の結果とは違うところでファンに審判を下されたのだ。

試合に勝った小川は自分が勝ったと思っている。それなのにネットによる投票ではファンは川田に軍配をあげる。

これで3本勝負は1対1の五分になる。最後の3本目は会場で今、試合を見たファンが判定を下すのだ。そこでも川田は小川よりも支持された。

「60分3本勝負」のジャッジメントマッチは、こうして2対1で川田の勝ちとなった。この瞬間、小川は世界プロレス史上、類をみない屈辱と敗北を喫したのだった。レスラーとしてこんなに恥ずかしい話はない。

本人もやっとそのことに気が付いたのか、小川がリング上で見せたことがない素(す)の小川直也に戻っていたのには笑えた。

小川はジャッジメントマッチに完全にはめられたのだ。罠にはまったのだ。すべては後の祭りである。しかも川田から「オレは試合に負けたのだから〝キャプテンハッスル〟になる資格はない。今まで通り小川、お前がやれ!」と言われたからには、もう小川の立場はなかった。

まったく素のチキンになった小川に追い打ちをかける川田の素晴らしいプロレス言語だった。まさしく勝負あったとはこのことだ。小川はあの日、二重、三重、四重の意味で敗れたのだ。ジャッジメントマッチは小川直也というレスラーをジャッジするために仕組まれたもので、その意図と計画は大成功した。

張本人の仕掛け人は一体、誰なのだと言いたい。その人に私は『ハッスル8』両国大会のMVPを贈りたいと思う。

ホントにいい形の「60分3本勝負」を見せてくれたよ。小川に〝負けることの意味〟を問うプロレスの遺伝因子がないというなら、方法は一つしかない。ヒョードル、ノゲイラ、ハリトーノフと試合をすることを今すぐ宣言することだ。それができなかったら小川直也にはプロレスの軍門に下って欲しいと思うのだ。

なぜなら、あなたはレスラーとして試合に勝ったのにファンのジャッジによって2回も負けたのだから。

I編集長/活字プロレスの創始者

井上義啓

「インリン様ジャッジの正当性に賛同する」

観客参加型ジャッジシステム。K-1などで納得がいかない〝灰色ジャッジ〟が続いたため、耐えかねて〝大阪の馬鹿〟が活字にした。「マスコミと観客代表(20人ぐらい)にもジャッジさせろ!」と——。

誰一人、振り向こうともしなかった。そして、突然、この提案が『ハッスル8』で日の目を見た。

これでおしまい。取り立てて話すことなんてない。DSE首脳部のアタマは柔軟性に富んでいたということでして……。

『ハッスル8』。せっかくの観客参加型ジャッジシステムに二つ、引っくり返りがあった。一つは、乱入したアジャ・コングがM字ビターンコンテストで館内の声援を集め支持率1位となったのに〝美人ではない〟との規定により落選。

もう一つが観客の支持(インターネット投票と館内のボード判定)で小川直也が敗れ、2ポイント取った川田利明が勝利したにも関わらず、キャプテンの座が小川から川田に移らなかったことだ。

この現象を指して、「観客参加型ジャッジシステムなんて、あんなものなんだ」と言う向きが多い。

間違っている。アジャの落選はコンテストの規定に抵触(ていしょく)するもので、まやかしではない。川田の勝利も確定したもので動かない。ただ、確定した後で、川田が「オマエがハッスルを引っ張るしかないんじゃないか!」とキャプテンの座を譲ったに過ぎない。

遠い昔。国際プロレスのエースとして豊登が活躍していた頃のお話。正月取材で豊登、グレート草津、サンダー杉山の主力3人に座談会とグラビア撮影をお願いして、無事終了した。私は謝礼を3人に差し出したのだが、豊さんは受け取ろうとはしなかった。「ウチのことを日プロと同じように取り上げてくれるのは『ファイト』さんだけだ。こっちから差し上げねばいかんぐらいですよ」。

そして、「それほど言うのなら受け取りましょう。しかし、受け取ったものをどう使おうが勝手だろう」と、謝礼を袋ごと、私のオーバーのポケットにねじ込んだ。

そう。小川vs川田の判定をガタガタ言うのはおかしい。小川は負けたが、キャプテンの座を失うことはなかった。私の判定では、小川の勝ち。理由はこうだ。

「ハッスルを必死になって盛り立ててきたのは、このオレだろうが!」。半分は笹原GMの書いた脚本の丸暗記。しかし、その小川の言葉の中に、必死さと、とことんハッスルにつくし切る男の真情を見た。

だから小川の勝ち。第一、試合でも川田に勝っている。芸術点だの何だのはいい。心に何が響いてきたかが問題なのだ。

総評? これまでの『ハッスル』と同じ。もう少し、グレードアップしろ! WWEに比べるとドロ臭さ過ぎるのだ。何の工夫もせずに、きのうまでやっていた試合をそのまま持ち込んでどうなるんだ。

それと笑いの低劣さ。ロシアン54が出てきた時に言ったぞ。「ロシアン54は何の変哲もパフォーマンスもない。オレなら、こう言う。『京都の和菓子職人に凄いのがいる。どんな手の込んだ和菓子も54秒で作ってしまう。そこで〝コシ餡(アン)54〟とリングネームを付けたのだが、ウチの女の子が〝コ〟を〝ロ〟と書き間違えてマスコミにファックスしてしまったんだよ』と——」。



のハングリ
と、いまの
手たちにハ
付けること
問に思った
——恵まれ
恵まれてい
ないか?
高田 たと
いときに、
買いたい。
ゃあ節約し
合のチャン
勝ってファ
を喰おうっ
る。単純な
する意識が
が多くなっ
ているハン
させるため
境をつくっ
——内部的
ですね。高
る世界だっ
高田 その
でしまった
グリーさを
なかった。
のリングで
は、肉体と
というパー
からね。
——たしか
えてきたシ
ら、面白い
いですね。
高田 出し
——ところ
常にハング
ているとい
喰うか喰わ
い雰囲気も

〃ド・フィクション〃の世界に〃圧倒的現実〃が舞い降りた!!

観客ジャッジシステム劇場

観客ジャッジシステムが導入され、小川直也に過酷な現実を突きつけるかたちとなった小川直也vs川田利明のキャプテン争奪マッチは、骨太でゴツゴツした重厚な試合展開となった。川田がプロレスの基本技ヘッドロックでギリギリと長時間締め上げれば、オープンフィンガーグローブにレガース装着と〃暴走王〃スタイルで登場した小川は、まさかの四の字固めを初披露する。精神と肉体の激しい攻防にお互いの表情は歪み大量の汗が飛び散る。両者一進一退の攻防は、随時ビジョンでその行方がわかるネット投票にもそのまま表れた。当初は川田が圧倒的にリードしていたネット票だったが、鬼気迫る小川のファイトに徐々に形勢は逆転していく。小川優勢! STOボンバー5連発で川田を仕留め、試合勝利による1ポイントを獲得したときネット票はわずかに「小川勝利」圏内を彷徨っていたが、ゴング終了後に川田票が急激上昇! まさかの逆転勝利でネット投票ポイントは川田が獲得。そして——運命の観客ジャッジシステムに決着を委ねられた——!! ★





観客ジャッジシステムとは

○試合の勝者に1ポイント
○『ハッスルオフィシャルサイト』及び、『ハッスルオフィシャル携帯サイト』、スカパーPPV視聴者よる投票数が多い選手に1ポイント。試合開始のゴングから投票可能。
○観客ボードジャッジメント。試合後、来場者がキャプテンに相応しいと思った方の名前が書かれたボードを掲げる。合計ボード数が多い選手に1ポイント。

以上、三項目の勝負によってキャプテンの座が争われた。

【会場に「小川!」コール&「川田!」コールが相乱れてこだまする。両者はコーナーに座り込んだまま動かず】

川田 (コーナーで座り込んだまま)……小川! **オマエ、ショッパくねえじゃねえかよ!** 俺はな、最初からキャプテンなんかどうでもいいんだ。俺は、オマエにな、**プロレスラーとして目覚めてほしかったんだよ。** オマエこれから、キャプテン大変だぞ。いつでも気ィ抜いたら、引きずり落としてやるからな。

【観客ジャッジ実施前から、ハッスル軍のキャプテンの座を小川に託す発言をする川田】

ケイ・グラント(以下MC) ……それでは、これから観客のみなさん、小川選手と川田選手、どっちがキャプテンにふさわしいか、ジャッジしていただきます。ボードをご用意ください。

【館内入場時に配布された「小川」「川田」ボードの提示を観客に要求】

川田 (鮮血を口から滴らせながら) 小川、オマエ立ちな!

【川田の声に促され、小川もなんとか立ち上がる。両者、コーナーにもたれ掛かりながら審判の時を待つ】

MC ……では、まいります(緊張した面持ちで)。3、2、1……ジャッジ!!

【「ハッスル野鳥の会」の皆さんが観客が掲げたボードのカウントをする。両者が虚空を見つめる中、集計が終了——!!】

MC ……キャプテンにふさわしいと判断されたのは……**川田選手!!**

【静まりかえる場内】

MC ……最終結果2対1で、川田選手の勝利! 川田選手がハッスル軍のキャプテンとなります!

川田 (マイクを握り会場を見渡してから)……お客さん、ありがとうございます。気持ちは、しっかり受け取らせていただきます。でも、リングでフォールされた以上、キャプテンやることは、俺、できません。

【会場から一斉に「ええー!?」という声が上がる】

川田 オイ! 小川、オマエがしっかり『ハッスル』を引っ張っていくしかないんだよ。**俺はな、ここの立場でいるのが好きなんだよ、自由で。**

【〃オレだけは自由〃宣言に観客笑い】

川田 だから、ここまで今日来てくれたお客さん、引っ張っていってくれ、オマエが。

小川 ……(無言でリアクションはせず)。

【突如として髙田総統の声が会場に響き渡る】

髙田総統(以下総統) 君たちの友情物語、楽しませてもらったよ!

【『威風堂々』のテーマとともに、大会〃プロデューサー〃髙田総統以下モンスター軍が、スモークに包まれステージに。会場は一斉にブーイング】

総統 明日からの3連休、どうせ、ロクな予定も入ってない下々の諸君よ、いい思い出になったんじゃないかな。感謝をしてくれたまえ!

【会場一斉にブーイング】

総統 この中に、今日、私を初めて拝むファンもいるだろう。挨拶をしておこう! 我こそが、髙田モンスター軍総統、髙田だ!! 今日は、観客ジャッジシステムという形で、プロレスの本質に切

ドリー

PRIDEネットワーク拡大! 未知の強豪続々発掘!!

ヒョードルとの再契約も完了!



り込んだ実験をしてみた。

【「実験にしちゃ、しょっぱいよ!」とヤジが飛ぶ】

総統 (顔色一つ変えず、冷静に)君、正直なことを言うじゃないか。

【会場爆笑!】

総統 もう少ししゃべらせてくれ。今度は、我がモンスター軍、そしてハッスル軍、それぞれ、ここにいるプロレスファン諸君に株を持ってもらう制度を導入しようと思ってんだ。しかしだ! 2つの問題点があった。1つ目、ここにいるチキンに引きこもり、この2人にあのホリエモン(ライブドア堀江社長)ほどの行動力があるとは、私には到底思えない。2つ目、ここに来ている、しみったれたプロレスファンの諸君に、株を買うお金などあるわけがない(ニヤリ)。

【会場爆笑】

総統 話をもとに戻すがいいか? そこにいるチキン、引きこもり、いや、今日はあえて小川君に川田君と呼ばせてもらおうか。

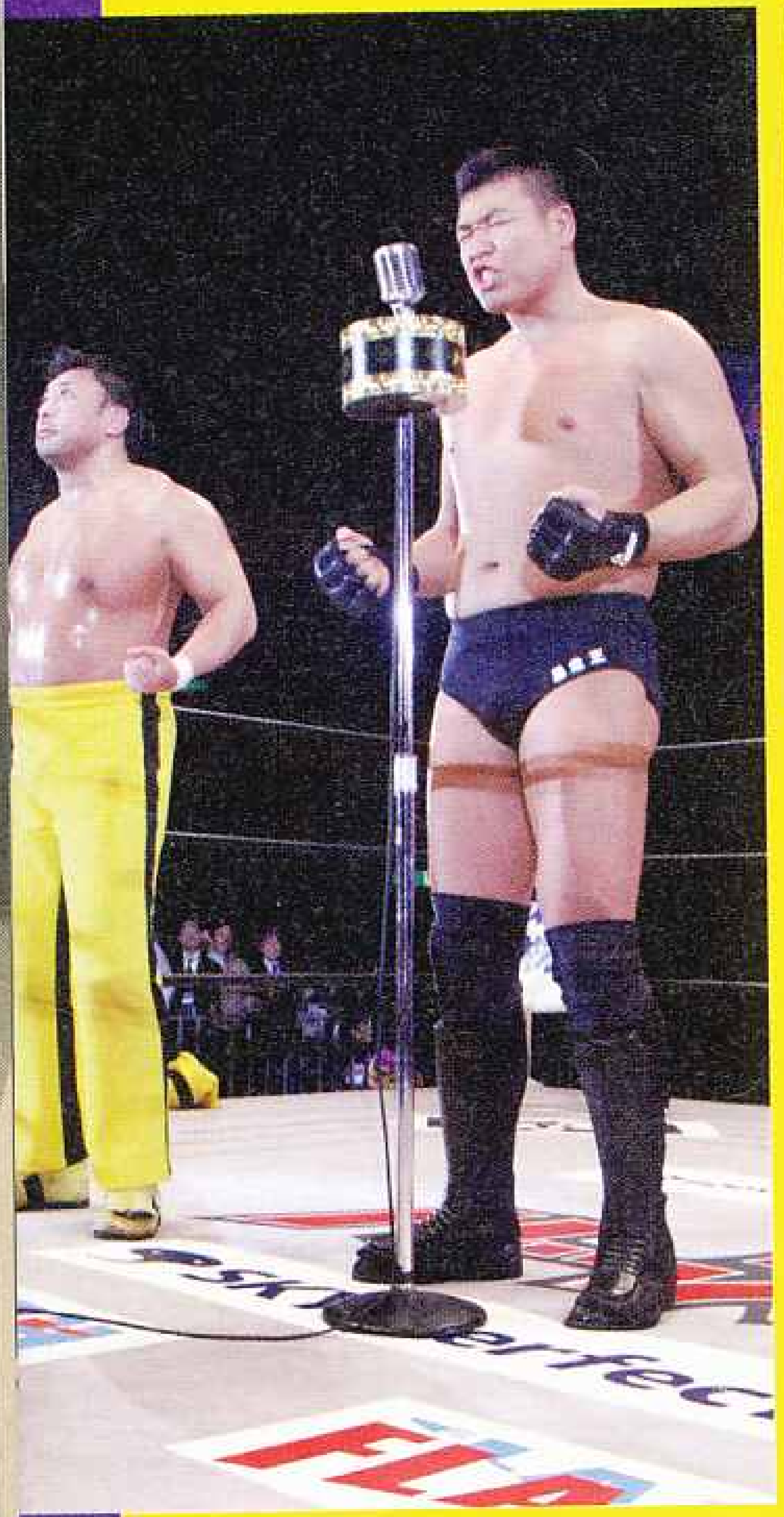
【「出てこいやー!」と総統に野次が飛ぶ】

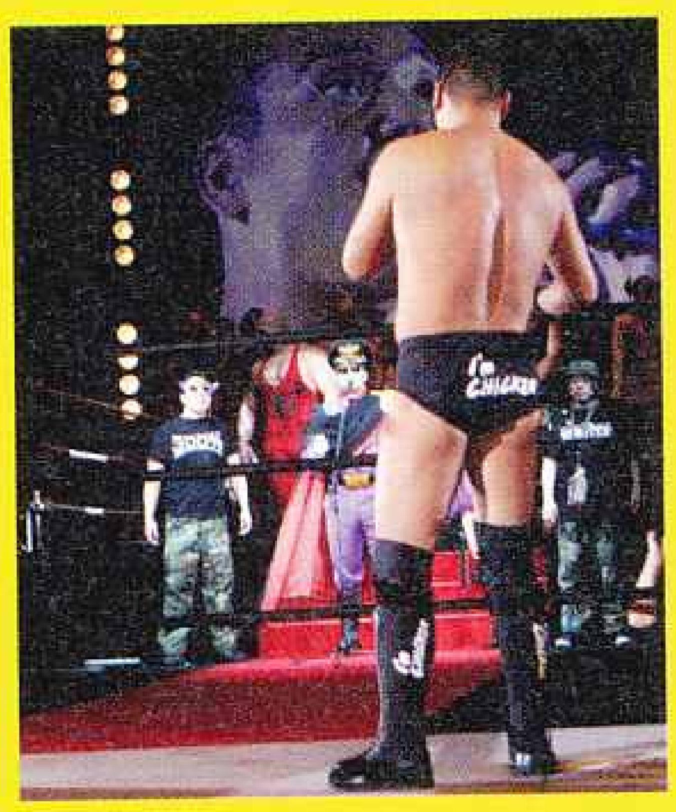
総統 それは違うんだよ! (キッパリ)。

【観客爆笑】

総統 今日は、君たちの試合をじっくり見せてもらった。**〝老人ホームの学芸会〞**より、ずいぶんいいじゃないか、フハハハッハ! (偉そうに高笑い)。

川田 オイ高田! 偉そうなこと言ってるけどな、プロレスはリングの上で闘ってナンボなんだよ。**オマエも、そろそろリングに出てこいやーっ!!**(と、髙田PRIDE統括本部長ばりに背中を反らせて吠える)













【観客大歓声!! 川田コール発生】

総統 ちょっと待て。いま非常に意表を突かれたよ。正直、ビビって、たじろいだ。

【場内爆笑】

総統 引きこもりの川田君、なかなかやるねぇ。君たちの美しき友情物語、涙をこらえて見せてもらった。ただ、一つ言っておくが、感動の涙じゃない。笑いの涙だ。一ついいことを教えてやろう。**真のトップを張る人間は常に孤独なんだ。孤独なくして、達成感はない! わかるだろ? 君たちにはこの孤独感と闘う勇気があるのか?**

川田 どうなんだ、小川。なんか言ってやれや!

小川 ……オイ、髙田! **俺はたしかにな、テメエより喋んのが下手クソだよ……!**

【場内笑い】

小川 **思い通りな、いかないことばっかなんだよ! ……でもな、俺は、ハッスルするしかないんだよ。ハッスルが俺の生きる道だ!!(天井に向かって絶叫! 若干目が赤くなっている)**

【小川の、心からの叫びに場内からは声援が飛ぶ】

小川 (ステージの総統に向かって)髙田、御託ばっかり並べている、オメエは一体何なんだ、コノヤロー!!

総統 ほぉ~、今日はヤケに元気がいいじゃないか。**小川のアンちゃん!!**

【観客爆笑!】

総統 何か少し面白くなってきたな(ニヤリ)。ただし、だ! この私をリングに引っ張り上げようなんていう愚かな考えは、即刻やめるんだな。なぜなら……**極々近い将来、君たちは大きな、大きな後悔をすることになる。**アン・ジョー司令長官、私はそろそろ時間だ。これからモスクワでウォッカを飲まなきゃいけないんだ。

【「えぇ~!!」と観客ため息!】

総統 BAD LUCK!

【総統以下モンスター軍が煙とともに退場】

川田 ……(無言で小川に手を差し出す)

小川 ……(リング中央でそれに応え握手を交わす)

川田 オマエがキャプテンだ。最後期待しているお客さんも多いから、しっかり締めてくれよ。

小川 ……(無言)

川田 **しっかり締めてくれ!**

【会場から「小川!!」コール】

小川 ……(堅い表情で無言)

川田 ホントにこの今日のお客さんの気持ちしっかり受け止めとけよ、オマエ。早く締めてくれ!

小川 (固い表情で)今日は、たくさんの、たくさんの、ホントにたくさんのご来場ありがとうございました! **今日は、ある意味、『PRIDEグランプリ』でヒョードルとやったとき以上に緊張しました。俺は至らないキャプテンかもしれないけど、みんな、俺についてきてくれよ!** 最後に、気持ちいい一発決めさせてくれっ!

【観客大拍手&大歓声】

小川 これからも、ハッスルするぞー!!

小川&川田&観客 3、2、1、ハッスル、ハッスル!!

★

小川直也・人生最大の屈辱の日と言っても過言ではない、重くて深い結末!! そこには人間・小川直也の、『ハッスル』に対する、プロレスに対する真摯な姿勢がハッキリとあぶり出されたのも事実である。はたして小川直也はいったい何を考え、何を思っているのか——?

のハングリ
と、いまの
手たちにハ
付けること
問に思った
—恵まれ
恵まれてい
ないか？
高田　たと
いときに、
買いたい。
ゃあ節約し
合のチャン
勝ってファ
を喰おうっ
る。単純な
する意識が
が多くなっ
ているハン
させるため
境をつくっ
—内部的
ですね。高
る世界だっ
高田　その
でしまった
なかった。
グリーさを
のリングで
は、肉体と
というパー
からね。
—たしか
えてきたシ
ら、面白い
いですね。
高田　出し
—ところ
常にハング
ているとい
喰うか喰わ
い雰囲気も



「さらば東京！　俺は旅に出る」

キャプテンはつらいよ

ハッスル幕情編

奮闘、努力のかいもなく〜♪

非情なるジャッジを下された暴走王を直撃!!

小川直也

聞き手／堀江ガンツ

designed by matsu (TwoThree)

PRIDEネットワーク拡大!
未知の強豪続々発掘!!

ヒョードルとの再契約も完了!



小川　いや～、ひさびさだね、『紙プロ』も。

――「ひさびさ」って、先月やったばかりですよ！　っていうか、ほとんど毎月やらせてもらってます（笑）。

小川　あ、そうだっけ？　いつもここに載ってんのかな～って不安でねぇ。ハッスルの記事もいつ打ち切りになるか……。

――なんだか今日はずいぶん弱気ですね（苦笑）。では、さっそく本題に入りますが、一昨日の『ハッスル8』両国大会では、観客ジャッジメントで残念な結果が出てしまったわけですけど……。

小川　まぁ、試合に勝って、勝負に負けたってことです！（淡々と）。ハッスルKの方がやっぱり、ずーっとってるプロレスをやってきただけに、背負プロレスファンの数が多かったというか、しょうがねえなってのがありますね。でも彼は彼の役目っていうのが重要だし、俺は俺で、世間に向けてハッスルするしかないわけだから、あの判定は仕方がないかなと。

――プロレスファンに長年訴えてきた川田さんの歴史に負けたと。

小川　俺も、その部分で勝とうなんて思ってないし、キャプテンに相応しくないと思われたなら、いつまでも居座るつもりもないし。俺がやってきたことが、間違ってたのかどうかわかんないけど、しょうがないなって気持ちはありますよ。

――でも、昨日川田さんがマイクで言ったとおり、「ハッスルは小川が引っ張っていくしかないんだ」というのは圧倒的な事実ですよね。

小川　Kも背負いたくないんだね。俺だってね（観客ジャッジメントで負けを判定されたとき）ノドまで出かかったよ。「やーめた！　あ、そう。わかってねーな、オマエら」みたいなね。

――「わかってねーな」というより、「なんでわかってくれないんだ？」って思いがあるんじゃないですか？

小川　いやいや、「わかってくれないんだ」みたいな意味は全然ないですよ。「わかんねんだなー、しょうがねーなー」って。これでプロレス界は従来のプロレスファンにいいように転がされて終わっちゃうのかなって気がしただけ。

――でも、ボードを掲げた観客ジャッジでは小川さんの負けでしたけど、





「小川はいらねぇよ」って不要論が出るなら俺は「あっそう」って降りるだけ。それだけですよ!

東京スポーツが出口調査でアンケートを取ったら、「小川にキャプテンをやってほしい」という意見が70％以上あったらしいんですよ。だから、川田さんのボードを上げた人が多かったのは、その場のノリっていうのもあったと思うんですよね。

小川　その場のノリでよければ、それでいいのかっていうのはね。ファンも目が肥えてんだか、肥えてないんだかわかんないけど、プロレスファンってある意味、もっと全体を見ているもんだと思ってたけど、その場の雰囲気で、うまく事を運ばないようにするのがプロレスファンなのかな？　みたいなね。俺は別に必要とされないんならいいんですよ。「もういいや、俺降りるよ！」って言えば楽だもん。

――いや、だから小川さん、そんなにスネないでください（笑）。

小川　俺はプロレスが好きで『ハッスル』を広めようと思ってるから、やってるだけでさ。

――ただキャプテンという地位にしがみついているわけじゃないってことですよね？

小川　そう。元々、しがみつく主義じゃないんだからさ。「小川はいらねえよ」って不要論になればさ、「あ、そう」って降りるだけ。それだけですよ。

――でも、あの観客のジャッジは期待の裏返しでもあると思うんですよ。小川直也にもっとプロレスに対して本気になってほしいという。

小川　俺は常に本気だよ！　俺はハッスルすることに本気だから、プロレスをおろそかにしたり、ラクしようとしてないけど、こっちはテレビ一本出るにも『ハッスル』のためだと思って一個一個勝負してるんだよね。いろんなイベントに出るのだって一緒ですよ。例えば、あちち（大谷晋二郎）はプロレスの中身の方で頑張ってくれてる。俺はプロレスもやりながら、世間にハッスルを広めるためにプロレスとは違う方法論でも勝負してる。それがわかってもらえないファンが多いんだろうなーって感じたけどね。テレビに出てるやつが嫌いなんだろうね、プロレスファンは。

――まぁ、そういう部分は少なからずあるかもしれないですけどね（笑）。小川さん、髙田総統にはいろいろ言われてますけど、ご自分が「しょっぱい」っていう意識はあるんですか？

小川　しょっぱいっていうかね、ウマい・ヘタってみんな、どこで区別してんの？って。俺から言わせてもらえば、お客さんが入ってないこと＝ヘタクソだもん。プロレスがウマいっていうのは素晴らしいことかもしれないけど、その「ウマい」を理解してくれる人間だけに対してやっていって自己満足してる場合じゃないからさ。ホントにウマいプロレスが見たいなら、ウマいヤツだけが集まってやるプロレスを求めればいいじゃないですか。でも、ウマいヤツだけのプロレスって面白くないよ。要はヘタでも気になるから「なんとかしろ」って言われる。だからウマくなろうという前向きな気持ちさえあればいいと思うけどね。だって田舎に行ったらウマい・ヘタなんて誰も言わないよ。だからそういうプロレスが見たいなら、俺だったら東京でやんなきゃいいんだなって思うよ。「キャプテン、休場！」とかさ。

――小川直也は東京の試合には出ませんと（笑）。

福岡がいま地震で大変だからこそ、ハッスルを届けなきゃいけないと思う

小川 要は俺がいてもいなくても、興行成り立ってりゃいいんだもん。

——キャプテン、そ、そんな意地にならなくても……（笑）。

小川 今秋『ハッスル・マニア』開催が発表されたけどさ、「首都圏でやるのやめようよ。関西でやろう」って思ったよ（笑）。「来たけりゃどこでも来いよ」みたいなね。

——でも、東京のファンも小川選手に対する期待感って、実はもの凄くあると思うんですよ。それじゃなきゃ、リングは『ハッスル』じゃなくて『PRIDE』でしたけど、さいたまスーパーアリーナで、4万人が一体となって小川さんのこと応援しませんよ。

小川 いや、でもその部分は違う。今となっては総合ファンとプロレスファンは数字から見ても結びつかないから。プロレスラーが格闘家に挑むっていう図式のようなものにこのまま乗り続けるなら、おそらく、消滅するのはわかってるから。俺もそこまでバカじゃないし、ファンをいい意味で裏切ってこそ、プロレスラーだっていう自負があるから。俺は『ハッスル』を広げるために、インリンとも闘ったんだよ。

——でも、プロレスってイメージビジネスですから、やっぱり小川さんは、〝犠牲〟になりすぎちゃった部分があると思いますけどね。

小川 いやいや、犠牲になりすぎたというか、なれるヤツがいないのよ。『ハッスル』を全力でやる」とか言ってるのに「コレだけはできません」って、ケツの穴小さいヤツらばっかでしょ？ 俺はそんなの関係ないからさ。例えばさ、『ハッスル7』で、インリンが俺じゃなくてハッスルなでしこ（Hikaru）とか、中村カントクにM字固めで勝ったところで、盛り上がったか？ お客さん、納得しないよ。あの時の「3、2、1、モンスター」とか、両国の〝M字ビターンコンテスト〟とか、インリン様が入ってくるときのボレロの入場曲がかかったときの盛り上がりは、俺が身体と心を張ってなきゃ、ないよ！ 俺は『ハッスル』全体のことを考えればやるし、逆に言えば、そういうつもりでいないと、『ハッスル』を広めることはできない。

——でも、イメージとして、強い小川直也、怖い小川直也を再構築する必要はあると思うんですけど。

小川 必要なんだけど、なぜ俺がそれをできなかったかって言うと、いままで『ハッスル』に定着する選手がいなかったから。ようやくここで、ハッスルKとかあちちが定着したけどさ、去年1年は、言っちゃ悪いけど、「ちょっと乗ってみようかな」みたいに、乗ってきては降りてっていう、様子見のヤツらばっかりだったじゃん。それが1年経って、〝船〟に乗ってくる人がちゃんと揃ってきたっていうのが現状だから。だってさ、昔の俺だったら、やらないよ。『ハッスル』に関わらなかったら、やらない。

——じゃあ、これからはメンバーが揃って、反撃開始と思っていいわけですか？

小川 そう！ これまではキング（橋本真也）はいねぇは、パワー（長州力）はどっかと行ったり来たりだわっていう状況だったけど、ハッスルKがようやく全日本卒業という形で来てくれた。欲を言えば『ハッスル』に専念してくれたら、なお最高なんだけどね。あとはあちちもいるからね。これで3人揃ったからさ、ポジションがハッキリして、動き出しますよ。

——人間関係ができあがったからこそ、ドラマが展開していくわけですね。

小川 そう。あちちみたいな、ああいう風にお客さんに合わせてしゃべるレスラーって実は少ないから貴重だよ。あれでキャラをもっと確立したら、最高だと思うし、最近はハッスルKもやたらしゃべるようになったから、これからは総統の野郎から言われっぱなしじゃねーよ！

——では、小川さん自身は、昨年は『ハッスル』のために『PRIDE・GP』に出場しましたけど、『ハッスル』をより世間にアピールするために、今年はどんなことを考えていますか？

小川 『ハッスル』のために何をすべきかっていうのはわかってて、地方を回って根付かせるしかないんだよね。草の根運動だよ。『PRIDE』に出て人気が出たとしても、それは結局、『PRIDE』での人気になっちゃうから、特にテレビはね。だからそうじゃなしに、昔ZERO-ONEが地方に根付かせたみたいに、『ハッスル』がそれをしなきゃいけない時期だと思うんだよね。当然、普及には時間も労力もかかるのは覚悟してるよ。

——さしあたって、その第一歩が5月の新潟と札幌2連戦になるわけですね。

小川 うん。それとあとは7月に福岡、大阪に行く。だってホラ、福岡だと西日本テレビでオバケ番組になっちゃったわけでしょ？

——あ、なんかハッスルを深夜に放送したら、深夜としては驚異的な8％以上の視聴率を記録したらしいですね。

小川 だからさ、福岡はいま地震で大変だけどさ、まさに『ハッスル』を届けなきゃいけないかなと思ってる。もちろん新潟もそうだけど。だから今年は、テレビで『ハッスル』をアピールしつつ、地方を回って全国にハッスルを届けたいね。

——じゃあ、ホントに東京ではやらないんですか？

小川 やらない！ 少なくとも俺は出ない！ もう〝男はつらいよ〟じゃなくて、〝キャプテンはつらいよ〟だよ。俺は「フーテンのオー」として、全国回るから。

——東京には盆と正月しか帰ってこないみたいな（笑）。

小川 そう。1年に1回帰ればいいだろう。それ、『レッスルマニア』と一緒じゃないか。それで行こう！ これから俺は「フーテンのオー！」だな。東京には気が向いたときにぶらっと帰ってくるよ（笑）。

——で、プロレスファンに失恋して地方に出る、と（笑）。

小川 おまえ、ヤなこと言うな～。でも、必ずプロレスファンとの恋は成就させるから。……なんか気持ち悪ぃなぁ。「フーテンのオー」は失恋してナンボだろ（笑）。

——わかりました。では、「フーテンのオー」全国行脚に期待してます！

小川 おう、行ってくら!! ♪今日も～涙の陽が落ちる～、陽が～落～ち～る～（歌いながら去っていく）

【05年3月20日／都内・某ホテルにて収録】





3・18両国では観客に非常なジャッジを下されたが、翌19日の静岡では大声援を浴びたキャプテン（今のところ）。今後、新潟、札幌、福岡と地方を回っていき、再び東京に戻ったとき、観客の反応がどう変わっているか注目される。

「それを言っちゃあオシマイよ!!」東京を飛び出したフーテンのオーちゃんが全国を放浪!!

『ハッスル』全国ツアー2005!!

5月10日　新潟県／新潟市体育館
5月14日　北海道／札幌スピカ
5月15日　北海道／札幌スピカ
今秋　都内／『ハッスル・マニア』開催決定
※イベントの詳細は後日正式発表されます

PRIDEネットワーク拡大!
未知の強豪続々発掘!!



ヒョードルとの再契約も完了!

ハッスルを届けなきゃいけないと思う

〝運命の空間〟を共有した男が語る『ハッスル8』

川田利明

「小川直也はこれからが勝負だ」

——川田さん！ まずは小川直也戦の率直な感想から聞かせてください。

川田 俺はいつもと同じように闘っていたつもりなんだけど、まぁお客さんがどういうモードで見ていいかわからないかんじがしたね。

——『ハッスル』には珍しく『PRIDE』の煽り映像風にシリアスなカード紹介をして、試合内容もかなり硬質でしたよね。

川田 だから『ハッスル』ファン、つまり新しいファンからすると戸惑いもあったんじゃないかな。あとメイン前までいろいろありすぎてお客さんが疲れちゃったところもあると思うんだよ。

——メイン前のセミファイナルのハードコアマッチには「おでん」の屋台が武器として出てきてましたね（笑）。「おでん」のあとに小川vs川田戦は信じられない光景ですよ！

川田 あとM字ビターンコンテストがメインになっていたところもあるから。たしかに『ハッスル』はいままでやらなかったことをやるのが売りだから、やってみないことにはどれが成功なのかわからない。でも、とりあえずアジャ・コングのM字ビターンはいらないよ。あんなの、誰が見たいんだよ（笑）。

——ワハハハハ！ それってコンテストが盛り上がったことへの嫉妬の感情もあるんですか？

川田 いや、そういうわけじゃないよ。ただ、さっきも言ったけど、そういう雰囲気の中でファンはメインの試合をどう見ていいか戸惑いがあったんじゃないかな。

——前回ZERO-ONEでやったときとは違いを感じましたか？

川田 あのときは俺と小川、そしてZERO-ONEのお客さんもそういう試合に入れるモードだったと思う。

——それは試合内容云々とはいうよりも、選手の立場、イベントなどを取り巻く背景が違うところも影響しているような気がします。

川田 そこは大きいだろうね。

——それにいまは『ハッスル』のファンも満足させないといけないし、従来のプロレスファンのニーズにも応えないといけない。これは大変な作業ですよ！

川田 難しいことだよ。だから、俺は「キャプテンはやらない」って言ったんだから（笑）。

——そ、そうでしたか（笑）。で、今回、川田さんは「小川さんにプロレスを叩き込む」という決意で試合に臨まれましたが、ヘッドロックでグイグイ締め上げたりと、プロレスの基本中の基本技で執拗に小川さんを攻めていましたよね。

川田 「プロレスを叩き込む」と言った以上、精神的なこともそうだけど、こういう技もあるんだよってことを教えたかった。

——小川さんも珍しく四の字固めやジャンピング・ネックブリーカーを繰り出してましたけど。

川田 小川がそんな技をできると思わなかったね。それだけ必死だったんだろうけど。

小川は変に格好付ける必要はないですよ ありのままの姿を出せば共感を呼びますよ

——観客ジャッジシステム導入も小川さんの闘志に火を付けた大きな要素になったと思います。

川田 やっぱり本人の『ハッスル』への思いや試合結果に関わらず観客にジャッジされてしまうわけだから。そこは怖い部分だよね。結局、小川は頑張ったのにああいう結果になったから、かなり落ち込んでるんじゃないかなぁ。

——試合終了直後、川田さんは自分自身が観客の支持を集めると思っていましたか？

川田 それはわからなかった。考えていなかった。どうなろうと、フォールを取られた以上、負けは負けだと思っていたしね。

——観客の審判に勝敗が委ねられることへのプレッシャーはなかったんですか？

川田 いつもと一緒ですね。俺は変わりない。

——小川さんは緊張気味だったというか、いつもより闘いに没頭しているように見えたんですけど。

川田 どうだろなぁ。ただ、俺は前から言ってるように小川はやればできるんだから。最近は浮かれ過ぎちゃっていたけど、キャプテンを務められるのは小川以外にいない。本人は固辞してるけど小川しかできない。

——その小川さんにキャプテンとして期待したいところは何になりますか？

川田 彼は知名度があるから、それを武器に頑張っていくしかないと思うけど、3・19静岡で花道から引き上げるとき、小川より俺のほうが声援は多かったんだよね。それはなぜかというと、きっと俺は常に地方に顔を出しているからなんだよ。

——巡業を通してファンにとって川田さんは身近な存在だった。

川田 やっぱり顔を出すことが大切。そうすることで初めて暖かい声援が出てくる。小川も内に目を向けて頑張っていけば、知名度という武器に加えてプロレスファンの信頼も手に入ると思うよ。

——そういう意味では、小川さんは静岡での「俺より喋りのうまい〝ハッスルあちち〟がいるんだ。好き勝手にはさせねぞ！」というマイクアピールにしても、ファンに対するアプローチも変わってきてますよね。

川田 変にカッコつける必要はないですよ。正直にありのままの自分を出したほうがファンだって共感を呼びますよ。

——結論としては、小川直也に期待できるけど、何より今後の行動が勝負になってくる、と。

川田 そういうことだね。これからが大変ですよ、小川は。

——最後にひとつだけ。川田さんに続いて石狩太一さんも全日本を退団されて〝無所属〟になりました。川田さんは6年前から全日本と契約されてなくて、今回それを改めてファンに公表しただけで全日本との関係は変わらないそうですが、石狩さんはなぜ辞めたんですか？

川田 別に俺は「やめろ」なんて言ってないんだけどな。アイツは勝手に勘違いして辞めたんだよ。

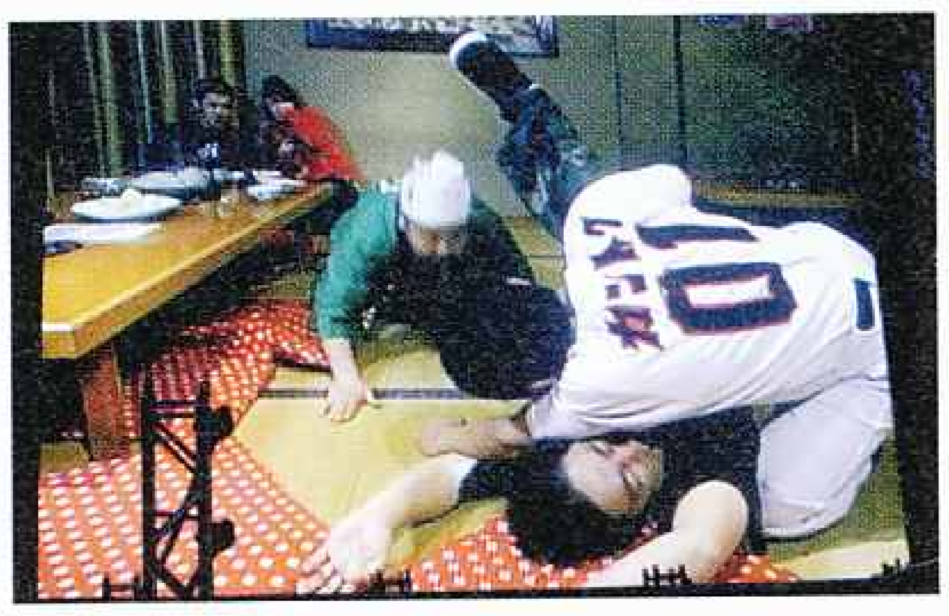
——ガハハハハ！ 勘違いで退団しましたか！ 川田さんが〝無所属〟宣言した理由をよく理解してなかったのかも（笑）。

川田 全日本の寮も出るとか言ってるけど、どうするんだろうねえ、あの野郎。〝無所属〟になってから浮かれて失敗ばっかしてんだよ。石狩らしいと言えばらしいんだけどさ（笑）。

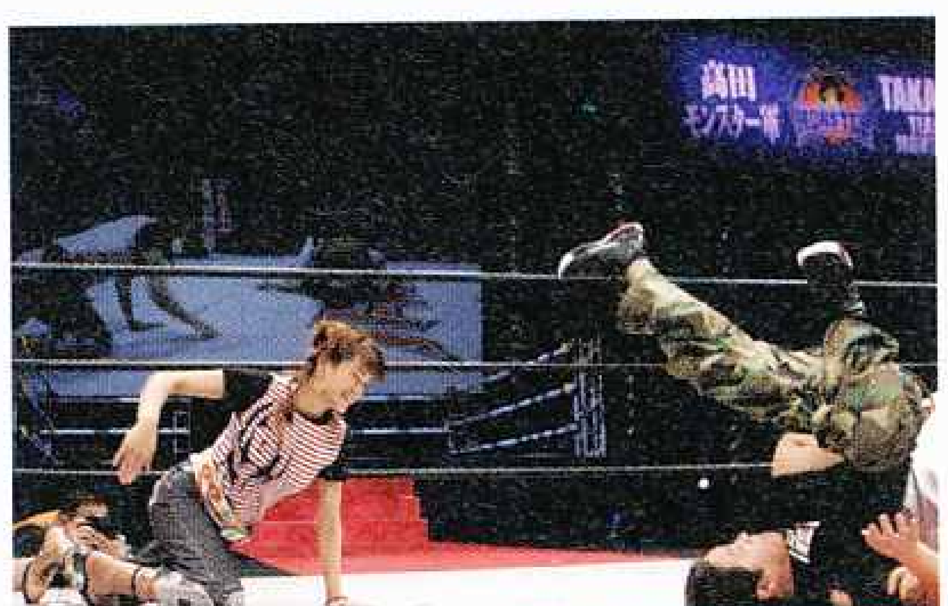
のハングリ
と、いまの
手たちにハ
付けること
問に思った
——恵まれ
恵まれてい
ないか?
高田 たと
いときに、
買いたい。
ゃあ節約し
合のチャン
勝ってファ
を喰おう
る。単純な
する意識が
が多くなっ
ているハン
させるため
境をつくっ
——内部的
ですね。高
る世界だっ
高田 その
でしまった
グリーさを
なかった。
のリングで
は、肉体と
というパー
からね。
——たしか
えてきたシ
ら、面白い
いですね。
高田 出し
——ところ
常にハング
ているとい
喰うか喰わ
い雰囲気も

プロレス界に何の影響もない因縁決着戦!

島田vsカントクは どこでもフォール! 誰でもカウント!







開始早々両者は場外へ。随時中継が行われるということで、第2モンスターがスタート。両国駅前、さらにチャンコ屋に突入して大乱闘。第4モンスター終了後リングにカムバック。不在のレフェリーに代わって放送席から青木裕子がリングインし、島田の丸め込みを3カウント!

大会関係者は全員覆面姿!!　総統の肖像絵には人だかり!!



入場口には、地方の観光地でありがちな顔キリヌキ選手等身大パネルが設置されていた。髙田総統、キャプテン、ハッスルKはもちろん、我らがジャイアント・シルバさんの等身大パネルは￥5000で販売!　売れたのかな。

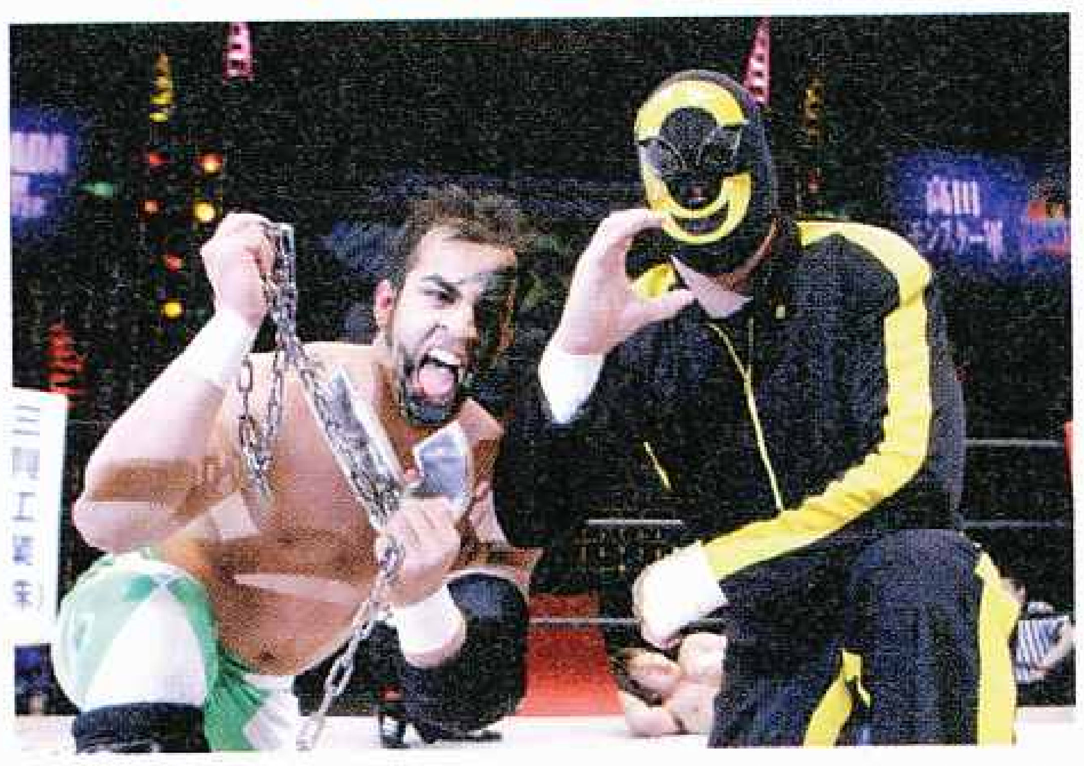


インリン様が『ハッスル』ポスターイラストでおなじみの金子ナンペイ氏の事務所へセクシーに乗り込み書くよう命じた肖像絵がこれだ。多くのモンスター信者たちが携帯カメラで激写!　すごい人だかりだった。



髙田総統がプロデュースするイベントなので大会関係者のみならず、実況アナ、解説、チケットのもぎり、警備員に至るまでもがモンスターマスクを着用。覆面警備員が席まで案内してくれるのだ。

ボード無料配布でハッスル名物掛け声マッチは大盛況!



掛け声マッチの主役といえば、ザ・モンスター℃＆モンスターJの2人において他ならない。ハッスル前座戦線では"主役"のポジションをキープしている、『ハッスル』には欠かせないモンスターたちだ。



「C&J」ボード、「I＆崔」ボードが観客に無料配布。しかし、"ハッスルI"石狩は控室スキットで「崔」を「ジャン（雀）」と読んでしまい、崔リョウジには「ジャン!」コールが飛び交う珍事発生!

驚ガク!　ハッスル・レンジャー結成!



小さい身体でモンスター軍に立ち向かうハッスル仮面ピンクに人気が集中!　驚異的な飛び技を目まぐるしく繰り出した。ちなみにピンクの正体は臼杵PRという噂!　はまったく流れていない。



ハッスル仮面が増殖!　デブでカレー好きのイエロー（ドデカスプーンを持参）、オッチョコチョイでクリクリパーマのグリーン、女の子のピンクが初登場!　レッド＆ブルーとハッスル・レンジャーを結成!

ビビってたじろぐ

"漫画の世界"へようこそ!!

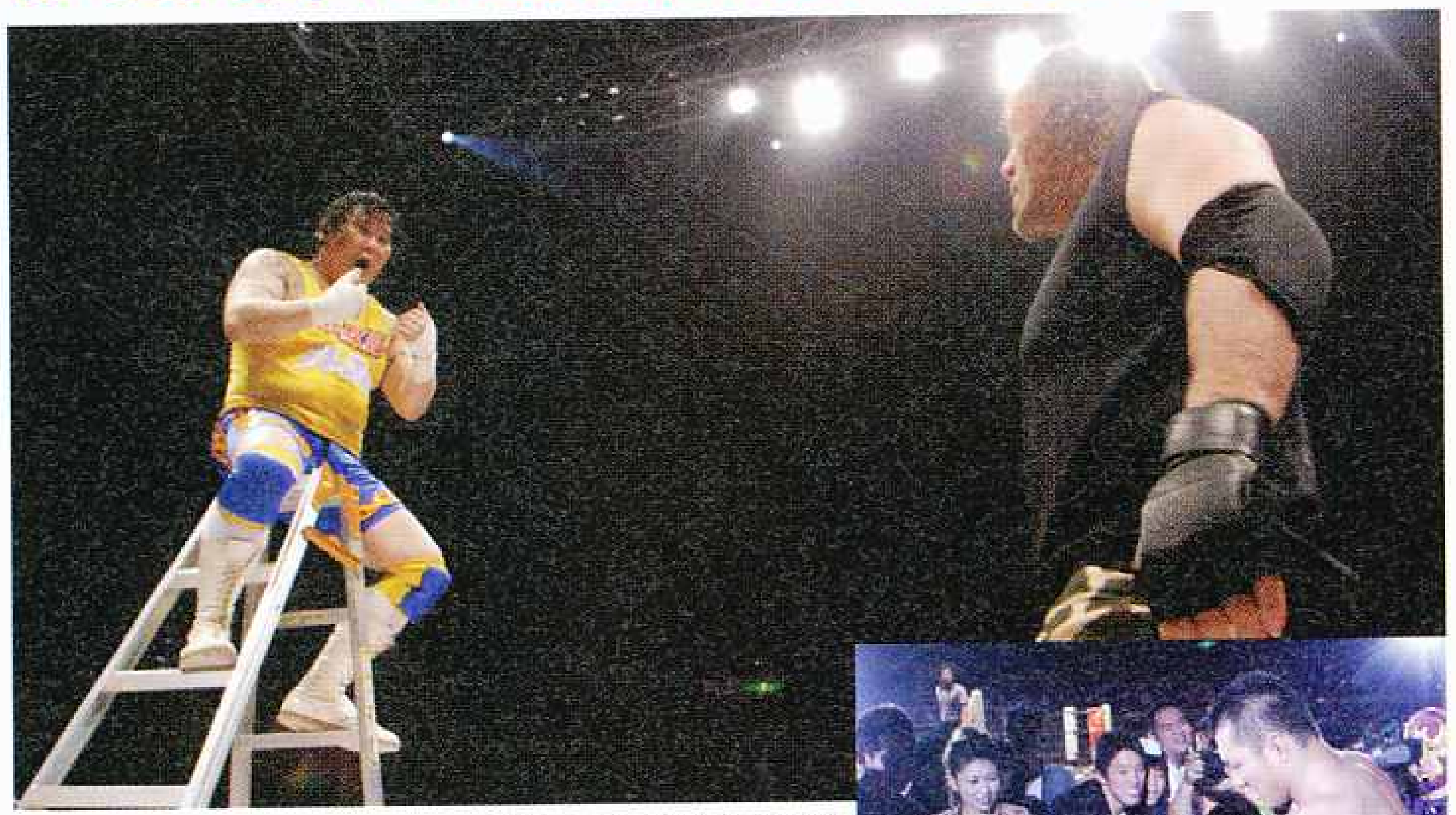
『ハッスル8』DIGEST

3・18 両国国技館

PRIDEネットワーク拡大!
未知の強豪続々発掘!!

ヒョードルとの再契約も完了!

おでん攻撃に鶴太郎ばりにギブアップ!!

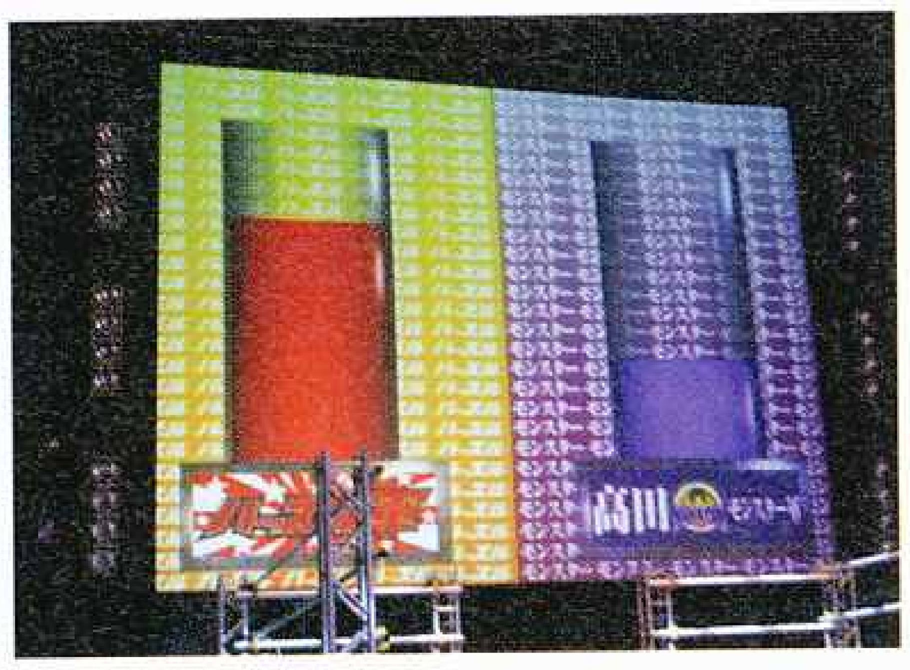




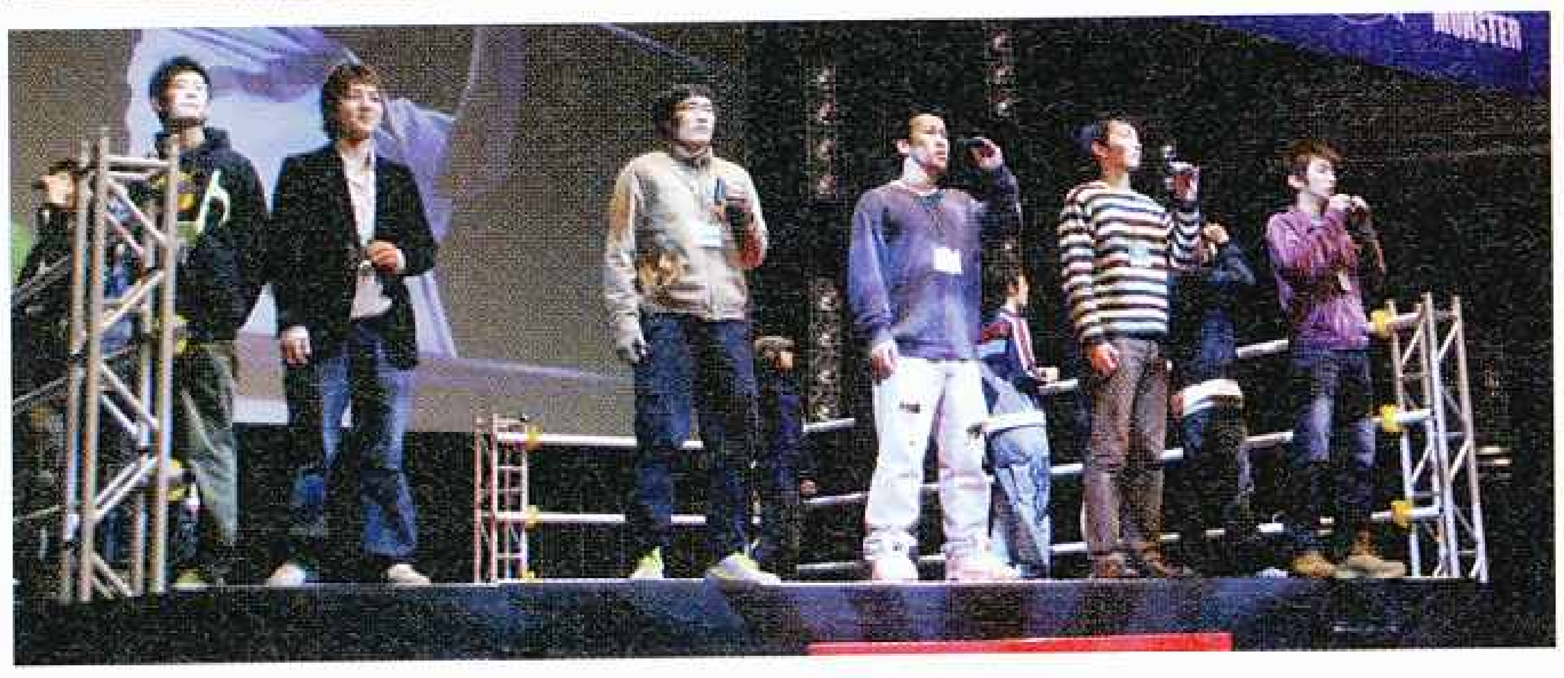
ハッスル・ハードコア・ヒーロー、略してHHH選手権の優勝者には黄金ロットが贈呈される。ひとりひとつの公認凶器の使用が許され、自転車、脚立、棍棒、水風船が持ち込まれる中、坂田の凶器はなんとおでんの屋台! 金村を椅子にくくりつけおでんの具を押しつけギブアップさせた! 結局、優勝したのは“ハッスルギター”田中将斗!



対抗戦の行方も『観客ジャッジシステム』が決着!!



2vs2のイーブンに持ち込まれたハッスル軍vsモンスター軍の対抗戦は、「どちらがハッスルしていたか」という焦点のもと観客ジャッジによる決着へ。「ハッスル野鳥の会」の皆さんが観客の掲げたボードを双眼鏡でカウント。圧倒的支持でハッスル軍の勝利!



ザ・サムー&雪女グレ子が両国に雪を降らす!?





雪女グレ子がサムーと共に祈りをささげるとリング上に雪が降り始める!!ガクガクと震え始めた大谷だが、大谷は自ら放出する熱で雪女グレ子を弱らせ、「オレはあちちだ〜!!」と絶叫。どうでもいいが、グレ子のM字ビターンが見たい。

インリン様大・人・気!!

M字ビターンコンテストで大洗脳!!



「せ〜の、インリンさま〜!!」観客は異常なほどの大合唱でインリン様の光臨を待ちわびた。そして今宵も炸裂するインリン様のM字ビターン!! ERICAさんの四股を見た直後だけに数億倍の輝きです!! モンスタ〜ァ!!



観客の声援を考慮してインリン様が優勝者を選出するシステムだが、観客は圧倒的にERICAちゃんを支持。しかし、インリン様は「アマゾネス軍は美しくないとダメ!」と説得力200%のお言葉。ERICAちゃんはインリン様潰しを宣言!



この光景をカラーで伝えていいのか? 事前記者会見に欠席したワイルドハーフ系美女ERICAさんは、なんとアジャ・コング(本名・宍戸江利花)!! 制止を無視して四股を踏むかのようにM字を披露! 履歴書を偽造しての応募だった



インリン様が独断で決めるM字ビターンコンテスト優勝者は、岡田ひかりちゃん(21歳)。101センチのIカップから繰り出すIブリッジと福井弁がセールスポイント。“ハッスルI”石狩が下心丸出しで“I”対決を熱望しているという噂だ。

のハング
と、いまの
手たちにハ
付けること
問に思った
―恵まれ
恵まれてい
ないか?
高田 たと
いときに、
買いたい。
ゃあ節約
合のチャン
勝ってファ
を喰おう
る。単純な
する意識が
が多くなっ
ているハン
させるため
境をつくっ
―内部的
ですね。高
る世界だっ
高田 その
でしまった
グリーさを
なかった。
のリングで
は、肉体と
というパー
からね。
―たしか
えてきたシ
ら、面白い
いですね。
高田 出し
―ところ
常にハング
ているとい
喰うか喰わ
い雰囲気も

3・19グランシップ静岡 ハッスル・ハウスが地方にやってきた!!







①オープニングはハッスル仮面グリーン＆日高郁人vsモンスターJ＆鬼蜘蛛。両国で無料配布されたボードを掲げ「J!」コールをするファンの姿も。最後はオッチョコチョイのグリーンが高速回転エビ固めで勝利!!

②ハードコア6人タッグ。バンパイアを2階から叩き落したスパンキーはそのまま2Fからダイブ!! 脚立で2Fに登ったHHH王者・田中もスーパーフライ!! 最後は田中が十八番「白いギター」をフルスイングさせてバンパイアを沈めた。

③生まれたときから茶畑で馬車馬のように働かされ続け、茶摘み以外はしたことない「モンスターT」。必殺技は茶摘みで鍛えた指先から繰り出される茶摘みクロー。試合は序盤から「K」「T」の掛け声が交錯する掛け声マッチ。島田が乱入して目にお茶っ葉を投げつけてTを援護したが、川田は顔面蹴りからのラリアット＆パワーボムでTを飲み干した。



メイン後、髙田総統にキャプテン＆ハッスルKが噛み付く!「髙田、おすぎみたいな映画評論家になったほうがいいんじゃねえか?(小川)」「それを言うなら、ピーコのファッションチェックじゃねえか? その格好でピーコのファッションチェックを受ける勇気はあるのか? まあ、オレ達と闘う勇気もねえんだから、怖いんだろう?(川田)」

石狩劇場 ～誕生日編～





総統がビジョンから「石狩君、今日は誕生日らしいな。プレゼントをやろう。大きい箱と小さい箱どちらがいい?」と珍しく敵軍に贈り物。「川田さんにも大きく生きろと言われたんで、大きい箱!!」と選んだが大箱から出てきたのはジャイアント・シルバ!! “舌切り雀”なオチ。シルバにボコボコにされた石狩は口にロウソクを立てられた。

坂田亘の暴力大将劇場!!



坂田の悪行を暴く被害者の会が結成され、アン・ジョーと笹原GMが被害者に事情聴取。坂田亘被害者の会・大池B子(仮名)さんは、クリスマスSPで「オレに惚れるよなよ!」と声を掛けられた巨乳女性。「彼氏にも疑われるし、迷惑しています」



D浪口(仮名)は「呼ばれたので30メートル先からダッシュしてきたら『靴片付けとけ!』。あと縄跳びで笑いながらぶたれたんですよ」とミミズ腫れになった身体を見せる。アン・ジョー「普通なら訴えられマ～ス。罰金20万円デ～ス」



被害者のMソルジャーが恨みを返すべく試合に出撃したが逆にボコボコにされ試合後は「ノドが乾いた。お茶持って来い」とパシリにされ、熱いお茶をぶちまけられ、さらに坂田が目をつけた会場の女子の「電話番号を聞いておけ!」



「ホントに特徴のない田舎ですね」(島田二等兵)

「こんなド・カントリーにプリティ・ガールはいないデ～ス」(アン・ジョー司令長官)

「うなぎパイパイですよ、パイパイ!!」(島田二等兵)

「大の男がパイパイ、パイパイと…。はっきり“オッパイ”と言え」(髙田総統)

といったようにモンスター軍からボロクソにけなされながらもグランシップ静岡には2513人の観客が集まった。ハッスル・ハウス初の地方大会ということもあり、どこまでハッスルが浸透しているのかという心配もあったが、両国大会で配布された「ジャッジボード」を掲げるファンもあちこちで目についた。第一試合に登場したザ・モンスターJに「J」コールが飛び出すなど、すでに客席はノリノリでハッスル初体験のお客さんもその雰囲気に乗せられてヒートアップしていった。

「東京と名古屋という大都会に挟まれ、温暖な気候でのほほんと過ごしているから、オレオレ詐欺の被害に遭う確率が高い」と髙田総統が指摘する通り、静岡の県民性はどちらかといえば“おっとり型”だと言われている。しかし、髙田総統が登場した際に発生したブーイングもかなり大きく、髙田総統も**「なかなかいいブーイングだ」**と珍しくご満悦だった。ハッスルを定期的に放送している東海テレビが入る地域もあり、ハッスルのお膝元である名古屋にかなり近い雰囲気だった。

また、ちびっ子も多く会場に来ており、ハッスル仮面グリーンやハッスルあちちで盛り上がっている微笑ましい姿も見受けられた。

プロレスへの思い入れが強いファンが集まった両国大会で、あえて従来のプロレスをぶち壊すような内容で勝負をかけたハッスルだったが、こうして地方に行けばギアをチェンジして試合で見せるオーソドックスなプロレスでファンを楽しませることも出来る。

「静岡は温暖で空気もうまい。魚もうまけりゃ水もうまい。そしてオレの知る限り美人が多い」(ハッスルあちち)

「ボクはリングでお茶をまくような試合、言い換えればお茶を濁すような試合はしたくありません」(ハッスルK)

「ハッスル・ハウス初の地方大会をオレの大好きな街・静岡でできて最高だよ!」(キャプテン・ハッスル)

ご当地ネタもバッチリと決まり、全員で「3、2、1、ハッスル!ハッスル!」と腰を振ってハッピーエンド。5・11新潟、5・14&15札幌大会も決定し、『ハッスル』全国ツアーの幕開けは最高のスタートを切った! ハッスル、ハッスル!!



榊原信行

ドリームステージエンターテインメント代表取締役

PRIDEネットワーク拡大！
未知の強豪続々発掘!!

ヒョードルとの再契約も完了！

欧州視察旅行報告&PRIDEミドル級GPのゆくえ

この春、『PRIDEミドル級GP』開幕、『HERO'S』旗揚げでますます加熱する格闘技戦争。各イベントとも選手の発掘育成が急務だが、『PRIDE』榊原代表がまず動いた。日本レスリング協会福田会長と共にウズベキスタン、トルコ、オランダを訪問。アテネ五輪レスリング金メダリストとの交渉もスタート、数多くの売り込みもあったという、その視察旅行の成果を伺ってみた。

聞き手／堀江ガンツ
撮影／平工幸雄
designed by Tani-Yan (Two three)

榊原　今日はなにを話しましょうか？

――もちろんPRIDEミドル級GPの行方から、ヨーロッパ視察のお話。それから代表が海外に行かれている間にあれよあれよと発表された、新興格闘技イベントについてもしっかり伺いたいと思います！（笑）。

榊原　わかりました（笑）。

――ではまず、ヨーロッパ視察について伺いたいんですけど、今回はどんな目的で行かれたんですか？

榊原　目的はいくつかあったんですけど、大きな目的として、一つはヒョードルの年間契約締結交渉。もう一つはFILAとのアライアンスを組んで、今後アマチュア・レスリング連盟の方たちと、共に人材の発掘や、選手の育成などを建設的に考えていくことの一環として、今回はまず日本レスリング協会の福田会長と共にウズベキスタンで開催されたレスリングのワールドカップ国別対抗というものを視察してきました。

――レスリングのワールドカップ国別対抗ですか。

榊原　これは去年のランキング上位6カ国による7階級の総当たり戦で、ロシア、ウクライナ、アメリカ、キューバ、イラン、ウズベキスタンが参加してキューバが優勝したんですけど、世界レベルのアマチュア・レスラーたちが闘う真剣勝負の場っていうのを実際に見ることができて、非常に有意義な経験ができましたね。それからマルティネッティ会長はじめ、アジアのレスリング連盟会長であるキムさん（韓国）、そしてFILAの幹部の方たちとも面識ができたので、それも大きな収穫でした。

――レスリング強豪国だけが集まっての大会ということは、それこそ出場選手はメダリストだらけだったりしたんですか？

榊原　そういう状況だと思ってたんですけど、国によってまちまちで、優勝したキューバは金メダリストを筆頭にベストメンバーで来たんですけど、他の国は、若手に大舞台を経験させるということを目的としてる国もありましたね。ただ、全体的にレベルは凄く高かったと思います。

ウズベキスタン、トルコにはバケモノみたいな未知の強豪がゴロゴロいましたね

――『PRIDE』にスカウトしたいような選手はいたんですか？

榊原　ウズベキスタンの選手でアテネ五輪のフリースタイル120キロ級金メダリスト、（アルトゥール・）タイマゾフという選手がいて、ウズベキスタンには彼に会うために行ったような部分もあったんですが、体調を崩して出場できなかったんですよ。

――じゃあ、お目当ての選手には会えなかったんですか？

榊原　いえ、会場には来ていたんで、いろんな話はさせていただきました。タイマゾフはそれこそウズベキスタンでは国民的英雄ですから、マスクもよくスター性があり、年齢も26歳と若いんで、ゼヒ将来的に『PRIDE』のリングに上がってもらいたいですね。それからウズベキスタンに入る前にトルコに寄って、オイル・レスリングの強豪選手たちとも会ってきました。

――オイル・レスリングですか！　レスリングはレスリングでも、また意外なところを突いてきますね（笑）。

榊原　いや、意外でもないですよ。オイル・レスリングはトルコの国技で、毎年6月の最終週に1週間かけて、トルコ中の強者たちがナンバー1を競うんですけど、トルコのアマチュア・レスラーっていうのは、みんなそのオイル・レスリング上がりらしいんですよね。だから紹介された人の中にアマレスの銅メダリストもいましたけど、もともとはオイル・レスリングの選手らしいです。

――へ～、そうなんですか。でも、よくそういった選手たちとコンタクトが取れましたね。



榊原　もうこれは福田会長の世界ネットワークの広さの賜物というか、やはりレスリングの普及振興に長年尽力してきた方なので、本当に世界中でその名が知れ渡っているんですよ。だからトルコを訪問したときも、アフメッド・アイクさんというトルコのレスリング連盟の会長に大歓迎を受けまして、トルコ中のトップアスリートを集めてもらって、スカウティングというか、『PRIDE』とはなんぞやということを会議室に集めて映像を見てもらったり、いろいろロビー活動をしてきました。

――まずは『PRIDE』を理解してもらうことからスタートするわけですか。

榊原　そうですね。今回もいろんな国の人たちにビデオを見てもらったんですが、『PRIDE』や総合格闘技というものを知らない人はまだまだ多いんですよ。

――アメリカ、ブラジルとか一部の国を除いては、ほぼノールールのプロ格闘技があるなんて、理解できないかもしれませんよね。

榊原　だからビデオを見せて説明しても、凄く興味を持って「出たい」と思う人もいれば、レスリングや柔道とはまったく別の競技ですから、「考えられない」という人も多いし。「僕は出れないけど、友達を紹介するよ」とかね（笑）。

――「ケンカが強いヤツを知っている」みたいな（笑）。

榊原　でも、そういう口コミも大

切なんですよね。その中から例えば、トルコのオイル・レスリングのチャンピオンが『PRIDE』に出たら、トルコ中の人が『PRIDE』というものに注目するだろうし、ウズベキスタンのタイマゾフなんかが出て来たら、クロアチアでのミルコの現象みたいなことが起こると思うんですよね。だから、その国々に『PRIDE』というものを広めるためにも、その国のスター選手っていうのは必要なんですよ。そうすると、その人の活躍が刺激となって、若い人たちが『PRIDE』を目指すようになりますからね。だから、今回も海外に『PRIDE』の旗を立ててきましたというよりも、もっと草の根活動という部分で、まずは現地のアスリートの中で浸透していったらいいなと思いますね。

——よく考えたらPRIDE王者のヒョードルだって、6年前にヴォルク・ハンと出会うまでは、総合格闘技なんてまったく知らなかった人ですからね（笑）。

榊原 ホントにそうですよね。でも、総合はなくても、格闘技というのは世界中の国々にそれぞれ"国技"と呼ばれるものが必ずありますから。ウズベキスタンにもクラーシュ（クラッシュ）と言って、サンボや柔道に似た格闘技があって凄く盛んなんですよ。そういうことも含めて、ウズベキスタン、トルコ、オランダと回ってきて、まだ見ぬ格闘技、格闘家が世界中に埋もれていると感じたし、『PRIDE』のトップクラスや、GPにラインナップしてもおかしくないようなバケモノがいっぱいいましたね。

——ホントある意味、宝の山でしょうね。

榊原 だから、もっともっといろんなところに直接行って、見聞を広めないとダメだなと思いましたし、FILAの方たちにご協力いただけることで、彼らの持っているネットワークをフル活用して人材の発掘を今後もやっていきたいですね。

——さしあたって、今回のミドル級GPに即参戦という選手はでてきそうですか？

榊原 何人かは「ゼヒ」という選手で、アマレス協会のほうからもメダリストを含めてリストアップはしていただいてるんですよ。ただ、現時点で『PRIDE』で実績を残した選手だけでも出場候補が20人はいますから。その中にFILA推薦の選手を入れるにしても、「必ず一枠設けます」という形にしなくてもいいかなと思ってます。アマチュアでは柔道界でも世界レベルのミドル級選手から売り込みも来てますしね。

——柔道界と言えば、今日（3月17日）このあと吉田秀彦選手の記者会見があるようですけど……。

榊原 これは吉田vsシウバ戦発表です。

——いきなり来ますか！

榊原 はい。吉田選手からは僕が日本に帰ってくる前も何度も電話で話したし、帰ってからも速攻で電話で話したんですけど、彼が言うのは「とにかく1回戦でヴァンダレイとやらせてくれ」と。それが吉田秀彦の意思なんですよ。というのは、『PRIDE・29』のリング上から吉田秀彦はシウバに指名されたわけじゃないですか。あれはホントにシウバの勇み足で、フライングでもあるし、吉田選手からすると「ズルい方法だ」という気持ちはあると思うんですけど、あの大観衆の前でケンカを売られて、その売った張本人が出てくる大会で「別の選手で」と言う気もないし、「売られたケンカは買います」と言ってるんですよね。

——いや〜、それにしても贅沢な1回戦と言うか（笑）。

榊原 ホントにそうですよ。吉田vsシウバだったら、それこそ決勝で見たいカードだし、プロモーターとして6月、8月のことも考えると、「ちょっと待ってください」と、こっちがお願いしたいくらいですよ（笑）。

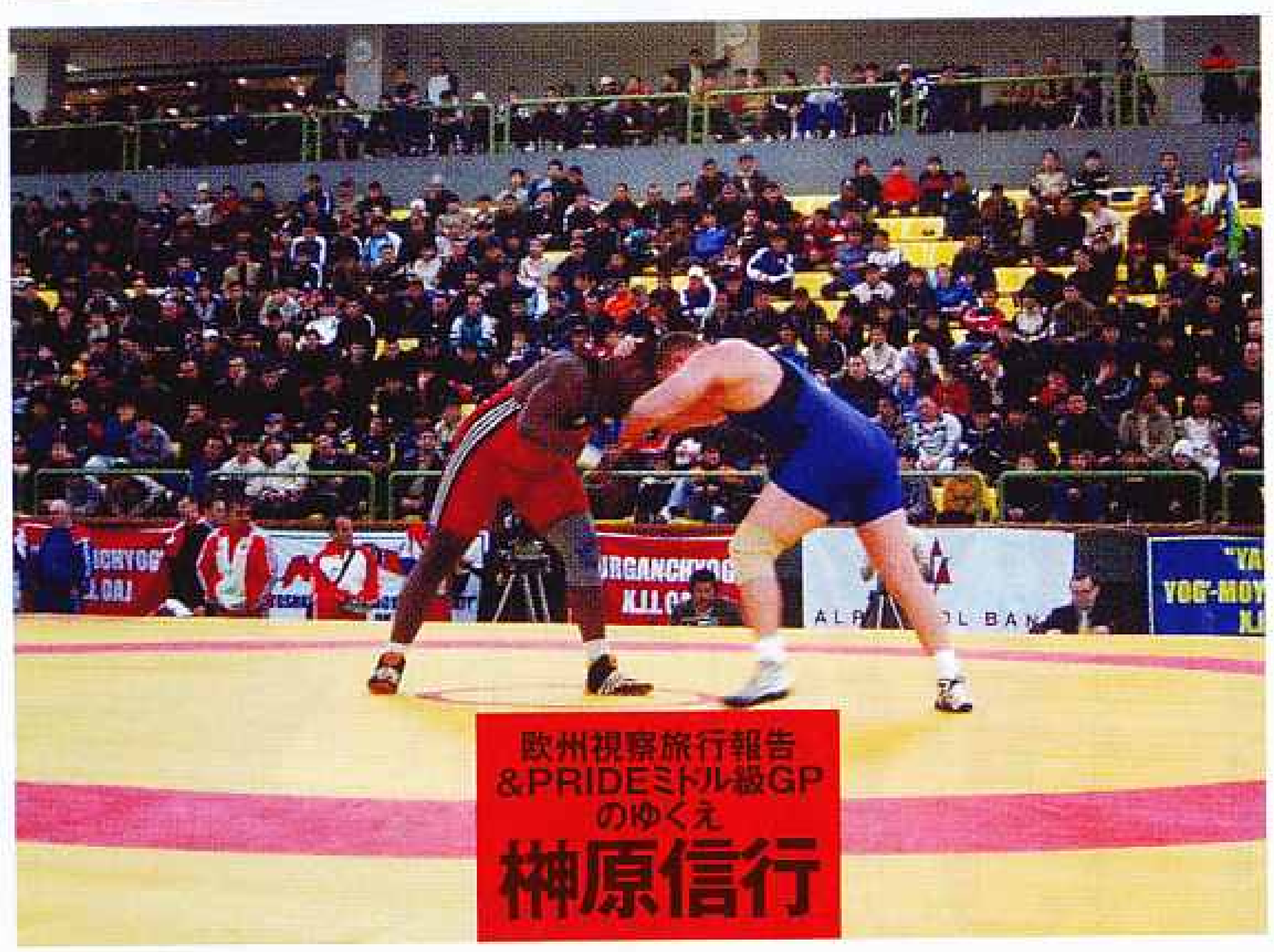
——トップスター2人のうち、どちらかは必ず1回戦で消えるわけですからね。

榊原 だから僕も「ヴァンダレイとはお互い1回戦勝って、2回戦とか、決勝でもいいんじゃないの」と言ったんですよ。でも、シウバが吉田秀彦のハートに火をつけてしまったわけだから、もう収まら



（写真・上）真ん中にいるのが"ウズベキスタンの英雄"アルトゥール・タイマゾフ。ヘビー級とは思えぬスピードを誇るこのレスリング・エリートが『PRIDE』に参戦はあるのか!?　（写真・中）FILAの幹部たちと榊原代表。この協力体制は今後の『PRIDE』に大きな影響を与えそうだ。（写真・下）レスリングが盛んなウズベキスタンは、ご覧のとおり3000人収容の会場がアマレスで満員になる。







欧州視察旅行報告
&PRIDEミドル級GPのゆくえ

榊原信行

前回は僅差の判定で敗れたものの、「ベストバウト」と絶賛される激闘をシウバと展開した吉田秀彦。あれから１年半の時が経ち、成長しているのはどちらか？　ハッキリ言って、吉田にとってはＰＲＩＤＥファイターとして最大の大一番だ。

ないですね。まぁ、吉田選手本人もGPに出るからには当然勝ちたいし、チャンピオンになりたいという思いもあると思うけれど、「どこかで倒さなきゃいけない男だったら1回戦で倒してやる」と。そういう潔さというか心意気をプロモーターとしても尊重したいし、吉田秀彦がそこまで熱く燃えているんだったら、いいものを見せてもらえるだろうから、本人の意思、ファンの期待を踏まえて1回戦で組ませてもらいました。

——また今回のGPもファンは1回戦からヒリヒリさせられるわけですね。吉田vsシウバ以外のカード、メンバーはどうなりそうですか？

榊原　カード、メンバーともにこれから最終的に詰めて行くところですけど、クイントンvsショーグンも実現させようと思ってますし、アリスター・オーフレイム、ケビン・ランデルマンの出場は確定しました。そしてUFCを代表してビクトー・ベウフォートが『PRIDE』に帰ってきます。

——おぉ～、ビクトーが来ますか！

榊原　前UFCライト・ヘビー級王者であり、98年の『UFCブラジル』でヴァンダレイ・シウバに勝ってる男ですからね。シウバがこれまで同階級で負けてるのはティトとビクトーだけですから、その一人が『PRIDE GP』に名を連ねることになります。

——当時と今は立場が違うとは言え、そのシウバとビクトーのドラマというのも見物ですね。

榊原　ビクトー本人としては日本で、『PRIDE』でもう一度闘いたい、それからやっぱり桜庭に一矢報いたいという強い気持ちがあるみたいなんですよね。あと、「自分はシウバに一度勝ってる男だから、王者と闘う権利があるはずだ」というモチベーション、そしてリアルなミドル級のトップアスリートが揃った場所にもう一度身を置いて闘いたいというのが、彼の大きな気持ちだし、UFCも彼を自分たちの代表として気持ちよく送り出してくれましたからね。

——となると、1回戦で桜庭vsビクトーの再戦なども？

榊原　ありえるでしょうね。まぁ、そういう意味じゃ楽しみが尽きないですけど、今月中には全8試合を決めて、来週から小出しに小出しに（笑）、発表していきたいと思います。

——田村潔司選手のGP出場はちょっと難しそうですか？

榊原　田村選手とは近日中に直接会ってみて、ケガの状態も含めてゆっくり話し合ってみたいですね。「出てもらいたい」というのはファンと我々の共通した思いですけど、ケガというのはどうしようもない問題ですから。ケガが治らないなら無理して、それが長引いても良くないし、やれるんであればやってもらいたいと思ってますしね。

——ファンとしても当然出てほしいでしょうけど、どうせ出るなら完璧な状態で出てほしいというのはありますよね。

榊原　そうですね。例えば桜庭選手と田村選手がやると言っても、田村選手が手負いの状態でみんなが待ちに待ったカードをやるよりも、お互いにベストな状態で、逆

にここまで期待してなかなか届かなかったわけですから、どうせならベストな状態で満を持して組みたいという気持ちはありますね。

——まぁ、ここで桜庭vs田村を組まなくても、GPは間違いなく盛り上がるでしょうしね。

榊原　おかげさまで、チケットの初動も大阪という地でどうかと思ったんですけど、非常にいい反響ですし、カードが並んでからの全体的なボリューム感や16人の名前を見てもらえば、十分納得してもらえると思いますので、去年のヘビー級に勝るとも劣らない勢いで開催できるんじゃないかと思います。

——それと平行してヘビー級もいよいよクライマックス。一部で懸念されてたヒョードルも今回正式に契約更改が済んだんですよね？

榊原　いやぁ、別に懸念されてもいないんですけどね（苦笑）。

——あ、そうでしたか（笑）。

榊原　なにかインターネットでひとりの人間が面白半分で書き込んだことが一人歩きしただけであって、あんまりネットの中の情報にファンの人たちは一喜一憂しないほうがいいと思いますよ。ヒョードルだって、PRIDEヘビー級王者であり、GP王者じゃないですか。本人もPRIDE王者であることに誇りも持ってるし、ファンも愛してますから、そんな簡単にお金だけでどこかへ行くとかはありえないし、それはヒョードルを信じてあげてほしいですね。今回も当然、契約をする、『PRIDE』で闘うということが大前提の中で、みなさんが期待する大一番も含めて、どう今年のスケジュールを立てるかだったり、最終的な条件を確認して、きちっと契約という作業で行っただけなんで。どこかへ行ってしまう人を「待ってくれよ」と引き止めに行ったわけじゃないんですよ（笑）。

——前向きに今後の話どうしようかということですね。

榊原　そういうことです。僕自身、結構聞かれたんですよ。「ヒョードルは他に行っちゃうんですか？」とか「もう他で契約したみたいですよ」とかね（笑）。でも、ありえないですね。ずっとコミュニケーションも取ってるし、ボクらの思いも改めて伝えて、そういう意味で気持ちよく話ができましたから。あとヒョードルだけでなく弟のアレキサンダー、それから同じレッドデビル所属のローマン・ゼンツォフなんかも非常にいい選手で、6月にデビューさせようと思ってます。M-1というロシアで開催されている総合の大会のヘビー級チャンピオンだし、もともとボクサーあがりだから、非常に打撃に自信を持っていて面白いですね。

——では、一部では実現が危ぶまれたヒョードルvsミルコ戦ももちろん実現すると。

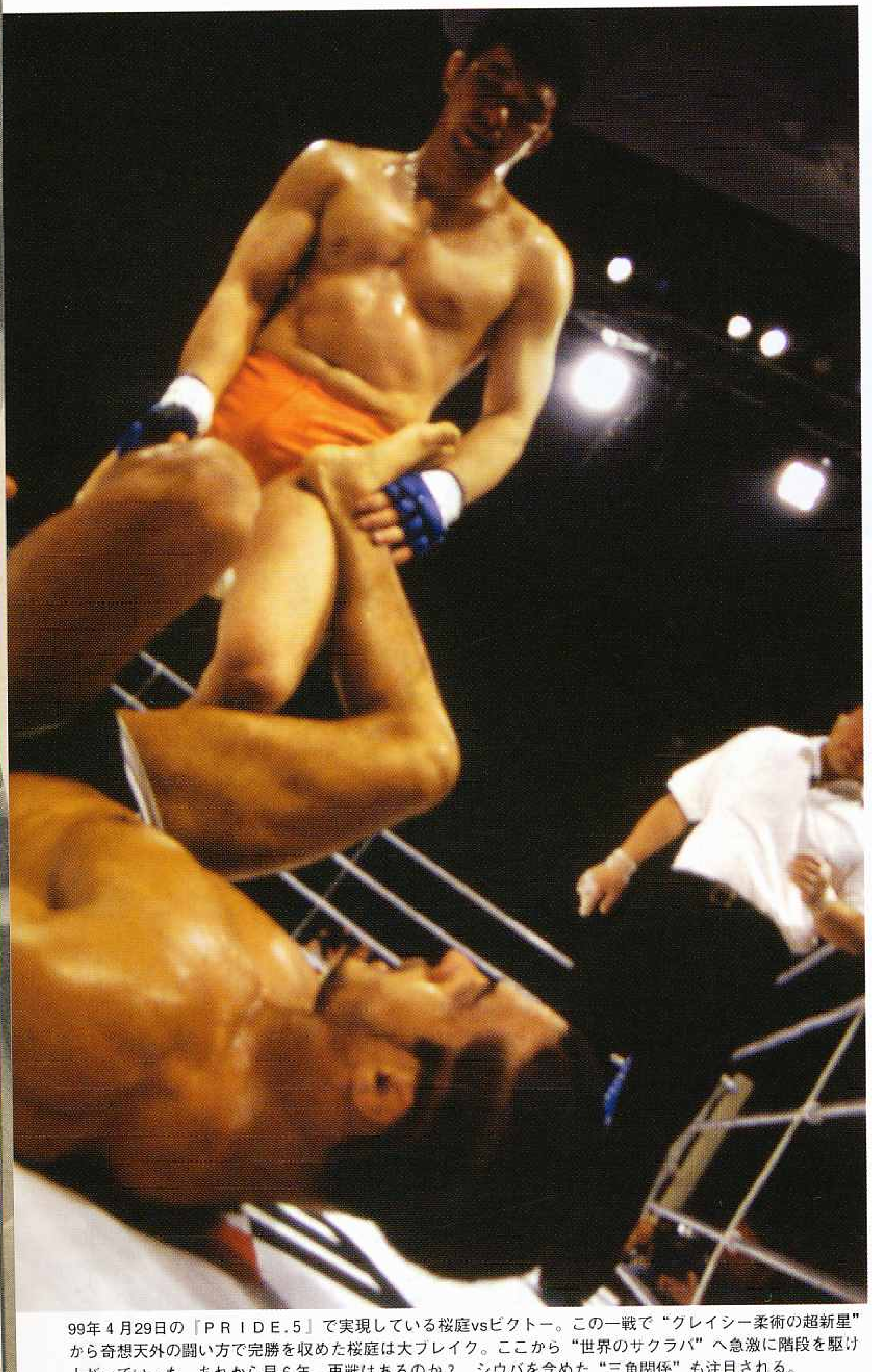
榊原　当然、ヒョードルの中でもミルコはやらなければならない相手として視野に入ってます。ただ、本人にとってもミルコというのは最強のチャレンジャーだと言ってるし、ずっとノゲイラが彼の一番のライバルでノゲイラに勝つための練習を積んで来たわけですけど、全然タイプが違うじゃないですか。ですからミルコ対策は当然始めているんですけど、ミルコと闘うための準備がいつ間に合うかということと、あとは自分の中でケジメとして高阪戦。前回敗れたというのは、ほとんどアクシデントかもしれないけれど、負けは負けじゃないですか。だから最強のチャレンジャーを迎え撃つ前に、いい意味でけじめをつけてから実現させたいというのがヒョードルからの希望でしたね。

——ミルコがケビンとコールマンを倒し、すべて万全で望むと同じ状況にヒョードルも立つと。

榊原　これでもか、というアピールをミルコがしたわけですから、ヒョードルもそれをスカすつもりはないし、今年の上半期に世紀の大一番を必ず実現させたいと思います。

——では、6月実現もありうると。ただ、期待した通りにならないのが『PRIDE』のリングでもありますから（笑）。4・3『武士道 -其の六-』の高阪戦で大アップセットが起こるかも知れないし、高阪剛という選手のポテンシャルを考えるとヒョードルに勝っても決しておかしくないものを持ってますからね。

GP1回戦で桜庭vs前UFC王者ビクトーの再戦という可能性も十分にありえます！



99年4月29日の『PRIDE.5』で実現している桜庭vsビクトー。この一戦で“グレイシー柔術の超新星”から奇想天外の闘い方で完勝を収めた桜庭は大ブレイク。ここから“世界のサクラバ”へ急激に階段を駆け上がっていった。あれから早6年。再戦はあるのか？　シウバを含めた“三角関係”も注目される。



ヒョードルはホーストにミルコの弱点を伝授してもらって打撃で勝つつもりみたいですよ

――高阪選手本人はヒョードル戦に自信満々ですよね。
榊原　なにか秘策があるらしいですね。彼も『PRIDE』の創世記から選手としてではないのですが、日本人格闘家をコンスタントに出場させる上で高阪選手がはたしてくれた役割って凄く大きいんですよ。いろんな選手のセコンドについてくれたし、吉田選手にしても藤田和之にしても、みんな彼のトレーニングを受けて『PRIDE』デビューをしたわけだから。逆に高阪剛という選手が『PRIDE』に上がってくれるんだったら、それなりの場所と相手を用意したいと思っていましたから。僕としても2000年に藤田和之をシアトルに連れて行って、そこで高阪選手に練習をつけてもらったときに初めて言葉を交わさせてもらって早5年ですけど、そのときから、当時はリングス所属でしたけど、出てもらいたいと思ってた選手なんで、ようやく思いがかなったという意味でも、凄く期待してます。

――ただ、時期が時期ですので、〝元リングス〟のヒョードルvs高阪戦というのは、他への当てつけのように思われてる向きもありますけど（笑）。
榊原　それはまったく意識してないですね。意識してないどころか、その時点では知りませんでしたから。前田日明さんがプロデューサーになって、新しいイベントをやることも知らなかったし、僕らが年明けからずっと高阪選手と話してたわけですからね。前田さんが何をやるのかもわからないし、まったく意識してないです。

――確かに『HERO'S』開催とか、リングス復活とかいうのも、あまりにも唐突ですもんね（笑）。
榊原　大会まで一ヶ月をきって発表したわけですからね。それにどのみちK-1が全面的にバックアップしてやる話なんだから、出る選手も『ROMANEX』と一緒でしょ？



（写真・上）エメリヤーエンコ兄弟&ゼンツォフとアーネスト・ホーストという豪華4ショット。ヒョードルは現在、ホーストと共に打撃を徹底的に磨いている。（写真・下）集合写真。ヒョードルの右には名伯楽ルシアン・カルビン、左奥にはアイブルの姿も見える。

――ほとんど一緒です（笑）。
榊原　だから何が違うのかわからないし。ホント申し訳ないけど、比較されるのはね。実際、彼らが5回10回20回と続けて、本当にこのジャンルを本気でやっていくところを見せてから僕らとしては比べられたいと思いますね。

――やってきたことが違うと。
榊原　いや、そんなおごった意識はなくて、我々は我々の中で世界観もコンセプトもあるので、逆に『ROMANEX』とか『HERO'S』みたいなカード編成や世界観は作れないんですよ。それは僕らの目指すところではない。ホントにトレーニングをして、闘うために骨身を削って、すべてを賭けてた男がオーラをまとって戦場にあがると。だから『PRIDE』というのは最初の高田延彦vsヒクソンがすべてを象徴してるんですよ。あのときの高田延彦の花道を歩く姿、ホントに死ぬことすら覚悟して上がる場所、それぐらいの覚悟を持った人間に上がってもらいたいし、そういう場であり続けたいですね。

――では、いい意味で気にしないということですね。
榊原　唄にも演歌もあればロックもポップスもあるじゃないですか。いろいろあってもいいと思いますよ。

――コミックソングもありますしね（笑）。
榊原　そうは言いませんけど、『PRIDE』とはジャンルが違うと思います（笑）。

――わかりました。では、K-1と前田さんが組んだことについてはどう思いますか？
榊原　自然な流れじゃないですか？　以前、僕が谷川さんとお付き合いしていたときも、「前田さんが出て来たら面白い」という話を、谷川さんたちは言ってましたからね。まぁ、前田日明という人のことを僕はよく知りませんけど、日本の格闘技界の中で功績がある人だし、それなりのカリスマ性がある方みたいなんで、いいと思いますけどね。そういう意味でいろんな人たちがこの業界の中で、正々堂々と競い合えばいいと思います。変なプレッシャーかけ合ったり、足の引っぱり合いをしたりとか（笑）、そういう次元じゃないところでやりたいですね。

――『HERO'S』開催によって格闘技界がいい意味で活性化すればいいですけどね。
榊原　そうですよ。お互い競いあって、僕らもそれが刺激になればいいしね。ファンと選手にとってはありがたい時代ですよ。闘う場所や見るものがいっぱいあるんだもん。プロモーターにとっては辛いですけどね（笑）。

――でしょうね（笑）。なにか『HERO'S』側の人は、榊原代表のヨーロッパ視察を「リングス・ネットワークが荒らされる」と神

欧州視察旅行報告&PRIDEミドル級GPのゆくえ
榊原信行

ホントに申し訳ないですけど、リングスってよく知らないんですよ。

経質になっているという話もありますけど。

榊原　荒らされるもなにも、僕はそんなネットワークがあることすら詳しく知りませんから（笑）。

──あ、知らない（笑）。

榊原　ホント申し訳ないけど、リングスっていうものがなんなのか知らないんですよ。どういうネットワークで、どんな人が関わってたのかもよく知らないし。だからその部分ではそんな話ではないし。レスリング・ワールドカップを中心にヨーロッパ外遊しようという話は、昨年ＦＩＬＡと提携を組んだときから決まっていた話ですからね。ま、どう取られてもいいです（笑）。

──オランダでは、クリス・ドールマンとお会いになったという話ですが。

榊原　会いました。でも、それは福田会長がドールマンのジムを訪問したいと言っていたので同席させてもらっただけで、僕らのオランダ行きの目的は、ヨハン・ボスジムで練習中のヒョードルとの話し合いをするためですから。

──福田会長とドールマンは旧知の間柄らしいですね？

榊原　そうなんですよ。本当は福田会長はトルコとウズベキスタンだけで、オランダには特に用事はなかったんですけど、我々と一緒にオランダに行きたいと言ったのは、クリス・ドールマンに会うためなんです。僕も今回ご一緒させてもらって初めて知ったんですけど、アントニオ猪木さんとウイリエム・ルスカが異種格闘技戦をやったとき、猪木さんから「ルスカとやりたいんです」という依頼を受けて、ルスカを口説いたのが福田会長で、そのときセコンドについてきたのがクリス・ドールマンなんですよ。そして、当時日本にルスカとドールマンが来たとき、福田会長自身がいろいろと面倒をみられたらしいんですよね。

──実は『紙プロ』でも今月、ドールマンにインタビューしてるんですけど、「初めて日本に行ったとき大変世話になったミスター・フクダが今度オランダに来るんで、会えるのが楽しみだ」って言ってましたよ。

榊原　だから申し訳ないけど、僕はクリス・ドールマンという人のことは知らなかったんですけど、福田会長に紹介されて、福田会長とドールマンがホントに再会を喜んで、ドールマンの方も30年前にルスカを加えた3人で靖国神社の前で撮った写真とかを大事に持ってるんですよ。そうして30年前の思い出話をしてるのを見て、ホントにいい関係なんだなと思って。僕も30年経ったあとに『ＰＲＩＤＥ』の選手たちと、写真を見せ合ったりしながら語り合えたらこんなに素晴らしいことはないなと思って、すごくいい光景を見せてもらいましたね。

──じゃあ、一部で報道されたような、提携話を持ちかけたというわけではないわけですね？

榊原　別に仕事の話をしに行ったわけじゃないし、ドールマンもお年を召されていて、確か60歳と言ってましたので、『ＰＲＩＤＥ』のリングに上がってもらうわけにもいかないですしね（笑）。とにかくそのときは昔話をたくさん聞かせてもらって、若い頃は喧嘩っ早かった話とか、それから「俺はプロになるのが遅かった」ということを言ってましたね。

──ＵＷＦに初めて来たときですら、もう40代半ばでしたからね。

榊原　でも、クリス・ドールマンは「俺がいま現役だったら、『ＰＲＩＤＥ』に出る」って言ってくれましたよ（笑）。ただ、僕が会ってみた感じだとドールマンは非常に義理堅い人で、当然、福田会長のこともリスペクトしてるし、前田日明さんのこともリスペクトしてる。だから話があるなら、前田さんと一緒にやるのが一番いいんじゃないですか。でも、一切連絡がないって言ってましたけど（笑）。

──そうらしいですね。「俺のネットワークだ」って言うなら、早く電話してやれよと思うんですけどね（笑）。

榊原　ドールマンも「（前田から）もし何か頼まれたら協力してやりたい」ということは言ってましたからね。そういう気持ちを壊してまで、ドールマンを引っ張るつもりはないし、ああいう人たちがいて今があるという格闘技界の歴史を実感できたんで、お会いできてよかったと思いますね。

──いま『ＰＲＩＤＥ』で大活躍しているロシアン・トップチームは旧リングス・ロシアですけど、ＲＴＴと『ＰＲＩＤＥ』の関係はこのまま変わらずと考えてよろしいんでしょうか？

榊原　はい。もう複数年で契約を終えてます。ハリトーノフともだし、ロシアン・トップチームとも終えてますから、これからもどんどんパコージンさんからいい選手を送ってもらえると思います。

──もうひとつ『ＨＥＲＯ，Ｓ』と共にプロレスの『ＷＲＥＳＴＬＥ-１』という、榊原代表も大変よくご存知な名称を持つイベントの開催が発表されましたけど（笑）、こちらはあまり興味はありませんか？

榊原　いやいや、『ＨＥＲＯ，Ｓ』も『ＷＲＥＳＴＬＥ-１』も興味がないことはないですよ。当然、競合他社というか、自分たちの業界の中でどんなものがどう行われるかというのは注目もしてますし、奇麗事かも知れないですけど、業界にとって意味あるものが生まれればいいなと思ってます。でも、実際のところ見てみないとわからないですよ。プロモーターがどれぐらいの腹をくくってソフト作りに挑んでくるのか。それは僕らもそうですけど、イベントの中から自然発生的に生まれたものを磨いて磨いて一つの形になっていくわけですから。それをどこまでかけて磨く覚悟があるかですよね。

──『ＲＯＭＡＮＥＸ』のように１回やってそれっきりじゃ、業界を混乱させるだけですからね。

榊原　『ＷＲＥＳＴＬＥ-１』もそうだと思うんですよ。１回目２回目は僕たちも全面的にお手伝いして、２回目は僕らドリームステージとして、半分共同プロモーターのような形で大損しましたけど（笑）。まぁ、それが復活してどんなものになるのかわからないですし。復活するのもあれば消滅するのもあるし、それは世の常なんで。

──見る方としては、『ＰＲＩＤＥ』があって『ＨＥＲＯ，Ｓ』があって、ハッスルがあってＷ-１まであって、いい対立概念だと思いますけど、イベントやってる側は大変でしょうね。

榊原　はい（苦笑）。だってその他にＫ-１があって新日本さん、ノアさんがあって、格闘技もいろいろあってＵＦＣの日本大会もあって、どこにそんな隙間があるんだろうってね（笑）。

──飽和状態ですよね（笑）。

榊原　だから、ビジネスとしては非常に厳しい環境だと思います。でも、頑張るしかないですよね。

──わかりました。では、４月からスタートする『ＰＲＩＤＥミドル級ＧＰ』、そして４・３『武士道-其の六-』とも期待してます！

【05年3月17日／青山・DSEにて収録】

韓国でK-1人気大爆発！

月刊誌なりの3・19 K-1韓国大会速報

K-1韓国大会でリアルIWGP構想実現！ 優勝はなんと“リアル・ジャイアント馬場”、チェ・ホンマン!!



地元の英雄ホンマンの優勝で沸き返る会場。リング上での記念撮影では１編集長一押しのモンターニャもニコッ（試合は秒殺KO）



まさに“リアル・ジャイアント馬場”とも言うべき19文キックまで繰り出し若翔洋、曙、ガオグライを下しK―1初参戦で初優勝、GP開幕戦への出場権までゲットしたのがチェ・ホンマンだ!!



戦前から日本で一番の話題となっていたのが、連敗中の曙と、43歳にして復帰戦に挑む角田信朗の一戦。試合は汗だくになりながらもパワーで押し込んだ曙が判定3－0で嬉しいK－1初勝利！　続くホンマン戦はタオル投入で敗れた曙。次はレッスルマニアでビッグショーと相撲マッチだ！



ボンヤスキーの勝利をリング上で祝福したアントン。期待された前田日明との接触はこの日はナシ。Xデーは３・26か？



かつてリングスにも登場したアーツとガッチリ握手した前田日明。大会翌日、前田氏は優勝したホンマンへ総合のススメ



試合後、テクノダンスを披露したチェ。ム・ベ様とのダンス共演も見たい！



準決勝は曙とチェの日韓横綱対決！　しかし、試合はタオル投入により42秒で幕！



キャプテン・ハッスル顔負けの民族衣装で入場してきたホンマン。もちろん会場は大歓声だ！

韓国でK－1人気大爆発！

3／19（土）ソウルのオリンピック第一体育館で開催されたK－1 WORLD GPのアジア予選は、地元の英雄、チェ・ホンマンの優勝で幕を閉じた。

個人的には今回の韓国大会は、日頃お付き合いのある角田さんの復活や、WWE転出が噂される曙の闘いぶりに興味があったのだが、いやいや、あのチェ・ホンマンへの大歓声にはホンマ驚かされますよ！　割れんばかり大歓声というのはこういうことを言うのだろう。あれだけの熱気を感じたのは、ボクとしては桜庭の一連のグレイシー狩り以来だ。

それにしても、12年前に日本で産声を上げたK－1という格闘技コンテンツが、お隣とはいえ、異国の地でこれほどまでに浸透しているとは、正直思わなかった。ボクは今回、会う人会う人に「K－1を知ってますか？」と必ず聞いてみたのだが、特に若い男性の間の人気は相当のようで、『PRIDE』に出てるのチェ・ム・べもいいけど、やっぱりK－1のチェ・ホンマンに注目していまス！」などという、かなり“わかってる”答えも返ってきた。凄い凄いとは聞いていたが、K－1からの大本営発表などではなかったのね。

そんなことを考えているうち、“伝説の格闘家”として紹介されたアントニオ猪木がリングに登場したが、実は心中穏やかでなかったのではないかとボクは思う。この風景こそが猪木さんがやりたかったIWGP構想の理想形だからだ。そしてまた、優勝したのが“リアルジャイアント馬場”とでも言うべきチェ・ホンマン。なんという皮肉！　ちなみにあの赤いガウンでの入場は、かつてニューヨークで、屈辱的な女モノの襦袢を着せられてパレードに参加した馬場（参考資料『プロレススーパースター列伝』さん）へのオマージュではないかとボクは睨んだのだがいかがなものか？

とまあ、そんな妄想はどうでもいいが、とにかく、この熱狂ぶりからもわかるように、沸々とたぎるほどに熱い血の流れる韓国の人々。中には年々憎しみが倍増してしまうようなネガティブな人もいるようだが、K－1の人気も年々倍増していくに違いない。

（原タコヤキ君）

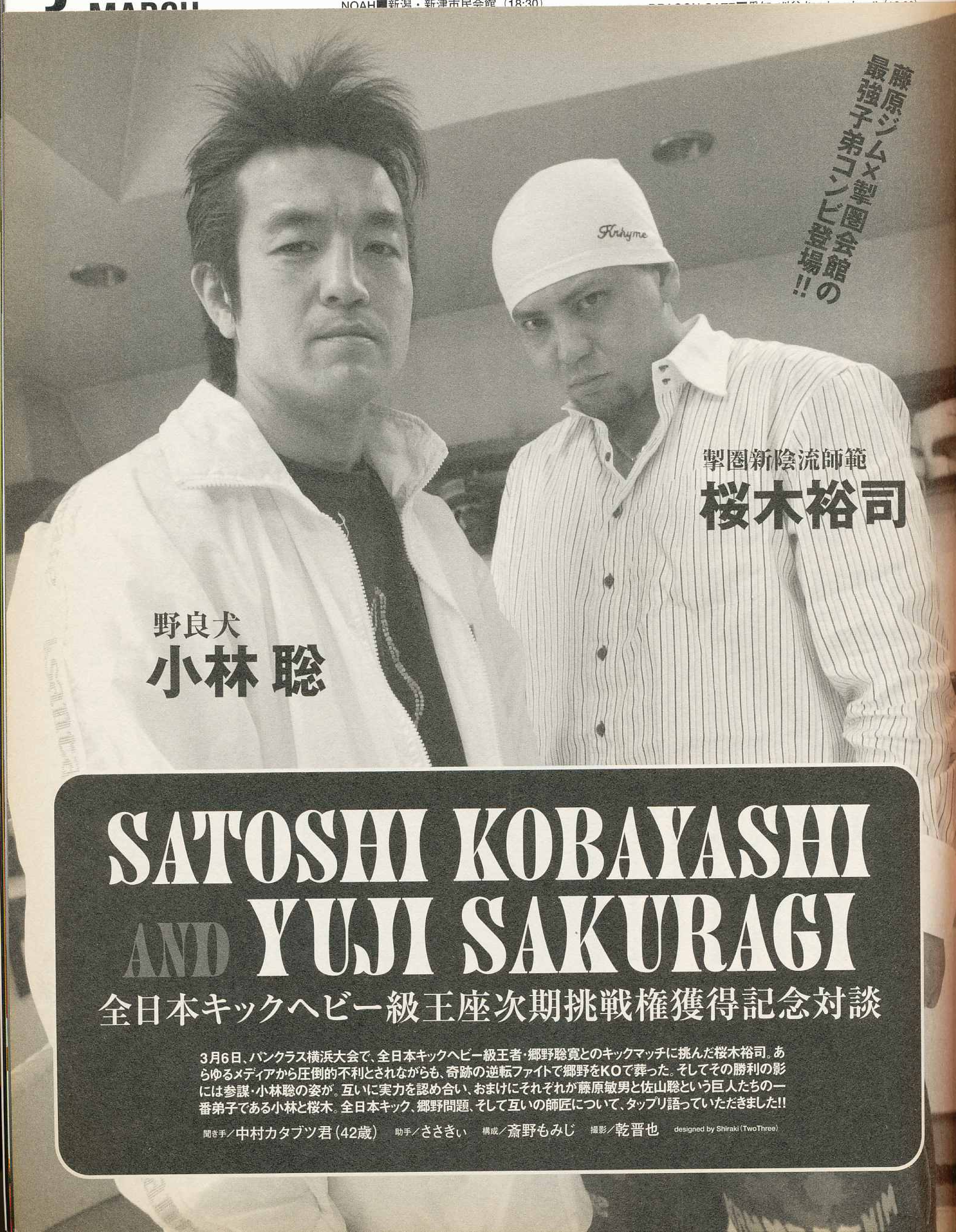
4月16日（土）発売予定の『紙のプロレスRADICAL NO.86』で「アニョハセヨ～！　原タコヤキ君のK-1韓国大会珍道中（仮）」をお届け！　曙初勝利、角田復帰戦、チェ、ホンマに大ブレイクの裏側に迫りまっせ～！

5 TUE.

NOAH■新潟・新津市民会館（18:30)

初代タイガーマスク PRELUDE■東京・お台場SDM (18:30)

みちプロ■秋田・中仙町八乙女青年の家体育館



藤原ジム×掣圏会館の最強子弟コンビ登場!!

製圏新陰流師範
桜木裕司

野良犬
小林 聡

SATOSHI KOBAYASHI AND YUJI SAKURAGI

全日本キックヘビー級王座次期挑戦権獲得記念対談

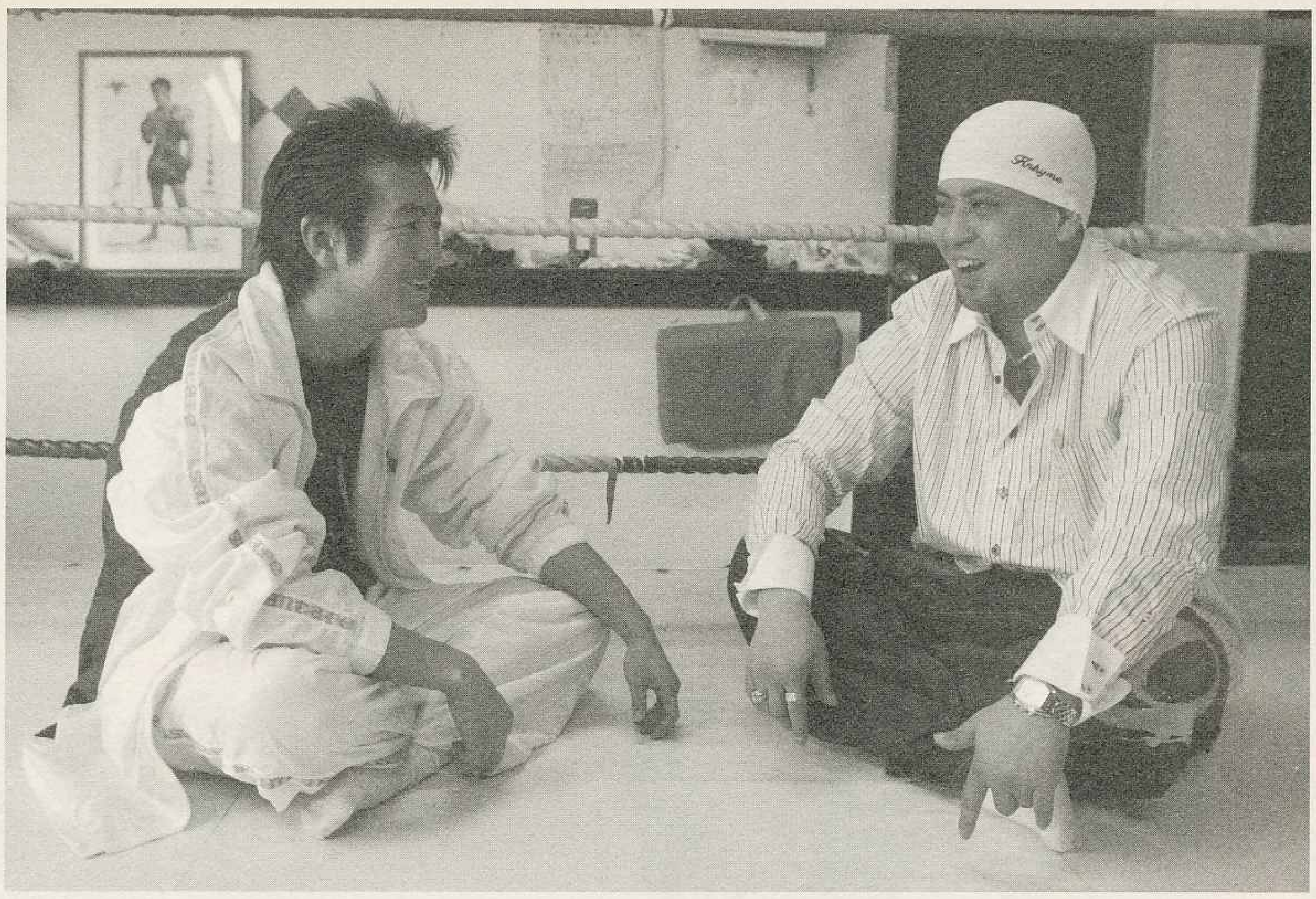
3月6日、パンクラス横浜大会で、全日本キックヘビー級王者・郷野聡寛とのキックマッチに挑んだ桜木裕司。あらゆるメディアから圧倒的不利とされながらも、奇跡の逆転ファイトで郷野をKOで葬った。そしてその勝利の影には参謀・小林聡の姿が。互いに実力を認め合い、おまけにそれぞれが藤原敏男と佐山聡という巨人たちの一番弟子である小林と桜木。全日本キック、郷野問題、そして互いの師匠について、タップリ語っていただきました!!

聞き手／中村カタブツ君（42歳）　助手／ささきぃ　構成／斎野もみじ　撮影／乾晋也　designed by Shiraki (TwoThree)

韓国でK-1人気大爆発！

月刊誌なりの3・19
K-1韓国大会速報

僕の境遇を理解してくれるのは、藤原ジムの人たちだけです。（桜井）



いや、オレより不幸なヤツがいるって思っただけ（笑）（小林）

──今日は先日（3月6日パンクラス横浜大会）郷野聡寛選手に逆転KO勝利した桜木裕司選手とセコンドを務めた小林聡選手の祝勝対談を行うわけですが、まずは藤原敏男先生からお褒めの言葉があるそうです。

ささきぃ　さっき藤原先生に聞いたら「『あんなのまぐれだ』って言っとけ」とおっしゃってました（笑）。

桜木　は、はぁ（恐縮）。

──厳しいですねぇ（笑）。でも、面白い試合でしたよね。

桜木　そ、それはどういう意味で面白いと？

──1Rと2Rの落差が激しくて（笑）。なにしろ、1Rにダウンを奪われ、2R目で逆転KO勝ちですからね。

小林　1Rでまさかあんなにやられるとは思わなかったですね。でも、帰ってきた時に普通に会話してたんで、まだ大丈夫だなって。だから、「作戦通りに行こうよ」って話はしたんですよ。

桜木　やっぱり、戻ってきた時に小林さんの顔を見たら安心感があったっていうか。ダウンしたっていうのは確実に記憶に残るし、このまま判定に行ったら負けるっていうのは頭にあったんで熱くなりそうだったんですけど、小林さんに声を掛けられて、作戦を遂行することに専念できましたね。

──それで2Rでは動きが変わりましたよね。いきなりカカト落としを出して、後ろ回し蹴りも振って。

小林　え、それ2Rでしたっけ？作戦にはカカト落としなんかなかったんだけどなぁ。それは負けパターンですよ（笑）。

──あ、そうだったんですか（笑）。具体的にはどんな作戦を立ててたんですか？

小林　いや、それはまだ次もあるんで（ニヤリ）。

桜木　ただ、今回は世界チャンピオンの小林さんにずっと練習を見てもらって、幸せというか、光栄でしたね。

小林　いや、ボクは佐山さんと話をして、こんな感じでって作戦を立てただけで、やるのは本人なんで。それにボクの場合、1月4日の試合（小林vs大月戦・後楽園ホール）はずっと佐山さんと練習してましたからね。作戦というか、最後は自分のミスで負けたんですけど、自分が変わるきっかけというか、いろんなことを知ってますね、凄いなって思いますよ、本当に。

桜木　先生は凄いですよね。ミドルキック一つにしてもちょっとした角度で変わってくるんですよ。

小林　口調は萩本欽一みたいですけどね（笑）。「もうちょっと、あと何センチこっちを蹴ってみて」とか。「今度はこっち見ながら蹴って」とか、結構言われますね。

──ミリ単位の指導なんですね（笑）。

桜木　ただ、ボクなんかは言われても分からないときがあるんですよ。どこを何センチなのかなって。で、違うことをやると、「なんで分からないんだ、この野郎！」って（苦笑）。

小林　言われた通りのことを素直にやっていけば段々分かって来るんですよ、「ああこういうことか」って。分かんなくてもいいんですよ。言われたことをやっていけば。だから、今回は日頃の恩返しという意味もあって。

──じゃあ、いい恩返しができましたよね。で、試合後の会見も面白くて、郷野選手の渡邉久江一日デート要求発言を逆手にとって、「桜木君が勝ったんで渡邉（久江）とデートできるんじゃないの？　それで、郷野選手は罰ゲームでWINDY（智美）か、彩丘（亜紗子）とデートさせて」という小林さんの発言が抜群だったんですよ（笑）。

小林　いや、あれはちょっと取り乱してしまって言っちゃったんですけど、でも、やるなら彩丘がいいですよ。WINDYより彩丘のほうがキツイから（キッパリ）。

桜木　キツイ（苦笑）。

小林　でも、渡邉ってそんなにいいッスかぁ？

──小林さんとしては、渡邉さんはよくないんですね（笑）。

小林　いやいやいや、渡邉とは仲がいいんで、アレですけどぉ（笑）。

──とにかく今回は郷野選手が試合煽りでは頑張ってましたよね。キック界についてと、桜木さんについてタチの悪い発言（「桜木は西田和嗣＝前全日本キックヘビー級王者と同じレベル。ビデオは一回見たけど、あまり見すぎちゃうとナメちゃうから」）を繰り返して。実際、桜木陣営ではどう思っていたんですか？聞くところによると小林さんはかなり怒っていたらしいですけど（笑）。

小林　いやいやいやいや、ボク

3 MARCH

5 TUE.

NOAH■新潟・新津市民会館（18:30）

初代タイガーマスク PRELUDE■東京・お台場SDM（18:30）

みちプロ■秋田・中仙町八乙女青年の家体育館

は別に当人じゃないんで。

桜木　ボク自身は「なんかプロっぽくなってるなぁ、盛り上げてくれてるな」って思っていたんですけど、周りはやっぱりみんな怒ってましたね（苦笑）。

——郷野さんに西田さんがKOされたとき、倒れた西田さんに観客席から駆け寄ってましたよね？

桜木　西田選手とは闘いを通じて分かり合ってる部分があったし、郷野選手のあの態度を見たときは、お世話になってるキックが侮辱された感じがして、すぐにでもリングに上がりたくなりましたね。

小林　でも、それは言われる全日本キックのヘビー級の連中が情けないんで。そりゃあ、K-1に比べれば全日本キックは選手層は薄いですけど、それにしてもねぇ。うん。だから、おっしゃる通りですよ、アレは。

桜木　でも、郷野選手とすれば、やっぱり名前的な部分でボクなんかとは一緒にされたくないっていうのはもの凄くあったと思うんですよ。だから、ああいう発言になったと思うんですけど、ボクはボクなりにこれまで決してぬるいことはやってないっていう自負もあるんで、それに対してはリングで答えを出すというか。

小林　桜木君がやってきたアルティメットボクシングとかは報道もされないし、客も全然入ってなかったしねぇ（笑）。

桜木　でも、強いロシア人とずっとやってきて。それにボクもう5年やってるんですよ。キャリアも30何戦やってるんですけど（苦笑）。

小林　だから、勝ってよかったですよね。去年一緒にオランダに行った時にいろいろ話を聞いたんですけど、彼も大変だなぁって思ってたんで。

桜木　そういう話ができるのは藤原ジムの人たちだけなんですよね、ボクの境遇を真に理解してもらえるのは。

——小林さんは師匠が藤原先生だし。やっぱり同じ匂いがするんでしょうねぇ（笑）。

小林　いやいやいやいや、ボクは俺より不幸なヤツがいたと思っただけですよ（笑）！

桜木　今回ここまで面倒みてくれたっていうのは感謝してますし、逆にそこまで見てくれたんだからボクも負けられないし、佐山先生にも小林さんにも迷惑が掛かるし。あと、変な話、ボクが負けたら掣圏会館はまた冬の時代に（苦笑）。

小林　マイナス30度ぐらいにね。桜木君の場合、ひとり掣圏会館みたいなところがありますからねぇ（苦笑）。そういう境遇って藤原ジムの設立当時と似てるんですよ。プロ選手がボクだけで、看板背負ってMAキックに出たり、シュートボクシングに出たりしてしたんで、そういう気持ちはわかるんですよ。1人で戦ってい

桜木vs郷野、対戦までの軌跡
毒舌王・郷野聡寛暴言ファイル!!

2004/12/5 藤原祭り2004 後楽園ホール
○滝川リョウ【2R 1分30秒 KO】桜木裕司●

ノンタイトルながら全日本キック王者に勝利した9月の西田和嗣戦に続き、桜木が2度目の全日本キック参戦。桜木は滝川を豪腕で圧倒し1～2Rに計3度のダウンを奪うも、滝川のカウンター気味のストレート一発で逆転KO負けを喫した。これにより1月4日、郷野聡寛とのヘビー級次期挑戦者決定マッチで対決するのは滝川に。リングに上がった郷野は「一発もいいモノもらわずに勝てると思う。滝川選手は100キロぐらいですか？　俺は85キロぐらいだけど、全然問題ないですね。ベルトをパンクラスに持って帰ります」とヒール全開のマイクアピール!

2005/1/4 全日本キック 後楽園ホール
[全日本ヘビー級挑戦者決定戦]
○郷野聡寛【3R 判定 3-0】コンボイ山下●

郷野のキックデビュー戦。桜木戦のダメージが深い滝川に代わり、巨漢のコンボイが出場した。郷野は計2度のダウンを奪い、フルマークで完勝。ブーイングやヤジも省みず「全日本キックのファンの皆さんはじめまして、パンクラスの郷野です」とマイク。リングを降りた後は「試合はまあまあ。相手は根性だけ。タイトル挑戦？　2月でもいい。そのくらいハンデはあったほうがいい」と毒を吐きまくった。

2005/2/6　全日本キック 後楽園ホール
[全日本ヘビー級選手権試合]
○郷野聡寛【4R 1分33秒 KO】西田和嗣●

キック2戦目にしてタイトル戦に漕ぎ着けた郷野は、テクニックで西田を圧倒。4R、豪快な右ストレートで西田をダウンさせる。リングサイドで観戦していた桜木が西田に駆け寄るも、西田は立ち上がれず。郷野は「全日本キックヘビー級チャンピオンの郷野です。それではみなさん、短い間でしたがどうもありがとうございました。次はパンクラスで会いましょう」。コメントルームでは「あんまり価値のないベルトだけど、やっぱり嬉しい。相手に関しては、俺の方がテクニックで上回ってたし、最後は向こうも何をやればいいのかわかんなくなってた。総合は30戦ぐらいやってるけど、キックはまだ2戦目のグリーンボーイなんで多少緊張しました。相当強いグリーンボーイだけど。防衛戦は、ごねてごねて剥奪寸前までやらない（笑）」と郷野節全開!。

2005/2/4　パンクラス 後楽園ホール
○桜木裕司【3R 0分06秒 KO】謙吾●

謙吾戦を控えた桜木は、前日の公開計量で「謙吾選手に勝ったら、全日本キックのタイトルに挑戦したい」と郷野戦をアピールした。1～2R、謙吾に有利なポジションをキープされパンチを浴び続けるが、3R、起死回生の左ハイキックを謙吾の首筋に炸裂させ逆転勝利!!。

2005/2/15『紙のプロレスRADICAL』84号掲載

12日、3・6パンクラス横浜文化体育館大会において、キックルールで郷野vs桜木のノンタイトル戦が決定した。15日、『紙プロ』インタビューで郷野は、桜木の印象について「全然平気な相手。根性勝負はやらない。根性だけでパンチを当てられるほど、俺のディフェンスは甘くないから」と楽勝宣言。

2005/3/1 郷野会見 GRABAKAジム

郷野が桜木に敗れた場合、桜木のタイトル挑戦を表明した全日本キック連盟興行部長・宮田氏に対し、郷野は「負けたらそうなるっていうんじゃ、勝ったら何してくれるんですか？ ギャラは上がりそうもないし、第一桜木がダメだったら、次に挑戦者として手が上がりそうな相手もいない」と暴言三昧。さらに郷野は「全日本キックに女の子いますよね。WINDY（智美）姉さんじゃくて、渡邊久江ちゃん。オレが勝ったら久江ちゃんと1日デート。おいしい食事、楽しいデート、夜は一流ホテルで寝技王っぷりを披露しますよ」と仰天要求を突きつけた。困惑する宮田氏に、「とりあえずセッティングだけしてくれればいいですから」と強引に勝利の条件をねじこんでしまった。

2005/3/5 パンクラス公式インタビュー

パンクラスの公式インタビューで桜木は、郷野の「根性勝負には持っていかせない」という発言に対し、「気持ちが優先のロシア人とばかり試合をやってきたので、テクニック勝負の選手は楽しみ。グラバカの郷野選手がどれだけ強いのか、キックルールでどれだけ強いのかを体感してみたい」とあくまでもリング上で答えを出す構えを見せた。

同じくパンクラスの公式インタビューを受けた郷野。「相手のパンチは被弾しない」と豪語し、話題はやはり渡邊久江へ。「ここはアピールということで、無理矢理（渡邊vs大室の）セコンドについちゃおうかなって。待ってろよ、久江。覚悟しとけよ～、楽しませてやるぜ～、ブイブイ言わせるぜ～」と、ストイックな桜木に対し、エロバカ全開のご機嫌ちゃん。

2005/3/5 公開計量 P's LAB

前日のK―1会見で、谷川Pが6月開催のJAPAN GPへの出場候補選手として郷野の名前を挙げたことに関して、「メチャメチャ出たいですけど、それは非現実的な話だなぁ。K―1に出るとパンクラスは休まないといけないからなぁ。まあ、迷ったら久江ちゃんにでも決めてもらいます」と、視線はやはり渡邊久江へ。当の渡邊は「とりあえず試合を見てから。惚れるような試合を見せてくれないとデートは無理。もし負けたら（高級車）ジャガーを買ってもらう。あと、半径3メートル以内に近づかない」と要求を突き返した。

2005/3/6　パンクラス『SPIRAL TOUR』横浜文化体育館
[全日本キック公式試合ヘビー級戦]
○桜木裕司【2R 1分17秒 KO】郷野聡寛●

遂に迎えた一騎打ち。1R、郷野が右フックで桜木からダウンを奪い、2Rもペースを握る。しかしパンチで踏み込んだ郷野に、桜木の一発逆転のカウンターのロシアンフックが炸裂! 目の焦点わない郷野を見てレフェリーは試合をストップし、桜木が逆転勝利を収めた。桜木は「郷野選手に対する怒りはなかった。むしろ、自分のことを喋ってくれて、なんかプロっぽくなったなと」と喜びのコメント。セコンドの小林聡は「デートは、罰ゲームでWINDYか彩丘（亜紗子）と」とペナルティを課した。なお、「気持ちの整理がつかない」と郷野もさすがにノーコメント。

2005/3/10 郷野会見 GRABAKAジム

劇的敗戦から4日、ついに郷野がマスコミの前に姿を現した。「あれは事故だね。その要因は“久江酔い運転”。そして、そこからくる危険予測怠慢。目が怯えてて、ホント弱かったから。そんな相手だから、ちょっと雑になっても勝てるだろうと。さっさと試合終わらせてマイクを取って、リングの上から久江ちゃんにラブコールを送ろうと思って、頭がそっちにいっちゃってたから」と毒舌は健在。また郷野宛に届いた渡邊久江からの手紙（手紙はP92へ）を読むと開口一番「字がねえ。ちょっとイメージ変わるなぁ」と書体に軽くツッコむも、「逆にそれもかわいいね。俺に興味が向いてきたとは思わないけど、いいように受け取ることにする。ふふふ」と強引なポジティブさで手紙を解釈した。果たして、郷野の復帰戦はいつだ?



韓国でK-1人気大爆発！

月刊誌なりの3・19
K-1韓国大会速報

佐山先生や小林さんが特訓してくれるんだから最高ですよ（桜木）

るのは。
――やっぱり同じだと（笑）。
小林　いやいやいやいや（苦笑）！
桜木　でも、郷野選手は「相手の光を消す」って自分で言ってましたけど、今回に関してはボクは何にも言ってないのに光らせてもらいましたから、ありがたかったです（笑）。それにボクはああいう風には吼えられないし、吼えたいことは別のことだし。
――右の話ですね。
桜木　ボクも掣圏真陰流なんで、郷野選手というよりは俗世間に対して言いたいことはありますね（笑）。それに、佐山先生からも「もしマイクで喧嘩を売られても絶対に乗るな」と前々から言われてるんで。
小林　まあ、佐山さんはああいうのは相手にしてないですよ。
桜木　逆にああいうのに乗ってマイクを握ったら、ボクが殺されてますから（苦笑）。
小林　キレると凄いですからね。ボクは見てないんですけど、ウチのジムでも前田（尚紀）が何回か目撃してるんですよ。
――え、藤原道場でもキレてるんですかぁ!?
桜木　壮絶だったらしいですよ（苦笑）。
小林　練習生の少ない昼間にキレることが多いみたいですけどね（笑）。あと、ジムじゃないんですけど、ボクが直接見たのは、ボクの後輩に1人アホがいて、あの時はモロキレして怖かったですよぉ（苦笑）。そいつはボクと同県人でイジッてると面白えなって思って、たまに呼んでからかっていたんですよ。で、その時も藤魂塾の大会で佐山さんがいるのを見つけて一緒に写真を撮って貰おうとしたんですけど、そいつ佐山さんに蹴りを入れながら撮ろうとしたんですよ！
桜木　うわぁー（苦笑）。
ささきぃ　田中先生が止めたらしいですね（笑）。
小林　そうそう。で、「お前のようなヤツがいるから日本はダメになるんだ！　明日靖国神社に行って来い!!」って言われてて。まあ、そいつは本当にアホで常にバックの中に〝いいちこ〟入れてるようなヤツなんで（笑）。
――その人は藤原道場の人なんですか？
小林　違いますよォ。でも、そいつは「お前どこのもんだ！」って怒鳴られて「藤原ジムです」とか言いやがって（笑）。で、ちょうどボクは山本寛斎の日本武道館の舞台を見に行く用事があったんですよ、それでそいつを呼んで本当に靖国神社に行って来たんですよ。だから、バカなんで（笑）。
――凄いですねぇ、藤原道場＆掣圏会館の周りは（笑）。ところで、佐山さんにはもう試合の報告は済ませたんですか？
桜木　昨日報告しました。先生は試合を全然見てないはずなんですけど、あれがダメだ、これはダメだってダメ出しをされました。
小林　それが当たってるんですよ。佐山さんは本当に名伯楽だから、キックボクシングを教えても凄い先生になれると思いますね。
桜木　でも、先生は誰にでもアドバイスするわけじゃないですから、ボクは凄い贅沢な気がしてるんですよ。ただ、それで潰れていった人も何人もいるんですけど（苦笑）。だからこそ、逆にそれに応えようという気になりますね。で、最近ボクがよく言われるのは「お前だけは見てて許せない」って言葉なんですけど（苦笑）。
小林　それが佐山さんの愛情表現でしょうけどねぇ。
――怖い愛情表現ですねぇ（苦笑）。そういえば、今回は先生の試合前のチェックはありました？
桜木　最初だけでしたね。それ以後は小林さんがずっとでしたね、今回は。
小林　佐山さんは忙しかったですからね、プロレスで。ともかく自分の役目は果たせて良かったですよ。ただ、もっと相手に何も言わせないような勝ち方をしてほしかったですね、どうせうるさいのは分かってましたから。こういうタイプは勝っても負けても絶対にうるさいんで！
――実際うるさいんですよね（笑）。試合の4日後に郷野さんが会見を開いたんですけど、相当吼えてましたよ。
小林　言い訳の記者会見だったんでしょ？　さっき彼のコメントを読ましてもらいましたけどぉ、長いんですよねぇ。読むの途中で嫌になりましたから。くだらねぇことばっかり言いやがって、よくしゃべるよ！
――第一声は「アレは事故だっ

桜木に敗れ、一日デートがオジャンになった郷野に、渡邊久江から直筆の手紙が。自分に興味を示していることに喜びつつも、達筆で知られる郷野だけに「字がねえ…。ちょっとイメージ変わるなぁ」と、思わず苦笑い。

全日本キック ヘビー級 チャンピオン
のハズの 郷野さん え ☺
渡邊 久江 より☆

試合おつかれさまでした。でも疲れる前に終っちゃいましたね。疲れてないでしょ？躰本的には。イロんな意味でおつかれッス!!
しかし、ハラ②ドキ②もなく崩れ落ちた瞬間、まじビックリ！てゆーか、ドッキリ!?みたいな、じょうだんキツイっす、なんて言ってられないくらいショックでとても責任を感じました。
ぜん②余ゆーじゃんっとか思って、試合終わったら何てコメントしようかな〜とか考えちゃってた1R。そんなんだったので、現実をみせられた感、衝撃が強すぎて……。格闘技なんだよな―（意味深）とか思いました。
しかし、しかし！女の子に責任を感じさせるような試合をするなんて…どぉなの!?郷野っ！
確かに便乗して色んなとこに名前出ちゃって売名出来るのはありがたいが…こんなんじゃ価値さがっちゃって困るよぉ〜―（上司風）。
まぁ約束通り、タイトルマッチやって、しっかりあたしの分も汚名返上して下さいよっ！次負けたら相手しませんから。
よろしく。

ついしん
普段はあたし、他人の試合あんまり見ないし、フツーの一観戦してる人として、寝たり大さわぎしたりしてるのですが、今回の試合実はなにげに面白かったです。
醍醐味を感じる試合でしたもんね。
ビミョウな当事者として叫べなかったのがザンネンです。

2005．3．8 小春日和☼

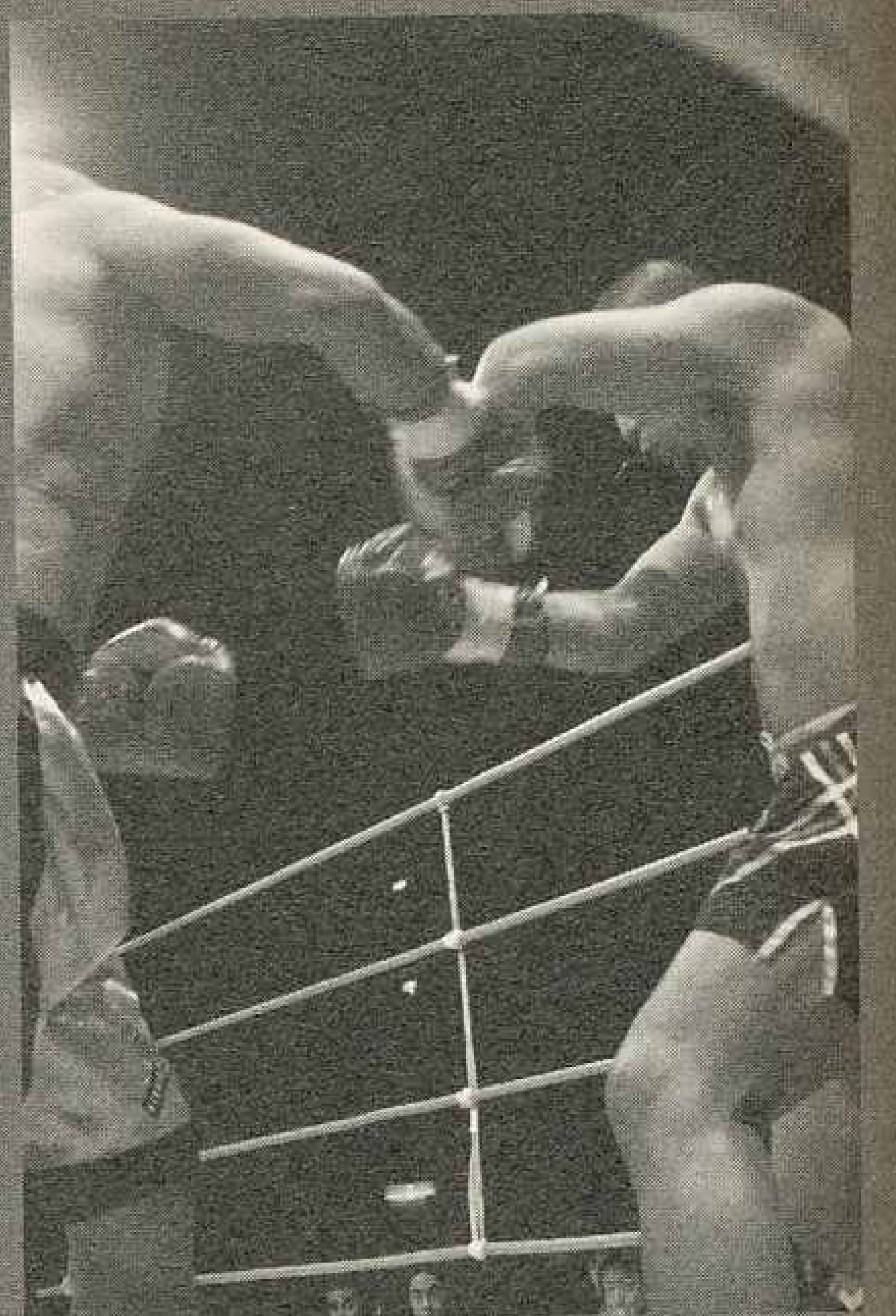
3 MARCH

5 TUE.
NOAH■新潟・新津市民会館（18:30）

初代タイガーマスク PRELUDE■東京・お台場SDM(18:30)
みちプロ■秋田・中仙町八乙女青年の家体育館



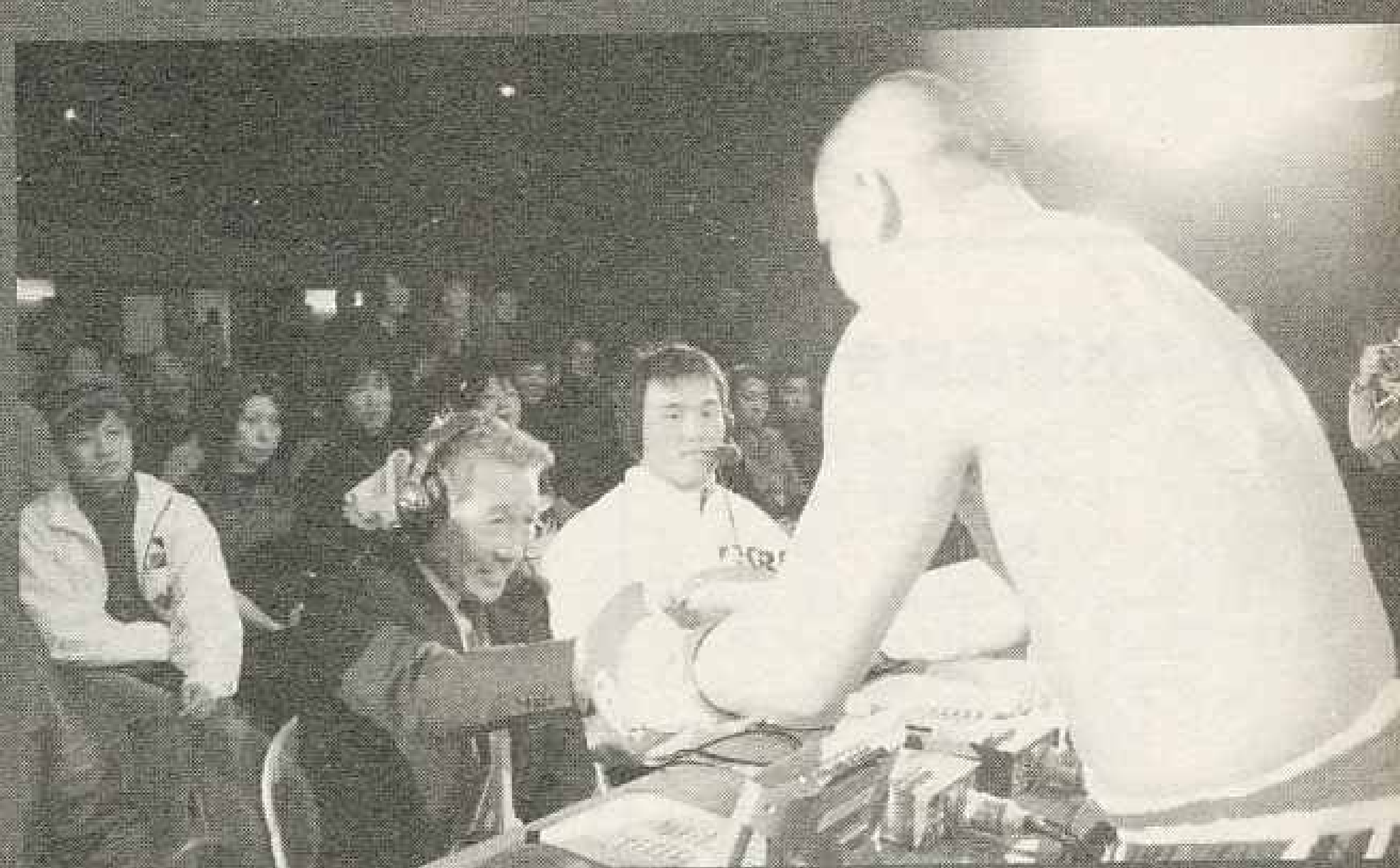




05/3/6 パンクラス 横浜文化体育館大会



【全日本キックボクシング連盟公式試合ヘビー級戦】
○桜木裕司［2R 1:17 KO］郷野聡寛●
山田学vsモーリス・スミス戦以来、約9年ぶりにパンクラスマットでのキックルールが実現し、全日本キックヘビー級王者・郷野vs桜木がビッグマッチのメインを飾った。リングサイドで渡邊久江が観戦し、藤原敏男が実況席で解説する中、桜木は日本刀を携え、日の丸を背負い、そしてセコンドには藤原ジムの小林聡を帯同し入場。1R、軽快な動きの郷野は、上下に散らす攻撃で桜木をコーナーに追い詰め、右フックでダウンを奪う。桜木はカウント8で立ち上がり、何とかこのラウンドを凌いだ。2R、余裕を感じさせる郷野がパンチで踏み込んだ瞬間、桜木のロシアンフックがカウンターで炸裂! まともに食らい崩れ落ちた郷野は、立ち上がるも焦点が定まらずレフェリーストップ。桜木が前回の謙吾戦に続き、またしても大逆転勝利をものにした。



た」と。

小林　いいですねぇ、プラス思考で。え、でも、それだけを言うために記者会見を開いたんですか?

――そうでしょうね。全日本キックの宮田（充）さんも来て、渡邊さんからの手紙を読み上げたらしいですよ（笑）。

小林　何やってるんだ、あのオヤジは!?（笑）

――で、郷野選手のコメントの続きですけれど、1R目で「弱えじゃん」って思ったそうですよ（笑）。

小林　じゃあ、その弱えじゃんって思った奴にKOされたオメエは何なんだよ（呆れて）。桜木君ももっとなんか言ったほうがいいよ。

桜木　いや、別にボクは（苦笑）。

――続けますけど、「戦う前よりも俺の中での相手の評価は全体に下がっている。ただ、パンチ力は強かった」と語ってますね（笑）。

桜木　試合前には「根性だけの選手のパンチは当たらない」って言ってましたけど、当たったんですね（苦笑）。

――でも、その根性についても、「別に向こうの根性で流れを持ってきたんじゃなくて、俺の怠慢で向こうに流れがいってしまっただけのこと」だということです、ホント見事に口が悪くていいですね（笑）。

小林　はぁ～（やれやれといった顔で）。

桜木　柳に風ですね、これは向こうが言った言葉なんですけど（苦笑）。

小林　で、再戦は決まったんですか?

ささきぃ　タイトルマッチは受けるっていうのはもう言ってましたね。

桜木　それは全日本キックで、それともパンクラスで?

小林　それは全日本キックでしょ。まあ、また対戦してKOで倒せばいいでしょう。

――楽しみですね。それにしても今回の試合では、つくづく桜木さんは甘く見られてるなって思ったんですよ。『東スポ』の試合記事でも、「明らかに体力、技術ともに桜木より上の郷野は油断したのか、クロスカウンター気味の右フックを食らってKO負けした」と書いてるんですよね。

桜木　やっぱり名前があるか、ないかだと思うんですよ。でも、そう思われてるうちがいいのかなと。

小林　毎回まさか、まさかの逆転劇ですからね。お客さんもこの試合を見て、「次やれば勝てる」と思っただろうし、本人もマスコミもそう思ったんでしょう。でも、やっぱり技術ないと逆転なんてできないことだし。

桜木　だから、一部では認めたくない人たちもいるのかなって。なんなんですかね、一部のマスコミにはボクらは凄い毛嫌いされてる気がしてるんですよ、田中先生が言うには。

――一部のマスコミって●●ですよね（笑）。

ささきぃ　でも、田中先生の場合はミャンマー・ラウェイに●●さんが来なかったことが一番大きく響いてるだけだと思うんですけどね。『紙プロ』が来てるのになんで●●は来てねえんだっていうのが（苦笑）。



勝ち負けより、どういう思いで闘っているか見て欲しい。

小林　いや、『紙プロ』だから行ったんでしょう、ミャンマーには(笑)。

桜木　まあ、だから認めたくないけど認めざるを得ないようにボクが頑張ればいいことなんで。友達にも言われたんですよ、やってもやっても評価されないよねって。でも、それは俺がまだ弱いからで、バケモノのように強くなれば嫌でも注目しなければいけなくなりますからね。だから、勝ったからってまだまだだし。それに去年のオランダで小林さんと前田さんと一緒に行って、そこでもいろいろ相談に乗ってもらったのも良かったですね。

――どんな相談したんですか?

小林　「団体に所属してないんで試合ができない」という感じですかね。ボクも試合ない時期もありましたんで、現役選手で試合がないキツさは分かりますよ。だから、迷うっていうのが一番よくないじゃないですか、選手って。目標みたいのが定まらないと、これをこうしたいっていう計画も立てづらいですよね。だから、ボクが協力できることがあればってことで。そうしたら、1年あまりでパンクラスと全日本キックという道ができたんで良かったなと思いますよね。

桜木　小林さんにこういう形で目をかけてもらったお陰で、西田戦から次、次っていけたと思うんですよ。

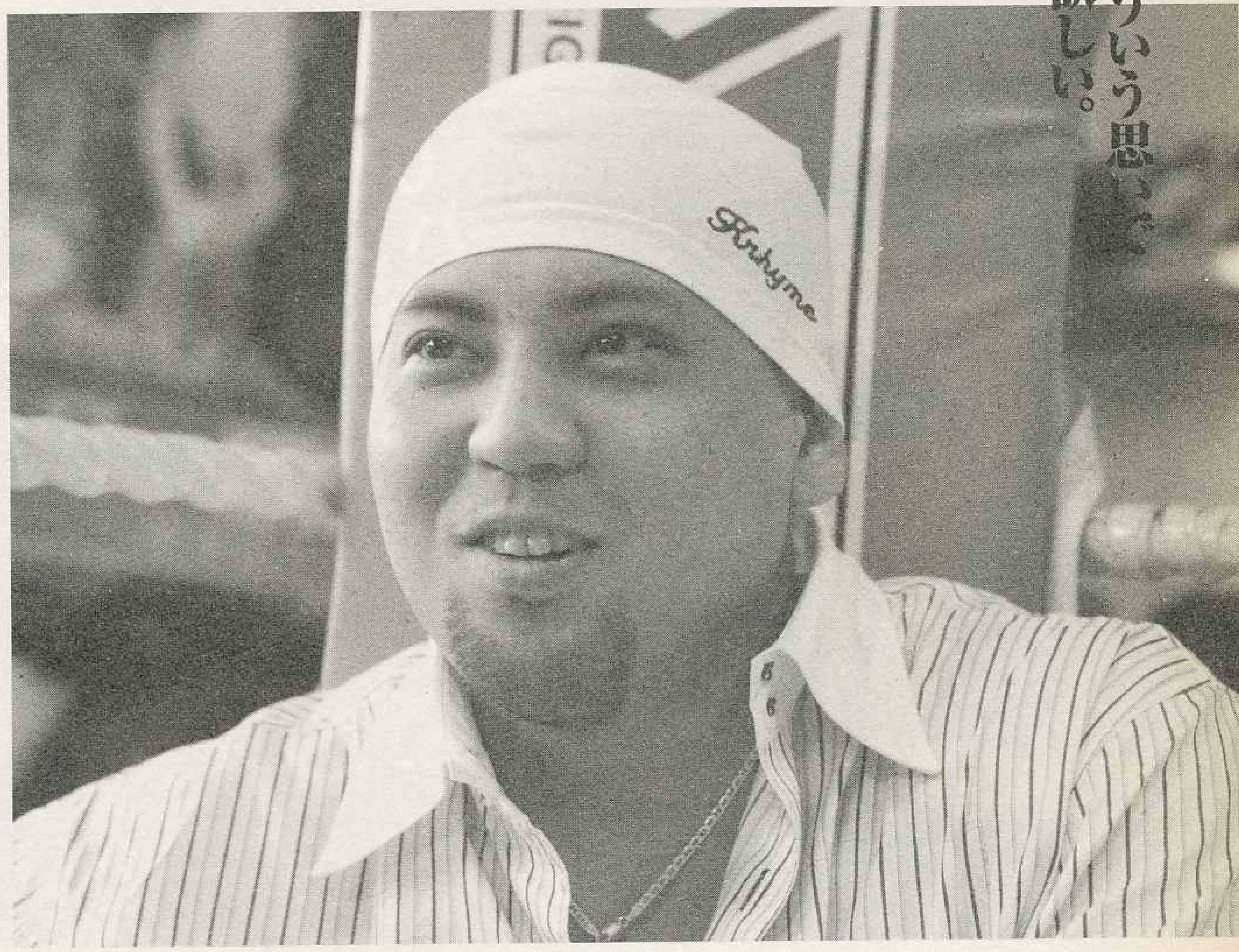
小林　いやいや、やるのは本人ですから。

桜木　でも、それがキッカケでしたから。そうじゃないとアマチュアの修行僧みたいに自己満足の世界になっていくんで。

小林　いや、最初はそれが好きな人なのかなって思っていたんですよ。そしたら、話を聞いたら違っていたんで(笑)

――で、一肌脱いだと。やっぱり、境遇がカブってるから(笑)。

桜木　師匠もカブってますからね。



桜木・海外遠征試合情報

全日本ヘビー級1位・桜木裕司が、4月9日、オランダ・アムステルダムで開催されるムエタイのビッグマッチ『Muay Thai Champions League XII』に出場し、MTBNオランダ・ヘビー級王者メルヴィン・マンホーフ(オランダ)と5Rキックルールで対戦する(ノンタイトル戦。ヒジは禁止)。桜木にとって2度目となるオランダ遠征試合。前回はKOで敗れているだけに、今度こそ勝利を期待したい。

小林　いやいやいやいやぁ。

――なんでさっきから嫌がってるんですか(笑)。

桜木　ボクとしては佐山先生のもとで教えてもらい、藤原敏男先生というビッグネームのもとで練習ができて、その上に小林さんという世界チャンピオンがいろいろ良くしてくれて、田中塾も応援してくれるというのが最高の環境なんで。

小林　ホント凄い環境ですよねぇ(苦笑)。

桜木　そこに男のロマンを感じますね。梶原一騎の劇画の世界というか。変な話、『四角いジャングル』の赤星潮になった気持ちなんですよね。まあ、赤星は途中で消えちゃうんですけど(笑)。そこがいまのおしゃれな格闘技とは違うんですよね。

――まさに郷野選手を代表とするような、おしゃれ格闘技とは違うと。特に今回の郷野さんはもろにスリーS政策の塊みたいな存在でしたからね(笑)。

桜木　一番ウチの先生とは逆ですから(笑)。

小林　スリーSってなんですか?

桜木　スポーツ、セックス、スクリーンのSなんですけど、アメリカの戦後政策で、娯楽によって日本人を骨抜きにしようとしたものなんです。

小林　はあ、難しい(苦笑)。

桜木　ただ、郷野選手を潰してもほかにもいっぱいいるわけじゃないですか。それに対して昔からあるものでもいいものはいいというか。だから、ボクの後ろにあるものって、もの凄いものがあるんだなっていう。誰と誰が闘ったかっていうことよりも、この選手はこういう考えの持ち主でこういう思いで戦っているんだっていうのを見てほしいですね。どちらが勝ったのか負けたのかっていうよりも。

――しかも、郷野選手はたまにスイッチしてサウスポーにもなるんですよね(笑)。

桜木　そういう意味でも、左の人には絶対負けられないんです(笑)。

小林　あ、それで思い出したけど、桜木君の場合、入場とかは日本刀とか持って独特のアレがあるんですけど、道衣を脱いだら普通なんですよねぇ。トランクスがちょっとね。

桜木　いや、そっちまでは気が回らないんですよ(苦笑)。いっつも、みんなに変えたほうがいい



2月4日、パンクラス初登場の桜木裕司が謙吾と対戦。1、2Rとも謙吾に圧倒され、誰もが謙吾の勝利を予感した3R、開始直後に桜木のハイキックが謙吾の首筋にヒット! 奇跡の逆転KO勝利に後楽園が沸き、リングサイドで観戦していた小林も我がことのように喜んだという。この勝利により桜木は現在空位のパンクラスヘビー級王座に大きく近づいた。

3 MARCH

5 TUE.

NOAH■新潟・新津市民会館（18:30）

初代タイガーマスク PRELUDE■東京・お台場SDM（18:30）
みちプロ■秋田・中仙町八乙女青年の家体育館

よ言われるんで、作らなきゃなって思うんですけど、試合前になると忘れちゃうんです。

小林　海軍マークとか、日本国旗とか入れてね（笑）。

桜木　そうですよねぇ。

――あと普段の服装で言うと、桜木さんの場合ヒップホップ風っていう感じですけど、その辺は佐山さん的にOKなんですか？

桜木　いや、身体が大きいんでサイズが合わないっていうのもあって（苦笑）。

――ウソでしょ（笑）。いいじゃないですか、趣味なんですから。

小林　でも佐山さん、講演とかやってたときに髪染めたヤツが入って来たら「出てけ！」って外に出しちゃったらしいですよ。その彼、入場料払ってるのに（笑）。

――ヒドイなぁ。そういえば、藤原先生も最近佐山さんばりにキレたという話も聞きましたね（笑）。

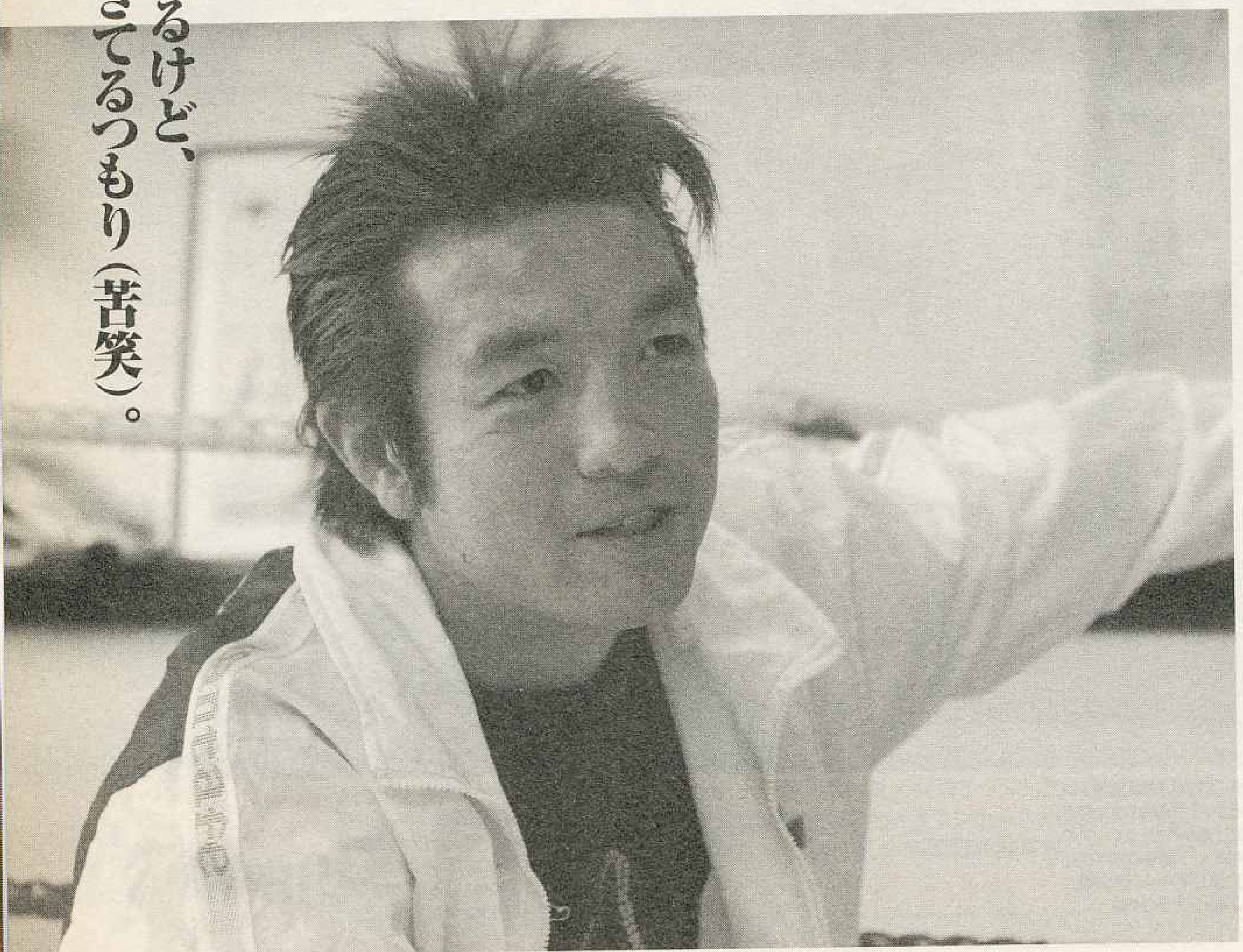
小林　最近キレました（苦笑）。いやぁ、ホントなんなんですかねぇ。

――2人ともそういうコクのある師匠のもとに好きで行ってるんですよね。

小林　いや、そう思って行ったわけじゃないですけど、理想と現実はねぇ（遠い目をして）。

桜木　でも、藤原道場はジム生がいてプロでも続いてるじゃないですか。ウチの場合はボクの前はいないし、ボクのあともいないし（苦笑）。

不器用って言われるけど、本人は器用に生きてるつもり（苦笑）。



小林　だから、桜木君がもっと表に出ていけばね。

桜木　でも、そうなると逆に楽なときにウチに来てほしくもないなっていう気持ちもあって（苦笑）。

――難しいですねぇ（笑）。小林さんも藤原先生と二人三脚でやってた時代もあったんですよね。

小林　あの頃は俺がやらなきゃって燃えてましたよ。ひとり藤原ジムですから（苦笑）。無茶苦茶な練習をさせられましたからね。

桜木　藤原ジムの練習を見て、ウチの先生もライバル心を燃やしてるところもあって、もう冷や冷やしますよ。

――ともかく理屈じゃない人だちですからね。

小林　天才ですからね（笑）。

桜木　やっぱり藤原先生とウチの先生というのは、もともと目白ジムでボクと小林さんと同じような関係だったと思うんですよ。だから、いまでも続いてるんだろうし、やっぱり分かってくれるのはこっちの人間じゃないと。やっぱりウチもプライド持ってやってるんで、よそとは簡単に仲良くはなれないですからね。たぶん考えが違うと思うんで。でも、小林さんなら一言、二言話せば分かって貰えますから。

――だそうですよ（笑）。

小林　分かんない、分かんない（笑）。

――だから、不器用な生き方をする人たちなんでしょうね。

小林　そうですか？　器用にやってるつもりなんですけど（苦笑）。

――ともかく、そんなお二人が共闘して格闘技界を面白くしてくれるといいんじゃないですかね。

小林　できますかね？　まあ、キックの試合はボクが協力できますけど、総合だとさすがに懲りてますからね、緒形健一のセコンドで。あのときは何を言っていいか分からないんですよ、ずっと寝っ転がってるから（苦笑）。

ささきぃ　山本宜久さんがPRIDE（vsアンデウソン・シウバ戦）に出たときもそうでしたよね（笑）。

小林　ああ、ありましたねぇ。新幹線で大阪まで行って11秒で終わったっていうね。「俺何しに来たんだろう？」って（苦笑）。入場の『キャプチュード』のほうが長いんだもん、試合より。

――いい試合に立ち会ってますよね。

小林　「えーッ!?」っていう試合が多いですよね（苦笑）。

桜木　今回の試合もいい方に転んだ「えーッ!?」っていう試合でしたし（苦笑）。

小林　いやいや、アレは勝つ気で行って当たり前に勝ってきた試合ですから。

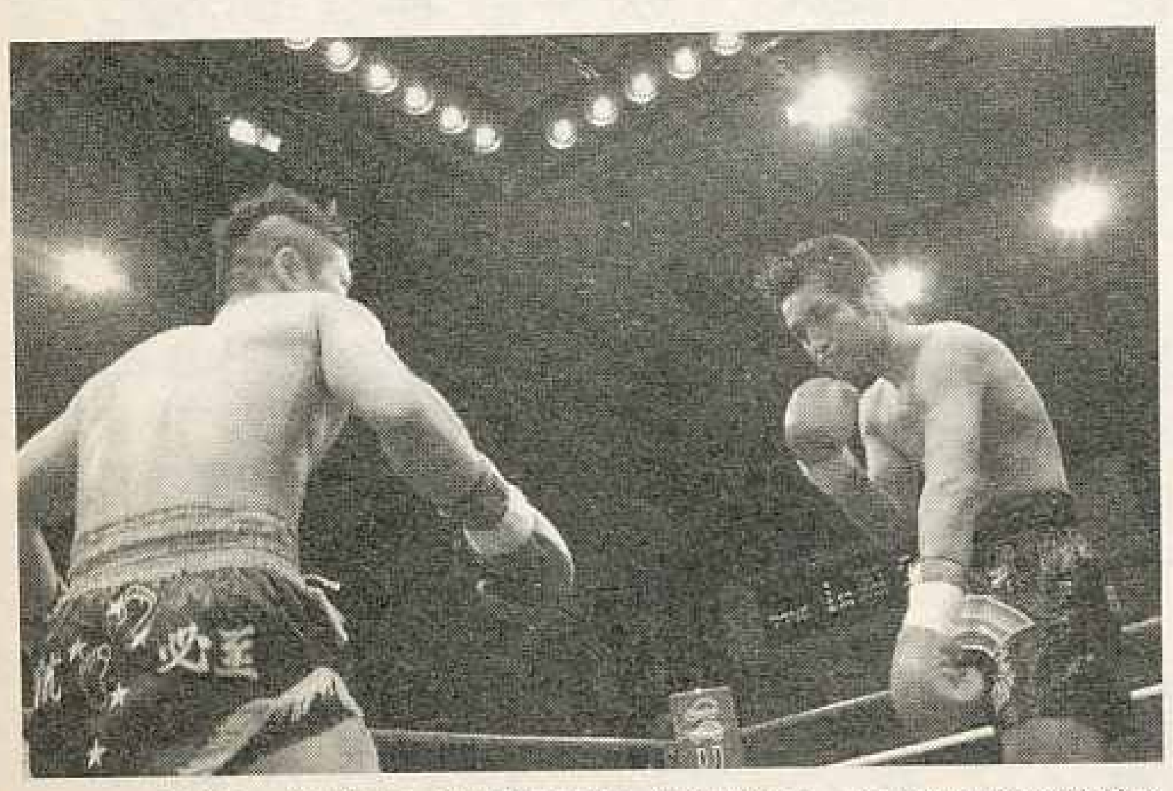
――で、最後に今後の話なんですけど、桜木さんは4月にオランダでの試合があって、帰国後に全日本キックのタイトルマッチがあるんですね。

小林　あとはパンクラスでヘビー級のトーナメントもあるんですよね。だから道が拓けてきたんですよ。

桜木　今年はベルトが2つ取れるチャンスが来てるんで。これを取るとまた新たな通行手形が手に入っていろんなところに行けると思うんですね。でも、取れないとまた冬の時代が来るんですけど（苦笑）。

――K-1ジャパンっていう話もないことはないですからね。

桜木　今年は全日本キックとパ

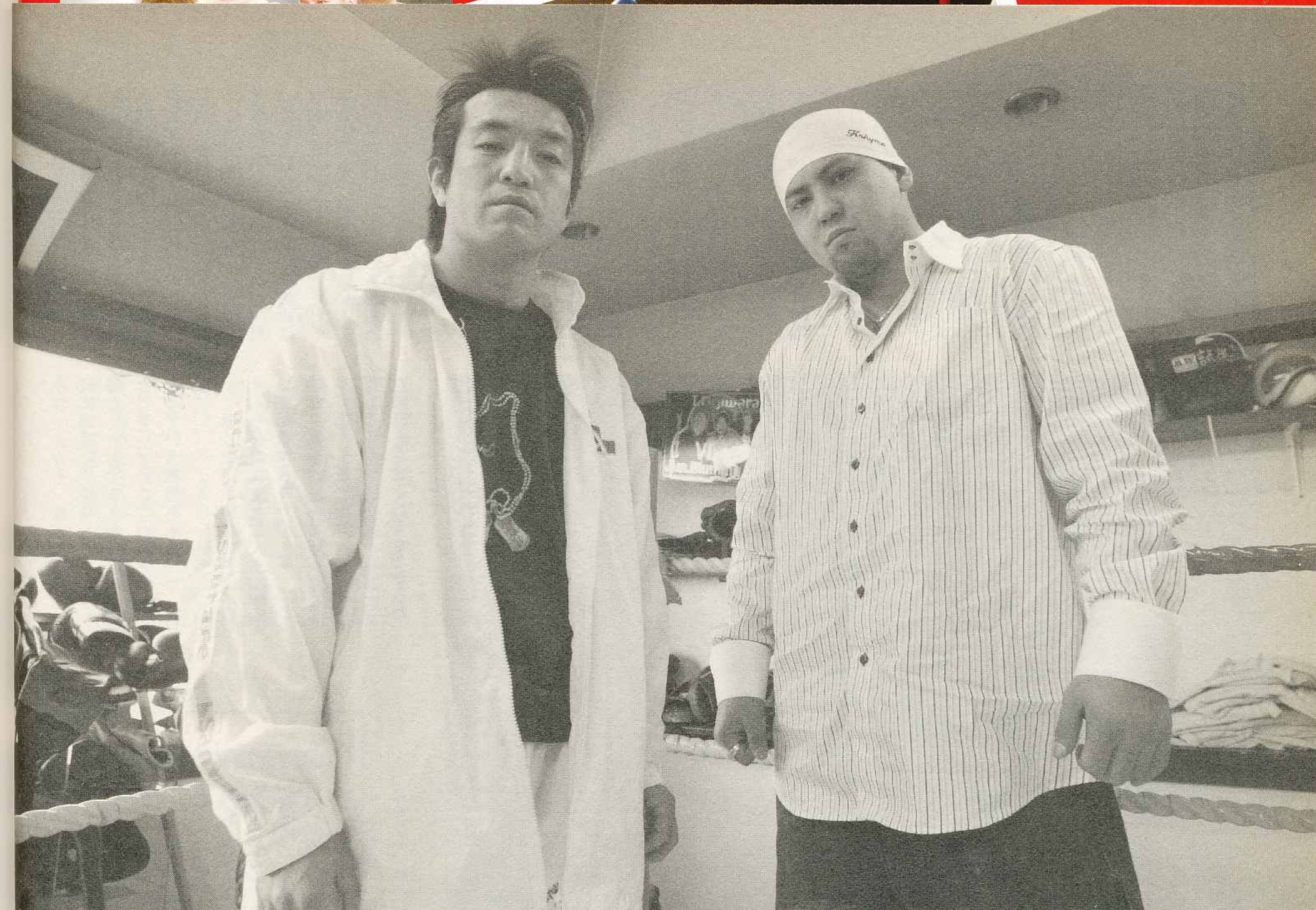


1月4日、小林聡vs"無敗"大月晴明が実現。佐山聡にコーチを受け万全の態勢で望んだ小林だったが、3Rに3回のダウンを喫し、大月の爆腕の前に轟沈した。敗れた小林だが「俺の人生はこれで終わりじゃない。やられたらやり返す。この仕事やってて、その気持ちがなかったらしょうがない」と野良犬節は健在。次なる闘いはいつだ!?



韓国でK-1人気大爆発！

月刊誌なりの3・19
K-1韓国大会速報



こばやし・さとし■1972年3月16日、長野県出身。藤原ジム所属。ファンに圧倒的支持を受けるキック界のカリスマ的存在。先日、顔相の大家・藤木相元に「金が貯まらない。人の話を聞かない。何をやってもキリがない。ヤ●ザの方が成功する」と占われたという。3月18日、全日本キック後楽園大会にエキシビジョンで出場決定。170センチ、63キロ。

さくらぎ・ゆうじ■1977年7月20日、宮崎県出身。極真、新日本キック目黒ジムを経て掣圏会館所属へ。佐山聡直々の地獄の猛特訓、屈強なロシア人たちとの激闘を経て、掣圏会館エースにして師範となる。05年3月、郷野戦に勝利し、全日本ヘビー級1位へ。4月にオランダへのキック遠征試合が決定。180センチ、95キロ。

ンクラスを、夏までできる限りやって、そのあとがあるんだったら考えます。別にK－1がいいから、PRIDEがいいからって食いついていくのはアホらしいというか。それよりも自分の目標を定めたらそれを取るまではヨソ見したくないですね。このチャンスを生かして、その両方の団体もよくしていって、そのあとに話があるんであれば。できたら、PRIDEとかで、佐山軍vs何軍っていうのがあったら面白いですけどね。それを『チャンネル桜』あたりで流していただいて（笑）。

小林　なんですか、『チャンネル桜』って？

桜木　あるんですよ、スカパーで。ちょっと右がかったチャンネルで。この試合の前にも特攻隊の映像見たんですよ。で、こんなチャンネルがありますよって、佐山先生に電話したら、「あ、この前出たよ」って（笑）。

小林　出てるんだ（笑）。

――ところで小林さんは思想の方は？

小林　ないですよぉ（苦笑）。そっちの話はついていけないです。そういえば佐山さんの事務所に行ったときに、タイガーマスクが国会にローリングソバットやってるポスターがありましたね。あういうのは面白ぇなって思いますけどね（笑）。

桜木　参院選挙のときのポスターですね。

――ま、ボクらとしてはいまどきじゃないお二人が、格闘技界にローリングソバットをしていただけることを望んでますね（笑）。

小林　じゃあ、次の郷野戦は何にも言えないぐらいにやってあげましょう。ボクがやるわけじゃないですけど（笑）。

桜木　そのためにも4月のオランダの試合は勝ってきたいですね。

小林　あれ、でも、そのオランダ遠征って彩丘も行くんじゃなかったっけ？　結局罰ゲームは桜木君なんだ（笑）。

桜木　結局そういう星のもとに生まれてるんですかねぇ（苦笑）。

【2005／3／12　藤原ジムにて収録】

小林聡、山本優弥が再起戦！
パンクラス伊藤崇文がキックデビュー！

『NEVER GIVE UP』

【日時】
4月17日（日）試合開始18:30（開場17:00）
【会場】
東京・後楽園ホール
【出場予定選手】
小林 聡（WKA世界ムエタイ・ライト級王者／藤原ジム）
山本優弥（全日本ウェルター級1位／BOOCH BEAT）
金沢久幸（全日本ウェルター級2位／AJFK）
湟川満正（全日本ウェルター級3位／AJジム）
伊藤崇文（パンクラスism）
【チケット（当日／1000up）】
RS席／10000　S席／6000　A席／4000
【問】
全日本キック 03-3365-1171
http://www.aj-kick.com/

【決定カード】
全日本キックvsMA日本キック
前田尚紀（前全日本フェザー級王者／藤原ジム）vs 大高一郎（MA日本フェザー級王者／山木ジム）

全日本キックvsJ-NETWORK／ライト級／サドンデスマッチ
凱斗亮羽（全日本ライト級5位／S.V.G.）vs 小宮由紀博（J-NETWORKライト級2位／レグルス池袋）

RADICAL CALENDAR

3 MARCH

27 SUN.
ZERO－1 MAX■東京・後楽園ホール（12:00）
みちプロ■宮崎・UMKスポーツスタジオ（17:00）
DRAGON GATE■東京・ディファ有明（16:00）
DDT■東京・新宿クラブハイツ（18:00）
IWA JAPAN■東京・後楽園ホール（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
ターザン後藤一派■埼玉・春日部インディーズアリーナ（14:00）
JWP■東京・東京キネマ倶楽部（13:00）
NEO■東京・東京キネマ倶楽部（17:00）
格闘美■東京・新木場1st Ring（12:30）
修斗■愛知・名古屋市公会堂（15:00）
U－FILE■東京・西調布アリーナ（14:00）
ANGEL'S■東京・伊原道場本部

28 MON.
みちプロ■宮崎・小林市民体育館（18:30）
DRAGON GATE■神奈川・相模原市立総合体育館（18:30）
大日本■東京・後楽園ホール（19:00）

29 TUE.
ZERO－1 MAX■千葉・塩浜市民体育館（18:00）
みちプロ■熊本・熊本興南会館（18:30）
DRAGON GATE■静岡・キラメッセぬまづ（18:30）
全女■神奈川・金沢区産業振興センター体育館（18:30）

30 WED.
みちプロ■長崎・島原市復興アリーナ（18:30）
DDT■東京・新木場1st Ring（19:30）

31 THU.
ZERO-1 MAX■和歌山・田辺ハナヨアリーナ（18:30）
大日本■大阪・鶴見緑地公園花博記念公園水の館付属展示場（19:00）

4 APRIL

1 FRI.
みちプロ■三重・津市体育館（18:30）
大日本■徳島・アスティ徳島（18:30）

2 SAT.
NOAH■東京・ディファ有明大会（18:00）
DRAGON GATE■香川・坂出サティホール（18:30）
大日本■静岡・ツインメッセ静岡（15:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）

3 SUN.
NOAH■東京・後楽園ホール（18:30）
ZERO-1 MAX■千葉・パチンコチャレンジャー跡地特設リング（15:00）
DRAGON GATE■兵庫・神戸サンボーホール（17:00）
DDT■兵庫・兵庫県立武道館（13:00）
大日本■神奈川・横浜赤レンガ倉庫（17:00）
国際プロ■神奈川・茅ケ崎青果市場（14:00）
K－DOJO■東京・後楽園ホール（12:00）
大阪プロ■京都・KBSホール（15:00）
WMF■埼玉・本川越ペペホール アトラス（14:00）
GAEA■神奈川・横浜文化体育館（17:00）
AtoZ■東京・AtoZ江戸川道場（12:00）
PRIDE武士道-其の六■神奈川・横浜アリーナ（17:00）

5 TUE.
NOAH■新潟・新津市民会館（18:30）

6 WED.
NOAH■愛知・Zepp Nagoya（18:30）
DDT■東京・新木場1stRing（19:30）
AtoZ■岩手・北上市和賀多目的催事場（18:30）

7 THU.
AtoZ■宮城・気仙沼市総合体育館（18:30）

8 FRI.
NOAH■香川・高松市総合体育館（18:30）
みちプロ■青森・十和田市民体育館（18:30）
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール（18:30）

9 SAT.
新日本■神奈川・海老名運動公園総合体育館（18:30）
全日本■東京・後楽園ホール（18:30）
みちプロ■福島・サンライフ原町（18:30）
DRAGON GATE■三重・四日市オーストラリア記念館（18:30）
DDT■大阪・アゼリア大正（19:00）
大日本■愛知・蟹江町体育館（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
格闘美■東京・新木場1st Ring（18:30）
プロ柔術Gi■東京・北沢タウンホール（14:30&19:30）

10 SUN.
NOAH■鳥取・米子コンベンションセンター（17:00）
全日本■東京・後楽園ホール（12:00）
ZERO－1 MAX■東京・靖国神社相撲場（17:00）
みちプロ■山形・酒田市営体育館（15:00）
DRAGON GATE■岡山・卸センターオレンジホール（16:00）
DDT■愛知・中村スポーツセンター（13:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
K－DOJO■千葉・BlueField（18:30）
GAEA■東京・後楽園ホール（18:30）
JWP■東京・バトルスフィア東京（13:00）
パンクラス■大阪・梅田ステラホール（16:30）
club DEEP■福岡・紫水会館イベントホール（16:00）
プロ柔術Gi■東京・北沢タウンホール（12:30&17:30）
新日本キック■千葉・市原臨海体育館

12 TUE.
NOAH■熊本・熊本興南会館（18:30）
大阪プロ■沖縄・那覇カンポレクセンター（18:00）

13 WED.
NOAH■鹿児島・鹿児島アリーナ（18:30）
全日本■愛媛・アイテムえひめ（18:30）
DDT■東京・新木場1stRing（19:30）

14 THU.
全日本■大阪・大阪府立体育会館 第2競技場（18:30）
ZERO－1 MAX■東京・後楽園ホール（19:00）
大阪プロ■静岡・キラメッセぬまづ（19:00）

15 FRI.
NOAH■佐賀・諸富町文化体育館大会（18:30）
みちプロ■岩手・大槌町城山公園体育館（18:30）
大阪プロ■東京・後楽園ホール（18:30）

16 SAT.
新日本■鳥取・鳥取産業体育館（18:30）
全日本■長野・ウェルサンピア松本（18: 30）
NOAH■長崎・ncc&スタジオ（18:00）
初代タイガーマスク PRELUDE■東京・お台場SDM（18:30）
みちプロ■秋田・中仙町八乙女青年の家体育館
DRAGON GATE■愛知・刈谷あいおいホール（18:00）
リキプロ■東京・後楽園ホール（19:00）
K－DOJO■千葉・BlueField（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
キングダム・エルガイツ■東京・多摩ファイトスピリット（20:00）
UFC 52■ラスベガス・MGMグランドガーデンアリーナ

17 SUN.
全日本■新潟・新潟市体育館（17:00）
NOAH■福岡・博多スターレーン（17:00）
ZERO-1 MAX■埼玉・ふじみ野駅東口駅前通り広場特設リング（15:00）
みちプロ■宮城・ニューワールド仙台テニスクラブ（15:00）
DRAGON GATE■兵庫・明石市立産業交流センター（17:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
WE LOVE SABU■東京・ディファ有明（12:30&18:30）
全女■東京・後楽園ホール（12:00）
AtoZ■東京・千住アメージングスクエア（18:00）
格闘美■東京・新木場1st Ring（18:00）
DEEP HERO1■Zepp Nagoya（14:30&17:00）
SWAT! 1■東京・大森ゴールドジム（15:30）
全日本キック■東京・後楽園ホール（18:30）

18 MON.
ZERO－1 MAX■愛知・名古屋国際会議場（19:00）

19 TUE.
新日本■広島・広島サンプラザホール（19:00）
NOAH■広島・福山市ビッグ・ローズ（18:30）

20 WED.
全日本■東京・代々木競技場第二体育館（19:00）
NOAH■大阪・大阪府立体育会館第二競技場（18:00）
DDT■東京・新木場1stRing（19:30）

21 THU.
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）

22 FRI.
NOAH■石川・石川県産業展示館3号館（18:30）
ZERO－1 MAX■埼玉・熊谷市民体育館（18:30）
DRAGON GATE■神奈川・横浜赤レンガ倉庫（18:30）

23 SAT.
WRESTLE－1■神奈川・横浜アリーナ
新日本■三重・四日市市体育館（18:00）
ZERO－1 MAX■岐阜・岐阜商工会議所（18:00）
DRAGON GATE■新潟・新潟フェイズ（18:00）
K－DOJO■千葉・BlueField（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（18:30）
AtoZ■福島・いわき市平体育館（18:30）
格闘美■東京・新木場1st Ring（18:30）
PRIDE GP2005開幕戦■大阪・大阪ドーム（16:00）
修斗■福岡・博多スターレーン（18:00）
SMACK GIRL■韓国ソウル・蚕室室内体育館

24 SUN.
新日本■大阪・大阪府立体育会館（16:00）
NOAH■東京・日本武道館（17:00）
DRAGON GATE■宮城・ニューワールド仙台テニスクラブ（16:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
フーテン・プロモーション■神奈川・横浜赤レンガ（17:00）
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館（13:00）
JWP■東京・東京キネマ倶楽部（13:00）
NEO■東京・東京キネマ倶楽部（17:00）
AtoZ■埼玉・川口オートレース場駐車場（18:30）
M's Style■東京・ディファ有明（15:00）

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

春眠を叩き起こす、脳天直撃興行が目白押し!!

2月に『紙プロ』に入社した上杉は、中学生時代、全日本の大会終了後に場外マットで友達と遊んでたら、泉田選手に張り手でブッ飛ばされたとのこと。ところでずっと解読できなかった泉田選手の必殺技・不入ドムは「ふにゅうドム」らしいです。『週プロ』No.1251より。情報ページ担当／斎野

Fight & Ticket　試合・大会情報

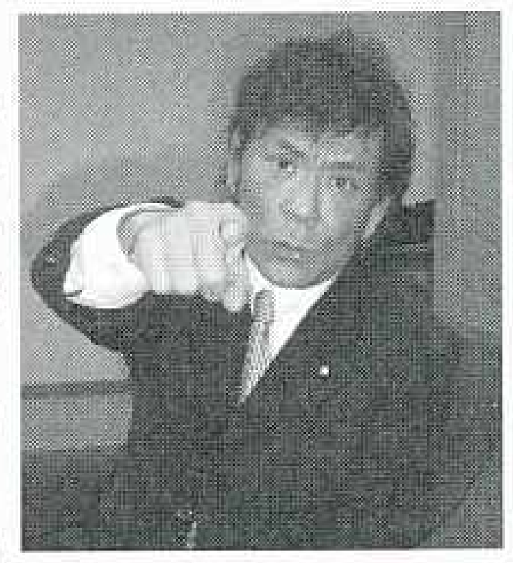
力道山以来44年ぶり! ZERO-1 MAXが奉納プロレス開催!!



永田礼次郎三段らが、ルー・テーズの裏の師匠と言われるアド・サンテルを、靖国神社相撲場に設置された特設リングで迎え撃ったのが大正10年。その後、力道山がただ一度きりの奉納プロレスを行ったのは昭和36年4月23日。そして44年の時を超え、ZERO-1 MAXが2度目の奉納プロレスを開催する。大谷晋二郎は「昔ながらのプロレス、古き良きプロレスを取り戻したい」と熱く意気込みを語った。屋外での開催なだけに雨が心配されるが、大谷曰く「絶対に降りません。降ってても降ってないって言ってやります」とのことなので、天気に関しては心配無用（?）。咲きほこる桜の木の下、現代に蘇る伝説の奉納プロレスは一見のありだ。

『大和神州ちから祭り』
■日時　4月10日（日）試合開始17:00　■会場　東京・靖國神社相撲場
■チケット　椅子指定席 4000円、自由席 2500円（※要敷物）、中学生以下 無料
■問　ファースト・オン・ステージ 03-5730-3966　■HP　http://www.zero-one-max.com/

今度こそホントに引退? 大仁田"プロレス卒業マッチ"敢行!!



『紙プロ』No.85発売と同日の3月26日、大仁田厚が"引退"ならぬプロレス"卒業"マッチを行う。3月2日の記者会見では、アントニオ猪木&小泉首相に来場を呼びかけ、さらに上井&前田プロレス『WRESTLE-1』にも言及。「邪道と対極に位置する前田日明が電流爆破マッチを受けるなら、出てやってもいい」とプロレス卒業マッチを目前にしながら、いきなりの復帰宣言! しかし「オイオイオイ、お前らは、大仁田vs前田の電流爆破マッチが見たくないのか!?」と邪道節で強引に押し切った。果たしてプロレス卒業はウソか本当か、とりあえず邪道の勇姿をその目に焼き付けよう。

『大仁田厚プロレスリング一卒業一』
■日時　3月26日　試合開始18:00（開場15:00）　■会場　東京・後楽園ホール
■チケット　特別入場券 10000円
■決定対戦カード【大仁田厚プロレス卒業試合～ノーロープ有刺鉄線ストリートファイト・バリケードマット・ダブルヘル・トルネードタッグデスマッチ～】
大仁田厚 & 矢口壹琅 vs 天龍源一郎 & 越中詩郎
■問　ダイプロデュース　03-5496-4900　■HP　http://www.onita.co.jp/

初代タイガー、遂に始動! 4・16 プレ旗揚げ戦決定!!

『レジェンド・チャンピオンシップ』（1・27代々木第二体育館）を成功に収めた初代タイガーマスクこと佐山聡皇帝が、6月のプロレス団体本格旗揚げに向け、プレ旗揚げ戦『PRELUDE』を開催することが決定した。当日はDVD『真説タイガーマスク』が先行発売され、主演の哀川翔、タイガーマスク役の船木誠勝が来場する。"武道とプロレスの融合"をテーマに、プロレス＆武士道の復興、そして日本再生に動き出した「危ない団体」（皇帝談）に今後も注目だ! 押忍!!（敬礼）。

『初代タイガーマスク プレ旗揚戦～PRELUDE～』
■日時　4月16日（土）試合開始18:30（開場17:30）
■会場　東京・お台場スタジオドリームメーカー
■チケット　SRS席 8000円、A席 6000円、立ち見 3000円
■出場選手　初代タイガーマスク、2代目ザ・タイガー、みちプロ所属選手、闘龍門所属選手、他
■問　KIAI PROJECT 03-5778-4995　■HP　http://www.seiken-do.com/

こっちのHEROは誰だ!? 4・17DEEP名古屋大会開催!!

『DEEP HERO 1』
■日時　4月17日（日）1部試合開始14:30／2部開始17:00（開場14:00）
■会場　愛知・Zepp Nagoya
■チケット料金（当日500円up）※1部&2部共通券
VIP席（最前列）15000円、SRS席 10000円、RS席 8000円、A席 6000、B席 5000
■対戦カード
滑川康仁（MAD）vs 秋山賢治（禅道会広島支部）／雷暗暴（PUREBRED大宮）vs ジョン・バチスタ・ヨシムラ（B-J-J-A-J）／坪井淳浩（ALIVE）vs 杉内勇（Team ROKEN）／梅村寛（ALIVE小牧）vs 滝西基元（CMA京都成蹊館）／大原友則（格闘塾）vs 木村直生（EVORUTION）／木村仁要（CMA誠ジム）vs 魚住敦志（EVORUTION）／Barbosa44（クラブバーバリアン）vs 熊谷真尚（禅道会）／深見智之（CMA京都成蹊館）vs エジソン・ルイス・ミシオ（B-J-J-A-J）／土居龍晴（フリー）vs 濱村健（CMA京都成蹊館）／山崎晃裕（Team Barbosa Japan）vs エゼキエル・ザヤス（ALIVE小牧）／笹本憲嵩（TEAM Boon!）vs 梅本晴幹（SKBG）
【エキシビジョン】TAISHO（Team Barbosa Japan）vs 今成正和（Team-ROKEN）
【柔術ルール】福住慎祐（名古屋ブラジリアン柔術）vs ホドリゴ・ヒラカワ（B-J-J-A-J）
【キックルール】西村貴親（親心会館）vs 朝日隆二（ナゴヤファイトクラブ）
【CMA誠ジム提供試合／CMAヘビー級タイトルマッチ】
【王者】キム・ジェヨン（スピリッツMC）vs 濱田順平（CMA誠ジム）【挑戦者】
志村民雄館長、相馬克彦、トーマス・スタンレイによる演武／TRIAL提供試合（35歳以上のおやじバトル）

『clubDEEP福岡 天下一まつり』
■日時　4月10日（日）試合開始16:00（開場15:30）
■会場　福岡・紫水会館イベントホール（北九州市小倉北区中津口2-1）
■チケット（当日500円up）　指定席 5000円、立ち見 3000円
■出場予定選手
鬼木貴典（Team-ROKEN）、今成正和（Team-ROKEN）、栗原強（Team-ROKEN）、高森啓吾（パンクラスMEGATON）、我龍真吾（超人クラブ）、三浦広光（パンクラスMEGATON-TOKIN）、無法松力（W.P.J）、毛利昭彦（毛利道場）、矢野ライダー（チームPOWER）、出田源貴（真闘術）、ライトニング麻生（緒方道場）、他
■問　DEEP事務局　052-339-0303
■HP　http://www.deep2001.com/

リキプロ立石代表の結婚式と同日!! 5・14新日本プロレス東京ドーム大会

『NEXESS』
■日時　5月14日（土）試合開始18:00　■会場　東京・東京ドーム
■チケット　アリーナA 30000円、アリーナB 15000円、1FスタンドA 10000円、1FスタンドB 7000円、2FスタンドC 5000円、2FスタンドD 3000円、親子席（当日のみ）大人3000円・子供2000円、小中高生席（当日のみ）2000円 ※要学生証
■決定カード【IWGPヘビー級選手権試合】（3・26両国大会・小島 vs 中邑の勝者）vs（3・26両国大会・天山、中西、蝶野の3人によるトーナメントの勝者）
■HP　http://www.njpw.co.jp/　■問　新日本プロレスリング　03-6407-3111

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■猪木事務所
03-5468-5656
〒150-0001 東京都渋谷区東1-25-2 丸橋ビル4F
http://www.inokiism.com/

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp/

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org/

■掣圏道 042-548-1172
〒190-0012 東京都立川市曙町1-37-24 トータルエネルギー本社ビル1階
http://www.seiken-do.com/

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 九段有楽ビル6F http://oudou.co.jp

■全日本女子プロレス
03-3493-6541
〒142-0062 東京都品川区小山4-4-9-2F
http://www.zenjo.com

■大日本プロレス
045-937-0811
〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
http://www.bjw.co.jp/

■高田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/

■高山堂 03-5464-2806
〒150-0011 東京都渋谷区東2-17-12-404号
http://www.Takayama-do.com

■ドリームステージエンターテインメント(PRIDE)
03-5464-1531
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/

■バトラーツ 0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■冬木軍プロモーション
045-241-6381
〒231-0048 神奈川県横浜市中区蓬莱町2-247 SSビル310

■みちのくプロレス
019-626-1333
〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
http://thegreatsasuke.com

■リキプロ
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-23-13 サシダハイツ久が原303

■レッスルエイドプロジェクト
03-5456-2345
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-20-12

■A to Z 03-3678-7777
〒132-0013 東京都江戸川区江戸川1-6-2
http://www.AtoZ.ne.jp

■DDT 03-5360-6653
〒106-0022 東京都新宿区新宿1-23-6 グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate/

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

■GAEA JAPAN
03-5459-3101
〒150-0036 東京都渋谷区南平台6-7 MAISON南平台1F
http://www.gaea-inc.com

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp/

■JDスター
03-5524-2339
〒107-0052 東京都港区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP 03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号
http://www.llpw.co.jp/

■NEO 044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

■SMACK GIRL 実行委員会
03-3324-8790
〒156-0041 東京都世田谷区大原1-63-9 恒心ビル801 株式会社プロテック内
http://www.smackgirl.com/
info@smack girl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

■UFO 0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F 株式会社エフ企画内

■U.K.R 044-833-7042
〒213-0027 神奈川県川崎市高津区野川2193−11
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■UNW
03-3362-3014
〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311

■U.W.F.スネークピットジャパン 03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WMF
049-239-3520
〒350-0812 埼玉県川越市下小坂536-18
http://www.e-rain.co.jp/wmf

■WWS 0495-24-6900
〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106

■ZERO-ONE MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F(株)ファースト オン ステージ
http://www.zero-one.to/top.html

■ZST
03-5321-9595
〒106-0023 東京都新宿区西新宿3-1-2 廣川ビル4F
http://www.zst.jp/

世界一過酷な春の祭典『チャンピオン・カーニバル』開催!!

■日程 4月 ◎9日（土）東京・後楽園ホール（18:30） ◎10日（日）東京・後楽園ホール（12:00）
◎13日（水）愛媛・アイテムえひめ（18:30） ◎14日（木）大阪・大阪府立体育会館 第2（18:30）
◎16日（土）長野・ウェルサンピア松本（18:30） ◎17日（日）新潟・新潟市体育館（17:00）
◎20日（水）東京・国立代々木競技場第2競技場（19:00）
■出場確定選手 武藤敬司、小島聡、川田利明、他9名
■HP http://www.oudou.co.jp/ ■TEL 全日本プロレス 03-3288-0610

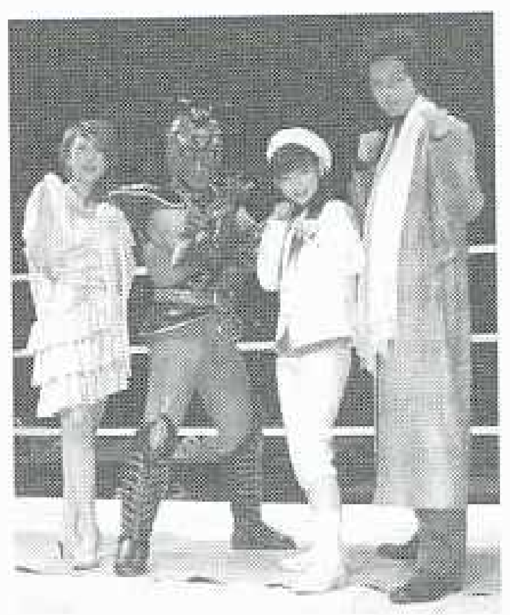
スパーンをタップさせた男(?)キングダム入江が新道場オープン!!

入江秀忠率いるキングダム・エルガイツが多摩に新道場をオープン! 入江、RYOTAがメイン講師として指導する。ジムの詳細、オープン記念大会の詳細は下記HPで。そして現在そのHPでは、入江 vs スバーン戦のムービー画面を配信中! スバーンは本当にタップしたのか、その目で確かめよう!!

『キングダムエルガイツ サテライトファイト Vol. 6』 ■日時 4月16日（土）試合開始20:00（開場19:30）
■会場 東京・総合格闘技スペース ファイトスピリット（東京都多摩市関戸4-8-18 TOHO聖蹟桜ヶ丘ビル6F）
■出場予定選手 RYOTA、薬師寺浩之、他 ■チケット料金 全席フリー 2000円
■問 キングダム・エルガイツ 042-376-1639 ■HP http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

And Others その他情報

いかの次はカブトムシ!? 河崎監督作品『兜王ビートル』完成!!



大阪プロレス・兜王ビートル主演のプロレスヒーロー・ムービー『兜王ビートル』が完成した。監督は、04年夏に空前のいかブームを巻き起こした『いかレスラー』の河崎実。ヒロインは、戦隊モノが大好きで「ビートルは『バトルフィーバーJ』より強くて、『宇宙刑事ギャバン』よりカッコいい」と、19歳とは思えないディープなコメントで報道陣を困惑させた中川翔子。公開は7月初中旬を予定。カブトムシが飛び回る季節、昨今のムシブームにガッチリ便乗した新たなスーパーヒーローが誕生する!!

■出演 兜王ビートル、中川翔子、斎藤工、大原かおり、ビル・ロビンソン他
■会場 渋谷シネラセット（東京都渋谷区道玄坂2-23-12 フォンティスビル3F）
■問 IMAGICAエンタテイメント 03-3280-1688
■HP http://www.kabuto-o.com/

名勝負数え唄、三たび!? 『ジョーダンズ三又vsユリオカ超特Q inコロッセオvol.3』

コロッセオ恒例! お笑い界屈指のプロレス&格闘技通の二人が、マット界&お笑い界を語り尽くす。トーク以外にも秘蔵ビデオや豪華プレゼント抽選会など内容盛りだくさん! ニセ長州 vsニセ藤波の激突にも注目だ!!

■日時 3月27日（日） 16:30開演（17:00開場）
■会場 ファイティングカフェ コロッセオ
（千代田区三崎町3-7-13 田中ビルB1/JR水道橋西口より徒歩30秒）
■チケット 全席リングサイド 3000円（ワンドリンク付き）※定員50名
■問 ファイティングカフェ コロッセオ 03-3512-0522
■HP http://www.colosseo.jp/

格闘技最強タッグ! 『ターザン山本!と吉田豪の格闘二人祭!! vol.20』

最強タッグ・ターザン&吉田豪と、マル秘豪華ゲストたちが繰り広げるガチンコ暴走トークバトル! 前回は柴田勝頼が突如会場に現れ、ターザンが取り乱すという場面も。今回の乱入ゲストは一体誰だ?

■日時 4月6日（水） 開場18:30／開始19:30
■会場 東京・ロフト プラスワン
■出演 ターザン山本!&吉田豪、豪華マル秘ゲストが多数乱入!!
■チケット 2200円（飲食別）※当日300円up
■問 03-3205-6864
■HP http://www.loft-prj.co.jp/

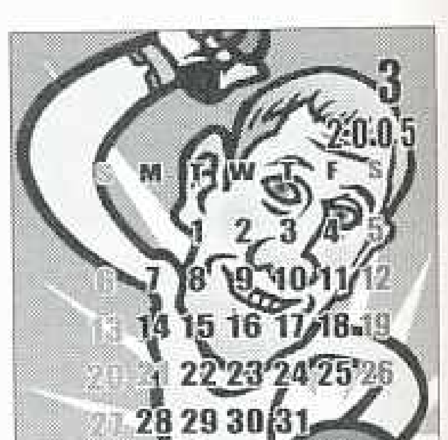
日本最大規模のTシャツ展示即売会!

Tシャツ・ラブ・サミット第6弾開催決定!! 全国からインディーTシャツブランド80団体・が集結! そのTシャツの種類はなんと約2000種類! 紙プロ読者プレゼント（P142〜）でもお馴染みのハードコア・チョコレートも出店します。特設ステージでは、お笑いサバイバーシリーズ、バカTシャツサミットなど催し物も目白押し。しかも入場料はたったの100円! 春の新作はここで先取りだ!!

『Tシャツ・ラブ・サミットvol.6 "フルカラー"』
■日時 4月30日（土）11:30〜18:30
5月1日（日）11:00〜17:30
■会場 科学技術館9・10号館
（東京都千代田区北の丸公園2-1）
■入場料 100円!!
■HP http://www.t-lovesummit.com

紙プロHand 更新・最新情報

宇宙一面白い携帯サイト『紙のプロレスHand』では、パンクラス・近藤有己選手コラムを絶賛配信中!! 毎日のニュース・試合結果配信に加え、立石代表の衝撃告白も、実は『紙プロHand』がどこよりも早くお知らせ! さらにPRIDEミドル級GP全大会の特典つきチケット先行予約も実施します! さらにさらに…『紙プロ』史上に燦然と輝く伝説の人生相談『破壊王・橋本真也の人生ケサ斬りチョップ』もスタート決定!! 時は来た!! お悩み絶賛受付中です!!



Docomo	i Menu ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー ▶	カテゴリで探す ▶	スポーツ ▶	格闘技
vodafone	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技

▶ 紙プロHand

気が付けばもう36回目になった読者ページ

紙プロ元気大学

花粉症の皆さん、お疲れさまです。朝だけくしゃみが出やすい読者ページ担当・本業は電気部のささきぃです。ビバ鼻呼吸!! ……つらいんだろうなぁ、花粉症。プロレス界は三冠王者・川田利明が敗れ、ＩＷＧＰが全日本に渡り、ＧＨＣ絶対王者・小橋建太がついに敗れるという、春の大嵐状態になっています。全部の会場にいたことが少し自慢です。ここまで書いて、今回は自分が担当になって3周年の記念すべき回だと思い出しました。鼻呼吸のことを書いている場合じゃなかった。まぁ、いいや。今月もはじまりはじまり。



(広島県・山田彰)「(前号掲載されたイラストの)長州力のインタビュー相手はヒョードルのつもりでした。NJPWに見えた時点で山田の負けです」➡NJPWとどっちかなぁとは思ったんですけど、ヒョードルでしたか。ごめんね。ヒョードルは表情が柔和なのです。ヒールでありながら、常にまっとうな発言を繰り返す蝶野正洋。オレだけ見てればいいんだ。『WRESTLE-1』解説に登場した蝶野正洋は良かったですよね。

内回 校巡

『紙プロ』84号 面白かった記事

【語ろう! 前田日明大特集】
★これを語ってもらわないと始まらない!
(東京都・大平寛・29歳・会社員)
➡同様意見多数、みんなが語りたかった、聞きたかった前田日明大特集が前号の第1位! 以下、順不同でお送りします。

【サミー・リーインタビュー】
★サミーは昔、イギリスでとっても人気のあるプロレスラーでした。最近はすぐに肉離れします。
(埼玉県・会田信太郎・34歳・会社員)
➡会田さんの、その不思議な語り口調はいったい何なんでしょうか。すぐ肉離れって、ダイナマイト四国じゃないんだから。アンケートの「**インタビューしてほしい選手・北尾光覇　パソコンが出来るから**」というのも、いいなぁ。出来る人だったら、最近は他にもけっこう居ると思います。

【上井文彦インタビュー】
★このインタビューを読むまで"かみい"さんと読んでいました……。そんな自分が恥ずかしい。
(大阪府・中島一郎・30歳・会社員)
➡大丈夫。最近まで、某格闘技雑誌の大編集長を「さんじ」さんだと思っていて、再三会話に出していた私よりは恥ずかしくないと思います。あやうく本人に向かって呼んでしまうところでした。

【ハリトーノフインタビュー】
★我が家は今、「ヨン様」ならぬ「ハリ様」ブームです。「リング上では人を殺したくない」という言葉がとてもステキです。
(埼玉県・山口杏奈・29歳・鍼灸師)
➡ハリ様には、意外と女性ファンが多いと思うんですがどうでしょうか。『PRIDE.29』ムベ様との対決前に見せたにらみ合い&首回しで惚れた人もかなりいるはず。笑った口元と秘密主義なところが好きです。

『紙プロ』84号 つまらなかった記事

【ザ・検証　REBORN】
★いろいろと想像をかき立てられ、ついバカ笑いをしていたら、隣人に壁を叩かれました。勘弁してください。
(東京都・渡部希望・29歳・主婦)
➡ごめんなさい。って、謝ることじゃないか。私も、読むとつい笑ってしまうので、周囲に人がいるときはあまりあのページを開かないようにしています。50あるところがスゴイんだよ。

【ファブリシオ・ヴェウトムインタビュー】
★名前が言いづらいので。
(神奈川県・大類正和・33歳・会社員)
➡無理してでも言ってると、だんだん楽しくなってきますよ。パンクラスに参戦したケステゥシャス・アルボーシャスも、繰り返し言ってるとだんだん言いたくなってくる名前でした。

一番好きなレスラーとその理由

★マサ(斎藤)さん。かわいいから。
(東京都・花田美和子・29歳・OL)
➡マサさんて、もちろんマサ斎藤さんですよね? かわいい? かわいい……。そうか……。一番好き? 一番……。29歳……。

★大向選手。きれいだから。スタイルがいい。
(千葉県・渡辺たつや・18歳・学生)
➡これは大向美智子選手ですよね? 18歳にこう言わせるのはスゴイですね。女として見習いたいです。

★秋山準。『だってプロレスファンは皆、秋山のことが好きだろ(天龍源一郎)』。
(神奈川県・甲下雅也・35歳・犬の散歩)
➡あ、確かに。プロレスファンで嫌いな人、知らないなぁ。

その他のおたより

★初めまして。勇気を出して投稿しました! 突然ですが! 僕を高知県のキャプテン・ハッスルにしてください! 大統領ならできますよね! 紙プロバンザ〜イ。
(高知県・山崎竹丸・16歳・高校生)
➡キャプテンを志願するなら、ハッスルした写真くらい送ってきなさい。話はそれからだ、高校生。

★2月23日の『K・1 MAX』で、小比類巻貴之選手が新田明臣選手に決めた右前蹴りは、まるでブルーザー・ブロディーのキングコングキックのようでした(馬場さんの十六文は左です)。
(北海道・安倍正典・32歳・フリーター)
➡谷川プロデューサーは翌日会見で「十六文みたいだった」とおっしゃっていましたが、左でしたか。私は「ヤクザキック」が一番近かったと思っています。



(東京都・小技)「掲載ありがとうございました。アメプロ好きです(本当に)」➡いえいえ、こちらこそ投稿ありがとうございます。今月で2ポイント目ですね。この技はペディグリーであって、けっして フェースバスターではないのです。

紙プロ84号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 **語ろう前田日明・大特集**
2位 **素顔のジャイアント馬場**座談会
3位 **高杉正彦**ウルトラセブンインタビュー
4位 **田村潔司**インタビュー
5位 **サミー・リー**インタビュー
セルゲイ・ハリトーノフインタビュー

1位は前田日明大特集! はたして3・26の結果は……!? 2位は昭和プロレス万歳、な素顔のジャイアント馬場座談会。3位は哀愁ただよう雰囲気がインディーマニアを中心に好評だった高杉正彦インタビュー。4位は渦中の赤い人を直撃! 田村潔司インタビュー。今月も要チェック! 5位はサミー・リーインタビュー、セルゲイ・ハリトーノフインタビューが揃ってランクイン。以降はWWE大特集、ユリオカ超特Qインタビューと続きました。

こんなところにも『キャプテン!!』……



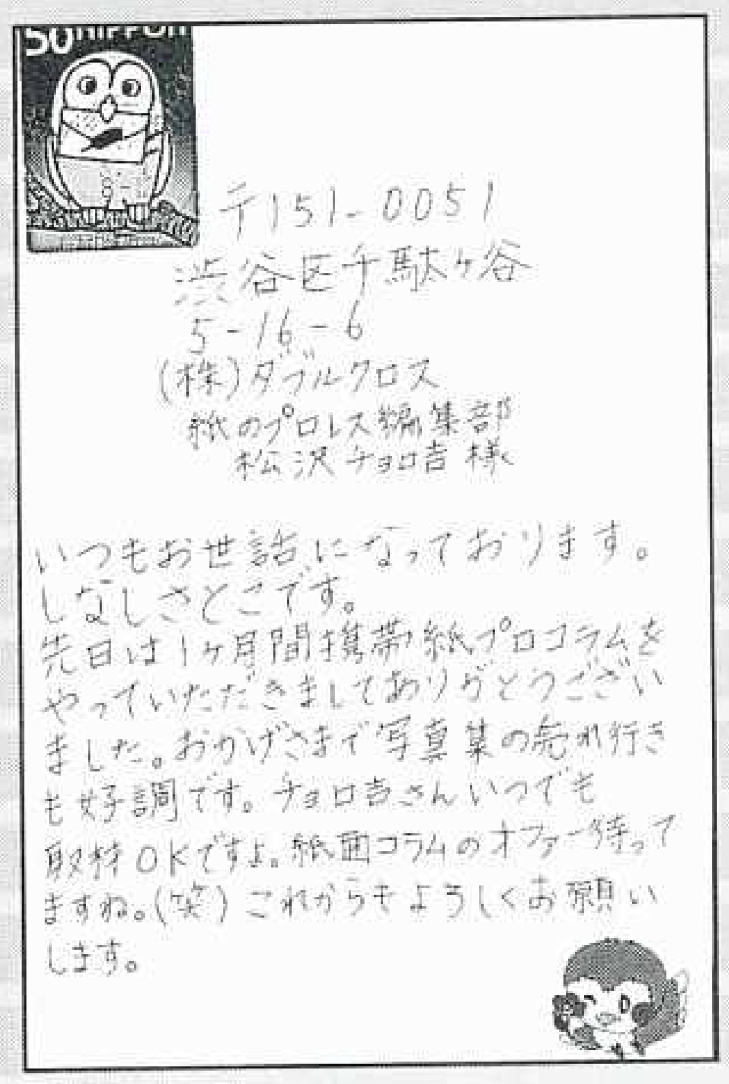


東京都・ヤーさんからいただきました、コープとうきょうの表紙を飾ったキャプテン・ハッスル小川直也(これを書いているのは3・18両国大会前です)。「小川直也さんは、テレビでも、雑誌でも、リングでも「3、2、1、ハッスル! ハッスル!」と、ちょっとおどけたポーズを繰り返す」。ちょっとおどけたポーズ……。たまにこうして外から『ハッスル』を見ると新鮮ですね。キャプテンの真面目な部分が濃く出たインタビューで、面白かったです。コープとうきょうもハッスル、ハッスル!!

今月の「私だけ見てれば いいのよ!!」



(神奈川県・GOYUTA) ➡女王様への愛がこもった1枚ですね。カラーで載せられなくてごめんよ。


〒151-0051
渋谷区千駄ヶ谷
5-16-6
(株)ダブルクロス
紙のプロレス編集部
松沢チョロ吉様

いつもお世話になっております。しなしさとこです。先日は1ヶ月間携帯紙プロコラムをやっていただきましてありがとうございました。おかげさまで写真集の売れ行きも好調です。チョロ吉さんいつでも取材OKですよ。紙面コラムのオファー待ってますね。(笑) これからもよろしくお願いします。

1ヶ月間、佐伯繁さん(『DEEP』代表＆DSE広報＆しなし姫のペット)とのタッグで、携帯サイト『紙のプロレスHand』コラムに登場してくれた、しなしさとこ姫。「私だけ見てればいいのよ」「このオヤジがだらしないから」「噂になった人なんて、みんな私のペット」という、超ド級発言の連発に業界やファンがびびってたじろいだ素敵なコラムだったんですが、しなし姫からは丁寧なお礼のハガキが届きました。姫に認めて頂いて、チョロ吉も喜んでいます。明らかにコラムを読んでくれていると思われるイラストも届きました。ありがとう!

注目のスーパー読者(?)



「今度、上井さんと前田さんがぼくの大好きな村上選手と柴田選手らでプロレスをやってくれるというので非常にうれしいです。なので、しゃしんを入れておきますのでよかったら使ってください。あと、ぼくのクラスだと総合よりもみんな『プロレスLOVE』です。なので前田さんと上井さんにはプロレスをたくさんやってほしいですね。あと一つ言いたいことがあるんですけど今回ぼくがほしいプレゼント、ターザン山本さんの『音楽と意図』は非常にほしいので、たまにはぼくにプレゼントをくださいお願いします」

➡東京都・桑本薫平くん、12歳小学生からの投稿です。村上和成、柴田勝頼両選手とのツーショット。貴重な写真をありがとう! ちなみに、桑本くんは前号の読者ページで五味隆典選手に厳しいコメントをしていた小学生でもあります。そうか、桑本くんのクラスでは総合よりプロレスLOVEか。いい話を聞いた。今月インタビューに登場してくれた柴田選手に手紙と写真を見せたところ「総合よりプロレスLOVEなんて、普通に嬉しいッスね」と笑顔になった後「あぁでも、柴田の"柴"の字間違えてる……」と、ちょっとブルーになっていたらしいです。頑張れ小学生。プレゼント希望品もシブイなぁ。たまには何かあげます。待っててね。

(神奈川県・岡田健生) ➡これまたちょっと前にいただいたけど他のイラストもあったから載せられず、機会をうかがっていたハガキです。ヒョードルのイラストは珍しいから貴重だったのです。内容からもわかる通り年末です。久しぶりに載せられた人たちは、呼び出しだと思って投稿しましょう。





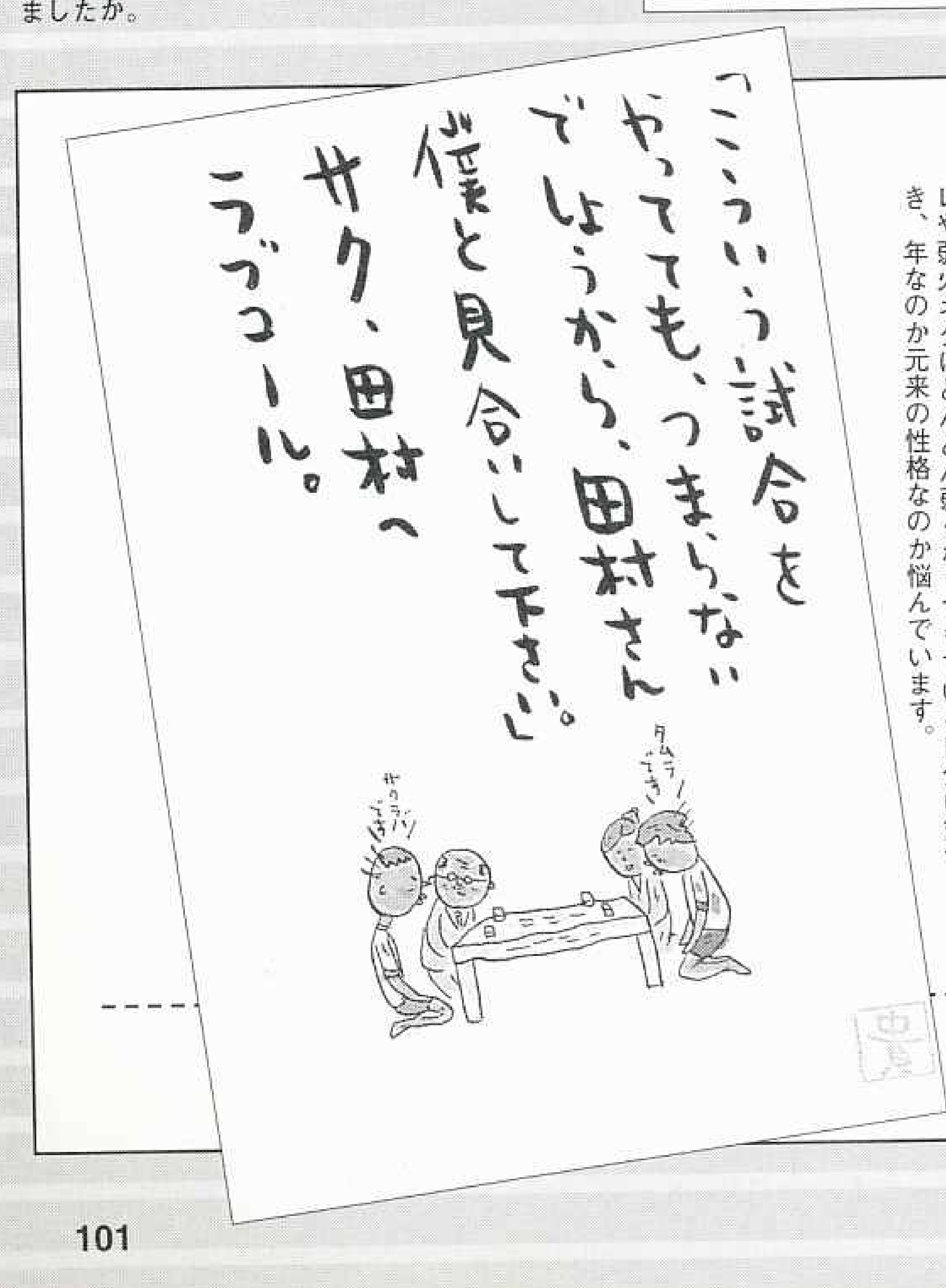
(神奈川県・葉チャン) ➡つい腹に目がいってしまうけど、おにぎりフェイスのガードナー。「全然好きじゃないんですけど」と言いつつ描いてしまった葉チャンさん。絵心を刺激されましたか。

(埼玉県・小川徹) ➡ちょっと前にもらったハガキです。うちの読者は、なぜか送る時は何枚もくれるくせに来ないときは1枚もないんですよ。どうしてだ。以上、グチでした。掲載が遅くなりましたが馬場さん。前号の追善企画記念ということでお願いします。





(滋賀県・多久健一) ➡長南亮選手、『DEEP』でも凱旋勝利。多久さん先月に続いての投稿ありがとうございます。またよろしくね。



(北海道・アカツキ) ➡毎月たくさん投稿ありがとうございます。今月はこの1枚にしてみました。最近、ダジャレや弱火ネタにどんどん弱くなってきている自分に気づき、年なのか元来の性格なのか悩んでいます。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

紙プロ読者ページ『紙プロ元気大学』では、みなさまのお便りをお待ちしています。雑誌『紙プロ』へのご意見、大会の感想、イラスト、ダジャレ、インタビューしてほしい選手のリクエスト、ミドル級GP予想、今年のK-1 GP優勝者予想、想像するオスカー・ディビットの似顔絵など、どしどし送ってきてください。『STAND BY ME』で使いたいので、ライター橋本宗洋さんの似顔絵を送ってくれるとありがたいです。以上、すべてのお便り・イラストのあて先は

メールはradical@kamipro.com

〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6　パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部
「恋人はチェ・ホンマン」係まで。

携帯サイト『紙のプロレスHand』からの投稿もできます!

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに!
プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によってはこちらに載ってしまいます。
匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです。

大日本掣圏道帝国皇帝が真の武士道を求めて全国行脚

佐山サトルの

日本右流々ン（ウルルン）探訪記



第4回

真の右翼たちと…佐山聡が出会った。

文／中村カタブツ君（42歳）

今回は最初から凄かった。取材場所である京橋の警察博物館に佐山皇帝はあまりにも意外な姿で登場した。

なんと真っ赤な電動自転車に乗って現れたのだ。しかも格好は黒ずくめ＆オールバック＆サングラス！　そんな物騒極まりない人物が銀座の歩行者天国をペダルもこがずにスーッとこちらに近づいてきたのである。怖ッ！

「こ、皇帝！　電動自転車ですかァ!?」

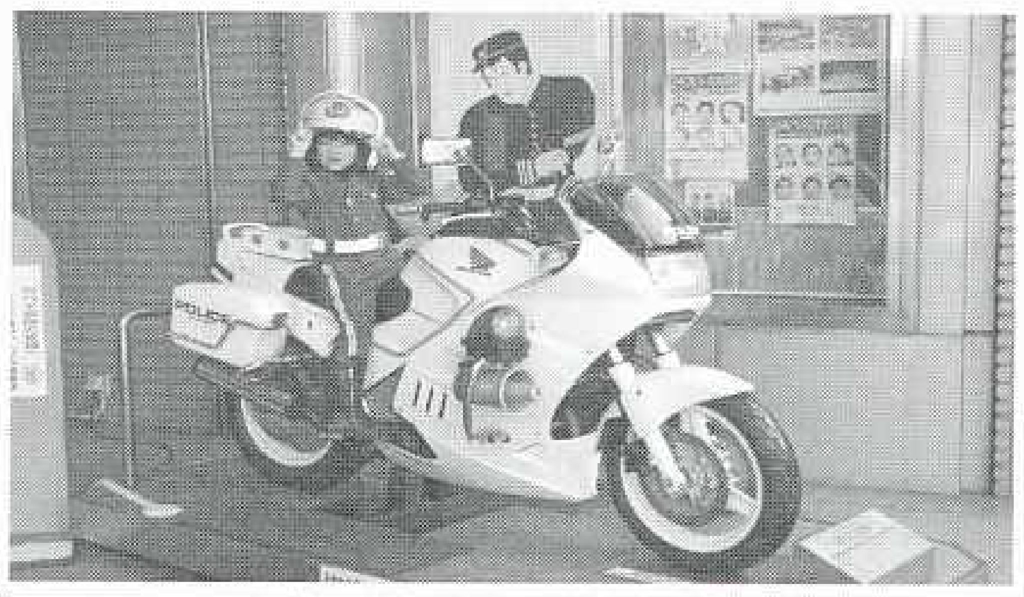
「そうですよぉ。いいでしょ。名前はスーパータイガー1号。うふふ」

名前まで付けてる！　で、聞いてみると、赤坂の事務所からここまで自転車に乗って来たのであった。もう最高でしょ？

というわけで、取材前から盛り上がる今回の『右流々ン』は、銀座からほど近い警察博物館を訪問。ここは警察の歴史と活動の様子を集めた場所で、館内にはドライビング・シミュレーションやモンタージュゲームなど子供が遊べる施設もあって親子連れの入場者も多数、意外なほど盛況を博しているのだ。そんな中で目を引くのは3F。ここには警察の制服や武器が展示され、パネルでは流血しながら犯人と撃ち合う警官の写真などがあって感銘を受ける。

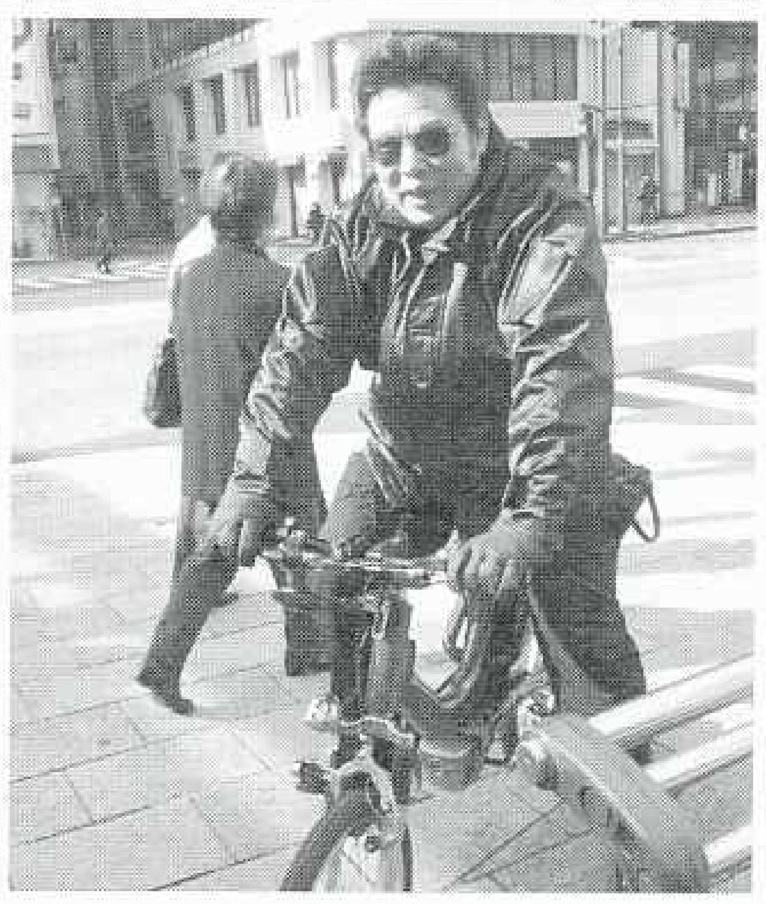
「やっぱり正義感ありますよね。でも、そんな警察に対してこう言う馬鹿もいるわけ。〝警察官は市民の税金でやってるんだから讃える必要はない〟って。こういう輩は反権力を唱えればカッコイイと思ってるんだよ。ファッションで言ってるだけ！　しかもそいつらがリベラル思想になっていき、この国をダメにしていったんだよ。恥ずかしい！」とお怒りの皇帝。だが、その直後、「ファッションはダメだよね。ファッショならいいけどぉ（笑）」と極右ギャグでさらりと締めるから抜群なのだ。

取材先の警察博物館に、自慢の自転車『スーパータイガー1号』で現れた皇帝。高性能の自転車とタイガーの脚力で時速40kmを叩き出すという。早速、玄関に展示してある白バイにまたがると、皇帝の眼が「暴走族を追いかけ回せェ!」とばかりに鋭く光った!!









佐山皇帝と警察博物館に潜入取材！　全国の警察官たちよ、真のサムライたれ!!

また、拳銃が並ぶスペースでは、「私は銃は得意ですよ。でもね、自動拳銃は苦手。得意なのはスミス＆ウェッソンですね（笑）」と普通に語り、親指で撃鉄を上げて人差し指で引き金を引く動作を滑らかに繰り返す。子供たちが見てる中＆警察博物館の中で、あまりにも手慣れた感じが、見てるこちらをビビらせる。だが、そんなことに意を介すわけもない皇帝は「小指に力を入れたらダメですよ。銃は柔らかく握って、引き金は銃身と平行にまっすぐに引く。そうしないと撃った瞬間にズレちゃうんですよ」と非常に分かり易く拳銃指南を展開。夕日ならぬ、旭日のガンマンぶりを披露してくれたのであった。

そして4Fは、警察音楽隊の備品や警官の装備品、押収品などが展示され、音楽隊が使うトランペットの横に、押収品のシャブが並んだりする非常に画期的な空間だ。しかもシャブの前には安全運転シミュレーションやモンタージュゲームなどに群がる小学生たちがいたりするからクラクラしてくる。ここでも佐山皇帝は装備品の振り出し警棒に注目。「手元の金具は十字に開いてツバになるんですよ。前に刀を受けたときに指を切られたんで、それからコレをつけるようになったんですね」と詳しく解説。さらに、「このベルトはいいなぁ」と拳銃＆警棒ホルスター付きベルトに興味津々なのだ。

そんな最中、皇帝はBGMに耳をふとすまして、「あれ？　この曲聞いたことあるなぁ」とつぶやいた。見ると館内の片隅にミュージックボックスがあり、そこから『扶桑歌』と題された曲が流れている。「こういうのは車に乗ってるときに聞きたいねぇ。あ！　街宣車で流してる曲かぁ」と、非常にガッカリする皇帝。本物の極右活動をしている佐山皇帝にとって、街宣車で活動するグループには忸怩たる思いがあるわけである。

ともかく、この後もモンタージュ・ゲームに挑戦して見事犯人逮捕を成し遂げるなど、館内の施設を十二分に堪能し尽くした皇帝は、最後に現在の警察についてこう語った。「ちょっと前に経費流用事件が問題になりましたけど、アレは真面目にやってる人間は喜んでるんですよ。その分だけ捜査費に来るようになったからね。叩かれて叩かれてウミが出るっていうのはいいことですよ。いま本物の右翼というのは警察ですから。まともな右翼ってことだけど、少なくとも警視庁の中枢部にいる人間はまともですよ。私は警察とは親友ですからね。最初はね、『佐山さん、ヤクザ関係と付き合うのはいい加減にして下さい』って言われたんですね。だから、『ちょっと待って下さい。私はそういうのとは違いますよ』ってことで、日本の歴史の話とかワーッとやったら、『一緒にやりましょう！』って言われたんですよ（笑）。それで、いまでは警察に講演に行くようになってるんですね」と、極右として本物の活動をする皇帝は警察で講演するほどだったのである。「でも、警察の人に言われちゃった。『極右というのはやめてください。せめて純日本主義にしてください』って（笑）」。

さて、そんな皇帝だが、警察のお世話になったことはないのだろうか？

「ありませんよ。でもね、そういう話ならトシちゃん（＝日本最強のキックボクサーであり、藤原ジムの会長こと藤原敏男雷帝）ですよォ。話せる範囲で言えば、むかしトシちゃんから電話があって、『佐山、今日俺のこと新聞に出てない？』って言うわけ。で、『どうしたの？』って聞いたら、『いや、昨日同窓会があってさ、朝、気が付いたらホテルの前に居て、身体に刺されたあとが三カ所あるんだよォ！』だって。怖いよねェ（笑）。あとは、銀座で飲んでて1対4で喧嘩になったんだけど、まったく手を出さないで全部避けてたんだよ。それで丸の内警察に『さすが格闘家だ』って誉められてね。でも、それから1ヶ月後、酒飲んでちょっと暴れて丸の内警察署に奥さんが引き取りにいったの。で、刑事室に入ったら、トシちゃん、刑事室の机の上に仁王立ちになってメチャクチャな説教してたんだって。1ヶ月前は誉められたのにねェ（笑）」。さすがは藤原雷帝。こちらも本物の虎である。

そして最後は「警察も直さなきゃいけないところはあるだろうけど、正義感を持ってやってる人間も凄く多いということですよ。そして、そんな身体を張ってくれる警官たちに、我々がよくやってくれたという状況を作らないといけないですよね」と語って、再び電動自転車〝スーパータイガー1号〟に乗って銀座の街中に消えていったのであった。信念のある男は何をしても何に乗ってもカッコイイということなのである。押忍！（敬礼）。

警察博物館は銀座のド真ん中。歩行者天国を『スーパータイガー1号』で銀ブラする皇帝。セレブなご夫人たちと休日を楽しむカップルやファミリーたちが行き交う中で、極右&カタブツ君（42歳）のデコボココンビは明らかに異彩を放っていた。押忍!!（敬礼）









1階には警視庁第一号となったヘリコプター、白バイの前身である黒バイ&赤バイが立ち並ぶ。2〜3階の警視庁歴史資料館&殉職警察官顕彰コーナーで皇帝は「武士道を理解してる彼らこそ真の右翼だね」と感心しきり。4階の犯人捜索モンタージュゲームでは、一発で犯人を的中させた皇帝。虎の目はごまかせないのだ！



【皇帝の総括】

取材翌日、佐山皇帝からカタブツ君宛に仰天メールが！ あまりにも面白いので一部掲載させていただきます。押忍!!（敬礼）

先日の『紙プロ』の取材には驚かされた。
何故あのカタブツ氏がベンツであらわれたのだ。
出てきた格好が、白い上下のスーツに黒いワイシャツ姿でエリを出している。30年前に流行った姿だ。
よく見ると、ヒールが7センチはある白いブーツを履いていた。私が足元を凝視していることに気付くと、「あ、この靴いいでしょう。シャネルに特別に造らせたんですよ。これでも5センチのシークレットブーツなんですから」
「え！ まだ中に5センチ入ってんの？」
「変なこと思わないでくださいよ。背を高く見せることではないですからね。あくまでもファッションなんですから」
どういうファッションだか知らないが、とにかく派手な格好で、いつもの氏らしくなく胸を張って堂々と、かつ足だけは歩きにくいのか、つまずきながら打ち合せの喫茶店に入って行く。
先日まで真冬でもバミューダパンツに、サンダルだった氏とは思えない変わり様であった。
席に着いて無造作に内ポケットに手を伸ばすと、
「オイ！ 火」
同行して来た記者にライターを求め、葉巻を取り出した。長さが20センチはあろうかという代物である。
「やっぱりキューバ産のヤツはおいしいですねえ。フー」
「すみません、お客さん。ここ禁煙なんです」いきなりウエイトレスに注意された。
「あ、そう」バツの悪そうな顔になり、スゴスゴと葉巻の火を消し、一瞬いつものカタブツ氏の態度に戻った。
「まあ、ところで、今日は用意してきた自転車に乗ってもらいたいんです」
「自転車？」
いつものように5分くらいの雑談をして、外で撮影をすることになった。
カタブツ氏の取材はいつも解らない。
同行の記者がベンツのトランクから、ママチャリを出して来た。
氏が何やらアングルの計算をしている。
「佐山さん。ちょっとここで乗ってくれます？」
何枚か自転車に乗っている写真を撮り、
「あ、ちょっとここに腰掛けてくれます？」
次はオープンカフェの椅子をかってに外に出し、座った写真を撮った。
喫茶店の中に戻り、今度はまったく違う話をしだす。
『紙プロ』の売り上げが凄くなったというのだ。一時は編集長がホームレスまでやり、偽物の石まで売り始めたのだが、今や飛ぶ鳥を落とす勢いだというのである。
「今度、自社ビルになったんですよ」
「え、こんな短期間で、何があったの？」
「秘密ですよ。ヒミツ。“本物”が現われたんですよ」
うれしそうに、しかも自信を持った余裕の顔つきで答え、それ以上は口をつぐんだままだった。
いつものCG写真の取材がうまくいっているのであろうかと、ふと考えるのだが、それだけで急激に伸びるはずはない。いったい『紙プロ』に何があったのだろうか。
「マロは今日の取材を造らなくてはならないので帰ります。写真はいつものように合成しておきますから期待しててくださいね。じゃあ。あ、HPに書かないでくださいよ！」
上機嫌で一人ベンツに乗って帰ってしまった。
あっけにとられた時間だったが、記者が残っていたので聞いてみた。
「何があったの『紙プロ』？ 本当に売り上げ凄くなったの？」
「そうなんですよ、ここのところいきなり部数が上がって、今、トップなんですよ。何があったか私達も全然解らないんです。編集長もカタブツさんも、最高のカツラ着けてるんですから」
……

気になる続きは、必読の佐山皇帝コラム『Voice of Tigermask』でチェック!! HP■ http://www.seiken-do.com/

※4・16初代タイガーマスクが遂にプレ旗揚げ！ 詳細はP98からの情報ページで!!

ネタバレ情報密売団F・B・Iプレゼンツ

ネタバレ通信 Vol.22

曙がWWE進出!? 噂の真偽を追え!!

何時男 今月はまず曙ネタから語らないといけませんね！ ホントに驚きましたよ！

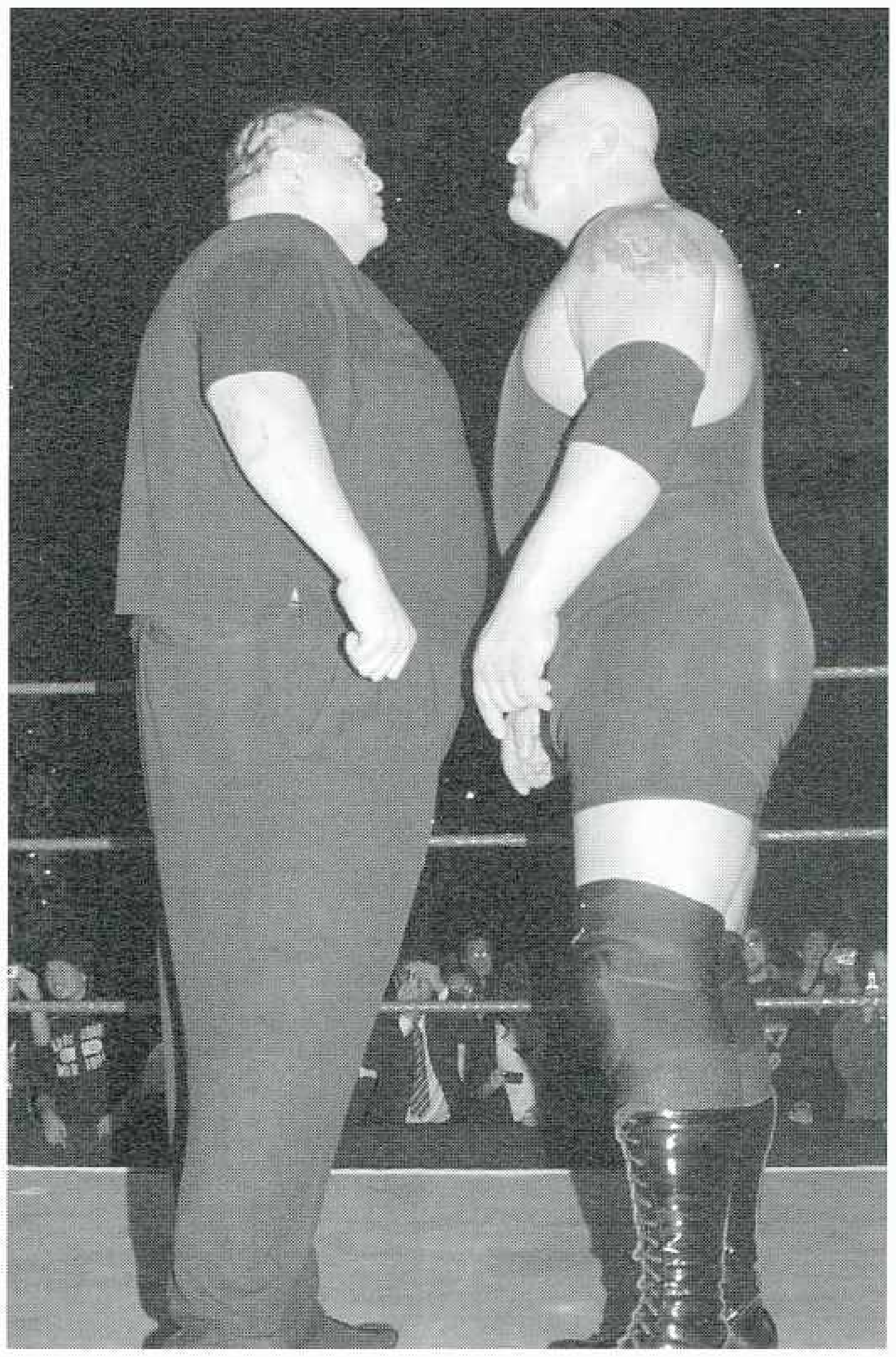
派乱暴 WWEと日本のパイプになってる会社はいくつかあるんですけど、その中の某社が絡んでるという噂を聞きましたよ。「曙がWWEに出たらどういう反応になりますかねぇ？」って関係者にしきりにリサーチしてたみたいですけど。

叙似位 そんなの目に見えてるじゃないですか！（笑）。そもそも先日のWWE日本ツアーで、曙はリングに上がってビッグ・ショーとにらみ合いしましたけど、プロレスは一回もったことないんですから！ どう考えても、まともな試合は期待できないですよ。

何時男 日本ツアーで曙を見たジョニー・エースが獲得をプッシュしたみたいですけど……。『WRESTLEMANIA21』（以下『WM21』）は相撲マッチでビッグ・ショーとやるという話ですがK-1ルールでは全敗しても相撲ルールならプロ初勝利は挙げられるでしょう！

叙似位 韓国大会の前に「次に負けたらK-1には2年間出ない」って試合前から言ってましたよね？ なんで試合前にそんな情報が流れてるんだろうなぁ。「2年」という中途半端な期間は何なんでしょう？

何時男 WWEから2年契約のオファーがきたってことですかね。



派乱暴 そういえばフジテレビの『ジャンクSPORTS』に曙が出てたのは観ました？

叙似位 見ましたよ！ K-1韓国大会への意気込みを語るインタビューなんですけど焼肉をバクバク食って、酒をガブガブ飲んでいるという衝撃映像（笑）。

派乱暴 横にいる奥さんに、食べ過ぎをなじられた曙が逆ギレしてケンカになるんですけど（笑）。

何時男 アハハハハ、曙の魅力がすべて詰まってますね！

派乱暴 あの映像、何のプロモーションにもなってないと思うんですけどね。TV的にも完全にバカにしてるんじゃないの？と思うんですけど（笑）。どうなんでしょう？

何時男 WWEには、ほぼ曙みたいな体型のビセラって選手がいますけど、そんな調子じゃビセラよりも受け身は取れないんだろうなぁ。

叙似位 ビセラは普通にプロレスできますからね。

何時男 WWEのバックステージでは、どう受け止められてるんですか？

叙似位 ……言えないぐらいの反応ですねぇ。

何時男 ということは、まあ好意的ではない、と（笑）。

叙似位 どの選手も『WM』に向けて、テンションが上がってる時期なんですよ。それこそ日頃から週5日のサーキットに出て、ケガしながら業界最高峰の『WM』の舞台に上がろうとしているわけじゃないですか。それをパッと出てきたプロレスキャリアのない曙がさらっていってしまうわけですからね。

派乱暴 面白くないでしょうね。

叙似位 ちなみにネットの噂では、『WM21』の曙のギャラが2万ドル（210万円）ってことになってました。

何時男 微妙な額だなぁ。

叙似位 別のサイトでは、尾ひれが付いて10倍の20万ドル（約2100万円）になってましたけど（笑）。

何時男 それは高すぎでしょう！（笑）。アメリカ人がどれだけ日本の元・横綱を知ってるか、ちょっと読めないですよね。盛り上がるのかなぁ？

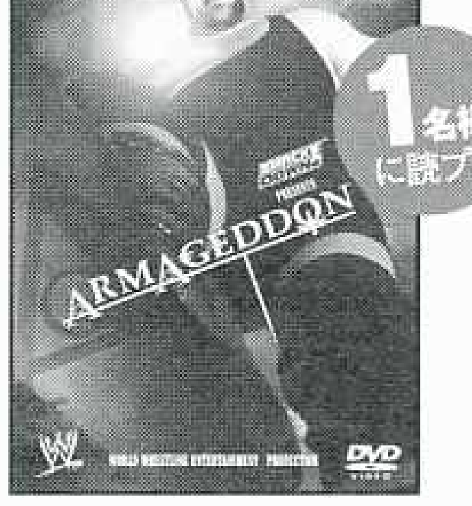
叙似位 相撲マッチということなんで、アメリカ人にとっての一番の見所はビッグ・ショーのマワシ姿なんじゃないですか？ 男のランジェリー・マッチみたいな位置づけというか。

何時男 なるほど（笑）。去年の『W

R！V！D！のD！V！D！他各1本を読プレ！

今月の新作DVDはマニアからビギナーまで虜にすること間違いなし！ 一本目は〝木曜日の男〟ことR・V・D（ロブ・ヴァン・ダム）のデビューから現在までを丸ごと収めた超ボリュームの2本組み！ 華やかなファイトスタイルとアクロバティックなムーブは一度見たら目に焼き付くはず！ ECW時代の名勝負からジェフ・ハーディーやクリス・ジェリコとの激戦も収録！ RVDの魅力がギッシリ詰まった一家に一本の作品だ。もう一本は、2004年最後のPPVイベント『アルマゲドン2004』。怒りのビッグ・ショーが、カート・アングル軍3人を相手に大暴れ！ フェイタル4ウェイ形式WWE王座戦はJBL vs ブッカーT vs エディ・ゲレロ vs アンダーテイカー、クルーザー級王座戦でスパイク・ダッドリー vs フナキ、ケンゾー・スズキ＆レネ・デュプリ vs レイ・ミステリオ＆RVDのタッグ王座戦が行われている大注目のSMACKDOWN！限定PPVだ。どちらも絶賛発売中！

提供■ユークス



『アルマゲドン2004』（¥3990・税込／本編161分 特典15分）



『ロブ・ヴァン・ダム ワン・オブ・ア・カインド』（¥7035・税込／本編234分 特典93分）

※このページのプレゼント応募方法はP143を参照!!

あの元横綱の曙太郎が、WWEに電撃参戦か!? という衝撃のニュースが駆けめぐった3月のマット界。ひょっとして、4月1日に「エイプリル・フールでした」とかいう発表をするんじゃないかと不安です。谷川さんなら、それぐらいの会見はやりかねないと思うのですが……。というわけで、今月は曙ネタと『WM』直前情報も含めて50%増（当社比）の3ページでたっぷりお届けします！

■F.B.I.とは「踏み込んだところまで・バラしちゃって・いいかな？（いいとも！）」の略。何時男（なんじお）はプロレス業界の末端に潜伏中、叙似位（じょにー）は桁外れのパワーで圧倒的な情報量を誇り、派乱暴（ぱらんぼ）は裏方さんとしてWWEに携わる、WWEとアメリカンプロレスを愛してやまないズッコケ3人組だ。

M』はディーバのランジェリー・マッチだったのに、今年は大巨人同士のランジェリー・マッチですか（笑）。

派乱暴　先月の『NO WAY OUT』で、金網の最上段からビッグ・ショーが雪崩式ブレーンバスターでJBLを投げたらリングに巨大な穴が空いたのは面白かったですけど、あんなノリの試合になれば面白いですよね。

叙似位　どうせ相撲マッチやるなら土俵でやってほしいなぁ。ファミコンの『どすこい大相撲』みたいに、頭から土俵にめり込んだりしてほしい（笑）。

何時男　どうせだから、この先の展開も予想しておきましょうかね。まず、最初は『WM21』でビッグ・ショーに相撲で勝って、相撲マッチで連勝街道をバク進するけど、レイ・ミステリオに相撲で負けるという流れはどうでしょう？

叙似位　曙対舞の海の再現ですか（笑）。

何時男　以前、WWEのリングでやったボクシング・マッチはガチンコでやってましたからね、この相撲マッチだってどうなるか分からないですよ！

叙似位　でも、WWEは100カ国以上で放映されているのに、曙参戦は日本のようなちっちゃな島国に向けての話題にしかなってないと思うんですよ。よっぽど大きなインパクトを残さないとWWE定着は難しいんじゃないかなぁ。

何時男　とにかく期待しましょう！

フジテレビのWWEが3月末でで打ち切り！

何時男　そのちっちゃな島国では、フジテレビのWWE地上波放送も3月で打ち切りになっちゃうし。

派乱暴　現場レベルでは続行したいというモチベーションがあるらしいですけど、会社の方針として打ち切りが決定したみたいですね。ただ、最後の方には視聴率が4.5%ぐらいまで上がってた回もあるみたいなんです。

何時男　へぇ～、深夜の時間帯でそれは凄い！

派乱暴　同時間帯の占有率もダントツだったみたいです。

叙似位　でも、「WWE美女サポーターズスペシャル」とかいう変なWWE特番もやってましたよね？　日本大会で見つけた女の子の部屋に行って、どれだけWWEが好きかチェックするという痛い企画だったんですけど（笑）。

派乱暴　そういえば、フジテレビのWWEの番組サイトのトップに「コスプレをして来場しているファンの方の取材を行いました。こちらに出演して下さった方と諸事情により連絡が取れない状況にあります」ってメッセージを出して、連絡先をメールで送ってくださいって告知をやってるの知ってますか？（笑）。

何時男　知らないですよ！（笑）。

派乱暴　なぜか、連絡先がヤフーのフリーアドレスなんですよ。シロウト臭いんだよなぁ。まあ、その「コスプレをして来場しているファンの方」がこのページを読んだら、ぜひ連絡先をフジテレビに教えてあげて欲しいんですけど（笑）。

何時男　そういうツメの甘さが、最後までフジテレビのWWE番組を垢抜けないものにしていたような気がしますねぇ。2年間ずっと地上波放送をやってるのに、WWEの日本大会で「FUJI TV」ってアナウンスされた時、ブーイングが起こっちゃうのは切ないですよねぇ。

叙似位　あれがWWEマニアの声なんだろうなぁ。

派乱暴　まあ、お茶の間の声と会場

真のWWEマニアを目指すなら、WWEオフィシャルFCに今すぐ入会すべし！

日本ツアーの際にはWWEスーパースターズのサイン会を開催し、チケットの優先予約販売等の特典が嬉しいWWEファンクラブ。当クラブに入れば当然、他のみんなと差を付けられるだけでなく、さまざまな特典がついてくる。今回はオフィシャル会報誌（非売品）の『RAW MAGAZINE』最新号を5名様にプレゼントします！

☆WWEファンクラブの会員特典
1.メンバーズカードの発行
2.会報誌「RAW MAGAZINE」日本語版の発行（年6回隔月発行）
3.WWE来日時のチケット最優先予約受付（応募が予定枚数を上回った場合は抽選となる場合がある）
4.会員限定のWWEグッズ販売
5.スーパースターズ来日時にファンクラブ会員を対象とするイベントの開催
6.メールマガジンの配信（携帯メール不可）
入会案内・手続き・お問い合わせはWWEファンクラブまで。
http://www.wwefanclub.ne.jp/



1月のPPV『ROYAL RUMBLE』を特集した『RAW MAGAZINE』が最新号。ウエストサイド・ストーリーのコスプレが最高です！

帰ってきたナンシーの

噂FILE

●お騒がせランディ

ランディ・オートンが『SMACKDOWN！』に移籍することがほぼ確実のようだ。その理由の一端として『SMACKDOWN！』の視聴率向上があるが、これはどうやら建前らしい。事実は、お遊びが過ぎるランディを、『RAW』ディーバから引き離す目的だとか。バックステージでのランディの子供じみたおふざけは批判の対象になっていて、現在バティスタが立つスポットを奪えなかったのもそのため。WWEマネージメントはほとほと困り果てているらしい。先日は、ランディの経歴をよく知らなかったロシェルの自前のバッグの中に用を足したとか、足さなかったとか（しかも大きい方!?）。その後ロシェルは『SMACKDOWN！』に移動したが、オートンも移動となるとまた問題発生？　ちなみに、『WM』後の『RAW』オーストラリア遠征組に名前が載っていないのだが、これは怪我の治療だとか。

●元スーパースターズが古巣へ戻る

テッド・デビアスがWWEと契約を結び、エージェント＆クリエイティブ・チームの一員として働く。ロード・ウォリアーズのアニマルも現在ポジションを巡り、話し合いを持っているとか。

●ビンスの後継者は？

『ROYALRUMBLE』でビンスが負傷して以来、トリプルH、ジム・ロス、ケビン・ダンらがその代わりを務めてきたが、ここに一人蚊帳の外に置かれた人間がいる。その名は、シェイン・マクマホン。この状況から考えるとシェインはビンスの後継者として認められていないのか？

●トーリーとセイブルにご注意！

WWE.comの発表によると、現ディーバのトーリーと元ディーバのセイブルのスクリーンセイバーから新種のコンピュータ・ウィルスが広がっていると言う。メールを介して、Windows XP SP2の修正版を装って広がるというこのウィルス。ファイルシェアからも広がるらしく、この時、二人のスクリーンセイバーに寄生するようだ。PCのセキュリティ設定を変えたり、ウェブサイトにアクセスできなくなったり、問題は多々。心当たりのある人は、アンチウィルス・ソフトをアップデートして、まずはスキャンしてみよう。

●ゲイ役のお手本はバックステージにいた

3月に全米公開された映画「Be Cool」にゲイの用心棒役で出演しているザ・ロック。コメディ作に文字通り体当たりの挑戦だったザ・ロックだが、主役のジョン・トラボルタを喰う素晴らしい演技を見せている（ホントに）。さて、とあるインタビューで「ゲイ役のお手本は？」と聞かれた彼は、「WWEエージェントで元レスラー、しかも実生活ではゲイ生活を満喫しているパット・パターソンを参考にしたんだ」と語っている。

●クルーザー級にルチャの嵐？

レイ・ミステリオの強力な推薦もあり、シコシス、スペル・クレイジー、フベントゥ・ゲレーラのWWE参戦が確実になりそうだ。クルーザー級を舞台に4月から登場するとか。現在にも増して、驚くべきムーブの数々を目にすることができそうだ。

●ビンスがWCWを振り返る

アトランタ・ジャーナル・コンスティテューションの取材に対し、ビンスがWCWとの抗争について語った。「時折あの抗争が懐かしくなるんだ。私たちは、ろうそくの両端から火を燃やしているようなもんだった。どっちが先に燃え尽きるかってことさ。なにせあの抗争はあまりに激しく、両団体の選手、関係者ともにこれでもかってくらい働いた。引き下がることができなかったんだな。私は、テッド・ターナーに電話して「ちょっとペースダウンして、もうしばらく両団体を存続させよう」ってことが言えなかった。独占しようとなんて思ってなかったし、すべては競争の上に成り立っていたんだから。事の成り行きでこういう結果になったが、今となっては、以前にも増して素晴らしいものを作り出さなければ、という責任感に襲われているよ（要約）」

の声とは別物だと思うんですよ。最初2％程度だった視聴率が4.5％になってるわけだし。間違いなくソフトとしての力はあるんですけどね。だから、別の地上波放送局が狙ってるという噂もありますよ。今年7月はフジテレビが日本大会を仕切るみたいですけど。

叙似位　7月の日本ツアーは2週に渡ってＴＶマッチを日本でやって、その間に日本をサーキットするとかいう噂もありますよ。かなり大がかりになるんじゃないですか？　2月に「日本でもＴＶショーが出来る！」ということが分かったんで、かなり力を入れていくんじゃないですかね。

何時男　そういえばアメリカでも『ＲＡＷ』の放送局が変わるんですよね？

派乱暴　Ｓｐｉｋｅ　ＴＶが撤退して、9月からＵＳＡネットワークで放送されることに決まったそうです。

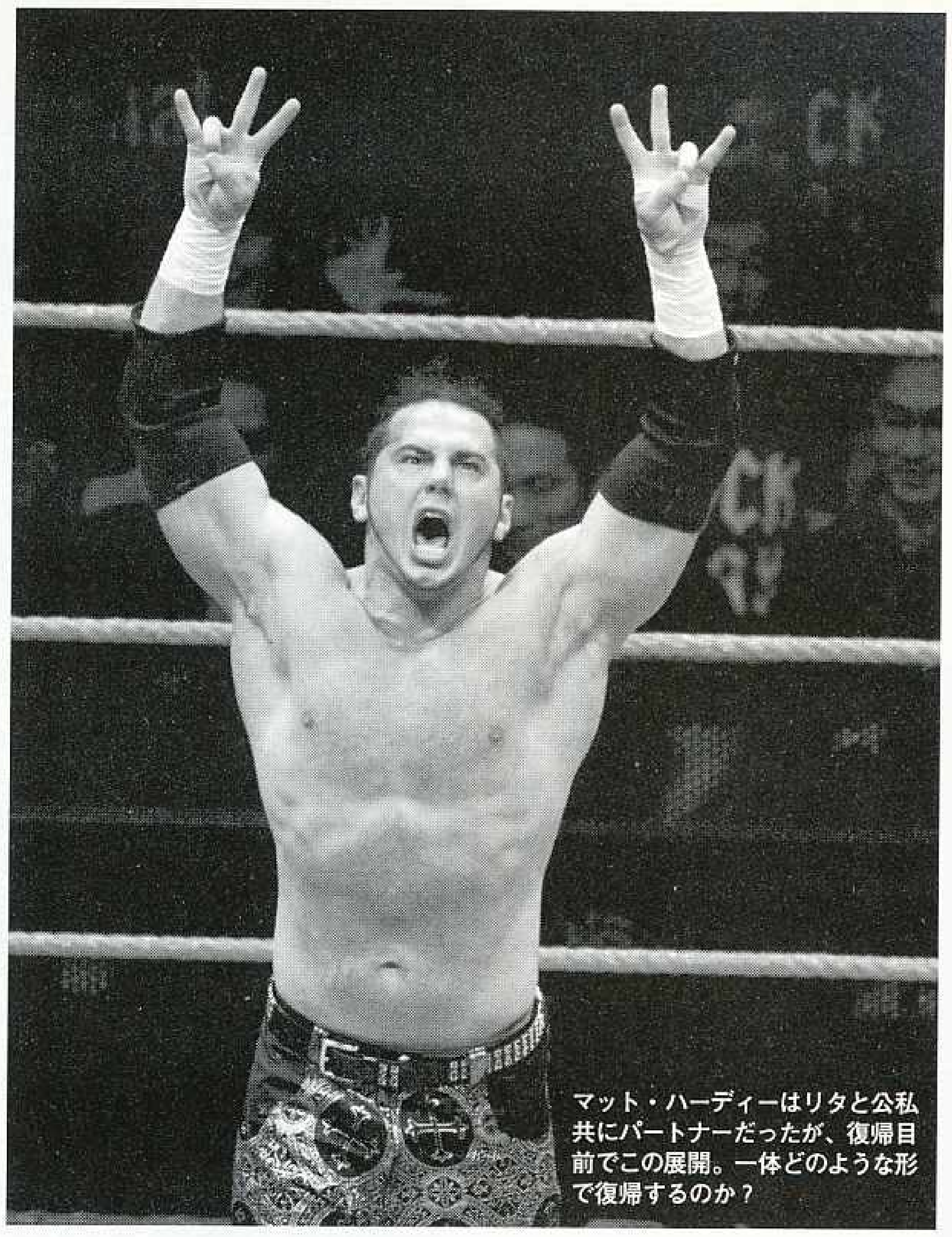
『WM』に向けてオールドスクールが続々集結！

何時男　さあ、ここからは『ＷＭ』直前情報を話しましょう!!

叙似位　絶対アングルだと思うんですけど、マット・ハーディーと別れたリタが、エッジと付き合い始めたっていうネタがありますね。面白いのは、そのことについてファンにコメントを求められたジェフ・ハーディーが「兄ちゃんがとてもショックを受けてる。兄ちゃんのために曲を作るよ」って言ってることなんですけど（笑）。

何時男　ジェフはまだ音楽やってたんだ（笑）。懲りてないんですね。しかし、これはかなり面白そうな話ですねぇ。

叙似位　僕はマットとエッジの件はアングルなんじゃないかなと思うんですけどねぇ。ただ、観客が持ってたエッジを非難するプラカードをセキュリティが取り上げたとか、エッジは本当に離婚したとか、ＷＷＥの幹部が個別に面談したとか、いろんな情報が錯綜しています。


マット・ハーディーはリタと公私共にパートナーだったが、復帰目前でこの展開。一体どのような形で復帰するのか？

何時男　昼メロみたいなドロドロの展開だなぁ。リタは去年もケインの子供を妊娠して、スニッキーにやられて流産するという結構きわどいストーリーをやってましたけど……。『ＷＭ』で何か絡みがあるんですかね？

叙似位　その『ＷＭ21』ですけど、構成会議で各試合の時間の割り当てが決まったみたいですよ。カート・アングルvsＨＢＫは40分近い試合をやるんじゃないかと言われています。もともとカートはアンダーテイカーと対戦する予定だったんですけど、カートの負傷が思わしくないし、テイカーは現在パートタイマーなんでストーリーを繋げにくいということでキャンセルになったみたいです。

派乱暴　日本の記者会見（本誌No.83参照）で因縁の生まれたカートvsＨＢＫの試合は楽しみですねぇ。

叙似位　なぜかマーティー・ジャネッティまで出てきて、ロッカーズ再結成とかやってますから（笑）。

何時男　え〜っ？　こないだＩＷＡ ＪＡＰＡＮに来てませんでしたっけ？（笑）。

叙似位　そうなんですけど（笑）。さらに、なぜかジェイク・ロバーツまで復帰してるんですよ。ホント今年の『ＷＭ』は直前まで何が起こるか分からないですよ。

何時男　新戦力もどんどん来るみたいですね。

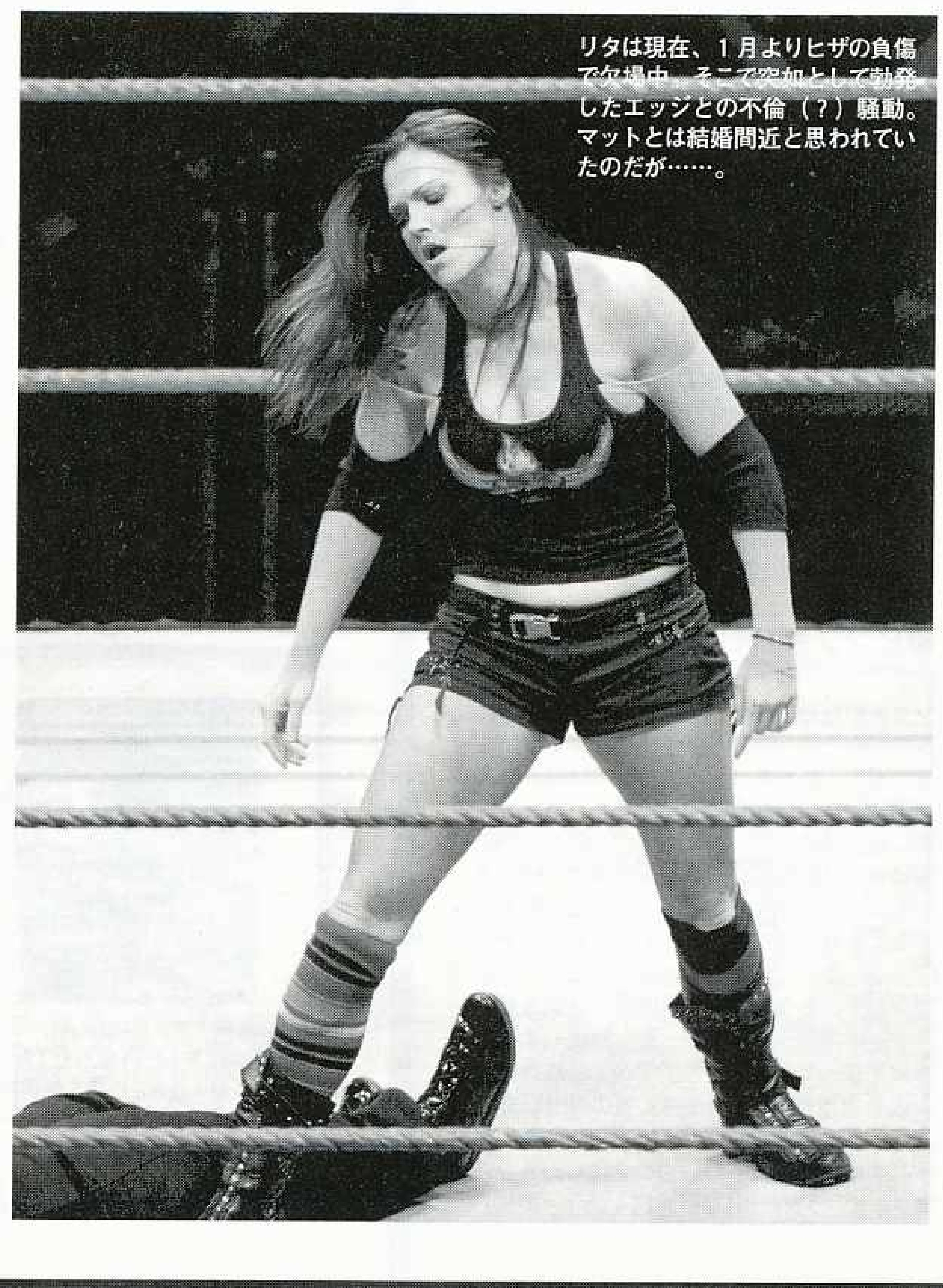
叙似位　シコシスもミステリオと合流して、6月12日にＥＣＷが一回限りで復活するＷＷＥのＰＰＶ「ＯＮＥ ＮＩＧＨＴ ＳＴＡＮＤ」に出るみたいですし。

何時男　先月、我々がこのページで熱望していた、田中将斗も正式に声がかかったみたいですね。大会が楽しみだなぁ。

叙似位　その前日に行われる〝フランチャイズ〟シェーン・ダグラス主催の反ＷＷＥのＥＣＷ大会には、ビル・アルフォンソ、レイヴェン、サンドマン、マイク・アッサム、ジャスティン・クレディブル、フランシーン、テリー・ファンク、ボールズ・マホーニーといったメンツが勢揃いすることになりそうですね。

何時男　豪華ですねぇ。

叙似位　ＷＷＥもそっち側の選手に声をかけてるみたいなんですよね。ただ、「どっちの大会に出てもいい」という契約をＷＷＥは結んでるみたいですね。翌日の大会のプロモーションになるからという狙いだとか。


リタは現在、1月よりヒザの負傷で欠場中。そこで突如として勃発したエッジとの不倫（？）騒動。マットとは結婚間近と思われていたのだが……。

派乱暴　一回限りの大会とは言っても、いい選手がいたら一本釣りするつもりなんでしょうね。

叙似位　そういえば、こないだ『ＳＭＡＣＫＤＯＷＮ！』にＣＷアンダーソンとサンジェイ・ダッドが出てましたよ。

何時男　え〜っ!?　またＺＥＲＯ-1の外人勢が流出ですか？

叙似位　別に試合に出たんじゃなくて、セキュリティの役でチョロッと出ただけなんですけど（笑）。隅々まで目が離せませんよ！

何時男　叙似位さんは『ＷＭ21』を現地で見てくるそうなので、来月は現地の模様をレポートして下さい！

【05年3月某日、都内某所にて収録】

※今月は連載「ビンス・マクマホン徹底論評」をお休みします。

マニアックな視点で女子格闘技を考察する!

チョロの女子バーネット

今月も女子格の1ヶ月の流れを1ページで紹介するぞーーッ! というわけで、まずはお詫びから。前号で予告していた篠原光のドメスティックなバイオレンス話は都合により次号以降でお届けします。ちなみに前号の記事を読んだ光さんは「私はDVじゃないからね。でも折原については言いたいことがたくさんある」とのことなので近日中に話を聞いてきます。それにしても4月のスマックでデビュー予定の深谷愛ちゃん(各自調査)。ここ最近で一番楽しみ!

第6回 女子格一ヶ月

3月は女子格関連の注目の大会&試合がいくつかあった。

3月6日に横浜文体で行われたパンクラスには渡邊久江がパンクラス・アテナ2度目の登場。大室奈緒子相手に判定で勝利を収めたが、話題的にはメインに出場した郷野からの「勝ったらデート」要求がスポーツ新聞等では大きく取り上げられる結果に。結局、郷野が桜木に敗れてしまったためデートは免れた渡邉だったが、大会後も自ら郷野へ手紙をしたためるなど、まだまだこのネタは続行しそうな勢いだ。どうなる、郷野&渡邉!……って、そんなことはボク的にはどうでもいい。

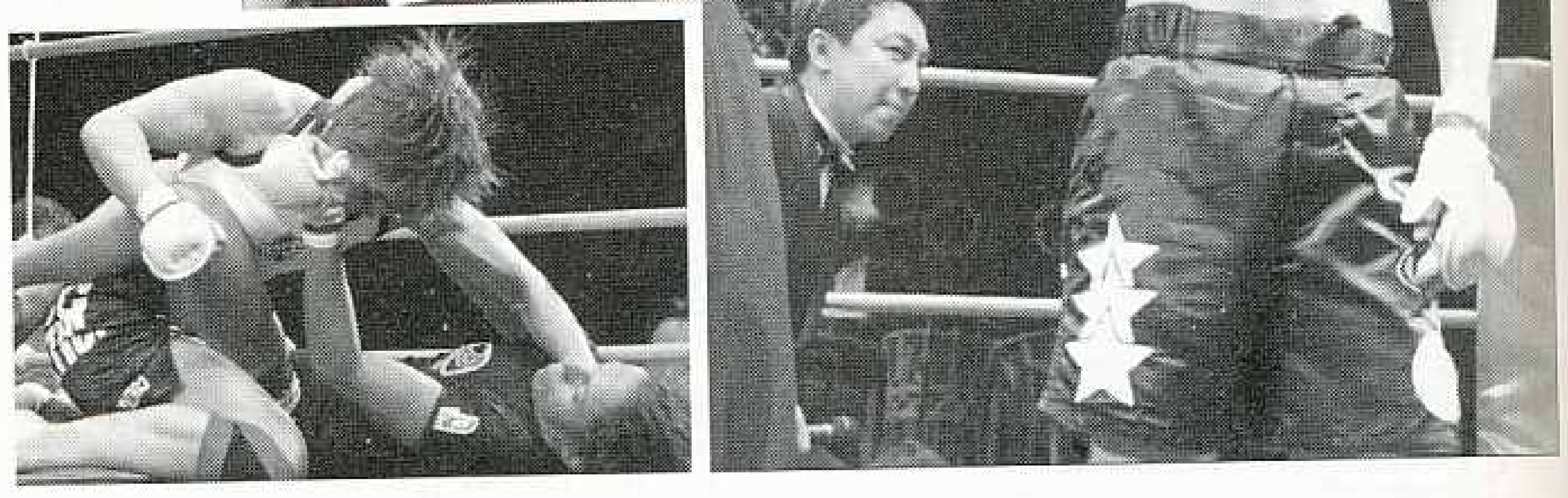
やはり、今月の女子格で一番の注目は12日に行われたG・SHOOTO JAPANのZepp Tokyo大会。携帯サイトの『紙プロHand』にも、ちょこっと書いたが、この日の客入りは実に寂しかった。同じ日に近場のディファ有明で『D.O.G』の旗揚げ戦が行われ、さらに近郊のスタジオドリームメーカーではIKUSAが開催され、ちょっとしたお台場格闘興行戦争といった感じだったのだが、G・SHOOTO以外の2大会は、どちらも満員(IKUSAは超満員札止めの大盛況)。そういうハンデはあったにせよ、G・SHOOTOのカードはフジメグvsアンナ戦や、藪下のパウンド有りルールなど女子格的には最上級のものだっただけに、余計寂しさを感じてしまった。

いいマッチメークを組めば、それだけでお客が入るという時代ではないが、それでもやっぱり寂しかった。寂しいついでで言うと、G・SHOOTOの旗揚げ前のウリとして、選手のメイクおよびにコスチュームを主催者側で洒落たものを用意するというものがあったのだが、旗揚げ2戦目となる、この日はメイクさんらしき人の姿も見えず。コスチュームも自前のもので入場する選手ばかり。そういう周りの環境を抜きにリング上の闘いだけ見れば、やはり面白い。

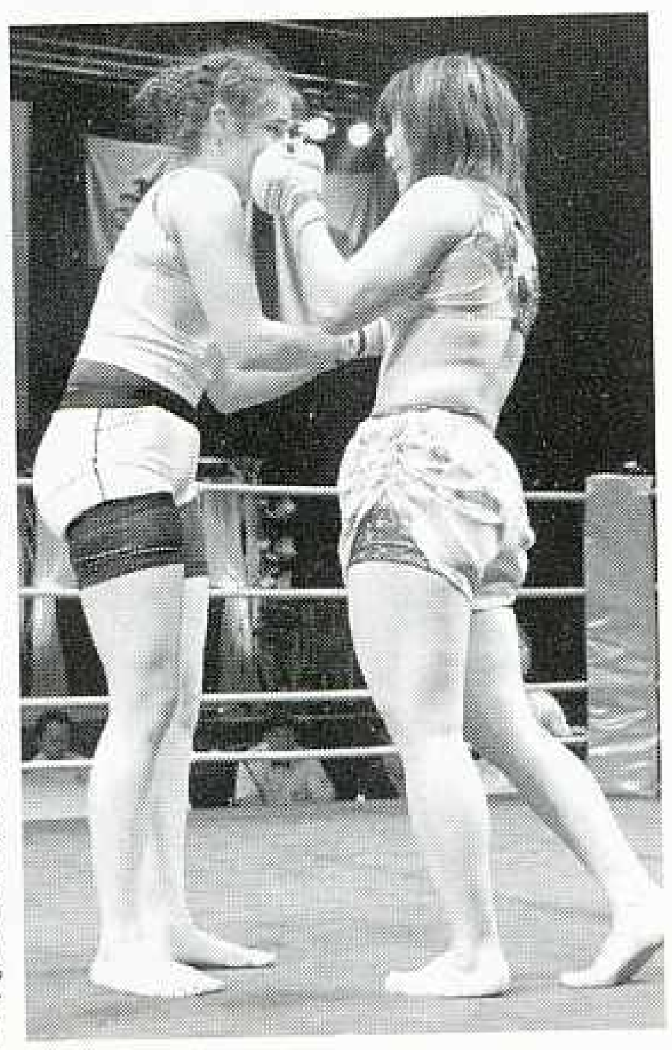
メインのフジメグvsアンナなんて、これまでの女子格史上でも上位にランクされるのは間違いないほどハイレベルな一戦だった。それだけに、たくさんのお客さんに見て欲しかったと切に思う次第。

G・SHOOTO、次回は5月の名古屋大会。大会名にはスペシャルという文字が付けられている。スペシャルなマッチメークも当然期待したいが、それ以上にフロント側のスペシャルな頑張りに期待したいところだ。パワーを出して、頑張れ、宇宙!





メインではフジメグこと藤井恵が、03年7月の『DEEP』で辻結花から一本勝ちを収めているアンナ・ミッシエル・ダンテスと対戦。女子格史上5本の指に入るハイレベルな試合を制したのはフジメグ。しかし、フジメグの身体は凄すぎ! 辻ちゃんとの一騎打ちが見たい!!



スマック無差別級王者の藪下がG-SHOOTOでは初のパウンド有りルールで米国の強豪タラ・ラローサと対戦するも、1Rにラローサのパンチで尻もちをついたのが響き判定負け。試合後、ラローサは「憧れの藪下と闘えて光栄」と満面の笑みを浮かべた

ささきぃの“STAND BY ME”（仮）

極私的立ち技格闘技連載

第7回 気まぐれ対談

『MACH55』って何？



はしもとのりひろ
橋本宗洋さん

橋本宗洋（はしもと・のりひろ）。1972年生まれ、茨城県出身。『格闘技通信』を経た後、99年からは『SRS-DX』で活躍。同誌休刊後はフリーとして本誌でも活躍中で、今月号では須藤元気インタビュー、TK&近藤有己対談を担当。正道会館で汗を流した経験もあり、パンクラス・メガトン入りの資格（100kg以上）を持つ上、業界でもトップクラスの福耳を有している。

ちわっす！　ささきぃです。前号に引き続き、橋本宗洋さんを迎えての対談形式でお送りする『STAND BY ME』です。連載を通じて担当が学んでゆくこのページ、それでは橋本さん、今月もよろしくお願いしまーす。時は来た!!（橋本違い）

ささきぃ　今回は、キックボクシング団体J-NETWORK（以下J-NET）で3・2に行われた『MACH55 First（以下『MACH55』）』という、非常に画期的だったらしいトーナメントについてお伺いしたいと思います。

橋本　いい大会だったねぇ。

ささきぃ　『MACH55』というのは55kg級選手のキックボクシング四団体対抗トーナメントで、まぁ2人で橋本さん1人分くらいの体重になる選手が争ったと。

橋本　あぁ、オレが出るとしたら2枠必要になるね。今回の『MACH55』は駆け引きなしで、とにかく面白いことをやろうっていう意気込みが見えるのがいいね。どこの団体も腰が引けてない。

ささきぃ　4団体が参加した非常に画期的なトーナメントだったらしいんですが、その画期的感が、私みたいにキックの知識が浅い人間には説明しようにも分からないんですよ。

橋本　今回のトーナメントのスゴイところは、まずは全団体チャンピオンが出てきたこと。対抗戦でよくあることだけど、うちはまぁこの若手選手で様子みるか、みたいなのがどこの団体にもないんだよ。

ささきぃ　各団体のチャンピオンが出てきたということは分かるんですけど、まず、今キックの団体っていくつあるんですか？

橋本　そこから話したほうがいいのか。え〜、J-NET、全日本、MA、協会、連盟……

ささきぃ　きょ、協会？　連盟？？

橋本　あぁ、協会は新日本キックボクシング協会のことね。武田幸三がいるところ。連盟っていうのは日本キック連盟のこと。

ささきぃ　あ〜、みんなが連盟とか協会とか言ってたのはそういうことだったんですね!!　今やっと理解しました。

橋本　あと、ニュージャパンキックと新日本キックは別物ね。

ささきぃ　……このあたりでみんな、理解するのをあきらめるんでしょうね（笑）。

橋本　まぁ、このへんはプロレスと全く同じだよ。くわしくは別表を参照と。

ささきぃ　で、今回の舞台になったのはJ-NET。

橋本　そもそもJ-NETのJは城西。極真城西支部の「J」ね。

ささきぃ　あー！　小笠原（和彦）先生がいたところだ。キックの対抗戦やトーナメント自体はこれまでも行われてると思いますけど、今回が特にスゴイって言われてるのはどうしてなんですか？

橋本　それはやっぱりNJKF、ニュージャパンキックの参戦だね。NJKFは、全日本キックから別れて出来た団体だから。

ささきぃ　よくない別れ方だったんですか？

橋本　んー。NJKFは全日本の相当数の主力ジムが抜けて出来た団体だし、元々全日本の理事長だった藤田真さんがNJKFの理事長だからね。“独立”というより“分裂”だから、交流するってことは、まず考えられなかった。J-NETとは最初は交流してたんだけどね。その中の1カードとして実現したのが新田明臣vs小比類巻貴之。

ささきぃ　2・23『K-1 MAX』決勝の組み合わせですね。当時J-NETだった小比類巻貴之と、NJKFだった新田明臣が闘ったと。

橋本　あと、NJKFをはじめとする4団体が、2000年、NKB（日本キックボクシング）っていうのを作って交流戦をはじめたのね。で、そのNKBからこの冬にNJKFが抜けたと。これまで“別のリーグ”だったJ-NETや全日本キックの輪に入って、今回のトーナメントに出てきた。

新日本キックボクシング協会（通称協会）	NKB（日本キックボクシング）：アジア太平洋キック（APKF）／キック・ユニオン（K-U）／日本キック連盟（通称連盟）
MAキックボクシング	↓ この冬離脱
全日本キックボクシング連盟	ニュージャパンキック（NJKF）
J-NETWORK	
MACH55参戦団体：J-NETWORK（大会主催）／全日本キック／ニュージャパンキック／MAキックボクシング	

文中に登場した選手たち



牧裕三（まき・ゆうぞう）
170cm、東京都出身。77年2月5日生まれの28歳、O型。14戦9勝（6KO）5敗。J-NETWORKバンダム級王者、アクティブJ所属。3月2日『MACH55』トーナメント1回戦で前MAフライ級王者の辻直樹と対戦、2R59秒ヒジ打ちで勝利。主催団体の王者という大きなプレッシャーをはねのけた牧は、次戦でNJKFバンダム級4位の真二と激突する。

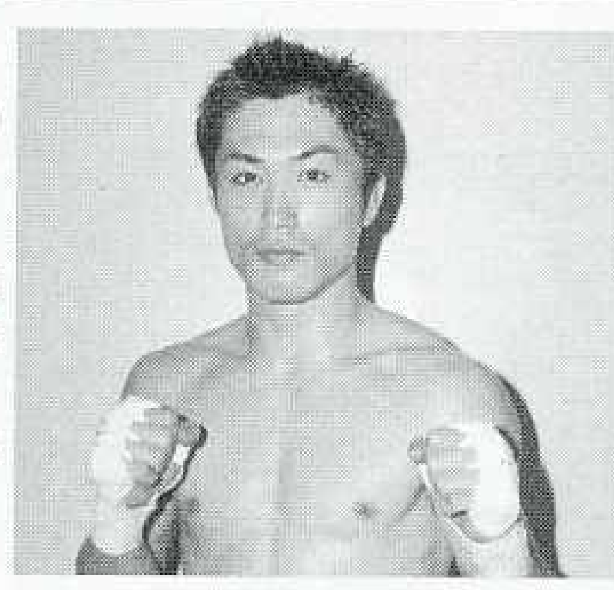
魂叶獅（たかし）
160cm、神奈川県出身。80年8月8日生まれ24歳、O型。7戦5勝（1KO）2敗、全日本キック・はまっこムエタイジム所属でありながらJ-NETWORKフライ級王者。「ハマの最小兵器」という、どこかで聞いたようなキャッチコピーを持つ、2004年全日本キック特別賞受賞者。

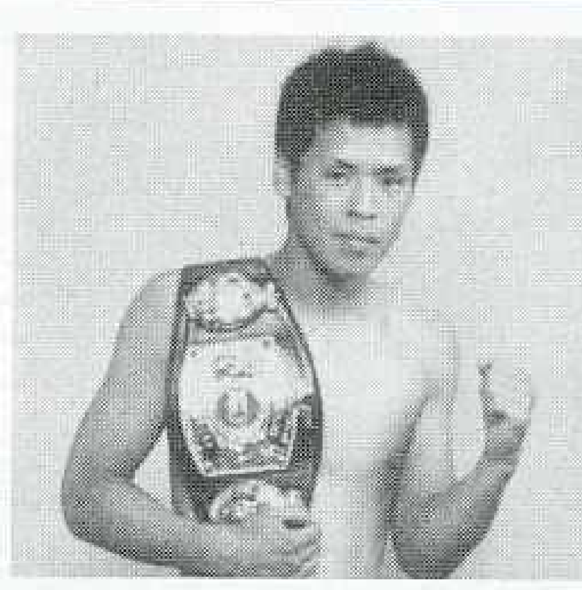




Lady'sゴング（れでぃーすごんぐ）
日本スポーツ出版社から発行されている、週刊ゴング増刊の女子プロレス専門雑誌。対談中で話題にしているのは、写真の2005年1月4日号。巻頭カラーインタビューに登場したAtoZの未来は、3月10日にAtoZを退団してしまうという、これまたショッキングな結果に。公式HP「未来日記」によると、未来は今後フリーとしてプロレスを続けていくという。

藤原あらし（ふじはら・あらし）
164cm、和歌山県出身。78年12月22日生まれの26歳、A型。17戦13勝（9KO）1敗3分。全日本キックバンダム級王者、S.V.G所属。3月2日『MACH55』トーナメント1回戦でJ-NETバンダム級1位の関健至と対戦、テンカオと右フックで計4度のダウンを奪い、3R2分45秒で圧倒的KO勝利を収め、会場をおとずれた新田明臣から頭をなでられている。しかし試合後は「今日の出来は20%ぐらい」と猛省。名前は「ふじわら」ではなく「ふじはら」と読むので注意。





藤原国崇（ふじわら・くにたか）
168cm、岡山県出身。80年5月30日生まれの24歳、B型。28戦19勝（11KO）7敗2分。NJKFバンダム級王者、拳之会所属。3月2日『MACH55』トーナメント1回戦で全日本バンダム級3位の寺戸伸近と対戦、スピードと高いセンスを存分に見せつけた上で、最後はヒジで斬りさき3R1分42秒、TKO勝利。次戦で対決する藤原あらしに対して「どっちが本当の藤原か決めたい」とアピールするも、あらしからは「僕はふじ“ハラ”なんで成立しない」と、かわされている。

どこの団体も腰が引けてないし、全部チャンピオンが出てきた。そこがこのトーナメントのスゴイところだよ（橋本）

J-NETがエライのは、レフェリーもジャッジも、公正さのために4団体全部から呼んできたこと。

ささきぃ　J-NETの会場に和田（良覚）さんがいるのは、不思議な感覚がしましたね（笑）。「あのマッチョな人は何だろう」って。

橋本　全日本のレフェリーとして来てたんだよなぁ。あの人が会場で一番強そうだった（笑）。まぁそれはともかく、全部の団体から出るべき人が全員出てきて、一律で勝負しにきた。ZERO-ONEと新日本プロレス以上に複雑な事情があって別れて、二度と交わるわけはないだろうと思われていたNJKFと全日本、両方が中立のリングに出てきて、しかも両方チャンピオンを出してきたんだよ。

ささきぃ　スゴイじゃないですか！

橋本　だからスゴイんだよ（笑）。……まぁ、専門誌をずっと読んでないと事情は分からないね。このへんはアレだな、オレがこの間『レディースゴング』を読んでその分からなさにショックを受けたのと、同じ感覚なんだろうな。いきなり「『赤』が帰ってきた！」って書かれても。

ささきぃ　至宝の赤いベルトが全日本女子に帰ってきた、と言いたいんでしょうけど。

橋本　どんなにスゴイことなんだか、さっぱりわかんない（笑）。多分そういう感覚なんだろうなぁ。キックで言えば、NJKFの理事長に「門戸開放」、「過去のいきさつは白紙に戻す」って言われてもってことだよね。

ささきぃ　「何があったんだよ」って（笑）。

橋本　『レディゴン』の巻頭カラーに、いきなり未来って選手が出てて「空白の9日間」を語ってるんだけど、もう何が何だか。その中で「牛と華名が実家に帰った」とか普通に書いてるんだけど「は!? 牛？」って。

ささきぃ　この世界では、牛が実家に帰るのかと（笑）。

橋本　あとから「闘牛・空」のことだ、これでブルファイトソラって読むんだって分かったけど。多分、それと同じ感覚だと思うんだよ。「魂叶獅って、これでタカシって読むの!?」って。

ささきぃ　全日本の選手なのに、どうしてJ-NETの王者なの!? って（笑）。

橋本　そうそうそう（笑）。そんな感じだから、逆に言うとも、女子プロで言えば風香が好きだからとか、キックなら、最近『紙プロ』でよく見る小林聡って何だとか、最初はもう、そういうレベルで見ればいいんじゃないかと思うよ。会場に行ってみれば面白いわけだし。

ささきぃ　団体はともかく、といったん置いて。未来も、いい選手だったからまぁ『レディゴン』もプッシュしたんでしょうしね。

橋本　そうそう。魂叶獅もいい選手だし。

ささきぃ　話を『MACH55』に戻しますけど、次の準決勝で行われる全日本キックの藤原あらしと、NJKFの藤原国崇の対決は、キックボクシング界の現状を知っていてもいなくても見る価値ありですよね。

橋本　全然アリでしょう。

ささきぃ　3月の開幕戦でも、このW藤原がやっぱりちょっと抜けてましたね。

橋本　抜けてたね。あとは、ホームリングになるJ-NET王者の牧裕三の気合いもすごかったね。藤原あらしは、左ミドルキックとヒザ蹴りを主体とした、いわゆるムエタイスタイルなんだけど、一発一発が重いんで、かなり迫力がある。うまさでは藤原国崇が図抜けてたね。

ささきぃ　一発がある藤原あらしと、スピードの藤原国崇っていう、ふたりの対比もいいですよね。

橋本　藤原国崇にしてみたら、願ってやまなかった大一番だったと思うんだよ。意気込みもハンパじゃないだろうし。藤原国崇のカウンターのうまさとか、コンビネーションとかは、（アーネスト・）ホーストとか（レミー・）ボンヤスキーの動きが出来る日本人がいるんだ、と想像してもらえれば。

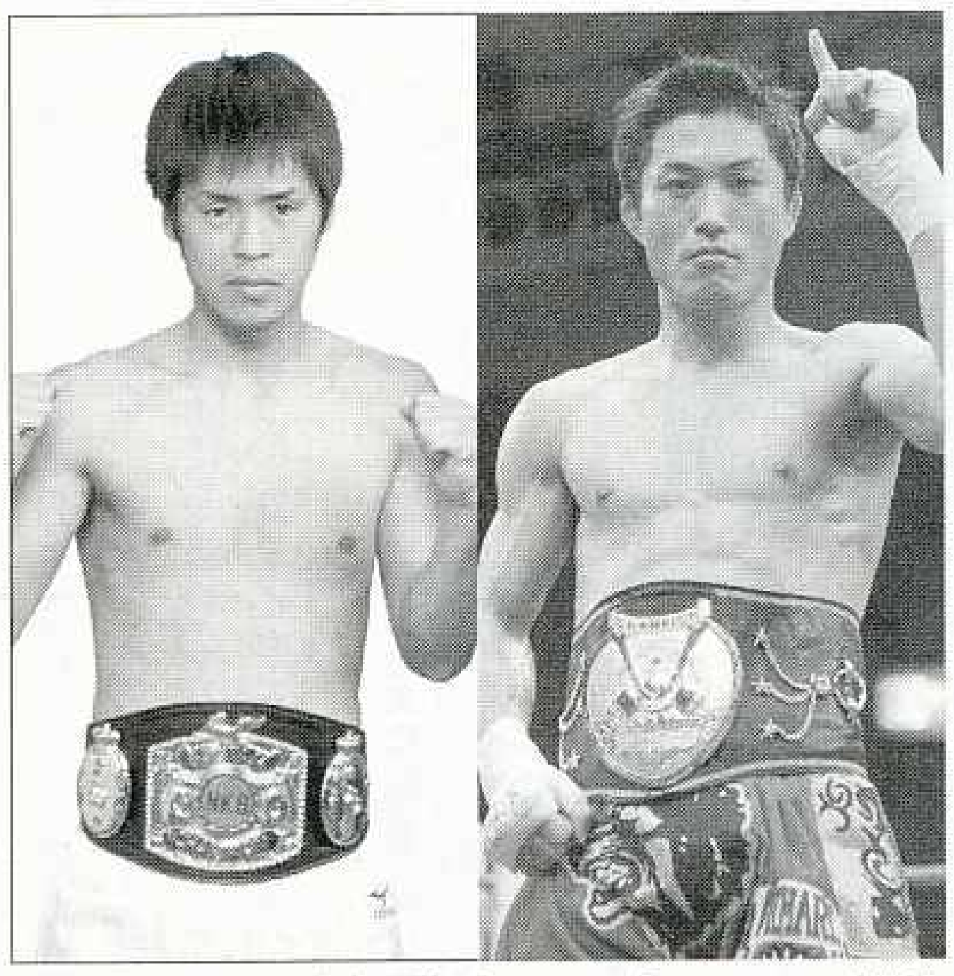
ささきぃ　ブアカーオ（ポー・プラムック）くらいのスピードはありましたね。

橋本　相手の攻撃をよけながら攻撃するのがめちゃめちゃ巧いね。最後はヒジで斬って勝って。トーナメントは3分5Rでヒジありの、一番ベーシックなキックのルールで、さっき言ったようにレフェリーやジャッジも、正直すぎるくらいに公平さを守ってるし。疑惑の判定がどうこう言われる最近、そのへんはJ-NETがエライところですよ。

ささきぃ　あとは藤原国崇の入場も必見と。

橋本　一世風靡セピアに白の長ラン、のぼりとともに入場ね。そういう頑なな世界観は、独特で面白いんだけど一見さんには、確かに何だろうと思われるかなぁ。でも、キック観戦に二の足を踏んでる人にこれだけは言っておきたいんだけど、「そんなに怖くないから」と（笑）。

【3月13日・ダブルクロスにて収録】



5月6日のJ-NET後楽園大会における『MACH 55』準決勝で実現する、NJKF・藤原国崇（写真左）と、全日本・藤原あらし（写真・右）の対決。55kg王者に最も近い優勝候補対決は、準決勝といえども、キックファンだけに独占させるのは惜しい一戦だ。

5・6 J-NETWORK

5月6日（金・祝）18:00開始予定 東京・後楽園ホール
『GO! GO! J-NET'05 -MACH 55 準決勝』

[MACH 55 First 準決勝]
・藤原あらし（全日本バンタム級王者）vs 藤原国崇（NJKFバンタム級王者）
・牧裕 三（J-NETバンタム級王者）vs 真二（NJKFバンタム級4位）

<ウェルター級タイトルマッチ 3分5回戦>
SHIN（J-NETWORKウェルター級王者/アクティブJ）
我龍 真吾（J-NETWORKウェルター級1位/ファイティングマスター）

<フェザー級タイトルマッチ　3分5回戦>
砂田 将祈（J-NETWORKフェザー級王者/M-FACTRY）
尾田 淳史（J-NETWORKフェザー級1位/アクティブJ）

<65kg契約　サバイバルマッチ1>
黒田 英雄（J-NETWORKウェルター級4位/アクティブJ）
井上 哲（マーシャルアーツ日本ウェルター級2位/山木ジム）

問：J-NETWORK 03-3419-0536（15:00〜22:00）

注目の大会・選手ダイジェスト

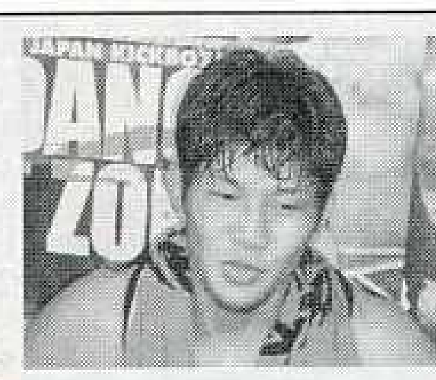
55kg級・最後の強豪（森谷吉博）が広報を務めるシュートボクシング（以下SB）後楽園3月6日大会のセミファイナルで行われた、宍戸大樹vs菊地浩一の一戦は両者ともに倒れずに打ち合う激闘の末、宍戸が判定勝利。SB日本ウェルター級王者に輝いた（写真右が宍戸、左が菊地）。

続いて緒形健一がKO勝利でメインを飾り、K-1批判の後「本物を見たければSBに来てください」とマイク。さらに「最近、土井（広之）が元気ないんで応援してください」と盟友にも気遣いを見せた。

「外に噛みつきつつ内側を活性化させる緒形はSBの秋山準だね（笑）。K-1発言のキモは『同門対決も構わない』っていう発言とか含めて、どうも最近の緒形健一はキレてるぞ、ひと味違うぞっていうところであって、批判することでK-1にカラんでいこうっていうわけじゃないと思うんだよね。そんなもの欲しげな男じゃないから。この日のSBは外国人が1人だけ、自前の選手ばかりで後楽園を超満員にして、凄い熱気を生み出した。それはSBの今後にとって大きな意味があると思うよ（橋本）」。



前回の『STAND BY ME』において、『K-1 MAX』に参戦してほしい選手として名前があがった全日本キックの山本優弥（写真）。2月23日『MAX』で前日欠場になった山本KID徳郁に代わる選手として名前があげられていたことが明らかになった。山本はKID欠場が発表された前日に広島から東京入りしたが、山本の代わりに山本、というのがややこしかったためか、緊急参戦したのは宮田和幸。「山本優弥」の存在はキック界だけでなく、K-1側にも届いていることが分かった。山本優弥は4月17日、全日本キック後楽園大会に参戦する。



これまた前回の『STAND BY ME』で、参戦してほしい選手として名前があがっていたREAL DEAL所属・“博多の悪童”裕樹（写真）。3月12日『IKUSA』お台場ドリームメーカー大会のメインで“第3の銀狼”シルバーウルフ所属の拳士と激突、ローキックで3RKO勝ちに。勝利後、裕樹はHAYATO、新田明臣との対戦をアピール。新田&HAYATO、主催者側も『スケジュール次第』とこれを了承したため、早期対戦の可能性がぐんと高くなった。



泣けたね～、「しゅうは、やさしい子だったでしょ～」。ハナ水たらしながら叫ぶ金八。ハでなくてルミナ！ ルミナのベルト巻く姿。

寝技でもスタンドでもガンガンいって、いくら優勢でも一発で展開がひっくり返りやられてしまいそうな危うさプンプンなので、ハラハラしっぱなし。スタンドの攻防のときの「ルミナ、お願いだからガードしてくれっ」との叫びが客席から聴こえてくるが、まさにそうで、みんな思いは一緒。最後までハラハラさせてくれて、見事勝利しベルトを巻くその姿に、涙腺ゆるむのはもう止められません。修斗人気をひっぱりあげた張本人なのに、いろいろ負け込み落ちていき、他の人たちは華やかなデカいメジャー大会でスポット浴びてるいま、こうして地道にやっとベルトにたどりついた姿を見て、泣かずにはいられません。本人も残り少ない現役生活って言ってたけど、もう最後は小ノゲイラとの世界戦で、佐藤ルミナの修斗人生すべてを出しきってほしい。

そんで王者の小ノゲイラ。ジョン・ホーキを完封するなんて強すぎ。真の王者ね、もう大好き。ギロチンを警戒してタックルいかないホーキでしたが、強烈なアキレス腱固め喰らって、さらに困ったんじゃないかしら？（憶測）。タックルいけない、グラウンドで下になっても足関注意で、後手後手でしたね。パスもされるし。



映画『東京ゾンビ』完成！

花くまゆうさく





こんな強くて魅力的な王者を、ふたつのメジャー大会がほっとくはずないと思うが、どうなっちゃうのかなあ。そりゃあ、vs KIDは見たいけど。ただ、ひとつハッキリ望むのは、体重が合った相手にしてほしいね。vs KIDなら問題ないけど。

3月26日は、私の好きなヨアキム・ハンセンがK－1に出るけど、TBSでハンセンの良さ、映してくれるかな。ハンセンのクレバーなグラウンドをやらせてもらえるのか、すぐブレイクさせられてしまうのか、どっちなのかな。

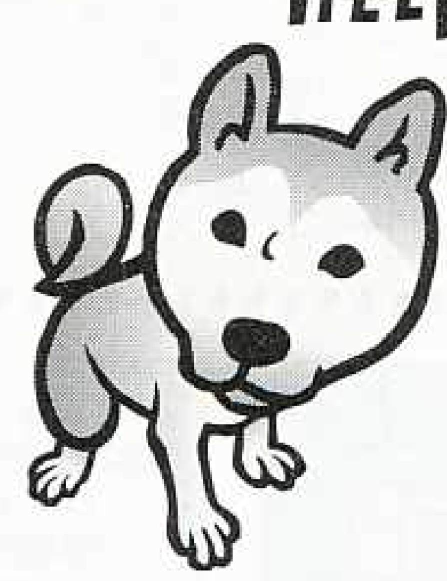
Hanakuma Yusaku

公開は冬ごろ（？）かしら。

中川画伯の絵日記
犬とTVの日々

http://chu-kichi.jp/

第6回



花粉症で正直シンドいです。
鼻も目もカユくてシンドいです。
ボーッとしちゃって
集中力ナッシング。
そんなダメダメ日記。

3月5日 TBSテレビ『バク天！』にレイザーラモン住谷正樹が出演。最高。大好き。見ると幸せになるステキなゲイ人さんですよ、フォーッ！



3月5日 フジテレビ『めちゃ2イケてるッ！』の「格闘女神MECHA」見たよ。安めぐみのDDTはジェーク・ロバーツばりに鋭角的だったニョロよ。ブレーンバスターはダイナマイト・キッドやヒットマンばりに高速。キックは左右ドッチもイケるよ！ 武蔵ばり？ 安めぐみになんて全く期待してなかったのに…。



3月6日 小平で『That's G-Rockets』を観たよ。アクロバティックな格好良いショー。GロケッツGロケッツ&ドラゴン・リリー&ドリラーズちゅう格好良いお姉さん達にウットリ♥アンタら、最高！（TAJIRI調）

3月7日 田町のジンギスカン料理店『モンゴリアン・チョップ』で桜庭和志選手に会っちゃった！ ビビって、たじろいだよ！ 格好良かったよ！ ジンギスカン美味しゅうございました。自分は看板やメニューにイラスト描いたんよ。要チェックや！



3月10日 『Mr.プロレス天龍源一郎怒りの章』ちゅうDVDを見たよ。コレ最高よ！ テンルーは相手の攻撃をモノ凄く痛がるよ。顔をしかめて、手で押さえて、足をバタバタさせるよ。コレが「Mr.プロレス」の秘訣と見た！



3月11日 与野本町で『珍しいキノコ舞踏団』を観たよ。不思議な踊りに心、踊らされたよ。

3月13日 相撲が始まると仕事が手につかないネ！ 玉春日、ガンバッテー！（ベイダー調）



3月14日 愛犬・華子が寝たきりでね。毎日付きっきりで世話してるの。やっぱり可愛いなぁ…。この18年間、ずーっと可愛いの。一日でも長く生きて欲しい！



何を書いて良いのか解らず暴走気味。ブレーキの壊れた自転車です。御指導御鞭撻願います。紙のプロレス「中川画伯絵日記係」まで。抽選で1名様にステッカー・プレゼント。

ザ・検証 REBORN

担当のチョロです。前号のせきしろさんの「2005年マット界大予想50」について読者から「あんなの俺でも書ける」っていう反響が結構ありました。そんなに自信があるなら実際、書いて送ってもらいたいものです。あれ以上のこと書ける人、絶対いませんから。

【今月の検証　椎名基樹】
サムライウォッチング

　カントナはただのサッカー選手ではない、論点だ。
　と、かつてのサッカー界のスーパースターは評されたそうだが、ならば俺達、プロレス・格闘技ファンも口を揃えて言うだろう。前田日明はただのファイターじゃない、論点だ、と。前田の復帰は様々な想像や憶測を生む。特に、今回は一度足を洗ったプロレス界に戻ってくるということで、多くの者は混乱し、混乱は解釈を自由にし、論争は沸点を高くするだろう。

　しかし、前田が何をするかは、これから楽しみにするとして、俺が好奇心にかられるのは、前田はこの3年あまり何をしていたのか？　という部分だ。大の大人というか大男の大人が、仕事もせずにどうやって時間を潰していたのだろう？（前田自身も最強の無職と自称していたそうだが）。釣りをしていた、とか、ロールプレイングゲームをしていたとか聞くが、実際そんな引きこもりのような生活をして、鬱々と恨みを倍増していたのだろうか？　暗い部屋で独りぼっちで座る、身長190センチ、体重110キロを超える、ホオジロザメのような風体の男とは、何と魅力的で想像力を喚起されることだろう！

　『ソナチネ』をはじめとする、北野武が度々映画で描く、大の大人が過ごす夏休みのような時間に、心奪われるのはなぜだろう？　他にも、心の苦しさに耐えきれず、海を渡れば何とかなるかと思い、北海道に定住し、みかん箱に板を渡して漫画を描いているという、花輪和一先生。そんな風に社会性を断ち切って、生活している男の心理が妙に気になってしまう。

　しかし、実はかくいう筆者も、36歳という年齢を考えると、自分でもビックリしちゃうような、時間を持て余すソナチネ的日々を過ごしている。そして、プロレス・格闘技好きが時間を持て余すと、ついずーーーーと見てしまうのが、ファイティングTV・サムライなのであった。

　床暖房の暖かみに寝そべって、一歩も動けなくなっていると、「ササボン、ティービー」とかなんとか、実に脱力な声が聞こえてくる。決して若くはないと思える、中途半端にお綺麗なオネーサンが、ササボンと自称している。これでもかってくらいのアップで、まったく記憶に残らない、箸にも棒にもかからないような自分の話をしている。民放であれば、なんだコレは？　と、なるかもしれないハシボーな話であるが、サムライだとわかっているから、妙に心地よかったりする。すると、どんどん俺の意識は、現実から離れていくのであった。

　『生ゴン』とかいう、プロレスのプロ野球ニュース的な番組がある。映し出す映像は人もまばらな、みちのくの地元興行。マンゴーなんとかとか、南野たけしとかいう選手が所属するサルサの3人ユニットがゲスト出演。南野選手が19歳であるということに驚きつつ、悪態をつくのでおもしろい。セクハラまがいのことをするが、それが三田さんという、これまた若くもすごーく綺麗でもないオネーチャンであるところが、ほのぼのだ。また三田さんの、いなし方も実に普通のおねえさん的で、リアルでおもしろい。

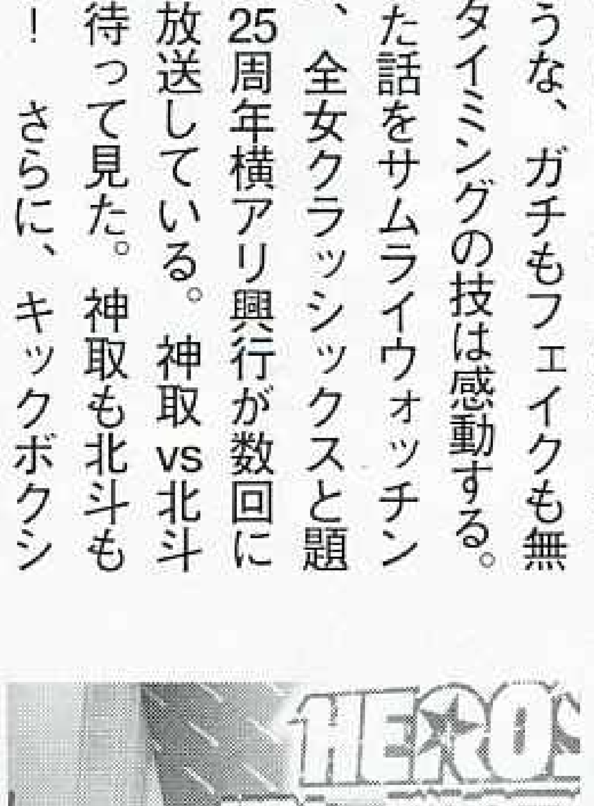
　新日の放送では、今、田中稔が悪軍に入って、カメラに向かって訳の分からないことを言うキャラをしていて驚いた（そのキャラにもコメントの寒さにも）。ここ最近は猪木の名勝負を順番に放送している。大木金太郎戦の後、猪木が泣くのを見て、ジーンとするがなぜ泣くのかよくわからない、大人の世界だ。ビル・ロビンソン戦は、大1本目を取るロビンソンの逆さ押さえ込みが見たくて、今見るにはいくぶん退屈な試合をガマンして見る。何度見てもあの逆さ押さえ込みは、すばらしい。頭から派手に落とす系の技がどんどん過激になるばかりの昨今だが、こういう丸め込み系の技を鮮やかに決めるのも見たい。これが無我の境地？

　プロレスを語る言葉で「説得力」というのがある。「説得力があるフィニッシュ」なんて風に使われる。この言葉を編み出した記者さんの言語感覚はたいしたもので、プロレスを、その競技の成り立ちを端的に表した言葉であろう。確かにプロレスは「スタントマンのメロドラマ」である。プロレスラーはスゲーと思わせる肉体の説得力が重要だ。だけど、最近の日本のプロレスはこの言葉の影響なのか、胸を突きだして一発スゲー打撃を入れられて、次は俺の番みたいなのが多くて不満だ。それはそれで面白い時もあるのだが、あまりに多いと興ざめだ。トップロープからの攻撃を受ける時も、届きそうな距離にやられる方が体をズラすのもよく見る。昔、だったら笑いが漏れたが、今はプロレスは受けであるという認識なのか、肉体の説得力が大事なのか、客はどこか納得しているように見える。この「胸出しプロレス」は日本独特で、WWEにはない。この点を見ると、日本のプロレスは「説得力」という言葉が表すように、暗黙のカミングアウトがなされているように感じる。でも、やっぱあのロビンソンの逆さ押さえ込みのような、ガチもフェイクも無い、絶妙なタイミングの技は感動する。

　さて、また話をサムライウォッチングに戻すが、全女25周年横アリ興行が数回に分けられて放送している。神取vs北斗を楽しみに待って見た。神取も北斗もカッコえ～！　さらに、キックボクシングの藤原あらし選手の強さにビックリ。さらにさらに、ちょっと前だが殺害塩化ビニールのクレージーSKBがプロレスやってんのにビックリ。派手な火炎放射をしてディファ有明の職員に「中止しろ～！」って怒られて、それに対してSKBがマイクを取って言った言葉が「お説教は後にしてくれ！」だって！　オラ、シビれたよ。

　その他、蝶野ファミリーのクリスマスパーティーを覗き、浅草キッドの番組では各ゲストの裏話にうなずき、武藤がホストのトーク番組では、トークの裏にうす～くひかれているBGMが、まったく無駄で話が聞きにくいったらありゃしないことが、腹立たしいがどこか笑ってしまったりしているのであった。そして、朝方にはキャットファイトを見て、ギャル・ユミとかいう女の子の闘いに妙に感動。なぜ、彼女はオッパイ丸出し（実に小さなオッパイ）であんな壮絶な闘いをするのだ？　あと梅宮貴子とかいう2ちゃんでは有名らしい、腕にモナーの入れ墨を入れた、暗い女の子もなぜ？　引きこもる男と同様、輝きたいのな女も、方向はまったく逆だが、同じ神経症的な理由を感じ、妙に心奪われるのであった。

　などと、サムライを見続けている時、今何か大きな事件が起こっても、ニュース速報も流れないだろうし、どんどん社会から遠ざかっていく、ああ、どんどんバカになる～と言いつつやめられないのであった。



“ロシアの鉄の爪”アラン・カラエフと腕相撲対決をする日明兄さん。サムライTVでは、こんな素敵な映像が毎日見れるんですよ!。VIVAサムライ!!



金ちゃんの MONTHLY BOYA-KING COLUMN

ドンとやってみよう!

第3回 前田さんの言葉がありがたかったからこそ自分自身の力でなんとか結果を出します!

2・20『PRIDE・29』マウリシオ・ショーグン戦で俺を応援してくれたみなさん、ありがとうございました。それから、自分では出来る限りの準備をしたつもりだったんだけど、結果が出せなくてすいませんでした。

なんかさ、いっぱい練習しても報われないことがあるんだなと思ったよね。この歳（34歳）になって単身タイに渡って、夜遊びもせずひたすらムエタイのジムで練習に打ち込んでも、結果があれじゃあしょうがない。こんなことなら俺も、どっかの〝海賊の末裔〟みたいにタイで羽を伸ばせばよかったと思うよ（笑）。

でも、試合はショーグンの様子を見てるうちに終わっちゃったからね。自分ではダメージはなかったんだけど、あの体勢になった自分が悪かったと思うしかないよね。昔の俺だったら、レフェリングにぶつくさ文句言ってたかもしれないけど、「自分が悪かった」って思えるようになっただけ、俺も少しは成長したかな（笑）。

ただ、ショーグンのあの一瞬の隙をつくラッシュは凄かったよね。俺が向こうのカウンターを避けるために後ろに倒れた瞬間、すぐフットスタンプが飛んで来たからね。フットスタンプなんか普通、助走つけたりするからモーション大きいんだから、よけられるじゃん。でも、彼のは後ろに倒れた瞬間ノーモーションだから、あれは避けられなかった。

『PRIDE』ってどんどんレベルが上がってるから、最近はなかなか奇麗にテイクダウンとか奪うの難しくなってるけど、だからこそ、シュートボクセの選手はほんの一瞬のチャンス、際を逃さない練習を徹底的にやってるんだろうね。俺は立ち技なら立ち技、寝技なら寝技でやるならショーグンに負ける気はしなかったんだけど、彼らはそれ以外の部分、立ち技と寝技の間をつくのがホントに上手いんだよね。だからこそ『PRIDE』で凄い勝率を上げてるんだろうし、逆に言うと、俺はそこが足りないんだと気付いたから、負けて悔しいけど、それを収穫にして、今度の練習や試合に活かすしかないよね。

今回は珍しくホントにコンディションが良かったんだよ。これならフルラウンド目一杯闘えるなと思ってたんだけど、そういう時に限って、俺の人生で一番短い試合になっちゃうんだから皮肉だよね。世の中うまく回らないもんだな～。3年前にリングスなくなって、ヒザの手術してから、すべてがうまくいかないよね。それに、こんなに負け込んだことないから、「次、負けたらどうしよう」「勝たなきゃ」と思いすぎて自分の動きが固くなってるかもしれないし、そういう目に見えない部分がいっぱいありそうなんだよね。

だから、ホントはもうワンランク下の選手と闘って、徐々に調子を上げていきたかったんだけど、ヒザの手術して1年半ぶりの復帰戦がミルコだからね。復帰戦でミルコなんて普通断るけどさ、あんときは1年半仕事できなくて金がなかったから、受けちゃったんだよね（笑）。イバラの道が続いてるけど、なんとか這い上がるしかないよね。

そういえば試合後、前田（日明）さんと比較的ゆっくり話をしたんだけど、嬉しい言葉もらったよ。「お前、いまなんか歯車噛み合ってないな。なんかあったら、いつでも俺がお前のこと面倒見てやるから」とか言ってくれて、ジーンときたよね。「アリスターにしても、今回のヤツにしても、お前が負けるような相手やないやろ」とか、「俺も歯車が噛み合ないときあったけど、こういう時こそ神頼みやないけど、お参りいった方がいいぞ」って前田さんらしいこと言ってくれたよ（笑）。

今の世の中「面倒見てやる」なんて言える人いないじゃん。人ひとり面倒見るなんてホント大変なことだしさ、そう考えるとやっぱり前田さんはカッコいいよね。だからといって別にこっちも「じゃあ、お願いします」って言うんじゃなしにさ、そうやって言ってくれるからこそ、自分の力で『PRIDE』で結果出して、違う形で恩返ししたいよね。

まぁ、俺もまだまだ精神的に弱いってことだよ。なんか未だに〝修行中〟って感じだもんね。だから40歳ぐらいで完成するんじゃないかな（笑）。かなりの遅咲きってことで、もう少しの間、金原を見捨てずに応援してやってください。お願いします！

Kanehara Hiromitsu

本音炸裂コラム毎日更新中！
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/



特集

連鎖する前田イズム

"一気進展"

高田道場を退団! 再び前田日明の元へ——!!





今年2月に高田道場を電撃退団したヤマヨシこと山本宜久は次なる闘いの舞台として前田日明がスーパーバイザーを務める『HERO'S』を選択。前田も「面倒は俺が見る」とリングス・ジャパン復興を宣言。かつての師の元へ駆けつけたヤマヨシに久々に話を聞くと、その口から衝撃のカミングアウト発言が飛び出した! "一気進展"したヤマヨシは何を考える……!?

聞き手/松澤チョロ
撮影/福島勝儀
designed by matsu (TwoThree)

山本宜久

[リングス・ジャパン]

—お久しぶりです! いま、いろんな意味で話題になっている山本さんですが……。

山本 (遮って) 誰が? 俺?

—山本さんしかいませんよ (笑)。

山本 でも知ってるでしょ、話さなくても。

—いやいや、全くわかりませんよ。なんで高田道場を辞めたのかとか、前田さんと一緒にやることになったのかとか。

山本 そうなの? 知ってるでしょ? (笑)。

—ホントにわかりません (笑)。で、上井さんの説明によるとリングスジャパンに再入団したということみたいですね。

山本 そうなの?

—そうみたいですよ (笑)。

山本 前田さんって3年間表に出てなかったじゃないですか? で、今年になって業界に復帰したっていうのも、週刊誌の表紙になってるとかも知らなかったし。

—ここ最近、雑誌関係は見てなかったんですか?

山本 もう、『紙プロ』を筆頭に、ここ一年ぐらい一切見てなかったですね。

—『紙プロ』を筆頭にですか (笑)。それは具体的に何か理由はあるんですか?

山本 俺が載ってないから (笑)。

—そういうことですか (笑)。まあ、ここ最近は、ぶっちゃけリング上であまりいい結果を残せてませんでしたよね。

山本 そうだね。やっぱり、俺らの仕事っていうのはね、リングに上がって表現して、ファンに夢と希望を与えるってことだから。そういう意味では、ここ最近は、その舞台に出てないしね。

—いま、体調的にはどうなんですか?

山本 腰が痛い。ギックリ腰で (苦笑)。

—ギックリ腰で『HERO'S』に出れなくなったとかもあるんですか?

山本 わかるでしょ? (ニヤリ)。



ヤマヨシ、衝撃告白！「俺はガンだった……」

――だから、わかんないですよ！（笑）。

山本　俺がどういう状況にあるかわかるでしょ、『紙プロ』にいたら（笑）。

――わかる部分もありますけどね（笑）。

山本　ハハハハハ！　話は戻るけど、前田さんがこのタイミングで出てきたわけだけどさ、俺は去年まで辞めるとか、そういうのは一切考えてもなかったしね。

――ということは、年が明けて自分の中で変化が出てきたって感じなんですかね。

山本　そうですね。でも意図的に何かあったとか、そういうのは全くないんですよ。

――タイミング的には前田さんから誘いを受けて、引き抜きじゃないですけど、そういうふうに勘ぐる人も中にはいますよね。

山本　だけど、俺は辞めたときっていうのは、次にどうするかとか、全く考えてなかったですからね。

――その辺は、ある意味、山本さんらしいというか（笑）。

山本　それはどうかわかんないけど、辞めた後っていうのはね、どういうビジョンっていうか、みんなセッティングじゃないけど、そういうのをやって出て行くわけでしょ。

――まあ、なんだかんだいって、次を決めてから動くっていうのが普通ですよね。でも正直、不安もあったんじゃないですか？

山本　不安はないッスね。とにかく前向きだからね。辞めたから、次どうしようっていうのは全く考えてなかったし。だから、川の流れじゃないけど、流れに沿って、前田さんと一緒にやるってことも運命かなって。でも3年前、リングスを辞めたときのことを考えると、まさかこういう形で再会するっていうのは全く考えてなかったですからね。だからホント、運命かなと。

――前田さんは会見でも言ってましたけど、ちょくちょく連絡は入れてたみたいですね。

山本　そうですね。たしかに、ちょくちょく連絡はもらってたんですけどね、僕は一切連絡取らなかった時期もあったんでね。そういう意味じゃ、やっぱり、師に対して、そういう行為をしてるっていうのを自分自身わかってるし、こっちからも一切連絡しなかったんですよ。



3月11日、都内で行われた『HERO'S』会見へ、上井文彦氏、前田日明と共に出席した山本宜久。上井氏は「次回大会で山本選手にふさわしい相手を探してきたい」と、次回『HERO'S』へのヤマヨシ参戦を発表。久々に報道陣の前に姿を現したヤマヨシは「高田道場を退団した後、前田さんからお話をいただいてリングスを復興すると聞いて、自分にとってリングスは1から10まで格闘技を教えていただ場所なので初心に戻ってやろうと」と挨拶



――それは意外ですね。実際、久々に会ったのはいつぐらいになるんですか？

山本　会ったのはね、まあプライベートなんですけどね、去年、僕は盲腸やって、そこが腸閉塞になってね、死の一歩手前まで行ってたんですよ。

――え、そんなに危なかったんですか？

山本　腸閉塞っていうのは、泥沼状態になるんですよ。腸と腸がくっついて、そこが腐っていって、で、結局、メスで開いて腸を治してもすぐにくっついちゃって。1週間ぐらい管入れて、まあ汚いけど、腸からウ●コ垂れ流しでさ（笑）。

――そんなことがありましたか（笑）。

山本　それで、吸い取ってもらってさ、ちゃんと機能しなかったらまた手術って言われたんですよね。それが1年半以上前の話なんですよ。そしたら、その盲腸の手術した病院がヤブだったんだよね（苦笑）。

――行きつけの病院じゃなかったんですか？

山本　行きつけじゃなくて。なんか、お腹痛いなぁって思って病院行ったらさ「胃炎ですね」って言われて。その日は胃薬もらって帰ったんですけど。で、一日経ってもなんか痛みが引かなくて、冷や汗垂らしながらも、我慢せなアカンって思ってて。やっぱり、胃炎って言われたらさ、なんか神経痛っぽくて嫌やろ？（笑）。

――らしくはないですよね（笑）。

山本　そういう柄じゃないでしょ。でも、冷や汗止まらないし、もう我慢出来なくなって。で、違う病院行ったら「盲腸ですね」って言われて。でも、盲腸って、いま薬で散らせるじゃないですか？　だから、簡単に考えてたんだけど、点滴やってもらってもなかなか散らなくて、そのまま入院しちゃって、こりゃもう切らなアカンみたいな話になって。で、フタを開けてみたら、盲腸の端からウ●コが漏れててさ、中を洗浄して、また縫い合わせたんだけど、一週間経っても、おならが出ないんですよ。

――盲腸は、おならが出たら治ったと言われてますからね。

山本　でも、おなら出ないんですよ。それで「うわ～」っと思って、医者は「腸と腸がくっついてる。このままじゃ、腐っちゃって死んじゃいますよ」って言ってるし。

――凄いことになってたんですね。

山本　で、一週間、管通してウ●コ垂れ流しにしてたんだけど、これがね、上手い具合にいってね。医者からは、もう一回手術したら危ないって言われたんだよね。腸閉塞で亡くなる人って結構多いでしょ？

――たまに聞きますよね。

山本　それから1年ちょっと経ってスパーリングしてるときにさ、戦闘竜っているでしょ？　アイツをね、下から引っ繰り返そうと思ったら「ブチッ！」って言ったんですよね、腸が。

――うわ～ッ！

山本　で、夜になったら、傷跡がブヨブヨしてきたんですよ。なんか出血しちゃって、その後、血便が出ちゃったんですよ。

――ま、また血便ですか⁉

山本　そうそう。去年の8月ですよ。「俺、血便出るような練習してないのになぁ」って思ってたんだけどさ（笑）。

――身に覚えがなかったと（笑）。

山本　そうそう（笑）。で、病院行ったら、盲腸のヘルニアみたいなのになってるって。俺、腰のヘルニアは持ってるんだけど、盲腸のヘルニアって言われてさ。結局、そこで手術して、大腸検査したんだよ。お尻にコーラ瓶みたいな管を入れるんだよね。し

かも2メーターぐらいだよ。そんなことやったことないでしょ？

――残念ながらありません（笑）。

山本　俺も生まれて初めて。そしたら、ポリープが腸に3つぐらい出来てたんですよ。で、そこの1つから出血してたね。

――かなりヤバいんじゃないですか？

山本　いまだから言えるっていうか、ちょっとカミングアウトするけど……実はガンだったんですよ。

――エエエ～ッ!?　それは初耳ですよ！

山本　これは悪性の腫瘍だから取らなきゃヤバイよ、と。でも悪性からは出血しなくて良性から出血してたんですよ。だから、医者からも「運がいいですね。普通はそういう症状出ないんですよ」って。結局、悪性のガンを根こそぎ取っちゃって。一ヶ月ぐらい入院してましたけどね。

――一ヶ月で退院出来たんですか？

山本　そうそう。でも、もし血便が出てなかったら大腸検査してないし、3年後とかには危なかったと思いますよ。若いから転移も早いだろうし。

――血便が病気を教えてくれたんですね。

山本　そうそうそう。良性の腫瘍がね。そういう意味では、凄く運がいいんだよ。

――ある意味、戦闘竜さんのおかげでもありますよね。

山本　そうだね。で、話は前田さんに戻るんだけどさ。

――また、一気に戻りましたね（笑）。

山本　共通の知り合いから前田さんの耳にもガンだってことが入って、電話がかかってきたんですよ。「お前な、なんも心配しなくていいから。ガンでも大丈夫なんや」って言ってくれてね。

――前田さんらしい言い回しですね（笑）。

山本　でしょ。「お前、放射線治療やってんのか？」って。「放射線治療とかじゃなくて、悪性の腫瘍全部根こそぎ取りましたから大丈夫ですよ」って言ってるんだけど「いいから。心配しなくていいから」って（笑）。

――前田さん流の激励のメッセージだったわけですね（笑）。

山本　それで、何年かぶりに話をしたんですよね。「お前ね、ウジウジ考えててもしょうがないから、ちょっと気晴らしに海でも行こうか？」と。海に行けば余計なことも考えないから釣りでもしようってなってね。前田さんと釣りに行くのは初めてだったんですけどね。

――一緒に釣りに行ったときは、前田さんの方も今回のようにマット界との接点もなかった時期ですよね。

山本　全くなかったですね。まさか、そのときは上井さんと前田さんがこういうふうな感じになると思わなかったし。

――でも、盲腸やら、ガンやらあって、ここ数年はベストな体調で試合に挑めなかったって感じなんですかね？

山本　いや、それは全く関係ないことですよ。結果出ない云々っていうのは、やっぱり勝負事だから。リング上っていうのは自分の実力とか全部表現する場ですから。僕がそこで表現できなかったっていうのは自分の責任だし、体調云々とか、そういう問題じゃないですよ。



今回、また前田さんと一緒にやるってことも運命かなって

まあ、いいこともありゃ悪いこともありますよ。

——今後は、前田さんの元で『HERO,S』を主戦場にしていくわけですよね。

山本 まあ、そうですね。前田さんの考えもあるけど、リングスの復興を目指してやっていきたいと思ってるし、あと、いまの若い人たちにとって格闘技の発信地はリングスだって言う人は多いと思うしね。

——いまの20代ぐらいの人は多いでしょうね。

山本 リングスから、いろいろ枝分かれして総合がいま脚光を浴びてるじゃないですか。やっぱり、3年前にバラバラになったけど、残していかなきゃいけなかったっていう思いもあったし、今回こういうタイミングでね、またなんかの形でリングス……まあ、名前は違うかもしれないけど、闘いの場っていうか、表現する場っていう意味では一緒だと思うしね。そこは自分らが夢と希望を次の世代へとバトンタッチをしていかなきゃいけないって思ってますね。まあ、『HERO,S』に関わらずね、『WRESTLE―1』っていうのもあるみたいだしね。

半端じゃないよ。顔をパンパンにしばくから

——『WRESTLE―1』っていう舞台にも山本さん的には興味があると?

山本 俺はプロレスは出来ないんでね。それに、まだどういう感じでやるのかもわかんないんだけどね。

——前田さんいわく、いまのプロレス界はおちゃらけてると。で、俺がやらせるんだったら、顔面が腫れるぐらいの試合をしてもらいたいと。

山本 そんなん、ボコボコになってリングを降りるって当たり前のことでしょ。

——山本さん的には当たり前かもしれませんけど、いまのプロレス界では、そういうシーンは、あまり見られませんからね。

山本 やっぱり、前田さんはプロレスから入って一通り全部経験してますから、発言権があるのかもしれないけど、僕は格闘技から始まってますからね。そういう意味では、そういうのは全くわかんないし否定も肯定も出来ないですね。

——ただ、プロレスって言ってもいろんな意味で捉えられるじゃないですか? リングスもある意味プロレスだっていう見方もあるし、もちろん格闘技っていう見方もあるわけですけど。

山本 そうだね。

——田村さんがいまやってるU―STYLEはプロレスって言ってますけど、山本さん的にはプロレスはできないし、やったことがないという感覚なんですか?

山本 まあ、できないっていうと言い方がおかしいかもしれないですけど、自己表現する場っていうのは一緒だと思うんですよね。だから、格闘技にしろ、プロレスにしろ、エンターテインメントと付く場であるんだったら、何をお客さんに訴えるかってすっていうのは、あんまりカッコ付けると難しいからね。泥臭いものだと思うし。

——ファンとかの間でも「ヤマヨシは『PRIDE』で、いい結果が残せなかったからK―1の方に行ったんじゃないか」っていう厳しい意見も出てるんですよ。そう言われることに関してはどう思います?

山本 そういうのは別に俺は気にしないし。そういうカテゴリーにはめられるっていうのも嫌だしね。やっぱり、自分が好きなことをやるっていうだけだからね。

——ちなみに、山本さんがこれから目指すものっていうと何になるんですか?

山本 具体的に何がっていうより、自分を自分らしく表現するってことですよね。だから、自己表現ができる相手だったり舞台であれば、いいと思うしね。結果的にそれが、お客さんの興味を惹けば見に来てくれるだろうし、興味なけりゃ来ないだろうし。それを惹きつけるのも選手個人個人だと思いますね。

——会見で、前田さんが言ってましたけど、高田道場時代は急なオファーとかもあって、ちょっと不満を感じるようなマッチメークもあったと。

山本 それはないですよ。

——え、ないんですか?

山本 ないない。いる間はよくしていただきましたから。

——でも、高田道場を辞めて、前田さんのところへ行ったら、みんな、いろいろと勘ぐるとは思いますよ。

山本 わかりやすく言うと「あなたはなぜ、いまの会社を辞めて、同じ系列の会社へ行くんですか」って聞くのと一緒ですよ。

——言えないとかあるんですか?

山本 ゴチャゴチャ言うなって。人生いろいろって言うでしょ。結局は個人ですからね。読者とかにどう取られるかっていう、ちっちゃいことは俺は気にしないしね。金玉ついてるんだからさ（笑）。

——立派なのがついてますからね（笑）。

さらば『PRIDE』?
ヤマヨシ『PRIDE』全戦績



2001.9.24 PRIDE.16 大阪城ホール●TKO（1R 11秒）

vsアスエリオ・シウバ

『PRIDE』初参戦のヤマヨシ（当時ヤマノリ）は前田の『キャプチュード』で入場! しかし“大きいシウバ”ことアンデウソンの開始早々のラッシュで惨敗。わずか11秒という『PRIDE』史上に残る秒殺劇となってしまった。



2001.12.23 PRIDE.18 マリンメッセ福岡○腕十字固め（1R1分43秒）

vsヤン・“ザ・ジャイアント”・ノルキヤ

K-1の大巨人ノルキヤを腕ひしぎ逆十字で斬って落とし、前回の汚名を挽回したヤマヨシ。マイクを握ると「髙田道場に入り、イッキシンテン、これから一歩一歩確実に結果を出していきます!!」と伝説の名言が飛び出した。



2002.4.28 PRIDE.20 横浜アリーナ●レフェリーストップ（1R2分44秒）

vsボブ・サップ

もはや伝説となっているサップの日本初試合。正面からブツかってしまったヤマヨシは、サップの大振りパンチの餌食になってしまう。今でこそ弱点だらけのサップだが、当時は規格外のパワーで格闘技界を震撼させた。



2002.9.29 PRIDE.22 名古屋レインボーホール●3R判定（0-3）

vsガイ・メッツァー

メッツァーの打撃を攻略できないヤマヨシ。なかなかグラウンドに持ち込めず徐々にダメージが蓄積されていく。お互い決定打がないまま試合が進み、打撃でポイントを稼いだ“膠着大王”メッツァーが判定勝利をモノにした。

山本　そう。二個もついてるんだから（笑）。だから、男はクヨクヨちっちゃいことは言っちゃいけないんだよ。

——はい、わかりました。

山本　あとはね、最初に言ったように、一年ぐらい雑誌関係は一切見てなかったからね。だから、前田さんが専門誌の表紙になってるって知り合いから聞いて見たんだけど、ホント自分は浦島太郎でしたね。

——なんで前田さんが載ってるんだろうと。

山本　そうそう。いまの状況はこういう感じになってんだなみたいな。ホント、状況は一気進展じゃないけどね、一気に進展してるわけじゃないですか？

——出ました、一気進展！　退団した際の山本さんのメッセージにも〝一気進展〟って入ってましたけど完全にヤマヨシ語になってますよね（笑）。

山本　言葉っていうのはさ、誰かが発言しないと生まれてこないでしょ。でしょ？

——そういうことになりますよね。

山本　だから、辞書とかにいっぱい言葉とか載ってるけど、じゃあ、それを作った人は誰かっていったら、どっかのお偉いさんが言って、それが載ったりするわけでしょ。昔の偉い人がなんか言うことによって、それが語り継がれていくわけでしょ。だから、何かを始めようとかさ、何か新しいものをしようとしたときに、やっぱり一歩を踏み出さないと。

しばき合いっていうんだったら、もう半端じゃ

——何かをマネするんじゃなくてオリジナルで勝負すると。

山本　オリジナルじゃないと人間ダメでしょ。性格も違うのにさ。みんな金玉も違うんだからさ。

——たしかに違いますね（笑）。

山本　〝一気進展〟だって、俺はアホの子供じゃないんだから、決して間違えて言ってるわけじゃないんだから。

——でも、ぶっちゃけ最初は間違えて言ったんじゃないですか？　たしかノルキヤ戦に勝った後のマイクアピールで飛び出したわけですけど。

山本　あのときって、一気に進展したでしょ。状況が変わったでしょ。リングスを退団したっていうのも、「え〜！」みたいな感じだったと思うし。そういうことをわかりやすく言葉にしたんだけどね。みんな、俺のレベルに付いていけなくて、「あれ？間違えたんじゃないの？」みたいなね、そういう目で見られたんだけどね（笑）。



——あのときは意識して言った言葉だったと。

山本　お前ら俺のレベルに付いて来いって（笑）。

——アハハハハハ！　山本さんが出るかどうかは、まだわからないということですけど、『WRESTLE—1』に出場予定の柴田選手とか村上選手って、どんな印象があります？

山本　俺は知らないんだよね。

——その2人だったら総合の経験もありますし、山本さんと闘ったら面白い試合になりそうな気はするんですけどね。バチバチのしばき合いが見れるんじゃないかなって。

山本　しばき合いっていうんだったら、もう半端じゃないよ。俺がやるんだったら顔はダメダメ、ボディボディ（by三原順子）じゃないけどさ、顔をパンパンにしばくから。

——顔が腫れるぐらいじゃすまないと。

山本　そりゃそうだよ。でも実際、前田さんの考えてるプロレスの方向で行くのか、行かないのかっていうのもわかんないし、自分の中にはやっぱり譲れない線はあるから。それは曲げれないしね。

——98年に後楽園でやった田村戦とか、ああいう試合を、もう一度見たいですよ。

山本　なんかやったっけ？

——もう忘れてるんですか？　もの凄く盛り上がった試合があったじゃないですか。

山本　ああ。でも後楽園より、一回目にやったときの方が思い出がありますね。

——福岡でやった試合ですね。

山本　お互い意地の張り合いで。ああいうのは面白いだろうね。ムキになってやり合ってたしね。

——プロレスをやるんだったら、前田さんもそういう試合が見たいんだと思うんですけどね。

山本　そういうギリギリの線でさ、越えちゃいけないとか、これまずいなっていうギリギリの線でやってたから、お客さんも面白かったって言ってくれたんだろうし。お互いにムキになってやり合うのは面白いよね。

——そういう何が起こるかわからないような緊張感のあるプロレスは見たいですよね。

山本　まあ、簡単なことなんだけどね。やられたらやり返せばいいだけだから。要は意地だよね。やっぱり、やられっぱなしは嫌でしょ。

——そうですね。でも簡単なことなんです



2002.12.23 PRIDE.24　マリンメッセ福岡○2R終了ドクターストップ

vsアレキサンダー大塚

ノルキヤ戦から勝ちのないヤマヨシと、ファス撃破という金星の貯金を使い果たした感のあるアレク。生き残りを掛けたサバイバルマッチは膠着した上、アレクの負傷でドクターストップ。不完全燃焼な内容にブーイング!



2003.11.9 PRIDE.GP2003　東京ドーム●裸絞め（3R2分29秒）

vsヒース・ヒーリング

前回の膠着試合の影響か、約1年ぶりの試合となってしまったヒース戦。ブルファイター同士の迫力ある展開で、ヤマヨシの『PRIDE』ベストマッチといえる内容だったが、他の試合があまりに凄すぎて残念ながら凡戦扱いに。



2004.2.1 PRIDE.27　大阪城ホール○TKO（1R40秒）

vsマーク・ケアー

約3年ぶりに『PRIDE』に復帰したケアーは開始早々、タックルを決めると、そのままDDTの形で頭から突き刺さり自爆KO。試合後、ヤマヨシは「プロレスラーだからDDTが出た」「相手は心が折れてた」など暴言三昧。



2004.2.15 PRIDE武士道 其の弐　横浜アリーナ●KO（1R2分12秒）

vsミルコ・クロコップ

ケアー戦後のヤマヨシの暴言でDSEが組んだ制裁マッチ(?)。ミルコ、ヤマヨシともに前回からわずか2週間で試合に臨んだ。ミルコの強烈なローに対し笑顔で応え余裕を見せたヤマヨシだったが最後はミルコの打撃に轟沈。



2004.5.23 PRIDE武士道 其の参　横浜アリーナ●2R判定（0-3）

vsチェ・ム・ベ

同僚・今村のリベンジマッチとして臨んだム・ベ戦。打撃はヒットするも〝不沈韓〟を倒せないヤマヨシ。一方ム・ベはジャーマンでヤマヨシを投げ、グラウンドでもポジショニングで上回りフルマークで消耗戦を制した。

かね。

山本　難しく考えると難しくなっちゃうんじゃない。だから、当たり前にしたらいいじゃないですか？

——山本さんが、もし『WRESTLE—1』に上がるにしても、『HERO'S』に上がるにしても、同じ闘い方しかできないって感じなんですか？

山本　う〜ん、根本的なものはそうだよね。ほら、中途半端にやろうとすると、中途半端に終わっちゃうでしょ。

——そうですよね。前に行われた『WRESTLE—1』でのホーストのプロレスとか中途半端な試合になっちゃいましからね。

山本　あんな、おちゃらけやってもしょうがないでしょ。高いお金払って見に来てるわけですから。やっぱり、何を求めてるとか、そういうのを敏感に察知してさ、自己表現していかないと厳しいと思うよ。ファンにナメられちゃおしまいでしょ。

——それはダメでしょうね。

山本　あんなの俺でも出来るって思われたらおしまいでしょ。やっぱり等身大になっちゃダメなんだよね。出来ないことを夢として、自分らがヒーローとして自己表現してかなきゃいけない場所だからね。

——うまくヒーローにつなげましたね（笑）。



山本　ちゃんと考えてるからね（笑）。一般の人に「俺でも出来る」って思われたら高い金払って見に来ないでしょ。卵さぁ、一回20個食うとかさ、五食で百個食ったりしないでしょ？

——さすがに卵百個は食べませんね（笑）。

山本　でしょ。そういうことするっていうのは、やっぱり凄いでしょ。そういうことしなきゃダメなんですよ。

——山本さん的には、いまでもそういう食生活を送ってるわけですか？

山本　そう。いま、一日七食食ってるから。

——一日七食！　しかも卵は百個？

山本　そう。だって目玉焼きとかさ、一回20個が基本だからね。普通は食べても3つとかでしょ。

——それぐらいなら食べれますけどね。

山本　俺は20個だから。みんな最初は目が点になってたけどね。それに、プロだったら、やっぱり人が出来ないことやらなきゃ。

——それはありますよね。あれ⁉　山本さんって、いくつになったんでしたっけ？

山本　いま33。

——あれ、いつの間にかボクと一緒の歳になってましたか（笑）。

山本　……最近、年を聞かれたら一歳ずつごまかしていってるんだけどね。ホントは今年34になるんだけど、まだ心は子供だから（笑）。

——いつまでも少年の心を持ってると（笑）。

山本　そうそう。でもホント子供だからね。大人になりきれない部分もあるし、今回みたいに、なんか突拍子もないことをやってしまうっていうか、何も考えず出てしまうっていうね。普通の人から思えばバカだなぁって感じだと思うんですよ。

——まあ、トンパチっていうのは昔から有名でしたからね（笑）。

山本　トンパチかなんかわかんないけどさ、バカだなって思うかもしんないけど、バカにならないとさ、何も出来ないでしょ。

——猪木さんのように、馬鹿になれと。

山本　全部さ、電卓はじいて計算してとか、そういう生き方もあるかもしんないけど、そういう生き方を俺はいままでしたことないからね。人の生き方をマネするんじゃなくて、やっぱり自分の生き方を貫き通さないとさ、自分じゃなくなるしさ。

——山本さんが電卓はじいてるのは想像つかないですよね（笑）。

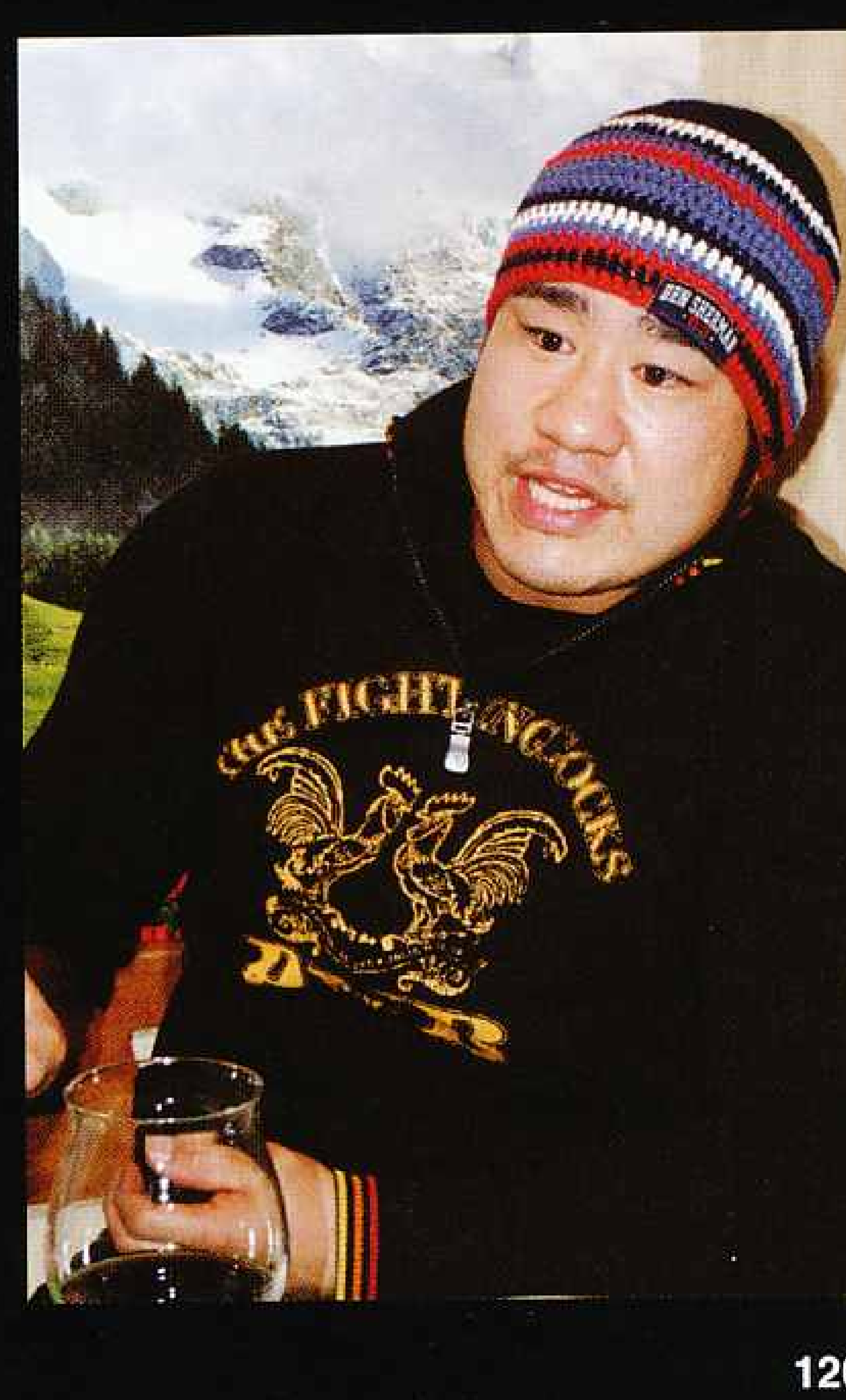
山本　電卓っていうか、頭ではじくわけでしょ。こういう感じでこういう風にしたらいいんじゃないかなと。でも、そうじゃなくてさ、必ず自分がピンチに立ったときはチャンスが来るから。だからホント、ピンチの後にはチャンスが来るっていうのはそういうことですよね。でも、チャンスの後には必ずピンチが来るんだよな、俺（笑）。

——アハハハハハ！　前も言ってたことがありましたけど、ヒットを打つよりもホームランか三振を狙いたいって。

山本　だから、三振かホームランしかないでしょ。ヒット打っても、それはそれで凄いかもしれないけどさ、他の人はそういうスタイルでいいかもしれないけど、自分はそういうスタイルじゃないからね。それに、みんながみんなが同じ顔だと面白くないでしょ？　性格だって違うし、いろんな人間もいるし、考え方もあるだろうし。そういう自分の色を出していきたいよね。

——三振するにも見送り三振じゃなくて、長嶋さんみたいに豪快にバットを振り回したいと。

山本　いや、そんな雲の上の人と比べるの



前田日明のリングス引退マッチの相手を務めたヤマヨシ。血しぶきが飛び散るシバキ合いは“顔面が腫れ上がるプロレス”と呼ぶに相応しい展開に。判定で敗れはしたが、内容はヤマヨシが圧倒。事実上、前田越えを果たした。



はおこがましいけどね(笑)。やっぱり、俺らしく生きていくっていうのがエネルギーになるしさ。そういう困難もなしに順調にいくっていうのも、それはそれでいいのかもしれないけど、なかなか、そういう人生っていうのはみんながみんな歩めるもんじゃないでしょ。前田さんにしたって一時代を築いた後に、3年間も潜伏してたんですよ。

——そういうことになりますよね。

山本　3年間って、どれだけ長いことか。

——僕だったら、間違えなく食えなくなって、とっくに死んでるでしょうけどね(笑)。

山本　3年間家に引きこもってたら普通、鬱になっちゃいますよ。そのピンチをチャンスを変えたっていうかね、大チャンスに変えたっていうのは、前田さんはそういうものを引きつける運があると思うしね。

——あるでしょうね。

山本　そういうのは持って生まれた使命感とかさ、そういうのがあると思うし。そこで終わる人は終わると思うんですよね。

——格闘家でも、そこで終わっちゃう人って何人もいますからね。

山本　そうでしょ。自分自身は、こうやって前田さんとさ、やるなんて考えたこともなかったですからね。みんなは裏があるんじゃないかとか勘ぐるかもしれないけど、全くないんですよ。

——自分自身が驚いてるぐらいだと?(笑)。

山本　驚きはしないけど、やっぱり好きだからね、前田さんのことが。好きっていうのがどっかにないとさ、離れても長距離恋愛しても、別れてもお互いに好きっていう部分があれば、またくっついたりすることもあるじゃない? でも、心底憎んだりしてしまうとくっつきようがないでしょ。恋愛にたとえると。まあ、そんなこと言ったら、「なにメルヘンチックなこと言ってんや」とか、「お前、ロマンチストの悲劇のヒロインじゃないぞ」って言われるかもしれないけどさ(笑)。



Uインターからリングスに移籍した田村に対し、生え抜きのヤマヨシは露骨にライバル心を燃やす。意地と意地がぶつかり、殺るか殺られるかの緊迫感溢れるその内容は、上井氏が理想とするプロレスの姿といえるだろう。

——前田さんじゃないんですから(笑)。

山本　そろそろ終わり?

——え、何か予定でも入ってるんですか?

山本　いやいや、こんなんでページ埋まるのかなって思って。

——全然大丈夫ですよ。

山本　俺、なんもしゃべってないよ。

——衝撃のカミングアウトもしてもらいましたし、前田さんとの関係も話してもらいましたし、オッケーです。

山本　なに、カミングアウトって?

——ガンを告白したじゃないですか?

山本　それカミングアウトでもなんでもないよ! 事実なんだから。まあでも、生きてるっていう素晴らしさとさ、自分は好きでこの仕事をしてるっていうことを伝えたいしね。いまさら、ウジウジ考えてもさ、しょうがないでしょ?

——そうですね。

山本　なんも怖いもんないよ。ガンを克服したんだから。だって死っていうほど怖いもんないでしょ。大体、死っていうのは経験したら終わりだしね。

——まあ、そうですよね。

山本　そういう局面に立たされたからこそ、人間、死ぬっていうのは怖いことなんだなってわかったし、だから簡単に死ぬ気で行くとかさ、そういうことは簡単に言えることじゃないんじゃないって。何が何でも生き残るっていう、そっちの方が凄いことであってね。勇気がいることだから。でしょ?

——死ぬ気で行くっていうのは格闘家がよく言いがちな言葉ですよね。

山本　みんな軽く言うでしょ。じゃあ、お前、その状況になったことあるのかって。でしょ。生きるってどれだけ大変かっていうね。それがやっぱり使命感ですよ。……

——いいこと言いましたね(笑)。

山本　いいこと言ったなぁ(満足げ)。

——ガンっていうものを根こそぎ取っちゃったからこそ、いまがどんなに素晴らしいかっていうのがあるわけですよ。

——経験した人じゃわからないことですからね。

山本　そう。好きなことやって、自己表現出来て、お金を稼いで、夢を与えて、そしてもちろん希望も与える。それは素晴らしいことだよね。だからまだ俺には使命感があるから、発見されたわけであって、やるべきことはまだたくさんあるんですよ。だから、ファンの『HERO'S』にならないといけないんですよ。

——そこで『HERO'S』ですか? 素晴らしい締めですね(笑)。

山本　とにかく、これからは前田さんと一緒に“一気進展”頑張りますよ!

【3月11日/東京・目黒「イタリア料理 イルフィオレ」にて収録】



今日はよろしくお願いします!

僕の理想のプロレスと前田さんの考えてるプロレスは近いと思う!



「詐欺師のような目をしている」と草間社長に対し名言を吐き、新日本プロレスを退団した柴田勝頼。その後は信頼する上井文彦氏が新たに立ち上げた『WRESTLE-1』へ参戦表明し対戦相手には長州力を指名した柴田。前田日明からも期待をかけられている、この男の素顔に迫る!



聞き手／松澤チョロ
撮影／丸山剛史
designed by matsu (TwoThree)

“烈士徇名”
柴田勝頼

——今日はよろしくお願いします!

柴田　お願いします!

——早速なんですが、ウチの雑誌は新日本プロレスさんとは縁がないもので、辞めた選手しか出てもらえないんですよ。で、この度、柴田さんが新日本を辞められたということでお話を聞かせてもらえればと思うんですが、『紙プロ』ってご存知ですか?

柴田　知ってます。僕が新日本に入門したときに、無造作に道場に置いてあったんですよ。そのとき、ちょうど前田さんが載ってて、たしか、革ジャンに白いマフラー付けてたヤツで。それは覚えてますね。

——たぶん、それは創刊号で、前田さんが坂井三郎さんと対談したときですね。

柴田　でも、そんなに毎回読んでるってわけではないです。僕、『紙プロ』に出てなかったですからね(笑)。

——柴田さんというか、新日本全体が出ませんからね(笑)。というわけで、柴田さんのことをあまり知らない『紙プロ』読者のために今回は「柴田勝頼とは何者なのか?」といった感じでインタビューさせていただければと思っています。まずは、プロレスラーになろうと思ったのは何歳ぐらいからなんですか?

柴田　凄い遡りますけど、やっぱり小さい頃から親父(柴田勝久)がレフェリーやってたんで、プロレスっていう環境がもの凄く近くにありましたからね。その頃って、まだプロレス中継も金曜8時とかにやってて、あまり内容はわからなかったんですけど、小さいながらにタイガーマスクとかを見てた感じですね。

——25歳でタイガーマスクを見てたっていうと三沢タイガーですかね?

柴田　いや、初代タイガーですね。全日本は全然見てなかったんで。それで小学生の

※烈士徇名＝筋道を通すしっかりとした男は金や地位にこだわらず、名誉のために命も懸けて闘うこと

頃は夕方『ワールドプロレスリング』を見ながら、腕立て伏せとかしてましたね。

――そのときぐらいから漠然とプロレスラーになるんだと思ってたんですか。

柴田　いや、もっと前です。幼稚園の頃から、自分は多分プロレスラーになるんだろうなって思ってたんで。でも中学校になってプロレスを見なくなったんですよ。

――何かきっかけでもあったんですか？

柴田　小学校の頃は放送が夕方だったんですけど、中学校になったら夜中になっちゃったんで見なくなって。で、高校生になってレスリングを始めたんですよ。そのレスリングの恩師が、日体大時代の永田裕志の3歳ぐらい下の後輩で。それで永田さん、石沢常光さん、藤田和之さん、中西学さんとかが四日市に来たときに練習しに来てくれたんですよ。

――いま考えるとメチャメチャ豪華なメンバーですよね。

柴田　そうですね。僕は大学とかに練習しに行ってたんですけど、明らかに永田さんとか石沢さんとかの方が、レスリングの強さも技術も上なんですよ。そこでプロレスラーは強いっていうことに実際肌で触れて。で、その頃は新日本vsUインターの対抗戦の時期で、それでまたプロレスを見るようになったんですけど、これが自分のやりたいことだって思って、高校卒業してすぐ新日本に入門したんです。

――憧れの新日本はいかがでした？

柴田　当たり前ですけど、やっぱり練習がキツかったですね。レスラーになるには並大抵のことじゃなれないんだなって。スクワットでも回数を決めないで始めて、誰かが潰れたらまたやり直しって感じで延々とやらされたり。一回、山本小鉄さんが竹刀持って僕らを見てて、「お前の親父もずっとそうやってメシを喰わせて育ててきたんだぞ。お父さんを尊敬するか!?」って聞かれたことがあったんですよ（苦笑）。

――竹刀を持った小鉄さんに？（笑）。

柴田　そこは素直に「はい、尊敬します」と答えたんですけど、そのときにあらためて、親父であると同時に業界の大先輩だと思って、そこから敬語を使うようになりましたね、〝柴田さん〟に対しては。

――そこからは親父じゃなくて、業界の大先輩という認識になったわけですね。柴田さんの練習生時代の道場長って、馳さんとか健介さんになるんですか？



柴田　馳さんはもういなくて、佐々木健介、飯塚高史の時期です。佐々木健介がギリギリ怖かったときですね。

――健介さんは、いまはだいぶイメージも変わりましたけど、昔はかなりの鬼コーチだったみたいですね。

柴田　僕が入門して1年は怖かったんですよ。その後、子供が産まれたのかな？　それから凄く丸くなりましたね。

――そんな理由でしたか（笑）。僕は新日本を出てからの健介さんしか知らないんで、ホントにいい人っていうイメージしかないんですよ。

僕、前号の『紙プロ』を見て言いたいことがあったんですよ



柴田　昔は風呂の湯が熱いっていう理由で3人並ばせられて叩かれたりしてましたからね（笑）。

――風呂が熱いっていうだけで（笑）。

柴田　お湯を沸かすと、どうしても表面は熱くなりますよね。で、チャンコ番がお湯を混ぜる前に入っちゃって、そんなの熱いに決まってるじゃないですか（笑）。

――そりゃ熱いですよね（笑）。

柴田　で、「テメエら！　並べ!!」って。「考えたらわかるじゃん！」って内心思いながらも、それは通用しない世界ですからね。

――前号で紹介しましたけど、先日のロフトでのイベントで、前田さんが坂田さんをボコボコにするビデオが流されましたよね。新日本時代にあれぐらいの愛のムチを受けたことってあったんですか？

柴田　あそこまではないです。でも、愛のムチなんですかね、アレは（苦笑）。

――そういうことにしときましょう（笑）。

柴田　でも多分、僕の時代より昔の方がキツかったと思うんですよ。で、僕のときよりいまの方が軽いだろうし。そういうのは感じますね。いまの若手って、ほとんど脱落しないですからね。

――柴田さんは辞めようと思ったことはないんですか？

柴田　デビュー前は、腕立て、スクワット、雑用やって、毎日筋肉痛で、僕の同期は井上亘さんと、いまトレーナーやってる新島っていう3人だったんですけど、寮の食堂で「いつデビューできるんですかね」とか「3ヶ月後、みんな残ってますかね」って、うつむき加減でそんな話ばかりしてましたね（苦笑）。

――当時の寮長って誰だったんですか？

柴田　当時は吉江（豊）さんだったのかな？　とにかく寮則が凄い厳しくて、11時に道場に集合しないとペナルティがあるんですけど、僕と井上さんは遅れたことないですから。いまはそこら辺も甘くなっちゃってるんじゃないですかね。

――ペナルティっていうのはトレーニング的なものなんですか？

柴田　そうですね。あとはチャンコ番やらされたり。僕らの前は長州力がいましたし、ピリピリしてたみたいですけどね。

――長州さんとは、短期間、誰かの代わりに付き人を務めたことがあるみたいですけど、他に接点はないんですか？

柴田　ないですね。あ、僕、『紙プロ』に言いたいことがあったんですよ。

――なんでしょう？

柴田　前号のロフトの記事で、僕が長州のモノマネして言ったコメントが「俺は取っつきにくいか？」っていうのが「俺は取っつきにくいから」になってたんですよ。一文字で全然意味が違っちゃうから、凄い嫌でしたね。

――申し訳ありません（笑）。

柴田　気を付けて下さい（笑）。

――今後気をつけます。その長州さんからは特に教わったことはないんですか？

柴田　僕たちのときは長州力に直接教わるっていうより、長州が怖いから、教える人たちもピリピリして、僕たちに対して怖くなってるんですよ。

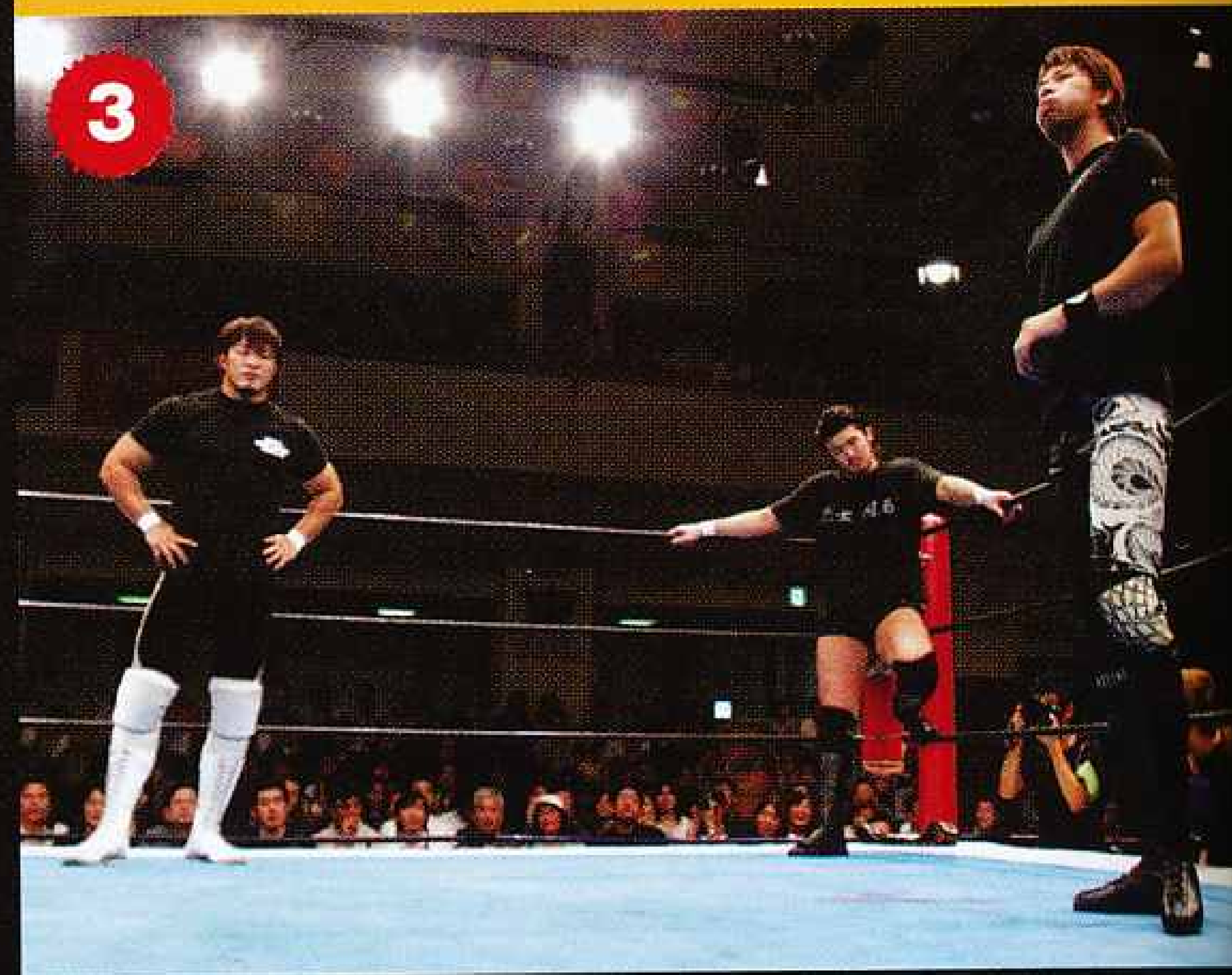
――そういうのもあるんですね。

柴田　でもやっぱり、いるといないとではピリピリ度は違いましたね。逆に、なんでいないときはピリピリしないんだろって思ってましたけど。

“喧嘩上等” 柴田勝頼激闘ファイル

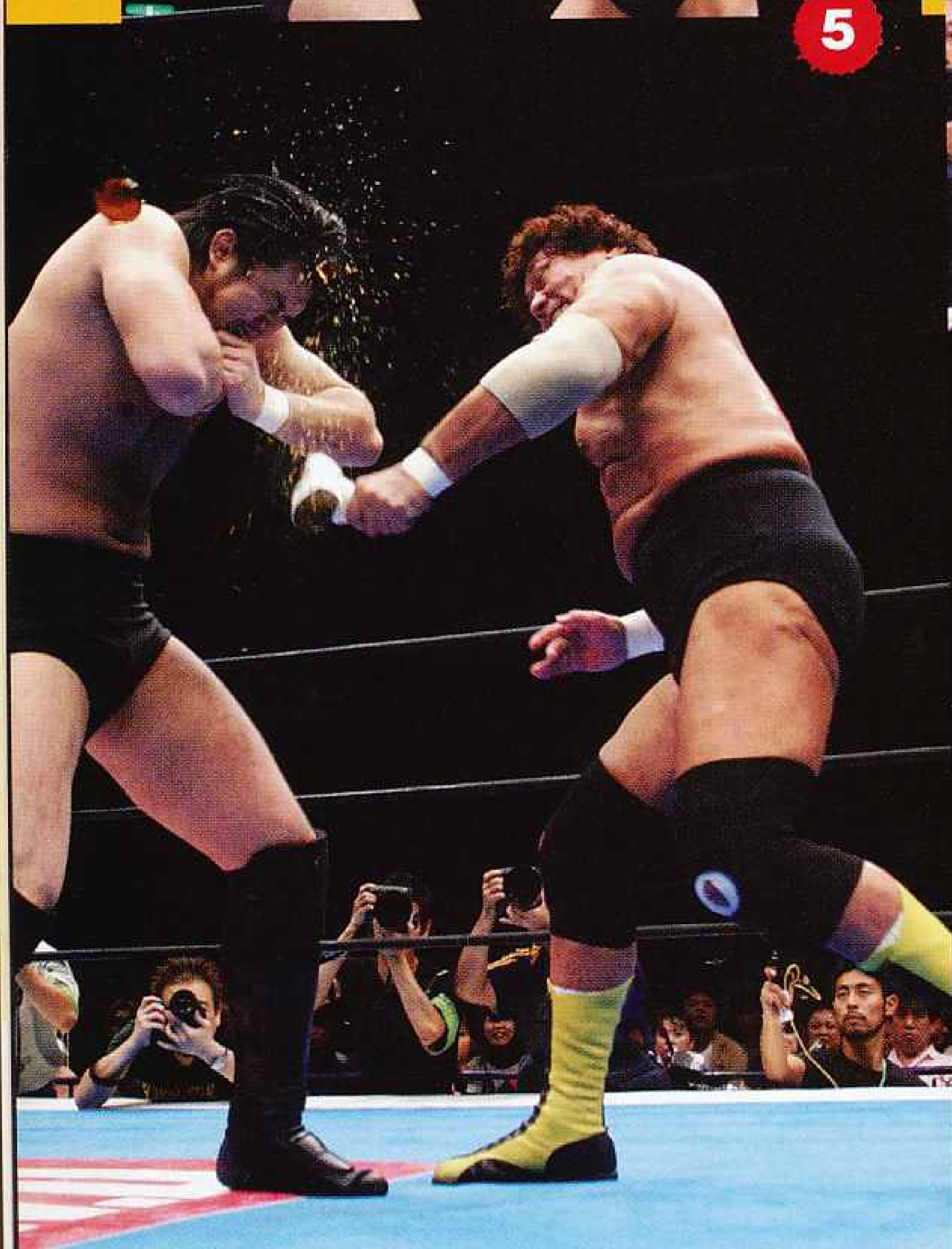














①K-1 JAPANで中西がTOAに敗れた直後、柴田がリングジャック!「K-1のKはケンカのKだろ? テメエらの中でオレのケンカを買うヤツはいねえのか!?」とK-1に宣戦布告!! ②K-1ルールで挑んだ天田ヒロミ戦。柴田はクロスカウンターで天田からダウンを奪うも最後はKO負け。③中邑、棚橋、柴田が初トリオを結成するものの、新三銃士という括りに反発する柴田は1人遅れて入場。ギクシャクしたまま試合は進み最後まで噛み合わず。④戦前から「K-1のKは腰抜けのK!」と挑発しまくった武蔵戦は2R、武蔵の豪快な左ハイで轟沈。⑤G1以来2度目の激突（初戦は天龍がレフェリー暴行で反則負け）。激しい乱打戦の末、天龍が一線を越えたビール瓶のフルスイングでまたしても反則負け。⑥川田の右フック、FK、後頭部へのニードロップで完敗した柴田はアゴを骨折し長期戦線離脱。4・23W-1での長州戦が復帰第一戦となる。

――柴田さんは〝昭和プロレス〟っていう言葉をよく口にしますけど、それはいつぐらいから意識し始めたんですか？

柴田　チャンコ番になると、常に（合宿所の）下にいてチャンコを作れる状態でいなきゃいけなくて、そのときにやることってテレビ見るしかないんですよ。それぐらいしか外の世界との接点もないし。

――そこまで隔離された世界なんですか？

柴田　そうですね。だから、『サムライTV！』を見るか、あとは昔のプロレスのビデオがいっぱいあったんで、それこそ昭和の新日本とかUWFのビデオを片っ端から見てて、「ああ、自分がやりたいことはこれだな」って。

――新日本の合宿所でチャンコ番をしながら昭和プロレスに目覚めたわけですね（笑）。

柴田　そうなんですよ。確かに昔から見てはいたんですけど、当時はわかんないまま見てた感じなんですよね。ただ「タイガーマスクってカッコいい！」っていう。いまになってグラウンドテクニックとか、いろんな部分が見えてきたっていうのはありましたね。

――ということは、入門からデビューまでで、プロレス観が多少変ってるんですね。

柴田　そうですね。自分がデビューしたとき、どういうレスラーになりたいか？　自分がファンだったら、どんなレスラーが見たいか？　どういうレスラーが面白いか？　それを自分なりにやってるだけですからね。

――その結果、自分が目指している方向性は、いわゆる昭和プロレスというものだと？

柴田　そんな感じですね。まあ、他の人はどうだかわかんないですけど、自分なりのプロレス観を噛み砕いて解釈して、いまのスタイルになったっていう。

――ちょっと上の世代の天山さんとか小島さんとかは〝平成プロレス〟の代表みたいな捉えられ方をしてますけど、やっぱり、



何を差して〝純プロレス〟というのかわかんないです。僕は、〝不純プロレス〟なのかなって（笑）

03年10月13日 東京ドーム。魔界倶楽部同士の一騎打ちは柴田を大流血に追い込んだ村上和成に軍配。この闘いを通じ、さらに絆を深めた両者は、魔界解散後も行動をともにし、揃って新日本を離脱することとなる。

柴田さん的には昭和プロレスというものへのこだわりが強いわけですか？

柴田　〝昭和プロレス〟って、よく口にしてたときは、そう思ってたかもしれないですけど、いま昭和のプロレスって言っても、自分が生きてるのは平成の世の中じゃないですか。僕はただ昭和の頃にやってたプロレスがしたいっていう思いが強いだけで、いまは平成のプロレスだとか昭和プロレスだとかは区別してないですね。全日本だからとか新日本だからNOAHだからって線を引くことはないと思うんですよ。

――逆に、何年か前までは柴田さん自身、線を引いてたとこがあったんですかね？

柴田　ありましたね。やっぱり、新日本が一番だっていう想いがあったし、正直、他は関係ないやっていう感じだったんで。

――ここ数年、天龍さんや川田さんとか、新日本以外の選手と闘って考え方が変わったっていうのもあるんでしょうね。

柴田　ありましたね。これは自分が考えてた新日本の内部に目を向けても、新日本じゃないっていう思いも強くなってきたんで。

――そういう、いろんな想いが積み重なって、今回、退団を決意されたっていうのもあるでしょうし。

柴田　そのとおりです。そういう意味では何年か前と比べると視野はかなり広がったと思いますね。

――柴田さんの過去の発言で「純プロレスの〝純〟の意味がわからない」って言ってたことがありましたけど。

柴田　わかんないですね、何を差して〝純〟と言うのか。誰のプロレスが純プロレスなのかわかんない。じゃあ、僕は〝不純プロレス〟なのかなって（笑）。

――不純プロレス（笑）。

柴田　プロレスはプロレスなんだから、それでいいんじゃないかなっていう時代に生きてると思うんで。

――『PRIDE』やK―1も、ある意味、プロレスの一部だっていう見方もありますけど、それについてはどう思います？

柴田　『PRIDE』に関してはわかんないんで何も言わないですけど、やっぱり技とかじゃなくて、心の問題だと思うんですよね。プロレスっていうのは変な話、エルボーだけでも試合はできるわけですよ。

――まあ、できないことはないですよね。

柴田　だから去年ぐらいから、何で〝純プロレス〟とか〝格闘プロレス〟って区分けする必要があるのかなって思うようになって。で、ここ最近いろんな大会を見に行ったんですよ。K―1とかNOAHとかWWEとか、見たこともないとこをいろいろ見たんですけど、違いがよくわかんなかったですね。だったらやった方が早いんじゃねえかって。そういう風に考えて、一番手っ取り早いのはフリーになることだったんですよ。新日本だからとか、全日本だからだとか、団体は関係ないって思っちゃって。

――それはWWEとかも含めて？

柴田　WWEも別に否定しないし。あそこって事前にカード発表しないんですか？

――この間の日本ツアーとかは当日発表の試合が多かったですね。

柴田　入場曲が鳴って初めて誰が出るかわかるみたいなサプライズ的なものってプロレスには絶対必要ですよね。逆に言うと、それができるのがプロレスだっていうのもあると思うし。そういう意味では、いまのプロレス界の何がダメって言ったら、やっぱり予定調和過ぎるのが一番ダメだと思うんですよ。お客さんの想像を上回ることが提供出来ていないというか。

――それはありますよね。



しばた・かつより■1979年11月17日生まれ。三重県桑名市出身。181cm、96kg。父親は元新日本プロレスレフェリー・柴田勝久氏。98年3月、新日本に入門し、同年10月の井上亘戦でデビュー。魔界4号として活躍し、K-1参戦、ジャングルファイト、武蔵戦等を経て、04年のG1ではベスト4進出。同年11月の川田戦でアゴを骨折し欠場したまま新日本を退団。その後、ビッグマウス・上井代表に賛同、4月23日、『WRESTLE-1』での長州戦で復活を果たす。

柴田　そういうサプライズを大事にしたいと思って、この間、ロフトに行ったんです。

――柴田さんのことをボロクソに言ってたターザンの前に本人が登場するっていうサプライズは最高でしたよ。観客だけじゃなくて、張本人のターザン、控室にいた上井さん、みんなが驚かされましたからね。

柴田　前田さんの試合もそんな感じがありましたよね。何か事件が起こりそうな雰囲気が漂ってるっていうか。いまはそういうことを感じさせるレスラーって、あまりいないじゃないですか？

――いないですよね。そういう危ない雰囲気を感じさせるレスラーになりたいと？

柴田　そうですね。「プロレスだからこうなるんじゃない？」とか思って見ている人の想像を超えるサプライズを見せたいし、予定調和を崩していきたいって思ってますね。それってプロレスでしか出せないと思うし、魅力だと思うんで。

――あと柴田さんというと、さたやんに怒って、『猪木祭り』の会場で佐竹さんに挑戦状を叩きつけたこともありましたけど、あれは予定調和ではなかったですよね（笑）。

柴田　そんなこともありましたね。まあ、あのときも若かったというか（苦笑）。僕は「踏み出せばその一足が……」って教わってたんですけど、踏み出したら、どうやらフライングだったらしくて怒られてしまいました（笑）。

――踏み出してから気付いたと（笑）。

柴田　そうですね。でも、それがきっかけで猪木さんに名前を覚えてもらったと思うんで、良かったのかなと。そういうのがあって、いまがあるわけですから。

――そういった何をしでかすかわからない雰囲気を持った選手って少なくなりましたからね。

柴田　僕はそういうのは凄い大事なことだと思うんで、その辺は丸くならずにいこうかなと（笑）。

――期待してます（笑）。あと、今回フリーになった理由の1つに、武蔵さんや天田さんにリベンジしたいっていうのもあるみたいですね。

柴田　もちろん、やっていきたいですし、やんなきゃいけないですね。カッコ悪い言い方かもしれないですけど、勝つまでやんなきゃって思うし、負けたままでいるのはプロレスラーっぽくないなって。僕の描いてる理想のプロレスラー像の中では、負けたことをなかったことにしたくないんで。

――実際、なかったことにしちゃってるレスラーもいますからね。

柴田　え、そうなんですか⁉

――中にはいると思うんですけど……。

柴田　僕も知ってますけどね（笑）。

――柴田さんはなかったことにはしたくないと。

柴田　もちろんです。でもこれはあくまでも僕の意見で、他の人はどうでもいいですけどね。

――いまはキックの練習は専門のコーチを付けてやってるみたいですけど、基本的にはプロレスラーとして強くなりたいっていう意識からなんですか。

柴田　やっぱりK―1の試合をやる前にはK―1用の練習をするわけじゃないです

か。すると体格も変っちゃうし、そのときの身体でプロレスやったら、ボディスラムとかパワーボムとか受けれないと思うんですよ。K—1とプロレスの身体は微妙に違うんで。ただ、プロレスって遡ると相撲取りだったり柔道家だったり空手家だったりがいて、その中で誰が一番強いか決める場がプロレスのリングだったんじゃないかなって。そこで何を求めるかって言ったら、〝強いプロレス〟〝怖いプロレス〟っていうのが必要になってくると思うんですよ。

——前田さんも同じようなことを言ってますよね。

柴田　そのためには強くなるための努力をするのは当たり前の話ですからね。で、何でプロレスにこだわるのかっていうと、自分はプロレスラーしかできないって思うんですよ。この間、ちょっと確定申告してみて思ったんですけど、僕は机に座ってペンと電卓持ってっていう仕事は絶対できないなって（苦笑）。

——デスクワークは無理ですか（笑）。

柴田　自分が思ってる一般常識も、ホントは一般の常識じゃないかもしれないですね。高校卒業してすぐプロレス界に入っちゃったんで、プロレス界の常識しかわかんないですし。体育界系で凄くいい面もあるとは思うんですけどね。まあ、結局いままでは組織に守られてたってことですね。

——これからはフリーとして守ってくれるのは自分自身になるわけですからね。

柴田　1人でどこまでできるかわかんないですけど、自分でそれを望んだわけだし、どうせレスラーとして生きるんだったら、行けるとこまで行かなきゃなっていう感じですね。そういう覚悟がなかったら安定を求めてればいいだろうし。

——そのまま新日本に残ってたら安定した生活は保証されていたわけですからね。

柴田　決して僕が正しいっていうわけじゃなくて、僕は僕の考えで動いただけなんで。現に2ヶ月間、収入はないんでキツいですけどね（苦笑）。

——道場に行けばチャンコも食べれるだろうし、練習場所にも困ることはないでしょうからね。

柴田　わかってはいましたけど、やっぱり大変ですよ。昨日も村上さんと一緒にスーパーに買い出しに行きましたからね。

——そうなんですか。何かで読みましたけど、柴田さんは村上さんに「ラーメン作れ」とか命令したりするみたいですね（笑）。

柴田　なんでそんなこと知ってるんですか？

——一応、調べてきましたから。

柴田　素晴らしいですよ。『紙プロ』を見直しました。



2月15日、リキプロ道場でW-1での長州vs柴田戦が発表された。長州は「柴田さんの息子だというぐらいしかわからない」としながらも、「ナメて向かう気はない。気合いを入れて、この試合に挑みます。プロレス的な前フリは一切いらない」と意気込みを語った。

——あ、ありがとうございます（笑）。

柴田　僕は『紙プロ』の取材受けるの初めてだったんで、村上さんに「チョロっていう人はどういう人ですか？」って聞いたんですけど、（村上のモノマネで）「あ、チョロ？　いいヤツだよ」って言ってました。

——それは光栄です。ていうか、長州さんのモノマネも上手かったですけど、村上さんのモノマネもかなり似てますね（笑）。

柴田　ありがとうございます（笑）。『紙プロ』ってじっくり読んだことないんですけど、村上さんが「いいことは凄くよく書くけど、悪いものは悪いってハッキリ書く雑誌だよ」って言ってて、僕は何の心構えもなしで自然体で話そうと思って。

——怖い人っていうイメージもあったんで、殴られる覚悟で来たんですけどね（笑）。

柴田　たまにそう思うときもありますけど。

——やっぱり、あるんですか（笑）。

柴田　ただ最近はイメージとかはあまり気にせずに素を出して行こうと思ってて。

——健介さんだけでなく小島さんや、大谷さんもそうですけど、新日本を出てブレイクしたというか、フッ切れたところがあると思うんですよね。

柴田　それは僕もそう思いますね。

——健介さんなんかホント弾けましたからね。そういう意味では柴田さんも今回の新日退団を機に、いままで以上に弾けてくれるんじゃないかって期待してるんですよ。

柴田　頑張って弾けます（笑）。でも、僕の2年前ぐらいの行動って無理矢理、何でもかんでも怒ってたところがあるんですよ。

——ちょっと無理してたと？

柴田　いま思えばそうですね。猪木さんもよく言ってますけど、プロレスには怒りが必要だって思ってて、それを変に解釈してたんですよ。なんか無理矢理テンション上げてたような気がするんですよね。

——ちょっとツッパってたというか。

柴田　そんな感じですね。いま考えると恥ずかしいですね、大変（笑）。

——大変恥ずかしかったと（笑）。本人は恥ずかしいっていうのもあるんでしょうけど、なにげに柴田さんのマイクアピールって名言が多いですよね。

柴田　そうですかね？　ただの反抗期だったんだと思いますよ（笑）。

——あ、ただの反抗期でしたか（笑）。

柴田　でも僕が新日本を辞めたあとに知り合いと飯食ってて、ホッとしたのか肩の力が抜けた部分と、フリーになって不安な部分とが顔に出てたみたいで、「そんなに考えることねえよ。お前は所詮ツッパリなんだ。男はツッパるときにはツッパんなきゃいけねえんだよ」って言われたんですよ。確かにそうだなと思ってツッパリになろうと思いましたね。

——反抗期が終わったら、今度はツッパリ宣言（笑）。過去のマイクでいうと「もっと臭い飯食わせろよ」とか「負ける気がしねえ。負け方がわかんねえ」っていうのは柴田さんらしいなって思って。

柴田　そんなこと言ってましたね（苦笑）。

——最近では「三銃士で一番出遅れてる柴田です」っていうのもありましたよね。

柴田　ちょうど、そのマイクが僕のターニングポイントで意識が変り始めた瞬間なんですよ。それまでは僕がそんなこと言うはずないって思ってたと思うんですけど、予定調和っていうものを凄く崩したくなってきて。「予想を裏切って期待を裏切らない」っていう『グラップラー刃牙』ばりのことをやんなきゃって凄い思い始めて（笑）。

——「新三銃士で一番出遅れてる」とい



う認識があったから、K—1や総合に挑戦したりっていうのもあるんですかね？

柴田　まあ、ないって言ったら嘘になりますよね。プロレスラーはやっぱり勝ちにいかなきゃいけないと思うんですよ。まあ、自分は、そういう試合で実際負けまくってるし、プロレスでも負けまくってるんですけどね（苦笑）。

——だからこそ、余計これまで負けている選手にリベンジしたいっていう気持ちが強いんでしょうね。

柴田　それはありますね。やっぱり、結果が出てないから単純に強くなりたいって思うし。中途半端にベルトを持ってたりすると逆に出れなくなるんじゃないかなって思いますしね。まあ、勝とうが負けようが、そういう舞台に出た人は大したもんだと思いますよ。

——永田さんなんかそうですよね。

柴田　その点、僕の場合は何も失うものがなかったですし。いまはフリーになって、フラットというかゼロの状態なんで。そっから這い上がっていくだけですね。ある程度の実績残した人って大変かもしれないですけど、僕はこっから始まると思ってるんで。前田さんにも「やられたら、やり返さなきゃダメだよ」って言われまし。

——初めて一緒にメシを食いに行って言われたみたいですね。あんな緊張感のある焼き肉はこれまでなかったと（笑）。

柴田　ホント初めてでしたね。そのときに前田さんに「アゴのケガ、誰にやられた？」って聞かれて、「全日本の川田選手です」って答えたら「やり返したか？　やり返さなきゃダメだよ」って言われたんですよ。

それを聞いて、やっぱり前田さんは、いまでもプロレスラーだなって思ったし、“昭和”っていうのを感じさせましたね。

——それに対して「言われなくてもやり返します」って言ったっていうのも、柴田さんらしくていいですよね（笑）。

柴田　でも普通、ケガしてたら「大丈夫？」って言うと思うんですけど、前田日明が「やり返さなきゃダメだよ」って言ったときは嬉しかったですね。僕が思ってたそのまんまの人だったんで。実際会ってみると、弱冠違う人っていますよね。この業界は特に多いと思うんですけど（笑）。



——多いような気がしますね（笑）。

柴田　前田さんに会って、これから自分も素を出していこうっていうことも間違ってなかったなって思えましたからね。

——専門誌とかでも柴田さんは「前田イズム最後の継承者」みたいに言われたりしてますけど、それに関してどう思ってます？

柴田　やっぱり、僕は僕ですし、前田日明になろうとは思ってないです。自分は自分のやり方で柴田勝頼っていうレスラーをやっていかなきゃいけないわけだし、別にマネをしたいとは思ってないんで。ただ、前田さんの考えてるプロレスと、僕が理想にしてるプロレスは近いなとは思います。

殺伐として緊張感があるリングなら大会名は『ウ●コ』でもいいと思う

——プロレスに対する考え方は村上さんとも共通する部分が多いってことですけど。

柴田　同じ方角を向いてると思いますね。いま仲間って言えるレスラーは、ホント村上さんだけですから。村上さんも絶対自分のことをそう思ってるだろうし、そういう自信はありますね。

——そこまで深い絆を感じるっていうのは、何かきっかけでもあったんですか？

柴田　何でそこまで絆が生まれたのかはわかんないんですけど、同じ方角を向いてる人間同士、同じ方向に向かって走ってたからだと思いますね。

——なんか、いい関係ですよね。話は変わりますけど、柴田さんは小さい頃からブルース・リー好きなんですよね？

柴田　好きですね。寮にいたときも常にブルース・スリーのポスターを貼ってましたしね。誰にでも自分の中のヒーローってあると思うんですけど、僕のヒーローはブルース・リーとか『あしたのジョー』とか松田優作とかですね。

——33の自分なんかは非常によくわかるんですけど、同世代とはかなりズレてるんじゃないですか（笑）。

柴田　どれも僕が生まれたぐらいのことばっかりだし、実際リアルタイムでは見てないんですけど自分は古いモノが好きなんですよ。だから同世代とは全然話が合わないですね。

——その辺は“昭和プロレス”をやりたいっていうのと通じるところがあるのかもしれませんね。

柴田　あると思いますね。

——最後に、『WRESTLE—1』に対する意気込みを聞かせてもらえればと思うんですが、ぶっちゃけ『WRESTLE—1』という大会名は嫌いなんですよね。

柴田　好きではないですね。でも名前じゃないと思うんですよ。極端な話ですけど、大会名なんて『ウ●コ』とかでもいいと思うし。

——ウ、ウ●コですか？（笑）。

柴田　いや、極端な話ですよ。要は名前じゃないってことを言ってるんですよ。これからやろうとしていることは、いままでの『WRESTLE—1』のイメージが良くないのであれば、それを覆すだけのことをやればいいだけで、殺伐として緊張感のあるリングであれば『ウ●コ』でもいいと思うんですよ。変な覆面を付けたレスラーでも、その人が凄いことやって、その覆面を見慣れちゃえば支持されるわけだし。それなりのモノを見せればカッコよく見えてくると思うんですよね。

——では、今年一発目の長州戦、いろんな意味で楽しみにしてます！

柴田　期待を裏切るつもりはないんで、楽しみにしてください。今後ともよろしくお願いします！

——こちらこそ、よろしくお願いします！

【3月14日／東京・渋谷「アルカトラズER」にて収録】

4・23（土）
『WRESTLE-1』
横浜アリーナ
開場＆開始時間・未定

【決定対戦カード】
柴田勝頼VS長州力

【出場予定選手】
村上和成、ボブ・サップ他
※その他、カード及び詳細は『紙プロHand』で随時更新します！

【問い合わせ】
ビッグマウス
TEL.03-3560-8177



〝リアル〟リングスの首領　その頑固一徹な人生

クリス・ドールマン

RINGS HOLLAND代表

90年に第2次UWFが解散し、
ひとりぼっちとなった前田日明を助け、
新団体設立に全面協力した〝リングスの父〟
それがクリス・ドールマンだ。
2002年にリングス・ジャパンが活動休止後、
ネットワーク各国が名称変更、
もしくは活動休止をしていく中、
かたくなに「リングス・オランダ」の看板を
下ろそうとしなかった頑固親父の生き様を、
『HERO'S』が設立され、
リングス復活が叫ばれるいまこそ振り返ろう。

現地取材・写真／瀬戸川伸明
構成／堀江ガンツ
design by さおとめの事務所

「俺が生きている限り リングス・オランダは存続し続ける」



——ドールマンさん、お会いできて光栄です。今日はドールマンさんの長い格闘技歴を振り返りながら、さまざまなお話を聞かせていただきたいと思います。

ドールマン　OK。なんでも聞いてくれ。

——では、まず少年時代のお話を聞きたいのですが、どんな子供でしたか？

ドールマン　今からは想像もつかない位痩せっぽちで、物静かで真面目な子供だった。家庭はとにかく貧しかった。思春期に入って格闘技に目覚めるようになってからは、外で喧嘩もよくやったな。

——となるとお勉強の方は……（笑）。

ドールマン　いや、勉強も好きだったよ。将来は学校の先生になるのが夢でその資格を取る勉強もしていたからね。ただ18歳の時に格闘技を本格的に始めようと決心してからは、その夢も諦めるしかなかったけどな。

——格闘技を始めるきっかけは何だったんですか？

ドールマン　柔道を子供の頃にテレビで見て、凄く感銘を受けたんだ。母親に言わせると、テレビにかじりついて口を開けて見てたらしい（笑）。そして柔道を始めたのが12歳の時。その後は空手を17歳で、アマチュア・レスリングを20歳の時に始めた。ボクシングもトレーニングとしてだけど22か23歳の時やった経験がある。

——ドールマンさんの代名詞でもあるサンボを始めたのはいつなんですか？

ドールマン　サンボを始めたのは24の時だ。柔道からの転向だったので、始めたのは少し遅かったが、数えきれないほどタイトルを獲得できた。

——サンボの競技者時代、旧ソ連の選手とも闘った経験はありますか？

ドールマン　ロシアの選手たちとはもちろん闘った。彼らはサンボの経験が私より豊富で、一般的に彼ら（ロシア勢）に言えたことは力が強いということ。とくに襟をつかまれたら動けなくなるほどの力を持っていた。柔道はクイックネス（速さ）が必要なスポーツ。サンボは力のスポーツ。柔道出身の私は最初その違いに戸惑った。しかし次第に慣れてくると私も力はある方だったので、ロシアの選手と対戦しても決して力負けすることはなくなった。その証拠に１９６７年（モスクワ）のサンボ世界選手権で私は優勝したんだ。

——では、20代前半で柔道、サンボ、レスリング、ボクシングを身につけて、当時からすでに〝総合格闘家〟のような感じだったんですね。

ドールマン　そうだな。俺はたまたまオランダという国に生まれただけで、愛国心なんてこれっぽっちもないが、格闘技で成功して今日の自分があるのは、明らかにオランダで生まれ育ったからだと思う。格闘王国であるオランダは、どこにでもジムや道場があってクラスに関係なく格闘技に触れられる。こういった環境があったから今の自分がいるわけで、そういう意味ではオランダに生まれ育ったことをラッキーだったと思うよ。


——その当時有名だった格闘家と言うと誰になりますか？

ドールマン　ウイリエム・ルスカ、クラウス・グラン、ソボ・ディレク、オナフシリ……みな世界選手権やオリンピックでのメダリストだ。

——ドールマンさんはルスカと親しかったことで知られていますけど、どういうきっかけで知り合ったんですか？

ドールマン　17歳の時に初めて彼の柔道を見て、その見事な体さばきと技のスピードにびっくりした。あんな柔道はそれまで見たこともなかった。そしてその後、彼と一緒にトレーニングをする機会を得た。当時の彼は既にビッグスター、俺はグリーンボーイ。彼と出会えたことは、俺に多大なる影響を与えたよ。

——ルスカは腕っ節が強かったらしいですけど、何かエピソードはありますか？



3度ピストルを突きつけられたが
幸運なことに今こうして生きている

ドールマン　ルスカのエピソード？　俺も彼も同じナイトクラブでドアマン（バウンサー）をしてたことがあった。たしか彼が24歳で俺が20歳の時だな。ある夜スタッフに呼ばれて外に出てみると、彼は外で4人のジプシーたちとやりあっていた。もちろん叩きのめしていたけれど、ポリスも救急車もやってきたから、かなりの大事（おおごと）になって、その後そのクラブをクビになったんだ（笑）。

——そういったエピソードはドールマンさん自身も、もちろんあるんですよね？（笑）。

ドールマン　俺のエピソードなら数え切れないほどある（笑）。3度ピストルを目の前に突きつけられたし、ナイフで脅されたことは数えきれない。喧嘩はいちいち思い出すのが馬鹿らしいぐらいやった。しかし今こうして生きている。ただこれは運が良かっただけだろう。もし彼らが一度でもピストルの引き金を引いていたとしたら今この世にはいないわけだからね。

——ドールマンさん以下、多くの格闘家が食べるためにやっていたバウンサーという職業から学んだことはありますか？

ドールマン　喧嘩の仕方を学ぶことが出来る（キッパリ）。格闘家としては、週末だけの3日勤務で一般人よりも多くの収入を得ることが出来るし、ウィークデーはその分トレーニングに当てることが出来る。格闘家としての成功収入が入るまでにつく仕事としては非常に条件がいい。

——ドールマンさんは、あの柔道金メダリスト、アントン・ヘーシンクに挑戦状を送ったことがあるらしいですね？

ドールマン　ああ、そんなこともあったな（笑）。

——その当時のことを詳しく聞かせていただけませんか？

ドールマン　当時、テレビで彼がよく紹介されていて、プロレスのデモンストレーションをしていたんだ。ところが彼は、明らかにショーなのに、それを「リアルファイト」と言っていて、俺が町を歩いてる時にも多くの人に「プロレスってリアルファイトなのか？」と聞かれた。テレビの力で一般人がそう信じてしまったんだな。そこにまだ若かった俺は怒りを覚えて、彼に直接電話をして「自分は柔道のアマチュア・チャンピオンだ。お前も金メダリストなら、俺と戦うべきだ！」と対戦を迫ったんだ。でも彼は決して俺の挑戦を受けようとはせず、それっきりさ。もうだいぶ前の話だ。

——ウイリエム・ルスカがプロレスのリングでアントニオ猪木と闘うと聞いたとき、どう思いましたか？

ドールマン　彼が有名になるいいチャンスだと思ったよ。長年の努力が報われて、その上高額なギャラも手に入る。だから当然薦めたさ、「絶対にやるべきだ！」ってね。1976年のことだな。俺がセコンドについたんだ。

——ルスカがプロレスをやることに抵抗はなかったんですか？

ドールマン　それはなかった。誤解してほしくないんだが、俺は別にプロレスが嫌いなわけじゃないんだ。ヘーシンクは「リアルファイトだ」と言っていたから、「じゃあ、俺がやってやる！」と挑戦しただけでね。

——では、プロレスにはどういう印象がありましたか？

ドールマン　プロレスは最高のエンターテイメントだと思う。ショーであるのは間違いない。しかしレスラー達は本気でトレーニングをしなければならないし、スタミナもつけなければならない、テクニックも習得しなければならない。リングでは痛みも感じるわけだし、生半可な人間では勤まらない。そして何よりただ強いだけではいけない。お客を満足させないといけないからだ。そういう意味ではショーマンシップを知らないアマチュアの選手がプロレスで成功するためには、かなりの努力が必要だ。

——猪木 vs ルスカ戦のときに会った、アントニオ猪木さんについてはどんな印象がありますか？

ドールマン　ミスター・イノキは本当に親切で慈悲的な紳士だったよ。俺とルスカが日本に2週間滞在したときも、新日本プロレスのスタッフを俺達のためだけに2週間もつけてくれた。食事の世話から、ジムの手配から、観光からすべて面倒を見てくれたんだ。そのときに大変世話になったフクダという人物が（日本レスリング協会・福田富昭会長＝ルスカと新日本を橋渡しした人物）30年近くたって初めて来月オランダにやってくるんだ。アムステルダムのホテルオークラで会うことになっている。

——そのとき藤原喜明選手と寝技のスパーリングをしたそうですけど、彼の実力は？

ドールマン　フジワラとはニュージャパンのジムで一緒に練習したんだが、その時リングは混み合ってて場所がなく、木の床の上でスパーリングをしたんだ。当時の彼はまだグリーンボーイだったけれど、何度のめしても立ち向かってきて、まるでライオンのようだった。アマチュア選手のようにただ黙々と2人でスパーリングしたのを覚えている。

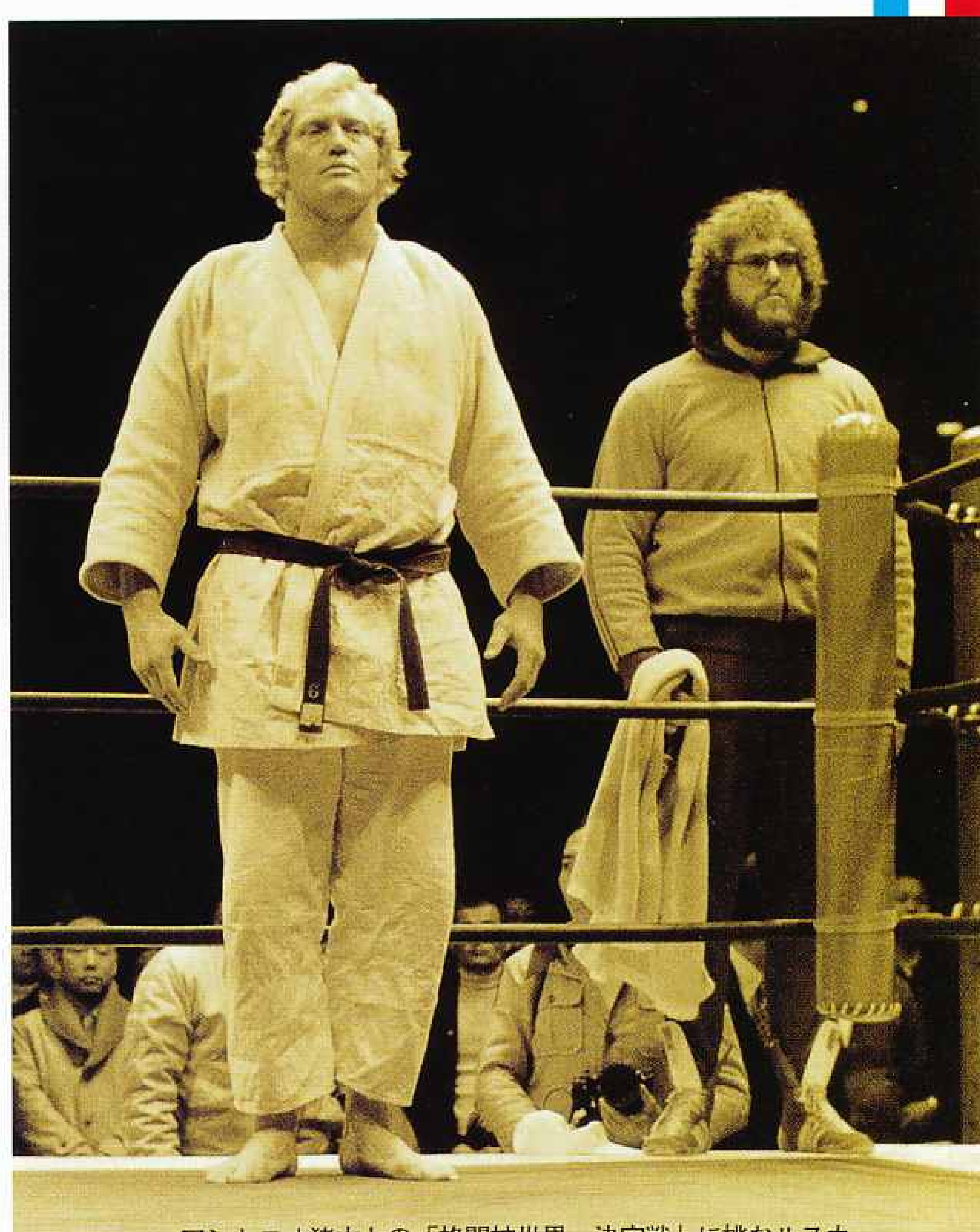
——当時、猪木 vs ドールマン戦という試合も計画されていたと聞いていますが、それは本当ですか？

ドールマン　ああ、それは事実だ。イノキ vs ルスカ戦の後にオファーを受けた。ただあの年（76年）は俺にとって非常に大事な年で、サンボのヨーロッパ選手権での優勝を目指していたんだ。当時の規定ではプロとしての活動をした者はアマチュア資格を失うことになっていたから断念せざるを得なかった。まだまだアマチュアとしての活動で栄光を求めていた頃だったからね。

——それ以降、89年のUWF参戦までの間に日本との接点はありましたか？

ドールマン　86年にジョブ・ケイプス（イギリス）、そして88年にビル・カズマイヤー（両者共当時のストロングマンコンテストのチャンピオン）に勝利をした後に多くの日本のレポーター達が俺のところに来て「日本でファイトする気持ちはないのか？」と聞いてきた。その間、88年に猪木がローマでのプロレスのイベントに出場したとき、俺をローマに招待してくれたんだ。そしてそのイベントのマッチメーカーが「猪木に対戦を表明してくれ！」と言ってきた。だから言われたとおりリングに上がってパンチをイノキにかましたんだ。「イノキ！　俺と闘え！」とね。（※プロレス史的には、1988年1月22日～24日、猪木がイタリア・ローマに単独遠征し、現地でバッドニュース・アレンと2連戦を行った際、突如会場に現れたクリス・ドールマンに挑戦状を叩き付けられた、ということになる）

そしてその翌日、イノキと新日本の人間を含めてルールの話合いを持った。イノキの要求は「あくまでもショーマンとしての試合にしてもらう」とのこ



アントニオ猪木との「格闘技世界一決定戦」に挑むルスカのセコンドとして初来日したドールマン（写真右）。日本マット界との関係はなんと30年にも及ぶ。



とだった。だから俺は断った。「真剣勝負でなければ受けない」と言ってね。その後89年にルスカを通して再度イノキからのコンタクトがあったが、やはりその時も「ショーマンシップスタイルとして」との要望だったので、俺の答えは変わらなかった。「イノキとは対戦したいけれど、ショーでなく真剣勝負でやりたい」とハッキリと断ったんだ。そして2日後、まだ新日本とルスカとで電話で交渉を重ねていたときに、今度はオールジャパンエンタープライズのミスター・カネダという人物(全日本キックの金田会長と思われる)から電話があって、「前田という人間がいるんだが、『真剣勝負』してくれないか」とのことだった。『真剣勝負』でなら、ということでそのオファーを承諾したのさ。つまりイノキとの対戦の噂が新聞に載って、それを見たのがUWFだったのだと思うが、彼らからオファーがあったのだ。

——つまり猪木はあなたをUWF(前田)に横取りされたことになりますね?

ドールマン まさにその通りだな。計3回彼に誘われその度にオファーを蹴ってたわけだな。76年、88年、そして89年とね(笑)。

——UWFというスタイルはどう思いましたか?

ドールマン とても気に入った。キックに関しては長い間練習してなかったので、キックの練習を再び始めなければならなかった。キック以外にも様々なスタイルに対応しなければいけなかったし、オールラウンドな力が要求された。とても好きなスタイルだった。しかし、UWFもショーであったことは認めなくてはならない。

——つまり、厳密に言えば真剣勝負ではなかったと。

ドールマン YES。当時としてはフリーファイト(総合格闘技)の完成度が高かったと思うが、リアルファイトではなかった。これはヤマザキ(山崎一夫)と闘ったときのことなんだが、観客を喜ばすために、彼も俺もサンボ着を着て試合をした。89年11月(29日)のトーキョードームだった。そのときUWFの代表がこう言ったんだ、「DON'T KICK! DON'T WIN!」つまり「もし勝つとしても最初の2ラウンドで勝負を決めるな。最初の2ラウンド(1ラウンド5分)で、もし山崎が君の足を痛めることができなかったら、あるいは彼が君を倒すことが出来なかったら、その後は山崎を倒してもいい」とね。だから俺は10分はとにかく投げ技だけを使って試合を組み立てたんだ。彼は強烈なローキックを主体に俺を蹴りまくってきた。それはとても効いたさ。寝技を組み入れたが、すぐにブレークさせられ、その度に蹴りをいれられた。とにかくどんなことをしてでも10分持たせる必要があったんだ。そして3ランド腕を速攻で極めて勝利した。

——UWFで一番印象に残ったことと言えば何になりますか?

ドールマン オーサカ・スタジアムでマエダと最初に試合をしたときのことだな。メインイベントのリングに向かう時に、俺とマエダの名前の入った仕掛け花火が打ち上げられた。素晴らしいイベントでとても強く印象に残っている。


89・5・4大阪球場■日本での初試合は、2万人以上の大観衆を集め行われた前田日明との異種格闘技戦。前田との友情はこのときから始まった。

——その後、あなたは前田選手と共にUWF、リングスで活動してきましたが、前田選手とはどうして懇意になれたのですか?

ドールマン もちろん何度も対戦したということが根底にある。それも真面目で紳士的な闘いだった。リング上での彼はいつも尊敬に値した。一度ヒザが相当悪かったときでも、ファイターとしての姿勢は変わらなかった。彼は本当のスポーツマンだったと言える。彼はリング外でも信頼がおけた人物だ。彼をトラブルメーカーと呼ぶ向きもあるようだが、俺はそうは思わない。素顔のマエダは物静かな男で、いつも考えてから発言する男だった。俺も同じタイプだと思うが、多くの人間が彼に対し否定的な発言をしたり、裏切り行為をしたのならば、それに対し怒り、その怒りを素直に見せるのかもしれない。

——UWF解散後、ドールマンさん以下オランダの選手たちは新日本プロレスに参戦する話があったと記憶していますが、最終的にはなぜリングスに協力することになったんですか?

ドールマン いつだったか、新日本プロレスのミスター・サカグチ(坂口征二社長・当時)がドイツのライスデンに来たときに、彼から誘われた。「猪木とやらないか?」とね。その時UWFはすでに解散していたし、「もしかしたら、これがイノキと闘う最後のチャンスかもしれない」と正直思った。その時ドイツには大勢の日本のプレスも来ていたんだが、おそらくその内の1人がマエダに連絡を取ったのだろう。宿泊しているホテルにマエダから電話が入った。「お願いです。僕は今1人なんです。僕に力を貸してください。僕はたった一人になってしまいました」と。だから言ったさ。「OK。俺に出来ることがあれば力になるよ」と。友人のそんな言葉を無視することは出来なかった。結果マエダとのこの約束で新日本のオファーを再度断ることになり、イノキとの対戦の機会もなくなった。

——新日本との具体的な交渉内容はどうだったんですか?

ドールマン いいオファーだったよ。まずはハシモト(破壊王)と対戦してくれと言われた。計5試合の契約という話だったかな? ミスター・サカグチとの交渉も非常にいい感じだった。記者の前では彼に技をかけたりもした。とてもフレンドリーな感じだったよ。

——そしてリングスがスタートするわけですが、UWFからリングスになり、リング上はどのようなことが変わりましたか?

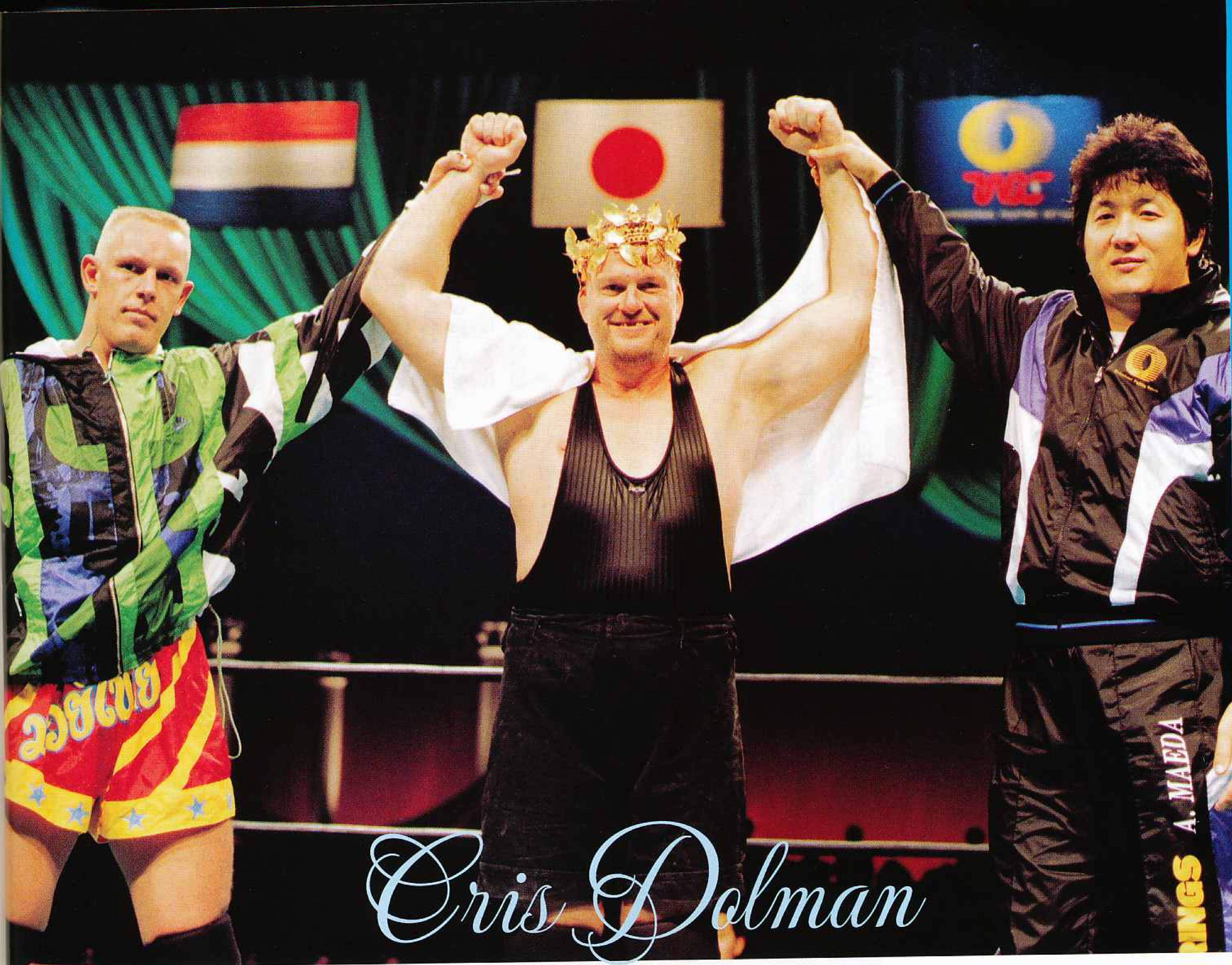
ドールマン リングスのルールはUWFルールよりタフなもので、UWFよりショー的要素が少なかった。出場していた選手もプロレスラーが中心だったUWFと異なり、よりリアルファイトに近い、フリーファイトとして完成度の高いものだったと思う。なにしろ当時はフリーファイトというものが、この世に存在していなかったのだから、すべてが試行錯誤の連続だったが、その分やりがいもあった。

——リングスオランダ興行の際には、スポーツなのか喧嘩なのかということで大きな問題になったそうですね?

ドールマン その通りだ。フリーファイトというものを説明し、世間に認めさせることに苦労した。ファイター達には、「真剣勝負を観客に見せろ!」と繰り返し言っていた。そういう意味では日本のそれよりもリアルファイトの完成度は高かったはずだ。キック、パンチも容赦することなく出されていたから多くの試合で流血が見られた。そのおかげで95年マエダとの引退試合を終えた後にリングス・オランダとして開催したすべてのイベントがソールドアウトになった。

——総合格闘技をスポーツとして認めさせるために政府と折衝を重ねる上で、どういった働きかけをしていきましたか?

ドールマン まずはイベントに来て見てくれと。危険なスポーツでないということをまずは目でみてもらおうと。危険になりそうな場合にはレフリーがきちんとチェックをし、怪我のアクシデントが起きた場合はドクターが即座



Cris Dolman

リングス最強を決める第１回「メガバトル・トーナメント'92」では、決勝で愛弟子D・フライを破り見事優勝。奇しくも１～３位まで、リングスを立ち上げたオリジナル・メンバーが顔を揃えた。

に手当てをする。そして戦闘不可になった場合は即座に試合を止める。決して怪我をさせる、血を流すのを目的にしているわけでないと。デンジャラスなイメージを取り去ることから始めた。レベルの同じ格闘家同士が力を競うものであって、決して強い選手が弱い選手と試合をするわけはないということもわかってもらった。

――オランダ軍団はホントに凶暴だったと聞いていますが、彼らのエピソードがあればお願いします。

ドールマン　どいつもこいつもヤンチャばかりでエピソードにはことかかない（笑）。ディック・フライや、ウィリー・ピータース、ヘルマン・レンティングなどは私生活でもかなり凶暴だった。フライは対戦相手が無抵抗のポジションでも顔面に蹴りを入れることは当たり前だった。ピータースはストリートファイターだったし、レンティングはストリートファイトで刑務所に入れられたこともある……というか、現在も入っている（笑）。

――あ、いまも（笑）。

ドールマン　奴らが日本に行くときは毎回のように、「態度に気をつけろ。紳士でいろよ！」と口をすっぱくして言ったものさ。それでも六本木では黒人相手に何度も路上で売られた喧嘩を買っていたようだが、ポリスが来る前にいつも相手を負かしていたので、警察にお世話になることはラッキーにも一度もなかった（笑）。

――そんなヤンチャ揃いの中でも一番手を焼いた弟子は誰？

ドールマン　全員だな（笑）。ただ、弟子として優秀だったのはディック・フライと、ヴァレンタイン・オーフレイムだ。オーフレイムは非常に早く何でも吸収する選手だった。それに対しフライのキックは最高レベルだった。

――リングスは初期、現在のK―1である正道会館と提携していましたが、ドールマンさんは石井（前）館長とは親交はあったんですか？

ドールマン　ミスター・イシイとは何度か一緒にディナーをとったことがある。とても優秀で頭の切れるビジネスマンという印象だな。マエダと関わることでサタケらの知名度を上げ、マエダから多くのことを学んだはずだ。そしてマエダのすべてを奪い、その後日本の格闘技界を仕切るまでになった。多くの優秀な日本企業がアメリカや欧米のアイデアを取り入れ、それに改良を加え独自のものにし、その業界そのものを取り仕切っていくように、ミスター・イシイもマエダがクリエイトしたものを、独自の手法で己の物にしていったんだ。しかし俺はこれが悪いことだとは思わない。弱肉強食は人生では常に起こりうることだと思うからね。

――ＵＷＦ、リングスを通して、自身がもっとも印象深い試合は？

ドールマン　２つある。ひとつはマエダとの試合。もう１つはミスター・ヴォルク・ハンとの試合だ。マエダのデンジャラスキックはあまりにも強烈だった。ミスター・ハンに関してはアームロックを始めとする芸術的な関節技が印象に残っている。２人ともカリスマ性を持ち合わせた選手でリング上では他の選手にはないものを感じた。特にミスター・ハンは非情に優秀で、慈悲深く、そして情熱的なファイターであり、本物のスポーツマンだった。彼が本当のアーミーだったことは有名だが、リングの中でもそれを感じさせる存在だったな。

――リングスは前田とハン、そしてドールマンさんが礎を築いた言っていい

リングスで一番印象に残った選手は シュライバーとボビー・ホフマンだ



と思いますが、そのドールマンさんが「引退する」と言ったとき、前田さんはどんな反応をしましたか？

ドールマン　彼は俺のことを理解してくれたよ。俺はその時50歳で余力はまだあったんだが、何しろ日本への長旅が辛かったのが引退を決心させた本当の理由だった。飛行機内で眠れたことは一度もなかったし、試合の前日、日本に着いてからも時差ボケでほとんど睡眠がとれず、そして試合が終われば翌日帰国。日本は好きだったが、日本への長旅は地獄だった（笑）。

――引退試合は日本で行いましたが、そのときの感想は？

ドールマン　あれは95年の4月だったな。引退試合の印象よりも皆に囲まれてセレモニーをしてもらったことにとても感動したのを覚えている。俺の弟子たちだけでなく、各国の選手や代表がみんな俺の引退をねぎらってくれた。あのころのリングスは、ある意味、大きな家族のようなものだったな。

――現役時代を振り返ってみて、リングスで闘った中でもっとも強かったのは誰でしたか？

ドールマン　誰が一番強いとの答えではないのだが、ストロングマンコンテストで世界一になったビル・カズマイヤーのとても人間のものとは思えなかったそのパワーに対し、人間離れした強さを感じたものだ。ただしリングスにおいては成功した選手ではないし、彼の力はあまりにも筋肉に頼りすぎていたから疲れるとすぐに常人に戻ってしまったわけだが……。それでも疲れるまでの彼のパワーは本当に凄かった。

――では、実際に闘っていない選手も含めて、リングス時代、一番印象に残った選手は誰ですか？

ドールマン　ボビー・ホフマン（USA）とボブ・シュライバー（オランダ）だな。

――シュライバーはともかく、ボビー・ホフマンとは意外ですね。どの辺が印象に残ったんですか？

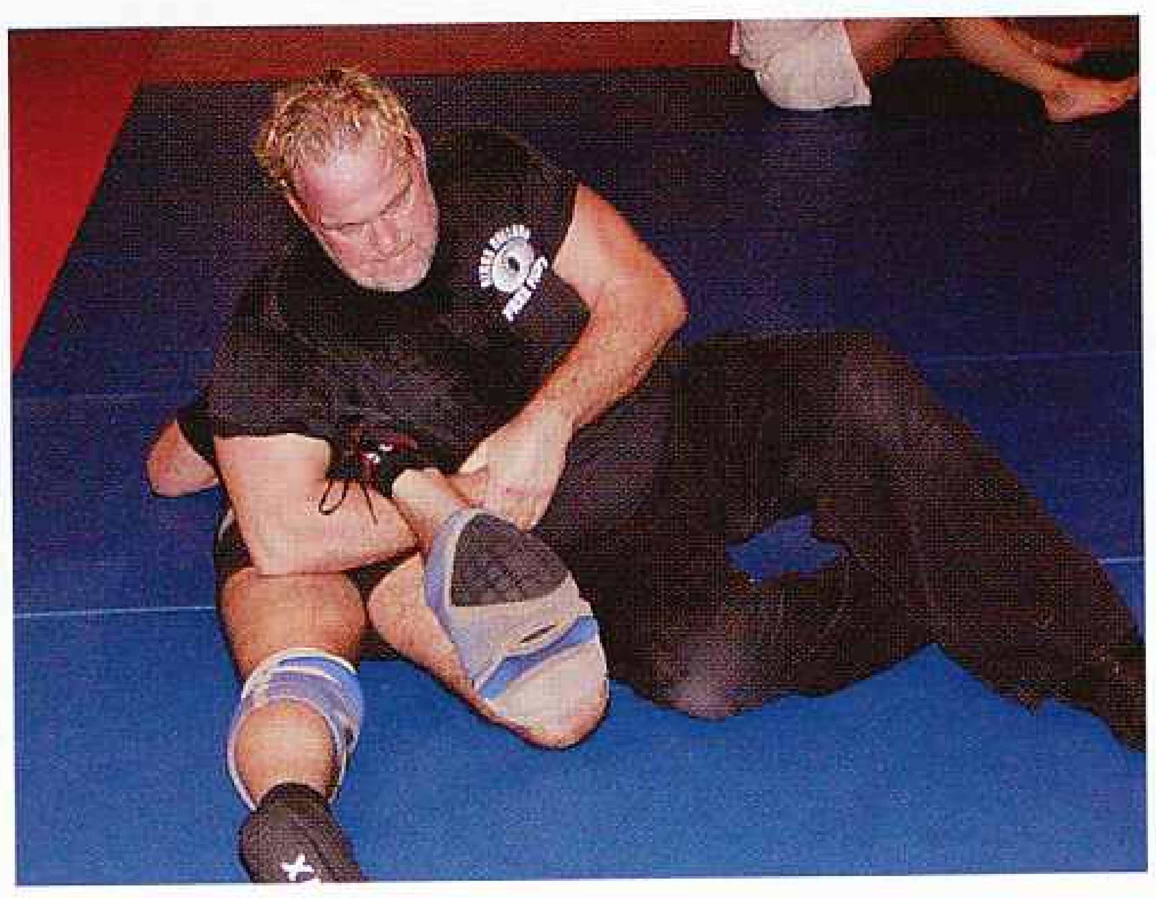
ドールマン　彼とは闘ったことは一度もないのだが、リングス・ネットワークの中でも有数の実力者であるグルジアのグロム・ザザと対戦したとき、あのザザをパンチでたやすくノックアウトしてしまったその勝ちっぷりが印象に残っている。その後、オランダでの彼のファイトを見た時も同じように感じた。

――ドールマンさんは引退後、審議員として来日したことがありましたよね。あのとき、20対10など、従来では考えられないジャッジに驚かされたんですけど（笑）覚えていますか？

ドールマン　一度だけジャッジをしたことがあるが、確かその時のことだったな。20―10というジャッジは、あれは計算を間違えたんだ。審判の点数のつけ方の勉強不足だな（笑）。ただそれだけだ。基本的にジャッジが嫌いだし、審判経験はあとにも先にもあの時だけだ。

――リングスは晩年、KOKルールに変わりましたが、そのことについてはどう思いますか？

ドールマン　とてもいいことだと思ったよ。エスケープがなくなったことに対しアレルギーを起こした選手もいたが、これまでの数々の試行錯誤から生まれたルールだし、グローブをつけて寝技に時間制限を設けるというのは、リングス・オランダで導入されていたルールと同じだ。リングスのひとつの完成型と言ってもいいんじゃないか。



還暦を迎えたいまも、練習を欠かさないというドールマンの寝技技術とパワーは健在。得意の〝ドールマンアキレス〟を見せてくれた。格闘技への情熱はいささかも衰えていない。

――KOKになって以降、旧ルールで活躍した選手の多くが実力を発揮できなくなってしまいましたが、その中においてもハンやコピィロフは対応できたのはなぜだと思いますか？

ドールマン　もちろん彼らが培ってきた技術のなせる業だと思うが、それと同時に彼らの実際のアーミー経験がタフな格闘精神を作り上げたのだろう。

――ドールマンさんはKOKルールでやってみたかったと思いますか？

ドールマン　興味はあるが、自分が実際にやるなら、PRIDEに出てみたかった。なぜならグラウンドのブレイクが早いKOKより、PRIDEの方がより私の得意な寝技を活かせるだろうからね。

――KOK移行から2年半後、リングス・ジャパンが活動を休止すると聞いたときはどう思いましたか？

ドールマン　寂しかったのは事実だが、いつかこの時がくるとは感じていた。観客が目に見えて減少していたし、『PRIDE』の成功を見るにつれその気持ちが確かなものになっていった。そして『PRIDE』に取って代わられたのだろう。リングス・オランダの名前は残っているが、他はすべて『PRIDE』に選手達が参加するようになってから消滅した。多額の金が動きそうせざるをえなかったのだろう。彼らもプロだし、生きていかなければならないわけだから、それも仕方ない。

――ドールマンさんはいまでも「リングス・オランダ」を名乗っているのはなぜなんですか？

ドールマン　「リングス・オランダ」こそが、俺が闘い築いてきた証だからだ。リングス・オランダの名前は俺が生きている限り消滅しないだろう。現に今でもオランダではリングス・オランダ主催の格闘イベントを開催しているし、俺はリングス・オランダのルール（寝技30秒で勝負が決まらぬ場合はスタンディングポジションという立ち技重視なルール）はオランダの格闘ファンに最も受け入れられるルールだと信じている。

――「リングス・ロシア」はロシアン・トップチームと名前を改めて、『PRIDE』で大活躍していますが、彼らが力を発揮している理由はなんだと思いますか？

ドールマン　ロシアン・ファイターは非常に寝技が優れており、なおかつ同時にハードパンチャーでもあることが、彼らの快進撃の秘密だろう。ブラジルの選手たちは寝技は強いがパンチが不十分。しかし、ヒョードル、ハリトーノフといったロシアン・ファイターは寝技とパンチのコンビネーションが非常に優れている。ボブチャンチンが成功したのも同じ理由だろう。

――ブラジル、ロシアに押されて、オランダのファイターは以前ほど総合格闘技では活躍できなくなったのはなぜだと思いますか？

ドールマン　オランダ人格闘家にはブラジル、ロシア勢に比べてハングリーさが欠けているのだろう。これは子供の頃からの育った環境などが多く影響しているのだが、今のオランダ人は一般的にスポイルされて育っている。また格闘家として将来性のある有望なものは、よりお金の良いキックボクシングへ流れている。総合はやらなくなってきたんだ。

――現在のオランダ格闘技界の現状は？

ドールマン　キックボクサーは世界のトップレベルだ。フリーファイトについては、アリスター・オーフレイムはすでに『PRIDE』に参戦しているが、近い将来間違いなくトップになる選手だ。俺の弟子だが、彼は持っているものが他の選手とは違う。いまヨーロッパで最も注目すべきファイターだと断言してもいいだろう。

――ドールマンさん自身はいま具体的にどんな活動をしているんですか？

ドールマン　このジム（PANCRA



前田には協力したいが、一切連絡がないので協力のしようがないんだ

TION）をチャクリキの第1人者トム・ハーリック（ピーターアーツ等の師匠）と共同経営している。週に3回は寝技のクラスを教えてるし、個人的にもトレーニングは欠かしていない。ウエートトレーニングもコンスタントにしているよ。今日もこの後現役ファイターとパンチの練習をするところだ。

——まだまだ血気盛んですね（笑）。では、いまも格闘技界とは関わっているわけですか？

ドールマン　いや、ジムをやっているだけで、普段は関わっていない。リングス・オランダのイベントを開催するときに関わる程度だ。

——ジムの他にも〝飾り窓〟の街で店を経営している聞いていますが、なんの店をやっているんですか？

ドールマン　NO。それはない（笑）。

——カジノを経営していたと聞いていますが？

ドールマン　確かにイリーガル（不法）の小さいカジノを経営していたことがある。

——イリーガルでしたか（笑）。ギルバード・アイブル、ディック・フライ、ウィリー・ウィルヘルム、ヘルマン・レンティングらかつてリングスで活躍したファイターの近況を知っていれば教えてください。

ドールマン　レンティングはさっきも言ったとおり喧嘩で捕まって刑務所にいて、ディック・フライはジムを経営している。ウイルヘイムはポルトガルでレストランを経営しているけど、美味しい料理を食べに食べて今では160キロの巨漢になってるらしい（笑）。昔の面影はまるでない。アイブルに関しては知らない。

——ルスカはいまどうしているんですか？

ドールマン　今のルスカは車椅子の生活で以前の面影はまったくないくらい悲惨な姿をしているよ。ずっと高血圧だったらしいが、薬も飲まず医者の言うことも聞かずにいて、ある時飛行機に乗った後に急に体調に異変がおきて、意識を失い病院に運ばれてからそうなったらしい。今は誰にも会いたがらず姿を見せない生活を送ってる。

——ああ、そうなんですか……。前田さんとは今も連絡はとっているんですか？

ドールマン　NO。2002年にリングス・ジャパンがクローズして以来、一度も連絡はない。

——前田さんがプロレスのイベントに協力することになったのは知っていますか？（※このインタビューは『HERO'S』開催発表前の2月24日に収録）

ドールマン　それは日本のプレスに聞いたよ。マエダにとっては良いことなのではないか。彼は生まれながらのファイターだし、またビジネスマンでもある。何もしないことが彼にとっては一番の悪だと思う。彼は本当に格闘技を愛しているし、これまで1人でいる時間が長すぎた。

——今後、前田さんに協力していく意思はありますか？



Chris Dolman■1945年２月17日、オランダ・アムステルダム出身。80年代に“サンボの帝王”として名を馳せ、89年ＵＷＦ大阪球場、前田日明戦でプロデビュー。オランダの首領として、前田と共にリングスを立ち上げた最大の功労者。95年に引退。

Cris Dolman

ドールマン　頼まれれば協力は惜しまないつもりだが、なにも連絡がないのだから協力のしようがない。

——何か前田日明にメッセージがあればお願いします。

ドールマン　何をするにしても最善を尽くしてもらいたい。そしてまた「前田ここにあり」という存在感を示してもらいたい。新しい格闘スタイルを作りあげるのもいいんじゃないか。『PRIDE』は寝技重視の格闘技、日本のファン達も何か新しいものを欲するようになると思う。例えば1分、2分、寝技で勝負がつかなかった場合はスタンドポジションに戻すとか……。

——つまりかつてのリングスルールの需要があるだろうと（笑）。

ドールマン　そういうことだ（笑）。

——では最後に30年以上、ファイター一筋で過ごしてきたドールマンさんに伺います。ファイターにとって大切なモノはなんですか？

ドールマン　ファイターというのは最後に頼れるのは自分だけなんだ。だから自分に自信を持つこと！　ファイティングスピリットを常に維持し続けること！　そして多くの実践試合を経験すること！　これが大事だ。自分はバウンサー時代に200以上の喧嘩をした。メダルをもらえたわけではなし、ポリスに捕まったこともあるし、別に誇りにしているわけではない。しかしそこから得た勝利の自信というものは非常に自分を成長させた。ファイターとは己に勝つことで相手に勝ち、そして成長していくものなんだ。

——わかりました。今日は貴重なお話ありがとうございました！

このインタビューを行ったのは、前田が「上井文彦氏の〝プロレスイベント〟にスーパーバイザーとして協力する」と発表された後の2月24日（現地時間）。そのため3月1日の会見で発表された「HERO'S」については直接聞くことができなかったが、3月8日になって追加電話取材をさせてもらえることになった。日本ではこの時点ですでに一部マスコミで「ドールマン、3・26来日決定」「リングス・オランダ勢参戦」という情報が掲載されていたが、ドールマンの口からは意外な答えが返ってきた——。

——実は前田日明さんが、10数年ぶりにK—1と手を結び、総合格闘技イベント「HERO'S」を開催することになったのですが、その情報はご存知でしたか？

ドールマン　その話はついさっき知ったところだ。私はいつでもミスター・マエダに対し協力する気持ちを持っている。しかし、いま現在、彼からのコンタクトはない。その代わり、意外な人物が訪ねてきたよ。誰だと思う？　俺にさっき「HERO'S」のことを教えてくれたのは、PRIDEのプレジデントだよ（笑）。

——え！　PRIDEの榊原代表が訪ねてきたんですか!?

ドールマン　先日、君にも話したミスター・フクダ（日本レスリング協会・福田会長）が、わざわざジムまで来てくれたんだが、一緒にいた人物がPRIDEのプレジデントだと知って驚いたんだ。

——どういった話をされたんですか？

ドールマン　基本的にフクダと旧交を温めただけで、込み入った話をしたわけではないが、非常に友好的で頭のいいビジネスマンという印象を受けたよ。握手をして別れたが、特に具体的なオファーがあったわけではない。

——ドールマンさんとしては、今後、前田さんやK—1、もしくはPRIDEから何らかの協力を要請された場合、どうしようと考えていますか？

ドールマン　現時点では答えられない。俺はいつでもマエダに協力する準備はあるが、マエダから一切の連絡がないのもまた事実なんだ……。

【05年2月24日（現地時間）／オランダ『PANCRATION』にて収録＆3月8日、国際電話にて追加取材】

欧州で最も"RINGS"を普及させた男を、緊急直撃！



ドナタス・シマナイティス

リトアニア・ブシドー代表
（リングス・リトアニア）

「ミスター・マエダから要請があれば我々はいつでも協力する準備があります」

『HERO'S』の旗揚げにより、リングス復活の機運がにわかに高まる中、注目されるのはかつてのリングス・ネットワーク各国の動向である。中でも現在、最も精力的に活動中であるリトアニアは、軽量級から重量級まで、まさに選手の宝庫。はたして彼らが"第２次リングス"の布石とも言われる『HERO'S』に上がることはあるのか？『リトアニア・ブシドー』代表、ドナタス氏に緊急インタビューを試みた！

聞き手／上杉秀人



ドナタス氏の車にはリングスのロゴが。愛着が感じられる。

プロフィール：99年『ブシドー』を設立。01年リングスに加盟。総合格闘技をバスケに次いで２番目に人気の高いスポーツとしてリトアニアに根付かせた。現在も情熱を以て東欧各国などにMMAを広めている。

―ドナタスさん、お忙しいところ、すみません。このあと海外出張らしいですけど、どちらまで行かれるんですか？

ドナタス　アイルランドの首都ダブリンです。実は明日（3月12日）が『ブシドー・リングス・アイルランド』の旗揚げなんですよ。

―ブシドー・リングス・アイルランド！　ブシドーのネットワークはアイルランドまで広がってるんですか？

ドナタス　はい。これまではバルト三国が中心でしたが、アイルランド、ポーランドなどヨーロッパ各国に広げて行く予定です。

―その『ブシドー』は、現在も"リングス"として活動していると考えてよろしいんでしょうか？

ドナタス　はい。現在もリングスのイベントを開催しています。ただ、ブシドー＝リングスというより、『ブシドー』というMMA団体がリングスや修斗のイベントを開催していると考えてもらったほうがいいでしょう。

―ところで、そのリングスの本家である日本では、『HERO'S』というK―1と前田さんが協力して開催するMMAイベントが立ち上がったのですが、ご存知でしたか？

ドナタス　もちろん知ってます。日本の情報は常に仕入れるようにしていますから。

―実はもうすでに『HERO'S』から選手派遣要請があったりするんですか？

ドナタス　いえ、そういったオファーはまだありません。

―前田さんはレミーガ（レミギウス・モリカビチュス）のことを高く評価しているようですが、もし選手派遣要請があれば、協力するつもりはありますか？

ドナタス　要請があれば協力する準備はあります。ただ、レミーガに関しては、何よりもまず『ZST』に相談する必要があるでしょう。

―リングスが活動休止してから、前田さんとは連絡を取っていたんですか？

ドナタス　ええ、リングス・ジャパンが活動を休止してからも、マエダサンとは何度か話をしています。今年1月にあった『ZST・GP2』の後も、少しだけ会って話す機会があり、レミーガの優勝を祝ってくれましたし、リトアニアのイベントについても少し話しました。

―ドナタス代表はK―1のMMAイベントはご覧になったことあるんですか？

ドナタス　はい。『ROMANEX』は残念ながらDVDで観ただけですけど、昨年末の『Dynamite!!』は大阪まで観に行きました。

―えっ！　大阪まで行ったんですか？

ドナタス　日本のイベントはどのプロモーションも完成度が高いので、いいアイデアがあれば、それを『ブシドー』に取り入れたいと思って、なるべく足を運ぶようにしてるんですよ。

―実際に行ってみて、どんな感想を持ちましたか？

ドナタス　非常にいいイベントでした。魔裟斗vsKIDが一番印象に残っていますが、レスリングができるコメディアンがリングに上がるというアイデアも悪くないと思います（笑）。

―他に興味のある日本のプロモーションは？

ドナタス　『ZST』、『PRIDE』、修斗にも興味があります。特に『PRIDE』はエキサイティングですし。個人的には、桜庭、宇野薫、桜井隆多が好きですね。

―桜井隆多！　さすがに詳しいですね（笑）。あと、MMA以外では、K―1の谷川プロデューサーもレミーガに興味があるようなんですけど、もしK―1ルールでのオファーがあれば、出す準備はありますか？

ドナタス　K―1ルールでの試合については、何の問題もありません。ただ、先ほども言ったようにレミーガに関しては、『ZST』の試合を最優先に考えています。

―レミーガの今後の試合のスケジュールは決まっているんですか？

ドナタス　彼は4月8日に国内の『ブシドー・カオス』という大会で、ダニー・バーゲンというオランダの選手と試合をします。その大会では、メインイベントに修斗欧州クルーザー級チャンピオン決定戦としてケッティス・スミルノヴァスvsボビー・レーマン（スウェーデン）の試合。それから、所英男vsエリカス・ペトライティスの2試合が決まっています。そのほか、エギリウス・ヴァラビーチェス、ダリウス・スクリアウディス、ペトラス・モリカビチュスも出場予定です。おっと、そしてもちろん126Kgある我らがスター、"ベアー"タダス・リンカビュチスも出ます。

―かなりの豪華カードですね！

ドナタス　日本のファンにもゼヒ見に来ていただきたいですね（笑）。いま、リトアニアの総合格闘技のレベルは信じられないくらい早いスピードで上がっています。レミーガだけでなく、今後日本で多くのリトアニア勢が活躍することを選手に代わって約束しておきましょう。

―今後の活躍を期待しています！

【3月11日／国際電話を再構成】



まさにブレイク寸前のレミーガ。『PRIDE』、K―1がともに興味を示しているとのウワサだが、"ZST代表"として、大舞台に立つ日は来るのか？



第一次リングスでは滑川康仁を強烈な打撃でKO、母国ではヒョードルと対戦したこともあるヴァラビーチェス。リトアニアのヘビー級エースだ。



ドナタス氏一押しの、まだ見ぬ強豪"ベアー"タダス・リンカビュチス。126Kgの巨漢で総合での戦績は8戦8勝！日本上陸が期待される。



“自称・前田ファン”同士による 決して届くことのないラブレター対談!!

なぜ前田日明という青春は色あせないのか？

ターザン山本!×堀江ガンツ（本誌）

上井文彦氏のスーパーバイザーとして先月、表舞台に復帰以来、マット界はまさに前田日明一色と言っても過言でないほど、多くの波紋が広がっている。この時ならぬ“前田ブーム”はなぜ起こったのか？　“自称・前田ファン”であるターザンと本誌・ガンツが好き勝手に語りまくる!

――山本さん！　先月に引き続き、マット界は異常なくらい前田日明の話題でもちきりですけど、ズバリ言って、山本さんは前田復活をどう捉えているんですか？

ターザン　いや〜、ボクを含めてマット界の人たちはみんなほっとしましたよォ！

――ほっとした？

ターザン　安心したというか、これでようやく前田日明の怨念に怯（おび）える生活から解放されたんですよォ！

――前田日明の怨念に怯えてましたか！（笑）。

ターザン　そう！　やっぱり日本人というのは、歴史を振り返ってみても怨念を持って死んでいった人の祟り（たたり）が一番怖いんですよ。だから菅原道真を奉る天神様を作ったりしたわけでしょ？　それを考えると、このまま前田日明が出てこなかったら、マット界の人たちはみんな時代に対して一時的に敗れ去った前田の怨念や祟りにおびえて生活しなきゃならなかったんですよォ！

――それこそ、前田日明を奉る神社を作らなきゃならない（笑）。

ターザン　前田本人も言ってたじゃない。歳を取って逆に恨みが増すって。それぐらい怨念が膨らんでたわけでしょ？　ボクらは格闘技界が盛り上がれば盛り上がるほど、どこかで前田の祟りを恐れてビビってたわけですよォ（笑）。それがこういう形で表に出て来てくれると、その祟りから解放されて、だからこそ僕たちは彼のことを

歓迎してるんですよォォォ！

――亡霊でいられるよりは、生身でいてくれたほうがいいと（笑）。

ターザン　出て来た以上は、本人もある種の怨念を捨てたわけで、前田日明にとってもよかったし、俺たちもよかった、みんなよかったわけですよ。そう考えると、今回の一件で一番重要な人物はその前田日明を本当の意味で引っ張り出した石井（前）館長ですよ。みんな館長には感謝しないといけませんよォ！

――館長は文字通り〝影のMVP〟だと。

ターザン　そうですよォ！　石井館長もあの人自身が野望とか怨念の固まりみたいな人だから。猪木さんがやった一連の異種格闘技戦で格闘家が負け続けた怨念の歴史が館長を作り出したというかね（笑）。それなのに今回は影に隠れていた前田日明を表に引っ張り出して来た石井館長が正真正銘のMVPなんだよね。

――週刊プロレスの月刊MVPは小島聡らしいですけどね（笑）。

ターザン　あれってさぁ、4冠奪取と言ってももう誰も話題にしてないじゃない！　せいぜい日刊MVPですよォォォ！

――ダハハハ！　たった1日天下（笑）。

ターザン　それに対して前田日明は話題があらゆるところに連鎖してるし、波及効果がどんどん広がっているんだから、これは凄いですよ。それから、もう一つ重要なことは、もし今プロレス界が繁栄していたり、潤っていたら、前田待望論や前田に対する時代の声や期待感はなかったと思うんだよね。でも現状のプロレス界はあまりにも悲惨でしょ？

――極めて悲惨ですよね（笑）。

ターザン　そしてプロレス界が悲惨だということは、つまりプロレスファンが悲惨だということですよ。プロレスが奈落の底に落ちて、一番傷ついてるのは実はプロレスファンなわけですよォォォ！　そのプロレスファンの傷ついた心理状況を救う手段の一つとして「前田がもし復帰してくれたら」という潜在的な願望がもうみんなの中にあったんですよォ！

――「こんなとき、タケちゃんマンがいてくれたらなぁ、そうだタケちゃんマンを呼ぼう！」って感じで、ファンが前田日明を呼び寄せたと（笑）。

ターザン　そうですよォ！　前田日明はプロレスファンに呼び戻されたんですよォ！　いまプロレス界の人は、格闘技における勝負論という理屈に負けてるわけですよ。でも、前田日明だけは理屈を超えたところで「プロレスラーは強い」とか「凄い」と言える存在なんだよね。その前田が復活したということは、プロレスファンにとって大いなる救いになったし、だからこそ、ホントにプロレスが好きな人は前田現象に興奮するんですよォ！

――まさしく救世主が現れた感じなわけですね。

ターザン　ところが面白いことに、前田日明という人は総合格闘技の人なんだよね。だから前田の復活は、必ずしもプロレス界の復興に繋がるとは限らないわけですよ。プロレス専門誌はその部分で前田日明を全面的に押せないんだよね。あくまでも彼らが押しているのは新日本であり全日本でありノアだから。

――しかも、『HERO'S』がスタートしたことによって、前田が「プロレス界に帰って来た」というイメージが希薄になりましたもんね。

ターザン　だからボクがいま一番気になってるのはビッグマウス（上井文彦氏の会社）という存在ですよ。ビッグマウスが前田と合体して『HERO'S』と『WRESTLE-1』（以下『W-1』）というイベントを立ち上げ、それをTBSが応援していく形になるわけだけど、上井さんの本命というか、彼がやりたくて好きなのは実は『W-1』の方なんだよね。

今回の復活劇でようやく
前田日明の怨念に怯える生活
から解放されたんですよォ！

――最初の会見でも「ボクがやりたいのは、あくまでプロレス」と言ってましたもんね。

ターザン　ところが、先に開催されるのは『HERO'S』なんですよ。TBSは優先順位として明らかに『HERO'S』を取ってるわけで、別に『W-1』とか上井さんが好きな古き良き時代の新日本流のストロング・スタイルのプロレスを取ってるわけじゃないんだよね。

――実際、プロレスにはほとんど興味ないでしょうね（笑）。

ターザン　だから、上井さんが、たまたま前田日明と合体したことによって、ビッグマウスの存在は一気に時代性を帯びて来たんだけれども、その時代性を帯びたのは、あくまで『HERO'S』であり、『W-1』じゃないんですよォォォ！　つまりビッグマウスはダブルスタンダードになったんですよ。このダブルスタンダードがバランスよくうまくいけばいいけれど、『HERO'S』がこのまま本命として突っ走って行ったら、上井さんの好きなプロレスはどうなるのか？　これはボク的にはムチャクチャ心配だよォォォ！

――もしかしたら、『HERO'S』をやることによって、自らストロング・スタイルのプロレスにトドメを刺すかもしれませんよね。

ターザン　だからもしかしたら、上井さんの好きなプロレスを上井さん自身が捨てなきゃいけない時期が来るんじゃないかと思う。前田日明一本に目標を絞らなきゃいけなくなるんじゃないか？

――そうなると思いますよ。あくまで噂ですけど、テレビ局の要請で、プロレスイベントである『W-1』に数試合、総合格闘技を混ぜるという話もあるみたいですから。もし、そうなったら徐々にプロレスが淘汰される可能性は高いですよね。

ターザン　だから上井さんが考えてることは、なんだかやる前にすでに時代の中でジャッジメントが下されている感じでさぁ、気の毒というか、心配になってきたよォ！

――肝心の前田日明がやりたいのも、絶対に『HERO'S』の方ですからね。だって一番最初に上井さんと記者会見したときの前田って、もの凄くピリピリしてたじゃないですか。あれは「食えなくなってプロレス界に戻って来た」とだけは絶対に言われたくないからですよ。だから「上井プロレスのスーパーバイザー」じゃなくて、あくまで「上井さん個人への協力」ってことを強調してた。でも、総合格闘技の『HERO'S』の会見になったら、ニコニコ顔で『HERO'Sスーパーバイザー』を名乗ってるんですから。

ターザン　ホントに『HERO'S』の会見になったら、すべてのフラストレーションから解放された顔してたもんね！　だからここにきて、前田日明と上井さんの求めてるものの決定的な違いが、旗揚げ前からハッキリしたわけですよォ！　しかも上井さんのやりたい『W-1』は1ヶ月後に後回しにされたんだから、こりゃ早くも大き

な試練にぶつかってますよ！

——『W－1』にとって『HERO'S』の存在がハンデになってるんですよね。

ターザン　そうだよ。だから前田日明と長州力が『ゴング』の表紙になってたけど、長州がやりたいのは『W－1』の方でしょ？　そうすると長州と柴田が『W－1』旗揚げ戦でたとえどんなにいい試合をしても、それは村松さんが言うところの21世紀型の「プロレス内プロレス」の出来事になっちゃうんだよね。

——それに『W－1』はプロレスラーの〝強さ〟を売り物にするわけですけど、強いんだったら、なんで『HERO'S』に出ないの？ってなっちゃいますもんね。

ターザン　だからこのダブルスタンダードは破綻する可能性があるかもしれないんだよな。お互いをシュートしてしまうかもしれない。そうなったらどうしよう。

——だから、今回『HERO'S』が生まれたことによって、一番ピンチに立たされたのは、上井さんのやりたいプロレスなんですよね。

ターザン　そうですよ！　格闘技っていうのは、どこまでいってもストロング・スタイルの天敵なんだから仕方がないよ！

——反対に『HERO'S』のほうは成功するでしょうね。少なくとも旧リングスよりは成功します。なぜなら、前田日明が持ってないものや、リングスに足りなかったものをK－1はすべて持ってるから。

ターザン　そういうことだよね。かつて前田日明がやってたリングスっていうのは総合格闘技の〝無印良品〟みたいな良さがあったでしょ？　そこに谷川氏のK－1がバックアップすることで華やかなイベント感覚を導入して色彩化するんですよォ！　見栄えがよくて大衆に届きやすくする。そこに前田が持っている求心力と合体するんだから、これは最強になりますよォ！



宇野、元気、ＫＩＤらに囲まれ抜群の笑顔を見せる前田。なにやらリングス？正道会館提携時代、「実験リーグ」を開催し、後川、金、平らに囲まれ嬉しそうにしていたころを思い出させる。

——だから今回のK－1と前田の合体というのは、お互いにないものを補完し合ってるんですよね。ハッキリ言って、谷川さんやK－1側が欲しいのは決して前田日明のスカウト能力や、プロデュース能力なんかじゃなくて、前田日明のイメージであり、存在そのものですよね？

ターザン　シンボリックな存在としての前田日明と、前田日明の持つ強力な求心力ですよォ！　これが今のK－1に一番欠けているところだから！　ここ数年のK－1は地上波テレビという映像媒体が持つ巨大な遠心力を使って巨大化してきたわけだけど、その反動で急激に求心力を失って、もう興行としてはMAX以外成り立たなくなってたわけですよ。そこに前田日明という求心力の塊みたいな人が入ったら、テレビの視聴率はそんなに上がらないかもしれないけど、ライブ興行のタマとしてはホント大きいよ！

——チケット買って見に来る、コアな層に訴える力はありますもんね。だからこれは悪い意味じゃなしに、いまの前田日明は最強の客寄せパンダですよ。でも、単なるパンダじゃなくて、極めて凶暴な〝血に飢えた客寄せパンダ〟って感じですけど（笑）。

ターザン　やっぱり興行に必要なのはファンと時代の〝地熱〟ですよ。我々の心の中に地熱がなきゃいけないし、団体にも地熱がなきゃいけないんだけど、いまそれがないんだもん。少なくとも前田日明が帰ってきたら、それを刺激されるもんね。

——前田日明はいるだけで地熱を生みますからね。

ターザン　だから3・26『HERO'S』というのは、前田日明という時間軸をずっと見続けてきた人たちにどれだけのスイッチが入ったか、それを確かめることができる！　この力は意外と凄いんじゃないかと思うんだよ。プロレスファンにとってとにかく過去の記憶というのはもの凄いキーワードだから。俺たちにとって、〝過去〟や〝記憶〟は絶対に最強だからね！　これはもうスイッチ入ると思うけどなぁ。

——そりゃ入るでしょう。いま前田日明に興奮してる人たちって、少なくとも新日本vsUWFを知ってるファンでしょ？　もう20年前ですよ。記憶の量が違う（笑）。

ターザン　前田のすべてがインプットされてる人たちですよォ！　そういった人たちがどれぐらいいるのか、興味あるよね。

——だから、僕なんかからすると『HERO'S』の会場に行くのは、なんとなく小



その毒舌で『デモリッション』のリングでは無敗の大ヒールとなっているパトラーツジムのコーチ井口摂は、因縁の廣野をドクターストップで返り討ち。堂々、修斗バンタム級王者と闘わせろとアピール！



これが『D・O・G』で使用されているオクタゴン。ＵＦＣと比べると一回り小さめだが、某マグマ級ＶＴイベントと違い実に立派な金網だ。なおゴングでなくブザーを使うところもＵＦＣ式だった。

突然ですが

Hero's関係者も多数来場 新・金網オクタゴンイベント

D・O・G

3.12 ディファ有明

PUTI REVIEW

恥ずかしいというか、青春時代のラブレターを人前で読まれるような気分なんですよね（笑）。だって「マエダ、マエダ、マエダ――ッ！」とか「俺は前田が好きだ――ッ！」「俺もだ――ッ！」とか叫んでる、僕と同年代の30男が会場に充満してそうじゃないですか（笑）。

ターザン　だから前田日明という存在はその〝青春〟という形態をいつまでも失わない形で維持してる珍しい人だよ。例えば佐山さんなんかだと、昔の佐山さんと今の佐山さんを比べると記憶のギャップが凄いんだよね。

――まず見た目のギャップが凄すぎますからね（笑）。

ターザン　そうなると記憶がイレギュラーを起こすんですよォ！　でも、前田日明という人は記憶がイレギュラーを起こさないんだよね！　ということは、前田的青春は不変だということだから。前田日明を見ればいつも青春を感じられる、だからスイッチが入るわけですよ。

――だから前田日明が現役時代、ガチンコに足を踏み入れなかったことが、いまになって強みになってますよね。他のU系の大物選手は髙田延彦にしても、船木にしても、田村にしても、ヒクソンとやったり、『PRIDE』に出たりしたことで、UWF時代とは違う姿を晒したわけじゃないですか。だからUのころと比べると記憶のイレギュラーを起こしますよね。でも、前田はやらずに引退したからこそ、美しい記憶のまま残ってるんですよ。

ターザン　プロレスというものがあって、その対局に格闘技があるよね？　普通はいまの時代、どちらかに行くしかないんですよ。

――それこそハッスルと『PRIDE』のように、明確に違うものだという認識がファンにもありますからね。

ターザン　でも、前田日明だけは格闘技に行く手前でとどまることができてるんですよ。それを格闘技側の人間はグレーゾーンと呼ぶかもしれないけど、そこに居続けられる前田というのは見事ですよォ！　最近になってようやくその凄さがわかったよ！

――だからこそ、本来は前田と同じように〝格闘技の手前〟にいるはずだったのに、思い切り純格闘技の世界に飛び込んだ髙田延彦との対立概念は面白いですよね。

『HERO'S』はリアルを超える“前田流リアリティ”を見せるしかない！

ターザン　面白いよ～！　手前に居続ける前田も凄いけど、一気にジャンルに飛び込んだ髙田も凄いからね。普通、あそこまでできませんよォ！　だってプロレスの世界にいたときは「最強」だった人が、格闘技の世界に行ってあんなにボロ負けした姿をリング上で晒したんだから！　あれだけ丸裸になったというか、身ぐるみはがされた人はいないよ！　ボクが週刊プロレスの編集長を辞めた後、浅草キッドに舞台で素っ裸にされたのと一緒だから！

――あれと一緒にしたら、いくらなんでも失礼すぎますよ！（笑）。

ターザン　でも、髙田がヒクソン戦をやらなかったら『PRIDE』は生まれなかったんだから。だから、あの人はホントの踏み絵を思いっきり踏んだんだよね。

――だから今回表紙にも打ったんですけど、これからは髙田延彦が踏み絵を踏んだことによって生まれた『PRIDE』という〝圧倒的現実〟と、踏み絵を踏まなかったことで蘇った前田日明という〝圧倒的幻想〟の闘いになりますよ。

ターザン　言い方を変えると、〝リアル〟と〝リアリティ〟の闘いだよね。いま『PRIDE』というリアルな現実を見せつける最高のリングがあるけれど、プロレスファンの間には、そのリアルを超えるリアリティというものがあるんじゃないかという願望があるんだよね。そしてその幻想を持っているのが前田日明ですよ。だから、『HERO'S』は〝リアルを超える前田的リアリティ〟を見せられるかどうか、そこに掛かってる！

――いや～、これは今後が楽しみですね。

ターザン　前田登場によって今年は『PRIDE』とK-1の闘いがさらに激しくなるから！　その一方で今年はプロレス団体がバタバタいくね！（キッパリ）。

――バタバタいきますか（笑）。

ターザン　というか、もう行きかけてる。瀕死の状態だから。新日本も全日本もすでに集中治療室に入ってますよ！　面会謝絶みたいなもんですよォォォ！

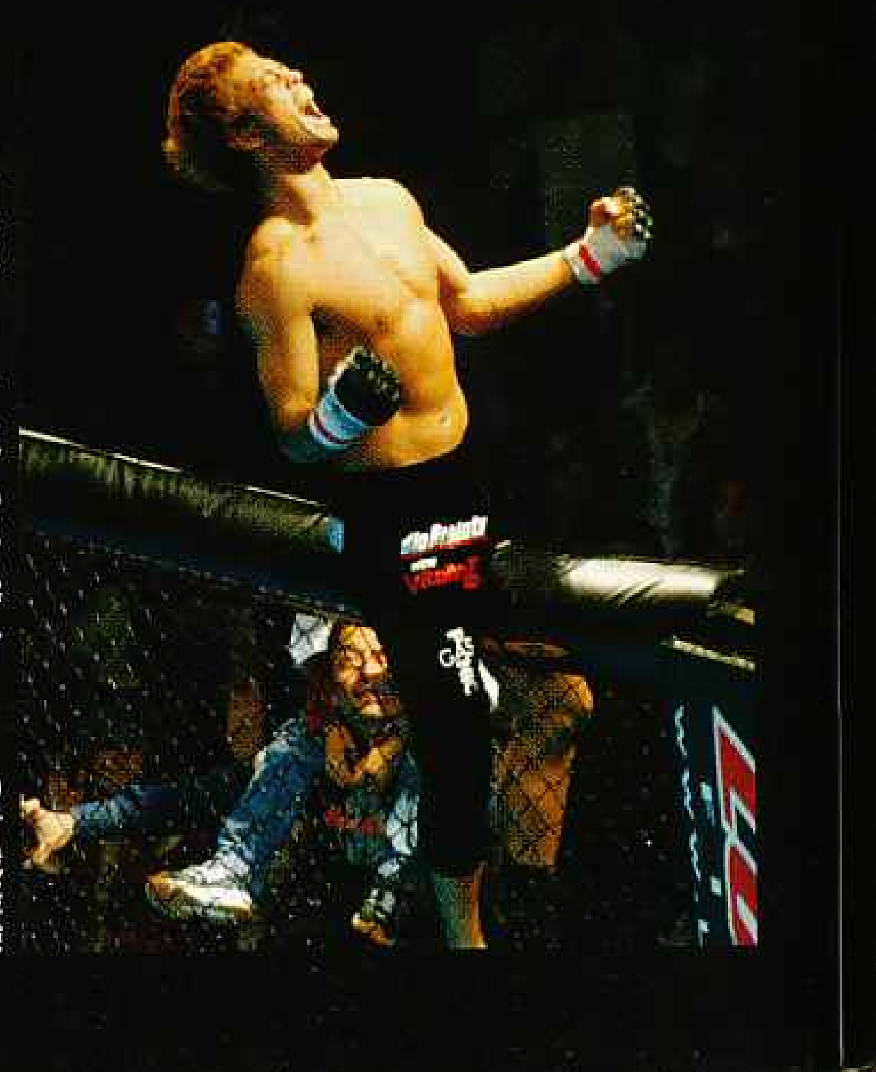
――ダハハハ！　面会謝絶!!

ターザン　だからボクは3月26日、新日本プロレスの両国国技館じゃなくて、『HERO'S』にいくんですよォ！

――新日本は〝面会謝絶〟だから行きたくても行けないわけですね（笑）。では、素晴らしい屁理屈が出た所で今回はお開きにしましょう。

ターザン　ちょっと待て！　最後にこれだけは言っておきたい。そんな中でもプロレスを信じている上井さんには『W-1』でなんとか頑張って欲しい。あのプロレスへの情熱はホントに美しいんですよォォォ！

【05年3月16日／水道橋『ニューヨーカーズ・カフェ』にて収録】



かつてリングス出場経験もあり、なぜか男色ディーノとの対戦経験もある〝和製アローナ〟門馬秀貴はチャット・ラベンダーを三角絞めで秒殺！　オクタゴンを駆け上がり、咆哮をあげた。



慧舟會ミドル級期待の星、岡見勇信はＳＢのリングで松井大二郎をＫＯしたブライアン・フォスターの強打に苦しみながらも、3R肩固めで逆転勝利！



メイン終了後、〝WWEスーパースター〟（襲名予定）の曙が岡見の勝利を祝福。この日は曙以外にもアラン・カラエフや谷川貞治Pも来場。『HERO'S』との強い結びつきが感じられた。

ップで返り討ち。堂々、修斗バンタム級王者と闘わせろとアピール！

ハッスルからモンゴルマンまで、古今東西読プレ祭り!!

RADICAL PRESENT

BATTLEROYAL

第75代アジアタッグ王者・コスケ&獅龍のセミレプリカマスクを、それぞれ1名様に。デルフィン、えべっさん、くいしんぼう仮面も同時発売中。【バトルロイヤル提供】



★獅龍 セミレプリカマスク ¥7245



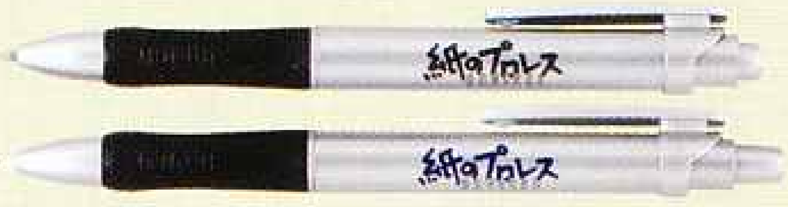
★グレート・コスケ セミレプリカマスク ¥7245

各1名様

◇プロ格本舗バトルロイヤル
■住所：東京都千代田区三崎町2-20-5 丸山医院2F（JR水道橋駅から徒歩3分）
■TEL：03-3556-3223
■HP：http://www.battleroyal.jp

DOUBLECROSS

「すごく使いやすい」「字が上手くなった」「彼女ができた」「やせた」と大評判！（一部誇張）。非売品の紙プロ特製記念品を特別にプレゼント！【ダブルクロス提供】



1名様 ★『紙プロ』ロゴ入り ボールペン&シャープペン

WRESTLE-1



★柴田勝頼Tシャツ 1名様

★柴田勝頼サイン色紙 2名様

"喧嘩ストロングスタイル" 柴田勝頼が『紙プロ』初登場！記念して新日本時代の貴重なTシャツをサイン入りでプレゼント!! 注目のインタビューはP122から。【柴田勝頼提供】

DSE

髙田総統の高貴なる官帽が遂に発売！ 葉巻とサングラスを自腹で購入して、カワイイあの娘をビターンで洗脳だ!!【DSE提供】



★髙田総統官帽 ¥8190（税込）

各1名様





★ハッスル缶フィックス ¥1050（税込）／ブラックorイエロー



★ハッスルボトルループ ¥840（税込）／ブラックorイエロー



★『ハッスル8』ポスター



★P900iシリーズ対応カスタムジャケット ハッスルorモンスター ¥1680（税込）

★P901iシリーズ対応カスタムジャケット ハッスルorモンスター ¥1680（税込）



★桜庭ジャージ ¥9345（税込）／M〜XL　★シュートボクセジャージ ¥9345（税込）／M〜XL　★ヒョードルジャージ ¥9345（税込）／M〜XL

■HP：http://www.prideofficial.com/index.php



★『ハッスル』パンフセット 各¥2100（税込）

■HP：http://www.hustlehustle.com/

KING OF BEETLE



1名様

★兜王ビートルサイン色紙

「いかレスラー」でお馴染み、河崎実監督のプロレス超大作『兜王ビートル』は7月公開予定! 記念して主人公・兜王ビートルからサインをいただきました! 『紙プロ』では数年ぶりの大阪プロレスものですよ。【兜王ビートル提供】

■HP:http://www.kabuto-o.com/

HARDCORE

1名様



★テキサスアウトローズTシャツ

¥4725(税込)

キッズM、キッズL、M、L/ブラック×ホワイト

ハードコアチョコレートも参加する『Tシャツ・ラブ・サミット』が開催決定! インディブランド80団体以上、並ぶTシャツは2000種類という、日本最大規模の展示即売会だ。日時は4月30日&5月1日の2DAYS。入場料はなんと100円! P98からの情報ページor下記HPを今すぐチェック!! 【ハードコアチョコレート提供】

◇Tシャツ・ラブ・サミット公式サイト

■HP:http://www.t-lovesummit.com

◇ハードコアチョコレート

■住所:東京都世田谷区北沢2-12-2 ミナトミコーポ206(4月から水曜日定休)

■問:ハードコアチョコレート 03-5481-3561

■HP:http://core-choco.com

AJ KICK



2名様

★渡邊久江Tシャツ ¥3800

ジュニアL、S~XL/ホワイト、グレー、パープル

パンクラスで強豪・大室を退け、更に郷野とのデートも回避した渡邊久江。郷野への素敵すぎる直筆お手紙はP89へ。プレゼントはホワイトのM&L。【渡邊久江提供】

■TEL:WEDIA LTD 03-3750-6192

LEGLOCK

3名様



★ブッチャーTシャツ

¥3000/M~XL/ブラック

"黒い呪術師"アブドーラ・ザ・ブッチャーTシャツが登場! プレゼントはLサイズ。4・23『WRESTLE-1』で"伝説の迷勝負"ブッチャーvsさたやんの再戦はあるのか? 【レッグロック提供】

■TEL:レッグロック 03-3234-0969

■HP:http://www.oudou.co.jp/flame.html

BOOKS

各3名様



★『プロレス名言・迷言大全集』

¥1200(税込)

力道山からWWEまで、プロレスファンの心に染み込んだ名言、暴動までをも引き起こす暴言、そして人々を困惑の渦に巻き込んだ迷言の数々を、新たな証言とともに完全再現! 含蓄ありまくる言霊の数々に酔いしれろ!! 【宝島社提供】

■TEL:宝島社 03-3234-4621

■HP:http://www.tkj.jp/



★『アントニオ猪木×ドリー・ファンク・ジュニア ~夢の対決を追い続けて~』

藤井敏之・著/¥1050/4月15日発売

昭和44年12月2日に実現したNWAヘビー級王者ドリーvs猪木の超名勝負。その衝撃と興奮により人生に大きな革命をもたらされた筆者が、プロレスと歩んだ30年を綴ったドキュメンタリー本。【新風舎提供】

■TEL:新風社 03-3746-4648

■HP:http://www.pub.co.jp

INSPIRE

プロレス界史上最大の魔王・高田総統がキュートなストラップになってビターンと登場! ムタ、スグル、モンゴルマンも文句なしのハイクオリティだ!! 【インスパイア提供】

■TEL:インスパイア 03-5629-3920 ■HP:http://www.inspire.co.jp

各2名様

01★高田総統フィギュアストラップ ¥1050(税込)ⒸDSE

02★グレート・ムタヘッドキーホルダーver.2 ¥1050(税込)ⒸLEGLOCK

03★キン肉マンマスクキーホルダー ¥1050(税込)Ⓒゆでたまご

04★モンゴルマンマスクキーホルダー ¥1050(税込)Ⓒゆでたまご



01



04



03



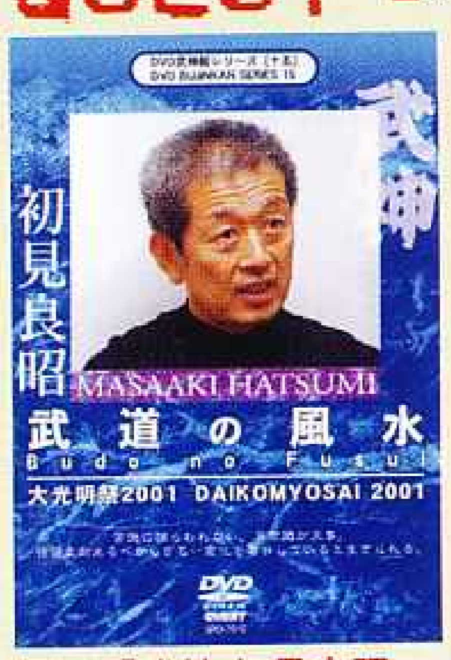
02

QUEST

■TEL:クエスト 03-3360-3810

■HP:http://www.queststation.com/

各1名様



★『武神 初見良昭 武道の風水』

180分/¥5880(税込)

戸隠流忍法、雲隠流忍法、虎倒流骨法術など、9流派の宗家を継承する初見良昭が創設した武神館道場。その秘められた奥義&忍術の数々が遂に明らかに!!



★『コマンドサンボ 応用技術200』

84分/¥5880(税込)

戦場における白兵戦用の徒手格闘技・コマンドサンボの技術応用DVDが登場。ハン、ヒョードル、ハリトーノフらを輩出したロシア軍隊格闘技に迫る!!



★『植松直哉/総合格闘技 完全教則・入門篇』1

87分/¥5880(税込)

本編チャプター数、驚異の98! 修斗ランカーにして緻密な理論家として知られる植松直哉が、総合格闘技におけるあらゆるテクニックを伝授する。



★『PERFECT ARSION ~アルシオン6年間の軌跡~』

236分/¥5880(税込)

収録時間236分! これさえあればアルシオン6年間の歴史がまるわかりのDVDが登場。初回版に限りアルシオンプレミアムカードを一枚を封入!!



★『SMACKGIRL WORLD ReMix』

191分/¥5880(税込)

04年12月の無差別級トーナメント全試合を完全収録。他、初進出の大阪大会、近藤有希引退記念興行など30試合以上も詰め込んだ超ボリュームDVD!!

DESTROYER

5名様



★ザ・デストロイヤーフォト

"白覆面の魔王"ザ・デストロイヤーの直筆サイン入りフォトをプレゼント! 現在、アマレスを通じて日米の親善に尽力しているデストロイヤー。その活動の模様は下記のアドレスにて。【デストロイヤー提供】

◇デストロイヤー公式サイト

■HP:http://www.thedestroyer.com/

◇N.P.O.Figure Four Culb

■HP:http://www.ffc-online.org

応募要項

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦『WRESTLE-1』で見たいカード
⑧『HERO'S』の感想

応募券

【宛先】

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F (株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「妊娠ド真ん中」係まで

※締切は2005年4月15日(金)当日消印有効

CD

各3名様

特製ピンバッチ付き



★『Great Cops』 ¥2500

人気シリーズ『刑事魂』が海を越えて登場。『刑事コロンボ』や『ダーティー・ハリー』、『007』など海外刑事&スパイもののテーマソングベスト盤だ! 【ユニバーサル ミュージック提供】

■HP:http://www.universalmusicworld.jp/



★『ミュージック ジェネレーター・サウンドトラック』¥2500

PS2専用音楽作成ゲーム『ミュージックジェネレーター』(3月31日に発売)のサウンドトラックをプレゼント! 『紙プロ』でお馴染みの"男気啓蒙音楽家"徒ポルシェも初ソロで参加してます。【ラッセル提供】

■TEL:ラッセル 03-5279-5901

■HP:http://www.russel.co.jp/

VALIS

各3名様



★『大日本プロレス 地獄の死闘vol.6』

90分/¥5250(税込)



★『ZERO-ONE IMPACT vol.65』

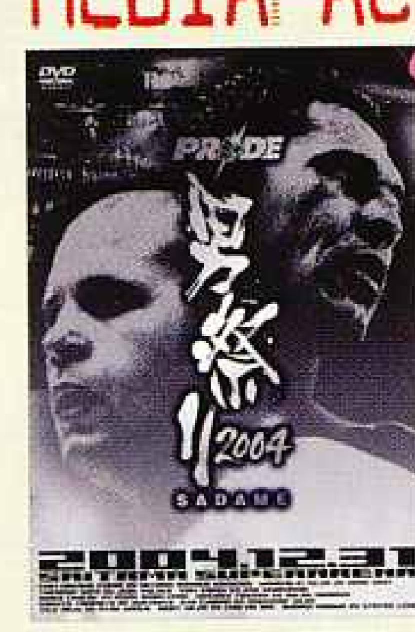
90分/¥3990(税込)

名勝負・高岩vsクレイジー、そして"謎の中国人"王拳聖が登場するゼロワン、"蛍光灯100本デスマッチ"を始めとするキチ●イプロレスの最高峰・大日本のDVDをそれぞれ3名様に!! 【ヴァリス提供】

■TEL:03-5342-2681

MEDIAFACTORY

3名様



★『PRIDE男祭り 2004-SADAME-』

168分+映像特典81分 ¥5040(税込)

史上最大の大晦日格闘技決戦『男祭り』。ミルコvsランデルマンの再戦、シウバvsハントの死闘、そしてヒョードルvsノゲイラの60億分の1決定戦をDVDで再検証だ!! 【メディアファクトリー提供】

■TEL:03-5469-4880 〈10:00~18:00/土日、祝日は除く〉

■HP:http://www.mediafactory.co.jp/

『紙プロ』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★全国どこでも送料一律500円です。
（何枚でも可、離島・山岳部の方はお問い合せ下さい）
★代引き手数料は315円です。
（代引き金額によって異なります）

『紙プロHand』でご注文の場合

詳しくは『紙プロHand』の通販コーナーをご覧下さい。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧下さい。

電話でご注文の場合

平日15:00～22:00
（株）ダブルクロス 03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします（確認メールはいきませんのでご了承下さい）。

ハッスル＆紙のプロレス コラボグッズ

第1弾 髙田総統グッズ



「髙田総統」
フェイスタオル
¥2100（税込）



「ビビったか？ たじろいだか？」Tシャツ
［S・M・L・XL ブラック／ホワイト］¥3990（税込）



「BITAAAAN!」Tシャツ
［S・M・L・XL ホワイト］¥3990（税込）



「BITAAAN!」メッシュキャップ
［ブラック／パープル］¥3150（税込）



「ビビったか？ たじろいだか？」
ナップザック
［ブループリント／オレンジプリント］¥2100（税込）

第2弾 笹原GM「SHUT UP!」Tシャツ
（ラグラン七分そで）



俺だけ見てりゃいいんだ!!



［S・M・L・XL ホワイト×レッド］
¥4200（税込）

ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉
¥3,000 XS or S or M or SOLD OUT or XL



マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉
¥3,500 S or M or L or SOLD OUT



『カズ・H』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 SOLD OUT or S or M or L or XL



『COZY BAKA』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 SOLD OUT or S or M or L or SOLD OUT



ニットキャップ〈ネイビー＆ブラック〉
¥1,500



トートバック〈ブラック〉
¥1,500



田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or SOLD OUT



赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL



紙のプロレス RADICAL
No.85
2005年4月25日発行
No.86は
4月16（土）発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
斉野もみじ
上杉ヒデト（新人）
八木賢太郎（W-1出場を目指して昇善）

終身名誉バイザー
吉田豪
助っ人
ジャイ子
電気部
さささぃ
松澤チョロ
パンフ職人
スモーノブ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）
デザイン
ヒサくん
マツくん
タニやん
ブンちゃん
ノグッチー
しらき（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上さおとめの事務所）

カメラマン
森鷹博
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島勝儀
菊池茂夫
黒田史夫
試合写真
平工幸雄
乾晋也

お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝
体調
プリン体・入江（TwoThree）
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也
前田昌一



紙のプロレス RADICAL　WANIMAGAZINE MOOK 265
2005 NO.85
新たなる前田vs髙田闘争、開戦!! Do the Judgement!!
平成17年4月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F　電話／03-5368-1795
ワニマガジン社　定価：本体819円+税

9784898297452
ISBN4-89829-745-5
C9476 ¥819E
1929476008190

雑誌　69860—65

印刷：図書印刷株式会社